

宮崎医科大学／宮崎大学医学部研究業績目録

Annual Report of Research Activities of
Miyazaki Medical College
& Faculty of Medicine, University of Miyazaki

第 18 号

(2003 年 1 月～12 月)

宮崎医科大学・宮崎大学医学部研究業績目録

－ 18号発刊によせて－

医学部長 河 南 洋

1974年開設されました宮崎医科大学は29年の歴史を終え、2003年10月、宮崎大学と統合し、宮崎大学医学部となりました。さらに2004年4月には法人化し管理・運営形態が変わりました。このような大きな変革時にあたる2003年度研究業績目録がようやく完成致しました。今回の業績目録は1987年度初版から数えて18号となります。これまで続けてきた冊子形式の業績目録を取りやめ、電子媒体として集約することと致しました。これは教授会において慎重に審議し、得た結論です。これは統合・法人化への移行期、また医学部開講30周年の節目に当たり、財政的な理由そして2006年実施予定の「大学情報データベース構築」にリンクさせることを念頭に置いたものです。はじめはこれまで見慣れてきたものと少し異なるので、戸惑われるかもしれませんが、大いに活用して頂ければと思います。

業績目録を出版する意義としてはいくつか考えられると思います。例えば(1)情報公開、(2)共同研究、(3)評価などへの活用です。

(1) 個人・講座・学科・学部としての研究活動を公開し、地域社会の医療水準の向上に役立たせることは私達の責務であります。

(2) 先端的研究は異文化・異分野との融合から派生した学際的研究が多いという事実があります。学部内はもとより他学部において行われている研究内容はなかなか知り得ないことは皆さんもお感じのことと思います。そのような時、本目録は情報取得に便利であると思います。また法人化により経営的基盤の強化が喫緊の課題であり、21世紀COEプログラムや地域結集型共同事業のような高水準・多角的研究活動及び外部資金獲得のための大型研究プロジェクト構築の際などにも有用かと思います。

(3) 今回の法人化は「競争的環境の中で個性が輝き、知の世紀と言われている21世紀を担える有為な人材を育成し、社会に貢献出来る大学となる大きな契機」であると認識し、そのためには教育研究機能のより活性化をはかる必要があります。このような状況下において「評価」は大切なキーワードです。まず自ら点検及び評価することから始まり、外部評価委員会による評価、さらに第三者機関（国立大学法人評価委員会、認証評価機関など）による評価が行われます。研究に関して、その際提出を求められる根拠資料は本研究業績目録に掲載されているものです。

ここに科学・技術の領域でよく耳にする言葉を紹介しましょう。それは「日本人には創造性が少ない」ということです。これと関連し2002年度ノーベル化学賞を受賞された田中耕一さんの著書「生涯最高の失敗」の中に興味深い言葉が引用されております。スウェーデンのノーベル博物館館長、スヴァンテ・リンクヴィストの言葉です。“個人が創造性を発揮するために必要なものは、**勇気、挑戦、不屈の意志、組み合わせ、新たな視点、遊び心、偶然、努力、瞬間的ひらめき**”、さらに“創造性を育む環境の特徴として、**集中（人口密度）、多彩な才能、コミュニケーション、ネットワーク、インフォーマルな会合の場、往来がしやすい、資源、自由、競争（業績へのプレッシャー）、カオス・組織の不安定な状況**”です。我々も大いに参考にしたいものです。

本学部から発信致します研究は先輩の先生方また卒業生の方々のご努力により、世界的にも高く評価されて参りました。その客観的証拠としては論文の高い引用度（Citation Index）があります。特色ある独創性高い研究がここ宮崎大学医学部から発信し続けることを切に願っております。

目 次

学 長	1
副 学 長	1
医学部長	3
附属病院長	4

基礎教育科目

心 理 学	6
哲学・倫理学	6
社 会 学	8
数 学	8
物 理 学	9
化 学	9
生 物 学	10
英 語	11
ドイツ語学	11

基礎医学講座

解剖学第一講座	12
解剖学第二講座	13
生理学第一講座	14
生理学第二講座	15
生化学講座	
腫瘍生化学分野(生化学第一講座)	16
機能生化学分野(生化学第二講座)	17
薬 理 学 講 座	17
病理学第一講座	18
病理学第二講座	21
微生物学講座	23
衛生・公衆衛生学講座	
衛生学分野(衛生学講座)	24
公衆衛生学分野(公衆衛生学講座)	25
寄生虫学講座	27
法 医 学 講 座	29

臨床医学講座

内科学第一講座	30
内科学第二講座	37
内科学第三講座	43
精神医学講座	49
小児科学講座	53
外科学第一講座	57
外科学第二講座	64
整形外科学講座	69
皮膚科学講座	73

泌尿器科学講座	76
眼 科 学 講 座	78
耳鼻咽喉科学講座	79
産婦人科学講座	84
放射線医学講座	90
麻 酔 学 講 座	95
脳神経外科学講座	98
歯科口腔外科学講座	102
臨床検査医学講座	104
救 急 医 学 講 座	105

看護学科

基礎看護学講座	106
臨床看護学講座	
成人・老年看護学	107
精神看護学	109
母性看護学・助産学	109
小児看護学	110
地域看護学講座	111

附属病院

検 査 部	112
手 術 部	113
放 射 線 部	113
輸 血 部	114
集中治療部	115
周産母子センター	116
医療情報部	118
病 理 部	118
リハビリテーション部	120
薬 剤 部	120
看 護 部	122

フロンティア科学実験総合センター

実験支援部門 生物資源分野	125
(附属動物実験施設)	
実験支援部門 R I 分野 清武分室	126
(附属実験実習機器センター)	

保健管理センター	128
----------	-----

附 録 (業績目録件数内訳)	129
----------------	-----

学 長 ・ 副 学 長 ・ 医学部長 ・ 附属病院長

学長 松尾 壽之
(President, Hisayuki Matsuo)
～2003 年 9 月 30 日

副学長・病院長 住吉 昭信
(Vice-President for Medical Affairs, Director of
College Hospital, Akinobu Sumiyoshi)
～2003 年 9 月 30 日

※2003 年 10 月から宮崎大学学長

◆著 書

- 1) 住吉昭信:病理検査。巽 典之編著:基準値ハンドブック、改訂第2版、473-482 ページ、南江堂、東京、2003。
- 2) 住吉昭信:冠状動脈硬化の発生、進展の病理形態。日本臨床 61 (増刊号 4):冠状動脈の臨床(上)ー21 世紀の診断治療体系ー、63-68, 2003。

◆原 著

- 1) Marutsuka K, Hatakeyama K, Yamashita A, Sato Y, Sumiyoshi A, Asada Y: Adrenomedullin augments the release and production of tissue factor pathway inhibitor in human aortic endothelial cells. Cardiovas Res 2003; 57: 232-235.
- 2) Marutsuka K, Hatakeyama K, Sato Y, Yamashita A, Sumiyoshi A, Asada Y: Immunohistochemical localization and possible functions of adrenomedullin. Hypertens Res 2003; 26 (Suppl): S33-S40.
- 3) Yamashita A, Asada Y, Sugimura H, Yamamoto H, Marutsuka K, Hatakeyama K, Tamura S, Ikeda Y, Sumiyoshi A: Contribution of von Willebrand factor to thrombus formation on neointima of rabbit stenotic iliac artery under high blood-flow velocity. Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2003; 23:1105-1110.

◆症例報告

- 1) 山下 篤、浅田祐士郎、住吉昭信、鶴田和仁、三山吉夫: 進行性ミオクロームスτένかん Unverricht-Lundborg 型。福岡大学医学紀要、2003 ;30 (1):62-63.

◆その他

- 1) 住吉昭信 動脈硬化学会大島賞受賞講演:動脈硬化の発生病理を追って。第 35 回日本動脈硬化学会総会、平成 15 年 9 月 27 日 (京都国際会議場)

副学長 三山吉夫
(Vice-President for Academic Affairs,
Yoshio Mitsuyama)
～2003年9月30日

◆著 書

- 1) 三山吉夫(共):不眠症 泉考英編、ガイドラインー外来治療 2003,日経メディカルカ開発、東京、p.332-340,2003
- 2) 三山吉夫:Environmental and hereditary factors in the schizophrenias of old age(“late paraphrenia”) and their bearing on the general problem of causation in schizophrenia 中安信夫編、精神科臨床のための必読100文献、星和書店、東京、p.110-111,2003

◆原 著

- 1) 石田康、鈴木康義、長町茂樹、三山吉夫:クエチアピンが有用であった薬剤性精神病を伴うパーキンソン病の1例、精神医学45(4):421-424,2003
- 2) 植田勇人、鈴木康義、三山吉夫:第四番染色体短腕中間部欠損症にみられた難治性複雑部分発作にクロバザム(マイスタン®)が奏効した1症例、Progress in Medicines 23(4):1177-1179,2003

◆症例報告

- 1) 後田卓成、橋口浩志、石田康、三山吉夫:ヨードホルム創部充填によりせん妄を呈した1例、九州神経精神医学雑誌 49(2):75-80,2003

◆総 説

- 1) 三山吉夫:痴呆高齢者の精神鑑定、総合臨床 52(5):1769-1770, 2003
- 2) 三山吉夫:精神医学症候群 III-器質・症状性精神障害など- XI.脳器質性・症状性精神障害 慢性症状脳器質性人格変化、別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 40:141-144, 2003
- 3) 三山吉夫:精神医学症候群 III. - 器質・症状精神障害など- XII.脳器質性精神障害 神経変性疾患 進行性皮質下グリオーシス、別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 40:275-278, 2003
- 4) 三山吉夫:精神医学症候群 III-器質・症状精神障害など- XI. 脳器質性・症状性精神障害 慢性症状 慢性神経衰弱症候群、別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ 40:137-140, 2003
- 5) 三山吉夫:老年精神医学の専門医のために② 高齢者の人格障害と適応障害と衝動制御の障害、老年精神医学 14(11):1393-1401,2003
- 6) 三山吉夫:痴呆高齢者一家庭医と専門医の役割と両者の連携ー 総合臨床 52(12):3265-3270, 2003
- 7) 三山吉夫:日本の脳研究者たち 第36回 武谷止孝 Brain Medical 15(1):108, 2003

◆学会報告

- 1) 長友慶子、長町茂樹、石田康、三山吉夫:インターフェ

ロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験、第56回九州精神神経学会,2003.11.6-7(久留米)

◆その他

- 1) 三山吉夫:地域社会における大学の役割ー地域社会のニーズに応える地域連携と地域貢献ー、日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会、2003.1.10(宮崎)
- 2) 三山吉夫:アルツハイマー型老年期痴呆の多様性の背景、21世紀の痴呆を考える会、2003.4.26(金沢)
- 3) 鈴木康義、植田勇人、三山吉夫:複雑部分発作を呈した第4番染色体短腕中間部欠失の1症例、第24回宮崎てんかん懇話会、2003.7.11(宮崎)

医学部長 河 南 洋
(Dean, Faculty of Medicine, Hiroshi Kannan)
2003 年 10 月 1 日～

◆原 著

- 1) Chu, C.-P., Kato, K., Kunitake, T., Watanabe, S., Qiu, D.-L., Ueta, Y. & Kannan, H.: Enhanced effects of central angiotensin II on cardiovascular and drinking responses in inbred polydipsic (STR/N) mice, *Brain Res.*, 962(1-2): 129-134, 2003.
- 2) Jin, Q.-H., Kunitake, T., Chu, C.-P., Qiu, D.-L., Kato, K., Ishizuka, Y. & Kannan, H.: Possible involvement of nitric oxide in the central salt-loading-induced cardiovascular responses in conscious rats, *Brain Res.*, 963(1-2): 224-231, 2003.
- 3) Shirasaka, T., Takasaki, M. & Kannan, H.: Cardiovascular effects of leptin and orexins, *Am. J. Physiol.*, 284(3): R639-R651, 2003.
- 4) Nabekura, T., Morishima, S., Cover, T. L., Mori, S., Kannan, H., Komune, S. & Okada, Y.: Recovery from lactic acidosis-induced glial cell swelling with the aid of exogenous anion channels, *Glia*, 41(3): 247-259, 2003.
- 5) Qiu, D.-L., Chu, C.-P., Shirasaka, T., Nabekura, T., Kunitake, T., Kato, K., Nakazato, M., Katoh, T. & Kannan, H.: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing I_{H} channel activity, *J. Neurophysiol.* 90(2): 843-850, 2003.
- 6) 橋口浩志, 石田 康, 武田龍一郎, 安部博史, 石塚雄太, 河南 洋, 西森利数, 中原大一郎: 情動ストレスによるラット視床下部室傍核の Fos 蛋白発現. *脳と精神の医学*, 14(4): 331-337, 2003.

◆総 説

- 1) 河南 洋: バゾプレッショと自律神経機能, *Clinical Neuroscience*, 21(12): 1414-1415, 2003.
- 2) 河南 洋: Vision: 日本生理学会・教育委員会活動について, *日本生理学雑誌*, 65(1): 1-2, 2003.

◆シンポジウム

<国内学会>

- 1) 河南 洋, 河合康明: 生理学に架ける橋, 「教育委員会シンポジウム」, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 2) 河南 洋, 白阪哲朗, 初 春平, 邱 徳来: オレキシン、ニューロメジン U の交感神経系に対する中枢作用, シンポジウム「新規ペプチドによる自律神経調節の新展開」, 第 56 回日本自律神経学会総会, 2003, 新潟.

◆学会報告

<国際学会>

- 1) Kannan, H.: Responses to central salt loading in the conscious rat transgenic for the metallothionein-vasopressin fusion gene, *The 5th International Workshop of UOEH*,

2003, Fukuoka, Japan.

<国内学会>

学会発表、プログラム

- 1) 渡部正一, 河南 洋, 國武孝人, 花森隆充, 加藤和男, 初 春平: 自由行動ラットのストレス反応における視床下部室傍核の単一ニューロン活動, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 2) 初 春平, 加藤和男, 國武孝人, 邱 徳来, 渡部正一, 大磯ユタカ, 河南 洋: バゾプレッショ過剰発現トランスジェニックラットにおける中枢食塩負荷による心血管系と Fos 発現に対する応答の検討, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 3) 加藤和男, 初 春平, 河南 洋: 脳室内高張食塩投与時の中枢内 Fos 蛋白発現に対する最後野の関与, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 4) 石塚雄太, Callaway, J., Bevy, J., 石田 康, 河南 洋: 意識下ラットにおいて局所脳虚血後の血液脳関門の破壊に対する AM-36 の効果, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 5) 邱 徳来, 初 春平, 白阪哲朗, 加藤貴彦, 河南 洋: HCN チャンネルを介したニューロメジン U によるラット視床下部室傍核ニューロンの脱分極反応, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 6) 石塚雄太, 橋口浩志, 石田 康, 河南 洋: ストレス負荷時における視床下部室傍核の一酸化窒素動態に対する内側前頭前野の GABA の影響. 第 25 回日本生物学的精神医学会, 2003, 金沢.
- 7) 渡部正一, 國武孝人, 加藤和男, 初 春平, 邱 徳来, 河南 洋: 自由行動ラットのストレス応答における視床下部室傍核の単一神経活動, 第 7 回宮崎 Neuroscience 研究会, 2003, 宮崎.
- 8) 河南 洋, 初 春平, 加藤和男, 邱 徳来, 渡部正一, 大磯ユタカ: 中枢内高張食塩水負荷に対応する応答ーバゾプレッショ(AVP)過剰発現トランスジェニックラットにおける検討, 第 26 回日本神経科学大会, 2003, 名古屋.
- 9) 石塚雄太, 石田 康, 河南 洋: 視床下部室傍核の一酸化窒素の動態に対する内側前頭前野の GABA 受容体の関与, 第 26 回日本神経科学大会, 2003, 名古屋.
- 10) 渡部正一, 國武孝人, 加藤和男, 初 春平, 河南 洋, 中尾裕之, 邱 徳来: 自由行動ラットのストレス応答における視床下部室傍核の単一神経活動, 「医学、看護学分野における統計解析」研究会, 2003, 宮崎.
- 11) 石田 康, 石塚雄太, 橋口浩志, 武田龍一郎, 中原大一郎, 西森利数, 河南 洋: ストレス負荷時の視床下部室傍核・内側前頭前野における一酸化窒素動態と機能の解析, 第 36 回精神神経系薬物治療研究報告会, 2003, 大阪.

◆招待講演

- 1) 河南 洋: 中枢性血圧調節機構ー神経・液性調節系のクロスロードとしての視床下部室傍核, 第 26 回日本高血圧学会総会, 2003, 宮崎.

◆講 演

1) 河南 洋:心と脳の科学(しくみ)ーヒトはなぜ喜び、そして悲しむのか。ー, 平成15年度宮崎医科大学公開講座「心とからだ」, 2003, 宮崎.

◆その他

1) 河南 洋:新規ペプチドの中樞作用～心血管ならびに自律神経系について～, 第69回ニューロサイエンス談話会, 2003, 北海道.

附属病院長 江 藤 胤 尚

(Director, University Hospital, Tanenao Eto)

2003年10月1日～

◆著 書

1) 江藤胤尚:低血圧. 内科学 第8版(杉本恒明、小俣政男、水野美邦 総編集) 朝倉書店, 東京, 2003, pp 759-761

2) 江藤胤尚:高血圧のコントロールと生活指導. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴(上松瀬勝男 編), 中山書店, 東京, 2003, pp 206-207

3) 江藤胤尚:Chapter 6 Ca拮抗薬で癌が増えると聞いたのですが, 本当ですか. ファーマナビゲーター Ca拮抗薬編(浦 信行、金 勝慶、熊谷裕生、堀内正嗣、森下竜一 編), メディカルレビュー社, 東京, 2003, pp 228-231

◆原 著

1) Eto T, Kato J, Kitamura K: Regulation of production and secretion of adrenomedullin in the cardiovascular system. Regul Pept 112: 61-69, 2003.

◆総 説

1) 江藤胤尚:高血圧治療ガイドラインの推奨する治療法と実際 5 COPD と高血圧. 日医雑誌 129: KG22-24, 2003.

2) 江藤胤尚:内分泌 アドレノメデュリン. 内科 91: 1447-1448, 2003.

3) 江藤胤尚:収縮期血圧および拡張期血圧の病態生理学的意義. 血圧 10: 703-707, 2003.

4) 江藤胤尚:高血圧治療-最近の動向、降圧目標とその達成法. 日医雑誌 130: 885-889, 2003.

5) 江藤胤尚:高血圧を層別化して治療方針を決定する理由. Current Therapy 21: 916-920, 2003.

◆学会報告

<国内学会総会会長講演>

1) 江藤胤尚:高血圧治療の展望-アドレノメデュリンからの視点. 第26回日本高血圧学会総会会長講演 2003年10月(宮崎)

<講演会>

1) 江藤胤尚:新しい大規模臨床試験による降圧療法の考え方. 串木野市内科医会学術講演会 2003年1月(串木野)

2) 江藤胤尚:新しい大規模介入試験と降圧薬の選択. 日本高血圧学会生涯教育講演会 2003年2月(千葉)

3) 江藤胤尚:降圧薬の新しい選択法-ALLHATの結果から-. 日本高血圧学会生涯教育講演会 2003年2月(沖縄)

4) 江藤胤尚:降圧薬の新しい選択法-ALLHATの結果から-. 都城・北諸県郡内科医会学術講演会. 2003年2月(都城)

- 5) 江藤胤尚: 高血圧治療の新たな展開. 第5回東北臨床血圧測定研究会 2003年3月(仙台)
- 6) 江藤胤尚: ALLHAT が示す高血圧治療の新しいパラダイム. ALLHAT 講演会 in 千葉. 高血圧治療最前線 2003年4月(千葉)
- 7) 江藤胤尚: 高齢者高血圧の治療. 医療セミナー「高血圧治療の検証と新たな展望」 2003年4月(大阪)
- 8) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望-ALLHAT の結果から. 延岡医学会学術講演会 2003年4月(延岡)
- 9) 江藤胤尚: ALLHAT が示す高血圧治療の新しいパラダイム. 日本高血圧学会生涯教育講演会. 高血圧治療大規模試験「ALLHAT」を考察する 2003年4月(宮崎)
- 10) 江藤胤尚: 降圧薬選択の新しい視点. ALLHAT の結果から一. 京都府医師会 ALLHAT 学術講演会 2003年4月(京都)
- 11) 江藤胤尚: 降圧薬の新しい選択法. ALLHAT の結果から一. 日本高血圧学会生涯教育講演会 2003年4月(熊本)
- 12) 江藤胤尚: 高血圧診療の最近の動向. ALLHAT から学ぶ. 鳥取西部医師会学術講演会 2003年5月(米子)
- 13) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望. ALLHAT の結果から一. 鹿児島県川内市医師会学術講演会 2003年6月(川内)
- 14) 江藤胤尚: 高血圧治療の最近の動向. 日向市東臼杵郡医師会学術講演会 2003年6月(日向)
- 15) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望. ALLHAT の結果から一. 鹿屋市医師会, 肝属郡医師会, 曾於郡医師会, 肝属郡東部医師会学術講演会 2003年6月(鹿屋)
- 16) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな視点. 高血圧学術講演会 2003年7月(札幌)
- 17) 江藤胤尚: 介入試験の示す高血圧治療の新たな視点. 北陸高血圧セミナー「高血圧の薬物治療を考える」日本高血圧学会, 北陸循環器懇話会 2003年7月(金沢)
- 18) 江藤胤尚: 降圧薬選択の新たな展望. ALLHAT をどう読むか. 循環器学術講演会 2003年7月(名古屋)
- 19) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望. ALLHAT の結果から一. ファイザー50周年循環器フォーラム 2003年7月(大阪)
- 20) 江藤胤尚: 最新の高血圧治療ガイドライン-JNC7 と2003ESH/ESC の特徴. 宮崎循環器疾患研究会 2003年10月(宮崎)
- 21) 江藤胤尚: 糖尿病患者における血圧管理. 宮崎県糖尿病懇話会例会 2003年10月(宮崎)
- 22) 江藤胤尚: ALLHAT から学ぶ高血圧治療の新たな視点. 久留米医師会学術講演会 2003年10月(久留米)
- 23) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望. 南那珂医師会学術講演会 2003年10月(日南)
- 24) 江藤胤尚: CHARM-Study から何を学ぶか. 都城市北諸県郡内科医会 2003年12月(都城)
- 25) 江藤胤尚: 新しいガイドラインとその背景. 西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会 2003年12月(小林)
(内科学第一講座の業績目録の中から、筆頭報告のみを取り出して掲載した。)

基礎教育科目

心理学 (Psychology)

◆総説

- 1) 鶴 紀子「てんかん治療ガイドライン」
宮崎県精神科医会会誌18：9-14、2003

◆特別講演

- 1) 鶴 紀子：「情動・認知とストレス」第42回日本心身医学会九州地方会教育講演 2003年2月、宮崎
- 2) 鶴 紀子：「職場のメンタルヘルス」2003年7月 延岡、宮崎
- 3) 鶴 紀子：「てんかんという病気とその治療」日本てんかん協会宮崎県支部特別講演会、宮崎2003年7月
- 4) 鶴 紀子：「メンタルヘルス指針基礎研修」メンタルヘルス基礎研修会 2003年10月、宮崎
- 5) 鶴 紀子：「ストレスとその対処法」宮崎県健康づくり協会職員研修会講演2003年12月 宮崎
- 6) 鶴 紀子：「職場のメンタルヘルスとカウンセリング」2003年3月職場のメンタルヘルス研修会 鹿児島

◆シンポジウム

- 1) 鶴 紀子：「脳波解析とその臨床応用」第14回臨床神経生理研究会 シンポジウム「新しい神経生理の手法とその基礎」2003年8月、鹿児島

◆国内学会一般講演

- 1) 鶴 紀子：未視感を訴えた2症例—多彩な単純部分発作と全生活史健忘を来した側頭葉てんかんの症例、第37回日本てんかん学会、2003年10月 仙台
- 2) Snyder S and Tsuru N：ERP differences in auditory processing of cross-language stimuli by adults of differing language backgrounds. 第33回日本臨床神経生理学会学術集会、2003年10月札幌
- 3) 下田浩輔、富家直明、鶴 紀子：P300 Change of the Mild Depressiveness Using the Music Mood Induction Method 音楽気分誘導法による軽症抑うつ者のP300変化、第33回日本臨床神経生理学会学術集会、2003年10月札幌
- 4) 坂元真由、池田華緒里、富家直明、鶴 紀子：抑うつ傾向者の気分変化と事象関連電位 第42回日本心身医学会九州地方会 2003年2月 宮崎
- 5) 下田浩輔、坂元真由、池田華緒里、富家直明、鶴 紀子：抑うつ傾向者に対する音楽気分誘導法の脳波学的検討 第42回日本心身医学会九州地方会 2003年2月 宮崎

◆その他

- 1) 鶴 紀子：産業保健推進センターメンタルヘルス研修会「職場のメンタルヘルス」2月10日

哲学・倫理学 (Philosophy / Ethics)

◆著書

- 1) 板井孝壱郎：臨床倫理学の基礎理論. 福井次矢, 浅井篤, 大西基喜編：臨床倫理学入門, 医学書院, pp126—171, 2003.
- 2) 板井孝壱郎：医療情報の電子化と情報倫理. 水谷雅彦, 越智貢, 土屋俊編：情報倫理の構築, 新世社, pp202—242, 2003.
- 3) 板井孝壱郎：ヒトゲノム解析計画とバイオテクノロジーの倫理. 功刀由紀子, 中西健一, 坂東昌子, 本山敦編：生命のフィロソフィー, 世界思想社, pp135—159, 2003.
- 4) 板井孝壱郎：医療倫理とは, 安楽死と尊厳死. 阿部俊子, 山口徹編：総合保健医療論. ニューヴェルヒロカワ, pp90—122, 2003.

◆原著

- 1) Koichiro Itai : Privacy on Clinical Practice and Medical Research, The Third FINE International Workshop, The Society for the Promotion of Science : pp122-127, 2003.
- 2) 板井孝壱郎, 大西基喜, 浅井篤：特定疾患(難病)に対する政策決定の基底にある倫理原則に関する研究. 特定疾患対策研究事業「特定疾患のアウトカム研究：QOL, 介護負担, 経済評価」班平成 14 年度研究報告書：pp100—104, 2003.
- 3) 板井孝壱郎：安楽死・尊厳死を通して見られるいのちと死の問題. 文部科学省研究成果公開講座「学校現場での生命倫理教育：安楽死・尊厳死を通していのちと死を考える」資料集：pp10—34, 2003.

◆学会報告

<国際学会>

- 1) Koichiro Itai, Atsushi Asai : Urgent “Lifesaving” Clinical Research. The 8th International Tsukuba Bioethics Roundtable (TRT8), University of Tsukuba, Tsukuba Science City, Japan, February 15-18, 2003.

<国内学会>

- 1) 板井孝壱郎：臨床学年医学生に対する臨床倫理クラークシップ、および看護職とのエシックス・ケース・カンファレンスの経験から：現状と課題. 日本生命倫理学会第 15 回大会「ワークショップ8：医療専門職、医療関連職、および同領域学生に対する生命倫理学教育」, 2003, 11. 上智大学, 東京.
- 2) 浅井篤, 板井孝壱郎, Brain T. Slingsby：生命倫理学教育と倫理的態度の不一致. 日本生命倫理学会第 15 回大会「ワークショップ8：医療専門職、医療関連職、および同領域学生に対する生命倫理学教育」, 2003, 11. 上智大学, 東京.

<シンポジウム>

- 1) 板井孝壱郎：自然哲学的医学思想とバイオエシックスの基礎付け. 第 12 回ドイツ観念論研究会・実存思想協会合同シンポジウム, 2003, 10, 東京.
- 2) 板井孝壱郎：病院で「安らかに」死ぬために—安楽死・尊厳死の問題を通していのちと死を考える. 文部科学省研

究成果公開シンポジウム「学校現場での生命倫理教育」, 日本医学哲学・倫理学会, 2003, 11, 大阪.

◆その他

＜厚生労働省研究班報告＞

1) 板井孝壺郎, 大西基喜, 浅井篤: 特定疾患(難病)に対する政策決定の基底にある倫理原則に関する研究. 厚生労働科学研究特定疾患対策研究事業「特定疾患のアウトカム研究: QOL, 介護負担, 経済評価」班 平成 14 年度研究発表会, 2003, 2, 東京.

＜市民公開講座＞

1) 黒岩ゆかり, 板井孝壺郎: 生き方と逝き方のコツ ―ホスピスを上手に利用するために. 宮崎市郡医師会第 5 回市民公開講座, 2003, 12, 宮崎.

＜講演会・研修会講師等＞

1) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第1回) 宮崎市郡医師会病院看護部研修, 2003, 1, 宮崎.

2) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第2回) 宮崎市郡医師会病院看護部研修, 2003, 2, 宮崎.

3) 板井孝壺郎: 看護と倫理. 宮崎医科大学附属病院看護部研修, 2003, 3, 宮崎.

4) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第3回) 宮崎市郡医師会病院看護部研修, 2003, 3, 宮崎.

5) 板井孝壺郎: 臨床現場と倫理問題. 宮崎市郡医師会宮崎緩和ケア研究会, 2003, 3, 宮崎.

6) 板井孝壺郎: 看護と生命倫理. 宮崎看護専門学校特別講演, 2003, 5, 宮崎.

7) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第1回) 潤和会記念病院看護部研修, 2003, 5, 宮崎.

8) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第2回) 国立療養所宮崎病院看護部研修, 2003, 5, 宮崎.

9) 板井孝壺郎: 看護と倫理. 宮崎県看護協会平成 15 年度認定看護管理者ファーストレベル教育「看護専門職論」, 2002, 6, 宮崎.

10) 板井孝壺郎: ベッドサイドの倫理と哲学を考える. 国立療養所宮崎東病院第 5 回院内研修, 2003, 6, 宮崎.

11) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護倫理. 宮崎県内准看護学校専任教員研修, 2003, 6, 宮崎.

12) 板井孝壺郎: ベッドサイド看護倫理. 国立熊本病院地域医療研修センター平成 15 年度看護卒後研修, 2003, 7, 熊本.

13) 板井孝壺郎: 看護実践と倫理. 県立こども療育センター看護研修, 2003, 7, 宮崎.

14) 板井孝壺郎: インフォームド・コンセントの法理と倫理. 第 4 回癌の治療・看護に携わる医療者の会, 2003, 8, 宮崎.

15) 板井孝壺郎: 人権とは何か? ―臨床倫理の視点から. 県立こども療育センター看護研修, 2003, 9, 宮崎.

16) 板井孝壺郎: 診療情報取り扱いをめぐる情報倫理 ―患者プライバシーと個人情報保護のあり方について. 平成 15 年度宮崎県放射線科医会特別講演, 2003, 10, 宮崎.

17) 板井孝壺郎: 臨床決断と倫理的ジレンマ ―エシク

ス・コンサルテーション(倫理相談)について. 宮崎木曜会, 2003, 11, 宮崎.

18) 板井孝壺郎: インフォームド・コンセントと看護倫理. 平成 15 年度宮崎県看護研修会(一般研修: 看護と倫理), 2003, 11, 宮崎.

19) 板井孝壺郎: インフォームド・コンセントと看護倫理. 平成 15 年度宮崎県看護協会日南・串間地区看護研修会, 2003, 11, 日南.

20) 板井孝壺郎: 臨床倫理について ―インフォームド・コンセントに焦点をあてて. 県立宮崎病院院内研修会, 2003, 12, 宮崎.

21) 板井孝壺郎: 臨地実習における「患者の同意」について. 平成 15 年度宮崎県看護教員再教育研修会, 2003, 12, 宮崎.

22) 板井孝壺郎: 臨床倫理 ―ベッドサイドの倫理を考える. 国立療養所東佐賀病院附属看護学校特別講演, 2003, 12, 佐賀.

23) 板井孝壺郎: 臨床倫理と看護. 臨床倫理セミナー(ベッドサイドの倫理と哲学を語り合うカフェ第2回) 潤和会記念病院看護部研修, 2003, 12, 宮崎.

社会学 (Sociology)

◆原著

1) 菊井高雄: 19 世紀米国における「遅れた」医学・医療の社会的背景、西日本社会学会ニュース, No.113, 12, 2003.

◆学会報告

1) 菊井高雄: 19 世紀米国における「遅れた」医学・医療の社会的背景、西日本社会学会第 61 回大会, 2003, 5, 福岡.

数学 (Mathematics)

◆原著

1) Yoshiaki Ohkuwa : WKB Time in Brans-Dicke Theory, Nuovo Cimento, 118B, 785-790, 2003.

◆学会報告

1) 大桑良彰: Brans-Dicke 理論における WKB 時間, 日本物理学会 2003 年秋季大会, 2003, 9, 宮崎.

2) Yoshiaki Ohkuwa : WKB Time of Brans-Dicke Cosmology, the 6th RESCEU International Symposium on “Frontiers in Astroparticle Physics and Cosmology”, 2003, 11, Tokyo.

◆原 著

1) K. Itonaga, T. Motoba and T. Ueda ; Nonmesonic weak decays of single- Λ and double- Λ hypernuclei of light mass systems, Mod. Phys. Lett. A18, 135-138, 2003.

◆学会報告

<国内学会>

1) 糸永一憲, 元場俊雄, 上田 保: 軽い Λ -ハイパー核の非中間子の崩壊とK中間子交換相互作用の効果, 日本物理学会第58回年次大会, 仙台, 3月, 2003年

2) 糸永一憲, 元場俊雄, 上田 保: 軽い Λ -ハイパー核の非中間子の崩壊と崩壊放出陽子の非対称度パラメータ, 日本物理学会2003年秋季大会, 宮崎, 9月, 2003年

◆原 著

1) T. Itoh : The lowest excited triplet (T1) energies of p-methoxybenzaldehyde and p-cyanobenzaldehyde vapors estimated from the temperature dependence of the T2 (n, π^*) phosphorescence and S1(n, π^*) fluorescence spectra. Spectrochimica Acta, A Molec. & Biomolec. Spectrosc., 59 : 61-68, 2003.

2) T. Itoh : Role of CuO for the decarbonation of BaCO₃ and CaCO₃ in the solid-state reaction of CuO with BaCO₃ and that of CuO with CaCO₃. Journal of Material Science Letters, 22 : 185-189, 2003.

3) T. Itoh : Solvent-polarizability dependence of the relative 2¹ Ag (S₁)- and 1¹ Bu (S₂)-fluorescence intensities of 1,14-diphenyl-1,3,5,7,9,11,13-tetradecaheptane. Journal of Chemical Physics, 119 : 4516-4521, 2003.

4) T. Itoh : Fluorescence spectrum of a,w-diphenyltetradecaheptane in a rigid matrix at 77 K. Chemical Physics Letters, 379 : 577-581, 2003.

5) T. Itoh : Photophysical process in quinoxaline vapor at low pressure. Spectrochimica Acta, A Molec. & Biomolec. Spectrosc., 59 : 3019-3027, 2003.

6) A. Nakajima : Accumulation of gold by microorganisms. World Journal of Microbiology and Biotechnology, 19 : 369-374, 2003.

7) A. Nakajima, K. Ohe, Y. Baba, T. Kijima : Mechanism of gold adsorption by persimmon tannin gel. Analytical Science, 19(7) : 1075-1077, 2003.

8) Y. Ueda, A. Nakajima, J. Tokumaru : Antioxidant Ability and Lipid Peroxidation in the Hippocampus with Epileptogenesis Induced by Fe³⁺ Injection into Amygdaloid Body of Rats. Neurochemical Research, 28(12) : 1895-1900, 2003.

◆学会報告

<国際学会>

1) T. Itoh: Emission properties of α , ω -diphenyltetradecaheptane, The XX1st Int. Conf. on Photochemistry (2003. 7. Nara).

<国内学会>

1) 伊藤隆夫: CuOとBaCO₃およびCuOとCaCO₃の固相反応における脱炭酸過程に対するCuOの役割, 日本化学会第83回春季年会(東京, 2003年3月)

2) 伊藤隆夫, Thomas Magnera, Josef Michl: 圧電素子を用いた光音響分光法による室温溶液中分子の二光子吸収スペクトルの測定の試み. 分子構造総合討論会(京都, 2003年9月)

3) 伊藤隆夫: α , ω -ジフェニルテトラデカヘプタエン ($n=7$) の 2¹Ag (S1) と 1¹Bu (S2) 蛍光のフランク-コンドン解析と蛍光相対強度の溶媒分極率依存性. 光化学討論会(松江, 2003年11月)

4) 伊藤隆夫: T2 (n, π^*) リン光と S1 (n, π^*) 蛍光スペクトルの温度依存性から決定した p-メトキシベンズアルデヒドと p-シアノベンズアルデヒド気体の最低励起三重項状態 (T1) 準位. 光化学討論会(松江, 2003年11月)

5) 中島 暉、植田勇人、田嶋邦彦、牧野圭祐：ウランー過酸化水素系における抗酸化物質の挙動。日本原子力学会「2003 年春の年会」(佐世保, 2003 年 3 月)

6) 植田勇人、横山秀克、中島暉、林要人：NMDA 受容体活性化に伴う痙攣発現と細胞膜過酸化障害における O_2^- と NO の役割—EPR 測定系を用いた in vivo 検証—。第 25 回日本生物学的精神医学会(金沢, 2003 年 4 月)

7) 中島 暉、植田勇人、田嶋邦彦、牧野圭祐：ニトロ系スピントラップ剤の塩化金酸による酸化反応。第 25 回日本フリーラジカル学会学術集会(東京, 2003 年 6 月)

8) 田嶋邦彦、渡部るしる、山崎陽介、金折賢二、中島 暉、牧野圭祐：ストップフロー ESR 法によるスピントラッピング反応の機構解析。第 25 回日本フリーラジカル学会学術集会(東京, 2003 年 6 月)

9) 渡部るしる、山崎陽介、金折賢二、森 泰胤、真明正志、中島 暉、田嶋邦彦、牧野圭祐：フローインジェクション ESR 法による OH ラジカルのスピントラッピング測定。第 25 回日本フリーラジカル学会学術集会(東京, 2003 年 6 月)

10) 植田勇人、Jasmin I. Noor、中島 暉、池田智明、池ノ上克：ラット低酸素虚血性脳症モデルの海馬におけるフリーラジカルの捕捉—脳内微小透析法によるスピントラップ剤の海馬灌流実験—。第 25 回日本フリーラジカル学会学術集会(東京, 2003 年 6 月)

11) 中島 暉、大栄 薫、馬場由成：柿タンニンゲルによる六価クロム吸着機構。第 7 回 ESR フォーラム研究会(京都, 2003 年 6 月 14 日)

12) 中島 暉、植田勇人、田嶋邦彦、牧野圭祐：ウランー過酸化水素系における抗酸化物質の挙動。第 42 回電子スピンスイエンス学会年会(広島, 2003 年 10 月)

13) 植田勇人、中島 暉：ラット脳内におけるニトロキシドラジカルの半減期に及ぼす pH の影響。第 42 回電子スピンスイエンス学会年会(広島, 2003 年 10 月)

◆その他

1) 伊藤隆夫：精密構造材料としての部分安定化ジルコニアの高純度原料粉末と焼結体の製法と評価について、宮崎大学地域共同センター第 11 回技術・研究発表交流会(宮崎, 2003 年 7 月)

2) 中島 暉：微生物へのウランの吸着。日本原子力研究所基礎科学セミナー「微生物と重元素との相互作用解明研究」(東海, 2003 年 6 月)

3) 中島 暉：キトサンとタンニン。第一回ゼロエミッションプロセス開発研究会(宮崎, 2003 年 3 月)

4) 植田勇人、中島 暉：痴呆疾患脳の組織中における微量元素の定量解析。第 12 回東京大学原子力研究総合シンポジウム(東京, 2003 年 12 月)

5) Y. Ueda, J. Tokumaru, Y. Hayashi, A. Nakajima, H. Yokoyama, T. Doi, Y. Mitsuyama: Collapse of redox state by glutamate transporter inhibition in the rat's hippocampus. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: s31 (2003)

◆原 著

1) Ikeda, T., Terayama, R., Jue, SS., Sugiyo, S., Dubner, R. and Ren, K.: Differential rostral projections of caudal brainstem neurons receiving trigeminal input after masseter inflammation. J. Comp. Neurol., 465(2): 220-233, 2003.

2) Otahara, N., Ikeda, T., Sakoda, S., Shiba, R. and Nishimori, T.: Involvement of NMDA receptors in Zif/268 expression in the trigeminal nucleus caudalis following formalin injection into the rat whisker pad. Brain Res. Bull., 62 (1): 63-70, 2003.

3) 橋口浩志、石田 康、武田龍一郎、安部博史、石塚雄太、河南 洋、西森利数、中原大一郎：情動ストレスによるラット視床下部室傍核の Fos 蛋白発現。脳と精神の医学, 14 (4): 331-337, 2003.

◆学会発表

1) 武田龍一郎、橋口浩志、石田 康、池田哲也、西森利数：パーキンソン病モデルラットにおける痛覚過敏についての研究(第2報)。第 25 回日本生物学的精神医学会, 2003, 4, 金沢.

2) 池田哲也、西森利数、Ren, Ke, Dubner, Ronald.: 咬筋の炎症によって c-Fos を発現する延髄細胞の上位中枢への投射。第 7 回宮崎 Neuroscience 研究会, 2003, 7, 宮崎.

3) 武田龍一郎、池田哲也、津田文子、橋口浩志、石田康、西森利数：ヘミ・パーキンソン病モデル動物における痛覚過敏。第 26 回日本神経科学大会, 2003, 7, 名古屋.

4) 池田哲也、武田龍一郎、安部博史、石田 康、西森利数：坐骨神経結紮モデルラットにおける神経因性疼痛行動に対する抗うつ薬、ミルナシプランの効果。第 25 回日本疼痛学会, 2003, 12, 東京.

5) 石田 康、石塚雄太、橋口浩志、武田龍一郎、中原大一郎、西森利数、河南 洋：ストレス負荷時の視床下部室傍核・内側前頭前野における一酸化窒素動態と機能の解析。第 36 回精神神経系薬物治療研究報告会, 2003, 12, 豊中.

◆その他

1) Hashiguchi, H., Ishida, Y., Takeda, R., Nishimori, T., Nakamura, M., Nakahara, D. and Niki, H.: Immunohistochemical characterization of Fos immunopositive cells in the inferior and superior colliculi following audiogenic seizures in rats. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 57: S32, 2003.

2) Takada, R., Abe, H., Hashiguchi, H., Ishida, Y., Ikeda, T. and Nishimori, T.: Effects of unilateral lesion of mesencephalic dopaminergic pathway on behavior response by mechanical stimulus to the rat hindpaw. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 57: S68, 2003.

3) Takeda, R., Ishida, Y., Hashiguchi, H., Nishimori, T. and Mitsuyama, Y.: Effects of unilateral lesion of mesencephalic dopaminergic pathway on behavior response and c-Fos expression by mechanical stimulus to the rat hindpaw. Psychiatry and Clinical Neurosciences, 57: S25, 2003.

英 語 (English)

ド イ ツ 語 (German)

◆原著論文

1) Yoshiyuki Tamada. "Ngugi wa Thiong'o, the writer in politics: His language choice and legacy," *Studies in Linguistic Expression*, No. 19 pp. 12-21, 2003.

2) 横山彰三、「医科大学における英語教育をめぐる：内容選択制に対する学生の意識調査から」、ESP の研究と実践 第2号、70-77 頁、2003

3) Guest, Michael. Flaws, Fallacies, and Infelicities: A critical look at culture in ELT research. P. 2-9. On Cue. Vol. 11/1. Spring 2003.

4) Guest, Michael. ETJ Journal, Winter 2002/2003 (Vol. 3 No.3) Should Communication Really Be the Goal of High School English?

5) Guest, Michael. ETJ Journal, Spring 2003 (Vol. 3 No. 4) Teaching Taboos

6) Guest, Michael. ETJ Journal, Summer 2003 (Vol. 3 No. 5) The Practice of Using Japanese (the Learners' L1) in the English Classroom

7) Guest, Michael. ETJ Journal, Winter 2003 (Vol. 3 No. 6) What Is the Ideal Ratio Between Student Talk and Teacher Talk?

◆学会発表

1) 横山彰三、「ESP 入門・再入門(1)」、第3回 ESP 研究会(熊本大学)、2003年5月

2) 横山彰三、「ESP 語彙論：Is ESP vocabulary sub-technical?」、第42回大学英語教育学会全国大会シンポジウム(東北学院大学)、2003年9月

3) Guest, Michael. ETA-ROC (Taiwan TESOL) Conference, Taipei, Taiwan: Creative and Productive Testing (Nov. 2003)

4) Guest, Michael. JACET (大学英語教育学会). 全国大会 宮城県仙台市: Creative and Productive Testing (Sept. 2003)

5) Guest, Michael. 福岡 JALT (招待発表): Teaching English as a Humanities Subject (Sept. 2003)

6) Guest, Michael. 北九州 JALT (招待発表): Creative and Productive Testing (Dec. 2003)

7) Guest, Michael. JACET (大学英語教育学会)九州沖縄支部大会(大分県大分市): Teaching English as a Humanities Subject (Oct. 2003)

8) Guest, Michael. 宮崎 JALT: Creative and Productive Testing (Oct. 2003)

◆その他

1) Guest, Michael. Indirectly Speaking コラムニスト. Jan, 2003~Dec. 2003 現在. The Daily Yomiuri—読売新聞の定期の月間記事多数

2) Guest, Michael. IMHO. 定期の季刊記事 English Teachers Japan Journal 雑誌 (ETJJ):

◆原 著

1) 大羽 武: 短編小説考 —森鷗外『雁』とギュンター・グラス『鈴蛙の叫び声』— (Betrachtungen über die Novelle —Die Wildgans von Ogai Mori und Unkenrufe von Günter Grass—). 「西日本ドイツ文学」15, 福岡, p.37-48, 2003.

基礎医学講座

解剖学第一講座 (Anatomy I)

◆原 著

- 1) Kimura, T., Ito, C., Watanabe, S., Takahashi, T., Ikawa, M., Yomogida, K., Fujita, Y., Ikeuchi, M., Asada, N., Matsumiya, K., Okuyama, A., Okabe, M., Toshimori, K. and Nakano, T.: Mouse germ cell-less as an essential components for nuclear integrity. *Mol. Cell Biol.*, 23:1304-1315, 2003.
- 2) Manandhar, G. and Toshimori, K.: Fate of post-acrosomal perinuclear theca recognized by monoclonal antibody MN13, after sperm head microinjection and its role in oocyte activation in mice. *Biol. Reprod.*, 68:655-663, 2003.
- 3) Oh-oka T., Saxena D.K., Tani I., Yoshinaga K. and Toshimori K.: The change of the activity of sperm nitric oxide synthase in the oviductal reservoir during ovulation. *Reprod. Med. Biol.*, 2: 75-81, 2003.
- 4) Yoshinaga K., Kodama K., Kameta K., Karasawa N., Kanenaka N., Kohno S. and Suganuma T.: Rare variation of the arm artery: coexistence with the superficial brachial and superficial subscapular arteries in the absence of the normal brachial artery. *Okajimas Folia Anat. Jpn.*, 80: 23-27, 2003.
- 5) Yoshinaga K., Tani I. and Kodama K.: Superficial brachial artery crossing over the ulnar and median nerves from posterior to anterior: embryological significance. *Anat.Sci. Int.*, 78: 177-180, 2003.

◆総 説

- 1) Eddy, E.M., Toshimori, K. and O'Brien, D.A.: The fibrous sheath of mammalian spermatozoa. *Microsc. Res. Tech.*, 61:103-115, 2003.
- 2) 谷井一郎: 初耳事典「Ectoplasmic specialization」. *生体の科学* 54: 254-255, 2003.
- 3) Toshimori, K.: Spermatozoa maturation in the testis and epididymis; Overview and introduction. *Microsc. Res. Tech.*, 61:1-6, 2003.
- 4) Yoshinaga, K. and Toshimori, K.: Organization and modifications of sperm acrosomal molecules during spermatogenesis and epididymal maturation. *Microsc. Res. Tech.*, 61:39-45, 2003.

◆学会報告

<シンポジウム>

- 1) 谷井一郎: セルトリ細胞 ectoplasmic specializations の構造と機能: アクチン結合タンパク質を介したターンオーバー機構. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003,4, 福岡.
- 2) 年森清隆, 伊藤千鶴: 先体形成機構: 先体形成関連タンパク質 GPC の必要性. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003,4, 福岡.
- 3) 飯田弘, 年森清隆, 柴田洋三郎: 精子形成におけるミトコンドリア配列因子 spergen-1. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003,4, 福岡.

<一般講演>

- 1) 吉永一也, 大岡唯祐, 谷井一郎, 年森清隆: 受精における精子先体マトリックス蛋白 MC41 の局在. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003, 4, 福岡.

2) 吉永一也, 谷井一郎, 児玉公道: 尺骨神経を内側から乗り越える浅上腕動脈. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003, 4, 福岡.

3) 吉永一也, 児玉公道, 菅沼龍夫: C型腋窩動脈に続く浅上腕動脈の一例. 第 108 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2003, 4, 福岡.

4) 竹田 直樹, 吉永 一也, 古島 謙亮, 須田 容子, 黒川 大輔, 高宗 和史, 安部 眞一, 相沢 慎一: Protamine1 (Prm1) 遺伝子欠損マウスの解析. 日本発生生物学会第 36 回大会, 2003, 6, 札幌.

5) Tani I., Iida H., and Yoshinaga K.: A Ca^{2+} -sensitive actin-binding and -bundling protein associated with Sertoli cell ectoplasmic specializations. Society for Developmental Biology 62nd Annual Meeting in America, Jul. 30-Aug. 3, 2003, Boston, USA.

6) 吉永一也, 大岡唯祐, 谷井一郎: 受精における精子先体特異蛋白 MC41 の局在と機能解析. 第 45 回日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会, 2003, 11, 宮崎.

◆特別・教育講演

- 1) 吉永一也: 生殖細胞の形成と性分化. 第 5 回生体構造医学セミナー (東京医科大学), 2003,4, 東京.

◆その他

- 1) 吉永一也: 抗体の卵管内微小注入法による精子先体蛋白の機能解析. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 C) 平成 13~14 年度研究成果報告書, p1-67, 2003.

解剖学第二講座 (Anatomy II)

◆原 著

1) Harada M, Kumemura H, Sakisaka S, Shishido S, Taniguchi E, Kawaguchi T, Hanada S, Koga H, Kumashiro R, Ueno T, Suganuma T, Furuta K, Namba M, Sugiyama T, Sata M:

Wilson disease protein ATP7B is localized in the late endosomes in a polarized human hepatocyte cell line.

Int J Mol Med 11:293-298, 2003

2) Yoshinaga K, Kodama K, Kameta K, Karasawa N, Kanenaka N, Kohno S, Suganuma T: Rare variation of the arm artery: coexistence with superficial brachial and superficial subscapular arteries in the absence of the normal brachial artery.

Okajimas Folia Anat Jpn 80:23-27, 2003

3) Kotani T, Umeki K, Kawano J, Suganuma T, Hishinuma A, Ieiri T, Harada S: Partial iodide organification defect caused by a novel mutation of the thyroid peroxidase gene in three siblings.

Clin Endocrinol 59:198-206, 2003

4) Harada M, Kumemura H, Omary MB, Kawaguchi T, Maeyama N, Hanada S, Taniguchi E, Koga H, Suganuma T, Ueno T, Sata M: Protease inhibition induces inclusion bodies associated with intermediate filaments and fragmentation of the Golgi apparatus.

Exp Cell Res 288:60-69, 2003

5) Sawaguchi A, Yao X, Forte JG, McDonald KL: Direct attachment of cell suspensions to high pressure freezing specimen planchettes. J Microsc 212:13-20, 2003

◆総 説

1) 菅沼龍夫, 澤口 朗: 凍結技法における新展開—高圧凍結技法 細胞 35:32-35, 2003

◆学 会 報 告

<シンポジウム>

1) 菅沼龍夫, 澤口 朗: 粘液層のダイナミクス—高圧凍結技法による胃粘液流動動態の組織化学的解析 第108回日本解剖学会全国学術集会シンポジウム「消化器系の分子細胞生物学」2003, 4. 福岡

2) 菅沼龍夫: 粘液組織化学の新展開—高圧凍結技法 第59回日本顕微鏡学会学術講演会シンポジウム「複合糖質組織化学の最前線」2003, 6. 札幌

<ワークショップ>

1) 菅沼龍夫: 胃底腺漿液・粘液の流動動態を探る—高圧凍結技法の組織化学的応用— 第44回日本組織細胞化学会・第35回日本臨床電子顕微鏡学会合同学術集会ワークショップ2「凍結技法の基礎と免疫組織化学への応用」2003, 10. 東京

<一般講演>

1) 川野純一, 青山典世, 生沼 勉, 菅沼龍夫: 昆虫細胞の小胞輸送システムについて 第108回日本解剖学会全国学術集会 2003, 4. 福岡

2) 吉永一也, 児玉公道, 菅沼龍夫: C型腋窩動脈に続く浅

上腕動脈の一例. 第108回日本解剖学会全国学術集会 2003, 4. 福岡

3) 青山典世, 川野純一, 生沼 勉, 井手惣幸, 菅沼龍夫: 凍結技法による adrenomedullin (AM) の免疫組織化学—ラット刺激伝導系における発現. 第108回日本解剖学会全国学術集会 2003, 4. 福岡

4) Sawaguchi A, McDonald KL, Karvar S, Morphew MK, Shimmin J, Forte JG: Combined use of high pressure freezing and computer axial tomography reveals the complexity of cytoplasmic membrane networks in cultured gastric parietal cells.

Annual Meeting of American Association of Anatomists at Experimental Biology 2003. 2003, 4. San Diego, USA

5) 大橋 充, 小宗静男, 菅沼龍夫: ラットアブミ骨前庭関節の超微構造と電顕組織化学. 第59回日本顕微鏡学会学術講演会 2003, 6. 札幌

6) 青山典世, 湯池宏明, 澤口 朗, 生沼 勉, 井手惣幸, 菅沼龍夫: 浸漬凍結技法によるラット心刺激伝導系における adrenomedullin とANPの局在. 第59回日本解剖学会九州支部学術集会 2003, 10. 大分

7) 澤口 朗: 高圧凍結技法によるウサギ胃底腺初代培養壁細胞の微細構造. 第59回日本解剖学会九州支部学術集会 2003, 10. 大分

8) 澤口 朗: 高圧凍結技法による単離胃底腺壁細胞の超微形態および免疫組織化学的解析. 第44回日本組織細胞化学会学術集会 2003, 10. 東京

9) 大橋 充, 小宗静男, 菅沼龍夫: ラットアブミ骨前庭関節の超微構造と組織化学. 第13回日本耳科学会総会・学術講演会 2003, 10. 幕張

10) 澤口 朗: ウサギ胃底腺・初代培養壁細胞をモデルとした培養細胞の新たな高圧凍結技法の開発. 第45回日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会 2003, 11. 宮崎

11) Sawaguchi A, McDonald KL, Forte JG: Trafficking and recycling of H^+/K^+ -ATPase in gastric parietal cells. The American Society for Cell Biology 43rd Annual Meeting. 2003, 12. San Francisco, USA

生理学第一講座 (Physiology I)

◆原 著

- 1) Chu, C.-P., Kato, K., Kunitake, T., Watanabe, S., Qiu, D.-L., Ueta, Y. & Kannan, H.: Enhanced effects of central angiotensin II on cardiovascular and drinking responses in inbred polydipsic (STR/N) mice, *Brain Res.*, 962(1-2): 129-134, 2003.
- 2) Jin, Q.-H., Kunitake, T., Chu, C.-P., Qiu, D.-L., Kato, K., Ishizuka, Y. & Kannan, H.: Possible involvement of nitric oxide in the central salt-loading-induced cardiovascular responses in conscious rats, *Brain Res.*, 963(1-2): 224-231, 2003.
- 3) Shirasaka, T., Takasaki, M. & Kannan, H.: Cardiovascular effects of leptin and orexins, *Am. J. Physiol.*, 284(3): R639-R651, 2003.
- 4) Nabekura, T., Morishima, S., Cover, T. L., Mori, S., Kannan, H., Komune, S. & Okada, Y.: Recovery from lactacidosis-induced glial cell swelling with the aid of exogenous anion channels, *Glia*, 41(3): 247-259, 2003.
- 5) Qiu, D.-L., Chu, C.-P., Shirasaka, T., Nabekura, T., Kunitake, T., Kato, K., Nakazato, M., Katoh, T. & Kannan, H.: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing I_{H1} channel activity, *J. Neurophysiol.* 90(2): 843-850, 2003.
- 6) Kato, K., Yin, H., Agata, J., Yoshida, H., Chao, L. & Chao, J.: Adrenomedullin gene delivery attenuates myocardial infarction and apoptosis after ischemia and reperfusion, *Am. J. Physiol.*, 285(4): H1506-H1514, 2003.
- 7) Hanamori, T.: Chemical stimulation of the thalamic reticular nucleus inhibits the neuronal activity of the posterior insular cortex in rats, *Chem. Senses*, 28(8): 717-728, 2003.
- 8) 橋口浩志, 石田 康, 武田龍一郎, 安部博史, 石塚雄太, 河南 洋, 西森利数, 中原大一郎: 情動ストレスによるラット視床下部室傍核の Fos 蛋白発現. *脳と精神の医学*, 14(4): 331-337, 2003.
- 9) 花森隆充: ラット島皮質後部ニューロンの自発放電に関連する心血管系変動, *日本味と匂学会誌*, 10(3): 725-728, 2003.

◆総 説

- 1) 河南 洋: バゾプレッシンと自律神経機能, *Clinical Neuroscience*, 21(12): 1414-1415, 2003.
- 2) 河南 洋: Vision: 日本生理学会・教育委員会活動について, *日本生理学雑誌*, 65(1): 1-2, 2003.

◆シンポジウム

<国内学会>

- 1) 河南 洋, 河合康明: 生理学に架ける橋, 「教育委員会シンポジウム」, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 2) 河南 洋, 白阪哲朗, 初 春平, 邱 徳来: オレキシン、ニューロメジン U の交感神経系に対する中枢作用, シンポジウム「新規ペプチドによる自律神経調節の新展開」, 第 56 回日本自律神経学会総会, 2003, 新潟.

◆学会報告

<国際学会>

- 1) Kannan, H.: Responses to central salt loading in the conscious rat transgenic for the metallothionein- vasopressin fusion gene, The 5th International Workshop of UOEH, 2003, Fukuoka, Japan.

<国内学会>

学会発表, プログラム

- 1) 渡部正一, 河南 洋, 國武孝人, 花森隆充, 加藤和男, 初 春平: 自由行動ラットのストレス反応における視床下部室傍核の単一ニューロン活動, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 2) 初 春平, 加藤和男, 國武孝人, 邱 徳来, 渡部正一, 大磯ユタカ, 河南 洋: バゾプレッシン過剰発現トランスジェニックラットにおける中枢食塩負荷による心血管系と Fos 発現に対する応答の検討, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 3) 花森隆充: ラット視床網様核による島皮質後部ニューロン活動の抑制, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 4) 加藤和男, 初 春平, 河南 洋: 脳室内高張食塩投与時の中枢内 Fos 蛋白発現に対する最後野の関与, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 5) 石塚雄太, Callaway, J., Bevy, J., 石田 康, 河南 洋: 意識下ラットにおいて局所脳虚血後の血液脳関門の破壊に対する AM-36 の効果, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 6) 邱 徳来, 初 春平, 白阪哲朗, 加藤貴彦, 河南 洋: HCN チャンネルを介したニューロメジン U によるラット視床下部室傍核ニューロンの脱分極反応, 第 80 回日本生理学会大会, 2003, 福岡.
- 7) 石塚雄太, 橋口浩志, 石田 康, 河南 洋: ストレス負荷時における視床下部室傍核の一酸化窒素動態に対する内側前頭前野の GABA の影響, 第 25 回日本生物学的精神医学会, 2003, 金沢.
- 8) 渡部正一, 國武孝人, 加藤和男, 初 春平, 邱 徳来, 河南 洋: 自由行動ラットのストレス応答における視床下部室傍核の単一神経活動, 第 7 回宮崎 Neuroscience 研究会, 2003, 宮崎.
- 9) 河南 洋, 初 春平, 加藤和男, 邱 徳来, 渡部正一, 大磯ユタカ: 中枢内高張食塩水負荷に対応する応答—バゾプレッシン(AVP)過剰発現トランスジェニックラットにおける検討, 第 26 回日本神経科学大会, 2003, 名古屋.
- 10) 花森隆充: ラット視床網様核の化学刺激による島皮質後部ニューロンの抑制, 第 26 回日本神経科学大会, 2003, 名古屋.
- 11) 石塚雄太, 石田 康, 河南 洋: 視床下部室傍核の一酸化窒素の動態に対する内側前頭前野の GABA 受容体の関与, 第 26 回日本神経科学大会, 2003, 名古屋.
- 12) 花森隆充: ラット島皮質後部ニューロンの自発放電に関連する心血管系変動, *日本味と匂学会* 第 37 回大会, 2003, 岡山.
- 13) 渡部正一, 國武孝人, 加藤和男, 初 春平, 河南 洋, 中尾裕之, 邱 徳来: 自由行動ラットのストレス応答における視床下部室傍核の単一神経活動, 「医学、看護学分野における統計解析」研究会, 2003, 宮崎.
- 14) 石田 康, 石塚雄太, 橋口浩志, 武田龍一郎, 中原大

一郎, 西森利数, 河南 洋: ストレス負荷時の視床下部室傍核・内側前頭前野における一酸化窒素動態と機能の解析, 第 36 回精神神経系薬物治療研究報告会, 2003, 大阪.

◆招待講演

1) 河南 洋: 中枢性血圧調節機構—神経・液性調節系のクロスロードとしての視床下部室傍核, 第 26 回日本高血圧学会総会, 2003, 宮崎.

◆講 演

1) 河南 洋: 心と脳の科学 (しくみ) —ヒトはなぜ喜び、そして悲しむのか。—, 平成 15 年度宮崎医科大学公開講座「心とからだ」, 2003, 宮崎.

◆その他

1) 河南 洋: 新規ペプチドの中枢作用～心血管ならびに自律神経系について～, 第 69 回ニューロサイエンス談話会, 2003, 北海道.

生 理 学 第 二 講 座 (Physiology II)

◆原 著

1) Filho, W.R., Sugiki, M., Yoshida, Y. and Maruyama, M.: Inhibition of hemorrhagic and edematogenic activities of snake venoms by a broad-spectrum protease inhibitor, murinoglobulin; the effect on venoms from five different genera in *Viperidae* family. *Toxicon* 42: 173-181, 2003.

◆学会報告

1) Filho, W.R., Sugiki, M. and Maruyama, M.: Inhibition of snake venom activities by murinoglobulin. 14th World Congress on Animal, Plant and Microbial Toxins, 2003, Adelaide.

2) Radha, K. S., Yoshida, Y., Harish Kumar, M., Omura, S., Sugiki, M., and Maruyama, M.: Iron mediated regulation of PAI-1 expression in PC3 adenocarcinoma cell line. 第 54 回西日本生理学会, 2003, 久留米.

3) 田島卓也, 吉田悦男, 大村さゆり, 杉木雅彦, 丸山真杉: 膝関節滑膜細胞におけるゼラチナーゼの発現調節—ヘモグロビンの影響—. 第 16 回血液と血管を考える会, 2003, 宮崎.

4) 杉木雅彦, ラーダ カラバ, 丸山真杉: 鉄イオンによる PAI-1 発現調節. 第 10 回九州血液血管研究会, 2003, 福岡.

生化学第一講座

(Biochemistry I)

～2003年3月

生化学講座 腫瘍生化学分野

(Department of Biochemistry, Division
of Tumor Biochemistry)

2003年4月～

◆原 著

1) Nishikata, I., Sasaki, H., Iga, M., Tateno, Y., Imayoshi, S., Asou, N., Nakamura, T. and Morishita, M.: A novel *EV1* gene family, *MEL1*, lacking a PR domain (*MEL1S*) is expressed mainly in t(1;3)(p36;q21)-positive AML and blocks G-CSF-induced myeloid differentiation. *Blood* 102:3323-3332, 2003.

2) Kurokawa, M., Hidaka, T., Sasaki, H., Nishikata, I., Morishita, M. and Setoyama, M.: Analysis of hepatitis C virus (HCV) RNA in the lesions of lichen planus in patients with chronic hepatitis C: detection of anti-genomic- as well as genomic-strand HCV RNAs in lichen planus lesions. *J. Dermatol. Sci.* 32:65-70, 2003.

3) Cao, Y.N., Kitamura, K., Ito, K., Kato, J., Hashida, S., Morishita, K. and Eto, T.: Glycine-extended adrenomedullin exerts vasodilator effect through amidation in the rat aorta. *Regul. Pept.* 113:109-114, 2003.

4) Yamaga, J., Hashida, S., Kitamura, K., Tokashiki, M., Aoki, T., Inatsu, H., Ishikawa, N., Kangawa, K., Morishita, K. and Eto, T.: Direct measurement of glycine-extended adrenomedullin in plasma and tissue using an ultrasensitive immune complex transfer enzyme immunoassay in rats. *Hypertens. Res.* 26(Suppl.):S45-S53, 2003.

◆学会報告

1) 西片一朗, 佐々木秀法, 阿野仁志, 森下和広:
MEL1S による骨髓細胞分化阻害の HDAC 阻害剤 Trichostatin A による回復 第 27 回タンパク質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム, 2003 年 7 月 17-19 日, 宮崎.

2) 吉田美香, 野坂生郷, 安永純一朗, 西片一朗, 森下和広, 松岡雅雄: 成人 T 細胞白血病の発がん過程で脱メチル化される遺伝子の同定と発がん過程における意義 第 65 回日本血液学会総会, 2003 年 8 月 28-31 日, 大阪.

3) 西片一朗, 佐々木秀法, 阿野仁志, 森下和広:
MEL1 遺伝子による白血病発症機構の解析 第 65 回日本血液学会総会, 2003 年 8 月 28-31 日, 大阪.

4) 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 浜田健嗣, 岡部尚文, 深見武史, 村上善則, 坪内博仁, 森下和広: 急性型 ATL 患者細胞における TSLC1 遺伝子の高発現 第 65 回日本血液学会総会, 2003 年 8 月 28-31 日, 大阪.

5) 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 浜田健嗣, 岡部尚文, 深見武史, 村上善則, 坪内博仁, 森下和広: 急性型 ATL 患者細胞における TSLC1 遺伝子の高発現 第 62 回日本癌学会総会, 2003 年 9 月 25-27 日, 名古屋.

6) 森下和広, 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 浜田健嗣, 岡部尚文, 村上善則: マイクロアレー

解析による ATL 細胞遺伝子発現 第 62 回日本癌学会総会, 2003 年 9 月 25-27 日, 名古屋.

7) 西片一朗, 佐々木秀法, 阿野仁志, 森下和広:
MEL1S による骨髓細胞分化阻害の HDAC 阻害剤 Trichostatin A による回復 第 62 回日本癌学会総会, 2003 年 9 月 25-27 日, 名古屋.

8) 村上善則, 深見武史, 増田万里, 八下田美佳, 名手祐子, 丸山智子, 福原浩, 倉持雅己, 森下和広: 肺非小細胞がん抑制遺伝子 TSLC1 の分子経路の解析 第 62 回日本癌学会総会, 2003 年 9 月 25-27 日, 名古屋.

9) Nishikata, I., Sasaki, H., Ano, H. and Morishita, K.: Reinduction of granulocyte differentiation by G-CSF and HDAC inhibitor Trichostatin A under MEL1S overexpression in L-G3 cells. 第 76 回日本生化学会大会, 2003 年 10 月 15-18 日, 横浜.

10) 村上善則, 増田万里, 八下田美佳, 名手祐子, 丸山智子, 深見武史, 森下和広: 上皮, 並びに ATL 細胞における TSLC1 蛋白質による細胞接着と細胞死の誘導 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003 年 12 月 10-13 日, 神戸.

11) 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 浜田健嗣, 岡部尚文, 深見武史, 村上善則, 坪内博仁, 森下和広: 急性型 ATL 患者細胞におけるがん抑制遺伝子 TSLC1 遺伝子の高発現 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003 年 12 月 10-13 日, 神戸.

12) 西片一朗, 佐々木秀法, 阿野仁志, 森下和広:
MEL1S による骨髓細胞分化阻害の HDAC 阻害剤 Trichostatin A による回復 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003 年 12 月 10-13 日, 神戸.

生化学第二講座

(Biochemistry II)

～2003年3月

生化学講座 機能生化学分野 (Department of Biochemistry, Division of Functional Biochemistry)

2003年4月～

◆原 著

1) Ahmad, A., Takami, Y. and Nakayama, T.: WD dipeptide motifs and LXXLL motif of chicken HIRA are necessary for transcription repression and the latter motif is essential for interaction with histone deacetylase-2 *in vivo*. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 312, 1266-1272, 2003.

2) Seo, Y., Takami, Y., Takahama, K., Yoshizawa, M., Nakayama, T. and Yukawa, N.: A method for genotyping Y chromosome-linked DY385a and DY385b. *Legal Med.* 5, 228-232, 2003.

◆学会発表

1) Sanematsu, F., Takami, Y. and Nakayama, T.: Analysis of the chicken Asf-1-deficient DT40 cell using the gene targeting technique. 第76回日本生化学会大会.2003, 横浜.

2) Kikuchi, H., Takami, Y. and Nakayama, T.: Functional analysis of the chicken GCN5 family using gene targeting techniques in DT40 cells.第76回日本生化学会大会.2003, 横浜.

3) Takami, Y., Fukagawa, T. and Nakayama, T.: Essential role of the chromatin assembly factor-1 for cell cycle progression in vertebrate cells.第76回日本生化学会大会.2003, 横浜.

4) Ahmad, A., Takami, Y. and Nakayama, T.: Functional analysis of the chicken HIRA and generation of HIRA-deficient DT40 mutant. 第76回日本生化学会大会.2003, 横浜.

5) 高見恭成, 深川竜朗, 中山建男: 高等真核細胞におけるクロマチンアセンブリーファクター1(CAF-1)の機能解析. 第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

6) Barman, H. K., Takami, Y. and Nakayama, T.: Vertebrate cells lacking Hat1 are hypersensitive to camptothecin and sensitive to methylmethanesulfonate.第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

7) Ahmad, A., Takami, Y., Kikuchi, H. and Nakayama, T.: Generation and functional analysis of the chicken HIRA-deficient DT40 mutant using the gene targeting technique. 第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

8) 実松史幸, 高見恭成, 中山建男: ジーンターゲティング法を用いたニワトリ Asf1 欠損株の作成と機能解析.第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

9) 菊池秀彦, 高見恭成, 中山建男: DT40 細胞を用いた遺伝子ノックアウト法による GCN5 の機能解析.第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

10) 武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: DNA 切断活性を有するジヒドロピラジン類は大腸菌の増殖を阻害し突然変異を誘導する.第26回日本分子生物学会年会.2003, 神戸.

薬理学講座

(Pharmacology)

◆原 著

1) Kobayashi, H., Yanagita, T., Yokoo, H. and Wada, A.: Pathophysiological function of adrenomedullin and proadrenomedullin N-terminal peptides in adrenal chromaffin cells. *Hypertens. Res.* 26 (Suppl):S71-S78, 2003.

2) Yanagita, T., Kobayashi, H., Uezono, Y., Yokoo, H., Sugano, T., Saitoh, T., Minami, S., Shiraishi, S. and Wada, A.: Destabilization of Na_v1.7 sodium channel α -subunit mRNA by constitutive phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase: negative regulation of steady-state level of cell surface functional sodium channels in adrenal chromaffin cells. *Mol. Pharmacol.* 63:1125-1136, 2003.

3) Yokoo, H., Saitoh, T., Shiraishi, S., Yanagita, T., Sugano, T., Minami, S., Kobayashi, H. and Wada, A.: Distinct effects of ketone bodies on down-regulation of cell surface insulin receptor and insulin receptor substrate-1 phosphorylation in adrenal chromaffin cells. *J. Pharmacol. Exp. Ther.* 304:994-1002, 2003.

4) Shiraishi, S., Yokoo, H., Yanagita, T., Kobayashi, H., Minami, S., Saitoh, T., Takasaki, M. and Wada, A.: Differential effects of bupivacaine enantiomers, ropivacaine and lidocaine on up-regulation of cell surface voltage-dependent sodium channels in adrenal chromaffin cells. *Brain Res.* 966:175-184, 2003.

5) Chosa, E., Hamada, H., Kitamura, K., Kuwasako, K., Yanagita, T., Eto, T. and Tajima, N.: Expression of adrenomedullin and its receptor by chondrocyte phenotype cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 303:379-386, 2003.

6) Kis, B., Ábrahám, C.S., Deli, M.A., Kobayashi, H., Niwa, M., Yamashita, H., Busija, D.W. and Ueta, Y.: Adrenomedullin, an autocrine mediator of the blood-brain barrier function. *Hypertens. Res.* 26 (Suppl):S61-S70, 2003.

◆学会報告

<シンポジウム>

1) 柳田俊彦, 白石成二, 横尾宏毅, 小林英幸, 菅野 孝, 和田明彦: Ca²⁺シグナル伝達系によるNa⁺チャネルの細胞膜発現調節機構. 第76回日本薬理学会年会シンポジウム, 神経細胞障害: 細胞内情報伝達網とイオン・チャネル応答, 2003, 3, 福岡.

2) 小林英幸, Kis Bela, 横尾宏毅, 柳田俊彦, 上田陽一, 和田明彦: 神経—内皮機能連関. 第76回日本薬理学会年会シンポジウム, 神経—内皮—グリア細胞機能連関と病態, 2003, 3, 福岡.

3) Yanagita, T., Kobayashi, H., Yokoo, H., Shiraishi, S., Sugano, T., Yamamoto, R. and Wada, A.: Up- and down-regulation of cell surface sodium channel by intracellular signals and therapeutic drugs. 12th International Symposium on Chromaffin Cell Biology, 2003, 9, La Palma, Canary Islands, Spain.

<一般講演>

1) 小林英幸, 伊藤 学, 柳田俊彦, 横尾宏毅, 菅野 孝, 和田明彦: PC12 細胞の神経様分化によるアドレノメデュリン発現の減少. 第76回日本薬理学会年会, 2003, 3, 福岡.

2) 柳田俊彦, 菅野 孝, 齋藤智和, 小林英幸, 横尾宏毅, 和田明彦: Insulin-like growth factor-I 受容体の生合成過程における heat shock protein 90 の役割: 培養ウシ副腎髄質細胞での検討. 第 76 回日本薬理学会年会, 2003, 3, 福岡.

3) 横尾宏毅, 齋藤智和, 白石成二, 小林英幸, 柳田俊彦, 南 慎一, 菅野 孝, 和田明彦: ケトン体アセトアセテートによる副腎髄質細胞でのインスリン受容体シグナリングの低下. 第 76 回日本薬理学会年会, 2003, 3, 福岡.

4) 菅野 孝, 柳田俊彦, 小林英幸, 横尾宏毅, 山本隆一, 和田明彦: プロテインカイネース C- α によるインスリン受容体シグナリングの調節メカニズム. 第 76 回日本薬理学会年会, 2003, 3, 福岡.

5) Kobayashi, H., Itoh, S., Yanagita, T., Yokoo, H., Sugano, T., Satoh, S. and Wada, A.: Effects of nerve growth factor on expression of adrenomedullin and proadrenomedullin N-terminal 20 peptide in PC12 cells. Society for Neuroscience, 33rd Annual Meeting, 2003, 11, New Orleans, U.S.A.

6) Yanagita, T., Uezono, Y., Saitoh, T., Sugano, T., Kobayashi, H., Yokoo, H., Satoh, S., Iwakiri, T. and Wada, A.: Down-regulation of insulin-like growth factor-I receptor by heat shock protein 90 inhibitor in adrenal chromaffin cells. Society for Neuroscience, 33rd Annual Meeting, 2003, 11, New Orleans, U.S.A.

7) Yokoo, H., Saitoh, T., Shiraishi, S., Yanagita, T., Sugano, T., Minami, S., Kobayashi, H. and Wada, A.: Selective suppression of insulin signaling by a ketone body acetoacetate in adrenal chromaffin cells. Society for Neuroscience, 33rd Annual Meeting, 2003, 11, New Orleans, U.S.A.

8) 柳田俊彦, 小林英幸, 横尾宏毅, 菅野 孝, 和田明彦: Extracellular signal-regulated kinaseの構成的活性化による電位依存性Na⁺チャネルの細胞膜発現の構成調節機構. 第 56 回日本薬理学会西南部会, 2003, 11, 大分.

9) 横尾宏毅, 柳田俊彦, 菅野 孝, 佐藤伸矢, 岩切智美, 小林英幸, 和田明彦: Glycogen synthase kinase-3 によるインスリン受容体細胞膜発現調節. 第 56 回日本薬理学会西南部会, 2003, 11, 大分.

10) 菅野 孝, 柳田俊彦, 佐藤伸矢, 横尾宏毅, 小林英幸, 和田明彦: ニコチン受容体によるインスリン受容体シグナリングの調節. 第 56 回日本薬理学会西南部会, 2003, 11, 大分.

11) 佐藤伸矢, 柳田俊彦, 白石成二, 横尾宏毅, 小林英幸, 菅野 孝, 岩切智美, 和田明彦: イムノフィリン・リガンドのインスリン・シグナリングへの影響. 第 56 回日本薬理学会西南部会, 2003, 11, 大分.

12) 岩切智美, 柳田俊彦, 菅野 孝, 佐藤伸矢, 横尾宏毅, 小林英幸, 和田明彦: Insulin-like growth factor-Iによる電位依存性Na⁺チャネルのup-regulation. 第 56 回日本薬理学会西南部会, 2003, 11, 大分.

◆原 著

1) Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Yamashita, A., Sato, Y., Sumiyoshi, A. and Asada, Y.: Adrenomedullin augments the release and production of tissue factor pathway inhibitor in human aortic endothelial cells. *Cardiovasc. Res.* 57:232-237 (2003)

2) Ishikawa, T., Hatakeyama, K., Imamura, T., Date, H., Shibata, Y., Hikichi, Y., Asada, Y. and Eto, T.: Involvement of c-reactive protein obtained by directional coronary atherectomy in plaque instability and developing restenosis in patients with stable or unstable angina pectoris. *Am. J. Cardiol.* 91:287-292 (2003)

3) Sato, Y., Shimamoto, T., Amada, S., Asada, Y. and Hayashi, T.: Prognostic value of histologic grading of ovarian carcinomas. *Int. J. Gynecol. Pathol.* 22:52-56 (2003)

4) Yamashita, A., Asada, Y., Sugimura, H., Yamamoto, H., Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Tamura, S., Ikeda, Y. and Sumiyoshi, A.: Contribution of von Willebrand factor to thrombus formation on neointima of rabbit stenotic iliac artery under high blood flow velocity. *Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.* 23:1105-1110 (2003)

5) Sato, Y., Shimamoto, T., Amada, S., Asada, Y. and Hayashi, T.: Large cell neuroendocrine carcinoma of the uterine cervix: A clinicopathological study of six cases. *Int. J. Gynecol. Pathol.* 22:226-230 (2003)

6) Kosuge, M., Kimura, K., Kojima, S., Sakamoto, T., Ishihara, M., Asada, Y., Tei, C., Miyazaki, S., Sonoda, M., Tsuchihashi, K., Yamagishi, M., Ikeda, Y., Shirai, M., Hiraoka, H., Inoue, T., Saito, F., Ogawa, H. Japanese Acute Coronary Syndrome Study Investigators. Effects of preinfarction angina pectoris on infarct size and in-hospital mortality after coronary intervention for acute myocardial infarction. *Am. J. Cardiol.* 92:840-843 (2003)

◆症例報告

1) 山下 篤, 浅田祐士郎, 住吉昭信, 鶴田和仁, 三山吉夫: 進行性ミオクロースてんかん Unverricht-Lundborg型. 福大医紀 30:62-63 (2003)

2) 有村保次, 大井長和, 塩見一剛, 山下 篤, 浅田祐士郎: 慢性心筋炎の急性増悪を合併した多発性筋炎の1剖検例. 脳と神経 55:599-604 (2003)

3) Kita, T., Imamura, T., Date, H., Kitamura, K., Moriguchi, S., Sato, Y., Asada, Y. and Eto, T.: Two cases of pheochromocytoma associated with tetralogy of Fallot. *Hypertens. Res.* 26:433-437 (2003)

4) Itoh, H., Ishihara, A., Koita, H., Hatakeyama, K., Seguchi, T., Akiyama, Y. and Kataoka, H.: Ovarian pregnancy: Report of four cases and review of the literature. *Pathol. Int.* 53:806-809 (2003)

5) 田中弘之, 指宿一彦, 谷口正次, 畠山金太, 古賀和美: 腹腔鏡下虫垂切除術を施行した虫垂細胞カルチノイドの1例. 日本大腸肛門会誌 56:151-155 (2003)

6) 澤田浩武, 上村佳奈, 松山美静代, 布井博幸, 長野正史, 山下篤, 井上忍: 腫瘍摘出術後にLH-RH依存性思春期早発をきたした小児ライディヒ細胞腫の1例. ホルモンと臨

床 51:194-198 (2003)

7) 野口裕史, 花牟礼富美雄, 末川智子, 松永清二, 白尾一定, 浅田祐士郎, 畠山金太, 佐藤信也: 気管支擦過細胞診にて組織推定に苦慮した小細胞癌の1例. 宮崎県臨床衛生検査技師会雑誌, 83:24-26 (2003)

◆総説

1) Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Sato, Y., Yamashita, A., Sumiyoshi, A. and Asada, Y.: Immunohistological localization and possible functions of adrenomedullin. *Hypertens. Res.* 26:S33-S40 (2003)

2) 佐藤勇一郎, 浅田祐士郎: 急性冠症候群の病理. *Current Therapy* 21:4569-4572 (2003)

3) 浅田祐士郎: TTP / HUS の病理. 血液フロンティア 13:737-742 (2003)

4) 浅田祐士郎: 冠動脈プラークの進展, 破綻と血栓形成. 日本臨床生理学学会雑誌 33:253-257 (2003)

5) 丸塚浩助, 浅田祐士郎: DICの病理. 医学のあゆみ 206:23-27 (2003)

6) 佐藤勇一郎, 浅田祐士郎: 動脈硬化における血栓形成のメカニズム. 病理と臨床 21:974-979 (2003)

7) 畠山金太, 佐藤勇一郎, 山下 篤, 浅田祐士郎: 動脈硬化と血栓症. 脈管学 43:707-713 (2003)

◆学会

<シンポジウム>

1) 原 誠一郎, 藤元昭一, 浅田祐士郎, 江藤胤尚: 剖検例からみた透析患者の心筋梗塞の特徴. 第48回透析医学会総会 (2003)

2) 浅田祐士郎: プラーク破綻における血栓形成. 第51回日本心臓病学会学術集会 (2003), 東京

3) 浅田祐士郎, 畠山金太, 丸塚浩助, 石川哲憲, 今村卓郎: プラークにおける血栓関連因子とC反応性蛋白. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

4) 丸塚浩助, 畠山金太, 浅田祐士郎: 血液凝固と動脈硬化の発生・進展. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

5) Hatakeyama, K. and Asada, Y.: Role of inflammation in thrombus formation in vivo. 第76回日本生化学学会大会 (2003), 横浜

6) 浅田祐士郎, 丸塚浩助, 畠山金太, 佐藤勇一郎, 住吉昭信: 動脈硬化発生・進展における血小板, 凝固因子の関与. 第92回日本病理学会総会 (2003), 福岡

<一般演題>

1) Nakamura, R., Kato, J., Kitamura, K., Onitsuka, H., Imamura, T., Asada, Y., Kangawa, K. and Eto, T.: Beneficial effects of adrenomedullin on left ventricular remodeling after myocardial infarction in rats. 第67回日本循環器学会 (2003), 福岡

2) 畠山金太, 丸塚浩助, 佐藤勇一郎, 山下篤, 浅田祐士郎: 冠動脈硬化巣における CD39/ecto-ATPase 発現の検討. 第26回日本血栓止血学会学術集会 (2003), 東京

3) Kawamoto, R., Hatakeyama, K., Ishikawa, T., Imamura, T., Date, H., Shibata, Y., Tanenaga, M., Asada, Y. and Eto, T.: C-reactive protein is a critical contributor of in-stent restenosis but not restenosis after coronary atherectomy. 第67回日本循環器学会 (2003), 福岡

4) Ishikawa, T., Imamura, T., Hatakeyama, K., Date, H., Nagoshi, T., Kawamoto, R., Onitsuka, H., Matsuyama, A., Matsuo, T., Asada, Y. and Eto, T.: C-reactive protein of coronary circulation is higher in patients with stable angina pectoris than those with normal coronary arteries. 第67回日本循環器学会 (2003), 福岡

5) 丸塚浩助, 山下 篤, 畠山金太, 浅田祐士郎: 敗血症に伴う冠動脈破裂による心筋梗塞の一例. 第92回日本病理学会総会 (2003), 福岡

6) 盛口清香, 山下 篤, 佐藤勇一郎, 浅田祐士郎: 全頭蓋椎裂の一例. 第92回日本病理学会総会 (2003), 福岡

7) Asada, Y., Yamashita, A. and Marutsuka, K.: Combination of increased vascular thrombogenesis and blood flow reduction promote obstructive thrombus development in rabbit femoral artery. The Third Aso International Meeting (2003), Kumamoto

8) Hamuro, T., Kido, H., Asada, Y., Hatakeyama, K., Okumura, Y., Iwanaga, S. and Kamei, S.: Tissue factor pathway inhibitor is highly susceptible to chymase-mediated proteolysis. The Third Aso International Meeting (2003), Kumamoto

9) Sato, Y., Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Sumiyoshi, A. and Asada, Y.: Coagulation system and inflammation significantly contribute to thrombus formation in ruptured plaques than erosive plaques of acute coronary myocardial infarction. The XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (2003), Birmingham

10) Yamashita, A., Marutsuka, K., Furukoji, S., Tamura, S. and Asada, Y.: Combination of increased vascular thrombogenesis and blood flow alternation promote obstruction thrombus formation in rabbit femoral artery. The XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (2003), Birmingham

11) Moriguchi, S., Hatakeyama, K., Marutsuka, K., Matsumoto, M., Yagi, H., Sakurai, Y., Fujimura, Y. and Asada, Y.: Localization and activity of ecto-ATP diphosphohydrolase/CD39 in human tissues. The XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (2003), Birmingham

12) Hamuro, T., Kido, H., Asada, Y., Hatakeyama, K., Okumura, Y., Iwanaga, S. and Kamei, S.: Tissue factor pathway inhibitor is highly susceptible to chymase-mediated proteolysis. The XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (2003), Birmingham

13) 畠山金太, 古小路, 浅田祐士郎: 冠動脈硬化症における CD39/ecto-ATPase. TMA フォーラム in Osaka (2003), 大阪

14) 干場泰成, 後藤信哉, 吉武基之, 森本浩司, 岩田 理, 藤倉寿則, 半田俊之介, 田辺晃久, 浅田祐士郎: 冠動脈閉塞血栓と末梢塞栓を惹起する血栓の相違. 第51回日本心臓病学会学術集会 (2003), 東京

15) 斯波真理子, 高木敦子, 安部映里, 大平望都, 宮本恵宏, 池田康行, 浅田祐士郎, 横山信治: Autosomal Recessive Hypercholesterolemia (ARH) ノックアウトマウスの解析. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

16) 安部映里, 大平望都, 宮本恵宏, 浅田祐士郎, 斯波真理子: Autosomal Recessive Hypercholesterolemia (ARH)

蛋白質合成制御機構の検討. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

17) 高見澤 格, 大平望都, 安部映里, 浅田祐士郎, 斯波真理子: 高脂血症に対する気管内投与による遺伝子治療の試み. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

18) 銭 建男, 浅田祐士郎, 上野 光: Local expression of PAF-AH inhibits anti-inflammatory and anti-thrombotic effects in balloon-injured arteries with reducing oxidized lipoproteins within arteries. 第35回日本動脈硬化学会総会 (2003), 京都

19) Harada-Shiba, M., Takagi, A., Ohira, M., Miyamoto, Y., Ikeda, Y., Asada, Y., and Yokoyama, S.: Analysis of autosomal recessive hypercholesterolemia (ARH) knockout mouse. XIIIth International Symposium on Atherosclerosis (2003), Kyoto

20) Abe, E., Ohira, M., Miyamoto, Y., Asada, Y., and Harada-Shiba, M.: Regulatory mechanism of autosomal recessive hypercholesterolemia (ARH) protein expression. XIIIth International Symposium on Atherosclerosis (2003), Kyoto

21) Yamashita, A., Asada, Y., Sugimura, H., Yamamoto, H., Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Tamura, S., Ikeda, Y., and Sumiyoshi, A.: Contribution of von Willebrand factor to thrombus formation on neointima of rabbit stenotic iliac artery under high blood flow velocity. XIIIth International Symposium on Atherosclerosis (2003), Kyoto

22) 落合竜三, 山口健一郎, 立野太郎, 川崎裕平, 古賀治幸, 古小路英二, 榮 建文, 杉村 宏, 田村正三, 関屋亮, 鬼塚敏男, 山下 篤, 丸塚浩助: 臍部子宮内膜症の1例. 日本医学放射線学会 (2003)

23) 久富木庸子, 日高智徳, 佐々木秀法, 外山孝典, 坪内博仁, 畠山金太, 丸塚浩助: 当科における血液疾患剖検例における感染症の検討. 第65回日本血液学会・第45回日本臨床血液学会 (2003), 大阪

24) 佐藤信也, 佐藤勇一郎, 大野招伸, 日野浦雄之, 丸塚浩助: Chordoid meningioma の2例. 第42回日本臨床細胞学会秋季大会 (2003)

25) 石川直人, 稲津東彦, 大塚正晃, 押川勝太郎, 村田静香, 山家純一, 江藤胤尚, 丸塚浩助, 畠山金太: H. pylori 除菌療法により改善した直腸MALTリンパ腫の一例. 第10回日本消化器関連学会 (2003), 大阪

26) 山下 篤, 丸塚浩助, 浅田祐士郎: 閉塞性動脈血拴の形成における血管壁性状と血流の関与: 家兎大腿動脈再傷害モデルでの検討. 第26回日本血拴止血学会学術集会 (2003), 東京

27) 有馬里美, 江藤忠明, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男, 村原貴史, 石川直人, 稲津東彦, 江藤胤尚, 畠山金太, 丸塚浩助, 浅田祐士郎: 胃上部に発生した迷入腺の一例. 第82回日本消化器病学会九州支部例会 (2003), 長崎

<特別講演>

1) 浅田祐士郎: 冠動脈プラークと血拴形成. 第5回 Cardiovascular Consensus and Controversyカンファレンス (2003), 大阪

2) 浅田祐士郎: 動脈硬化と血拴形成. 第5回 Brain Attack研究会 (2003), 宮崎

3) 浅田祐士郎: 急性冠症候群における血拴形成. 第4

回 長崎再灌流療法研究会(2003), 長崎

4) 浅田祐士郎: 動脈硬化と急性冠症候群. 第15回 都城心臓血管懇話会 (2003), 宮崎

5) 浅田祐士郎: 動脈硬化と急性冠症候群. 第108回 しのめ医学会 (2003), 宮崎

6) 浅田祐士郎: TMAの病理学的特徴. TMAフォーラム in Osaka (2003), 大阪

7) 浅田祐士郎: 心血管イベントにおける血拴形成機序. 第10回 九州血拴症シンポジウム (2003), 福岡

<教育講演>

1) 浅田祐士郎: 動脈硬化と血拴形成. 第9回脳循環SPECTカンファレンス (2003), 福岡

病理学第2講座 (Pathology II)

◆著 書

1) 伊藤浩史, 長沼誠二, 内山周一郎, 長池幸樹, 田中弘之, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子(HGFA)の役割(ノックアウトマウスを用いた解析). 消化器と免疫(No.40), pp18-21 (株) マイライフ社, 東京 (2003).

◆原 著

1) Naganuma, S., Itoh, H., Uchiyama, S., Tanaka, H., Nagaike, K., Miyata, S., Uchinokura, S., Nuki, Y., Akiyama, Y., Chijiwa, K., Kataoka, H.: Characterization of transcripts generated from mouse hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2 (HAI-2) and HAI-2-related small peptide (H2RSP) genes: chimeric mRNA transcribed from both HAI-2 and H2RSP genes is detected in human but not in mouse. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 302:345-353 (2003).

2) Pötgens, A.J.G., Kataoka, H., Ferstl, S., Frank, H.-G., Kaufmann, P.: A positive immunoselection method to isolate villous cytotrophoblast cells from first trimester and term placenta to high purity. *Placenta*, 24:412-423 (2003).

3) Fukai, K., Yokosuka, O., Chiba, T., Hirasawa, Y., Tada, M., Imazeki, F., Kataoka, H., Saisho, H.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor 2/placental bikunin (HAI-2/PB) gene is frequently hypermethylated in human hepatocellular carcinoma. *Cancer Res.*, 63:8674-8679 (2003).

4) Suzuki, M., Kobayashi, H., Tanaka, Y., Hirashima, Y., Kanayama, N., Takei, Y., Saga, Y., Suzuki, M., Itoh, H., and Terao, T. Suppression of invasion and peritoneal carcinomatosis of ovarian cancer cell line by overexpression of bikunin. *Int. J. Cancer*, 104:289-302 (2003).

5) Suzuki, M., Kobayashi, H., Tanaka, Y., Hirashima, Y., Kanayama, N., Takei, Y., Saga, Y., Suzuki, M., Itoh, H., and Terao, T. Bikunin target genes in ovarian cancer cells identified by microarray analysis. *J. Biol. Chem.*, 278:14640-14646 (2003).

6) Nishii, R., Kawai, K., Garcia Flores, L. 2nd., Kataoka, H., Jinnouchi, S., Nagamachi, S., Arano, Y., Tamura, S.: A novel radiopharmaceutical for detection of malignant melanoma, based on melanin formation: 3-iodo-4-hydroxyphenyl-L-cysteine. *Nucl. Med. Commun.*, 24:575-582 (2003).

◆症例報告

1) Itoh, H., Ishihara, A., Koita, H., Hatakeyama, K., Seguchi, T., Akiyama, Y., Kataoka, H.: Ovarian pregnancy: Report of four cases and review of the literature. *Pathol. Int.*, 53:806-809, 2003.

2) 春山幸洋, 高橋伸育, 瀬口智子, 秋山 裕, 伊藤浩史, 堀 剛, 坪内博仁, 片岡寛章: Peribiliary cyst の1剖検例. 診断病理 20:141-143 (2003).

◆総 説

1) Kataoka, H., Miyata, S., Uchinokura, S., Itoh, H.: Roles of hepatocyte growth factor (HGF) activator and HGF activator inhibitor in the pericellular activation of HGF/scatter factor. *Cancer Metast. Rev.*, 22:223-236 (2003).

2) Kataoka, H., Tanaka, H., Nagaike, K., Uchiyama, S., Itoh, H.: Role of cancer cell-stroma interaction in invasive growth of cancer cells. *Hum. Cell*, 16:1-14 (2003).

◆学会報告

<シンポジウムおよびワークショップなど>

1) 伊藤浩史: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化関連蛋白の役割. 第49回日本病理学会秋期特別総会 A 演説(東京) (2003).

2) 片岡寛章, 長沼誠二, 瀬口智子, 秋山 裕, 伊藤浩史: 大腸癌における HGF/scatter factor 活性化機構. 第92回日本病理学会総会(福岡) (2003).

3) 長沼誠二, 伊藤浩史, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子 HGF activator の役割(ノックアウトマウスを用いた解析). 第89回日本消化器病学会総会シンポジウム(埼玉) (2003).

4) 伊藤浩史, 長沼誠二, 内山周一郎, 長池幸樹, 田中弘之, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子 (HGFA) の役割(ノックアウトマウスを用いた解析). 第40回日本消化器免疫学会総会(東京) (2003).

5) 田中弘之, 伊藤浩史, 長池幸樹, 小牧亘, 片岡寛章: ヒト Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor type-1 (HAI-1) 遺伝子の構造とその機能解析. 第27回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム(宮崎) (2003).

6) Naganuma, S., Itoh, H., Kataoka, H.: Possible roles of novel small nuclear peptide, hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2 (HAI-2)-related small peptide (H2RSP), on the differentiation and regeneration of gastrointestinal epithelial cells. Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System 日本消化器免疫学会サテライトシンポジウム(大阪) (2003).

7) Nagaike, K., Tanaka, H., Itoh, H., Kataoka, H.: Diverse roles of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 (HAI-1) in the progression of colorectal carcinoma. Educational Seminar for Young Investigators: The 2nd Japan GRG/AGA symposium (Kyoto) (2003).

<一般講演>

1) 山内正倫, 別納弘法, 瀬口智子, 秋山 裕, 伊藤浩史, 片岡寛章: 正常腎及び腎細胞癌(RCC)におけるヒト Hepatocyte growth factor (HGF) 活性化関連蛋白質の遺伝子発現の比較. 第92回日本病理学会総会(福岡) (2003).

2) 伊藤浩史, 秋山 裕, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子の役割(ノックアウトマウスを用いた解析). 第92回日本病理学会総会(福岡) (2003).

3) 別納弘法, 山内正倫, 瀬口智子, 秋山裕, 伊藤浩史, 片岡寛章: 骨盤内後腹膜腔に発生した Extraskelatal Ewing's sarcoma の1例. 第92回日本病理学会総会(福岡) (2003).

4) 内之倉俊朗, 宮田史郎, 福島 剛, 伊藤浩史, 片岡寛章: Hepatocyte growth factor activator (HGFA) のヒト多形膠芽腫細胞における意義: 強制発現系を用いた解析. 第62回日本癌学会総会(名古屋) (2003).

5) 宮田史郎, 内之倉俊朗, 福島 剛, 伊藤浩史, 片岡寛章: HAI-1, HAI-2 発現による脳腫瘍細胞株への影響. 第

62 回日本癌学会総会 (名古屋) (2003).

6) 別納弘法、山内正倫、伊藤浩史、片岡寛章: 正常腎および腎細胞癌におけるヒト Hepatocyte growth factor (HGF) 活性化関連蛋白の遺伝子発現の検討. 第 62 回日本癌学会総会 (名古屋) (2003).

7) 伊藤浩史、長沼誠二、内山周一郎、長池幸樹、田中弘之、片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子 HGF activator の役割 (ノックアウトマウスを用いた解析). 第 26 回日本分子生物学会年会 (神戸) (2003).

8) 内山周一郎、伊藤浩史、長沼誠二、片岡寛章: 消化管における Hepatocyte growth factor activator inhibitor (HAI) type 2-related small peptide (H2RSP) 遺伝子発現の検討. 第 26 回日本分子生物学会年会 (神戸) (2003).

9) Nuki, Y., Uchinokura, S., Miyata, S., Fukushima, T., Itoh, H., Kataoka, H.: Establishment of a new human glioblastoma cell line, NYGM. 第 21 回日本ヒト細胞学会大会 (埼玉) (2003).

10) Betsunoh, H., Yamauchi, M., Itoh, H., Osada, Y., Kataoka, H.: HGF activator inhibitor type 1 and type 2 are expressed by normal tubular epithelial cells in kidney and downregulated in renal cell carcinomas. 第 21 回日本ヒト細胞学会大会 (埼玉) (2003).

11) Nagaike, K., Tanaka, H., Naganuma, S., Uchiyama, S., Komaki, W., Itoh, H., Kataoka, H.: Diverse roles of integral membrane Kunitz-type inhibitor, HAI-1, in the progression of colorectal cancer. 第 21 回日本ヒト細胞学会大会 (埼玉) (2003).

12) 和田俊介、関屋亮、篠原立大、中平孝明、中島健、河野文彰、中村都英、松崎泰憲、伊藤浩史、鬼塚敏男: 消化管出血で発見された小腸血管拡張症の一例. 第 40 回九州外科学会 (北九州) (2003).

13) 西園隆三、西平賢作、伊達晴彦、今村卓郎、江藤胤尚、松崎泰憲、鬼塚敏男、田中弘之、伊藤浩史、片岡寛章: フォン・レックリングハウゼン病に合併した心膜囊腫の一例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 (長崎) (2003).

14) 矢野義和、中村都英、矢野光洋、齋藤智和、児嶋一司、古川貢之、榎本雄介、松崎泰憲、鬼塚敏男、長池幸樹、伊藤浩史: 感染性心内膜炎術後のアスペルギルス感染性上行大動脈瘤手術の経験. 第 83 回日本血管外科学会九州地方会 (福岡) (2003).

15) 野口裕史、花牟禮富美雄、佐藤信也、伊藤浩史: 穿刺吸引細胞診にて多数の花弁様多核細胞を認めた脂肪腫様脂肪肉腫の 1 例. 第 42 回日本臨床細胞学会秋期大会 (横浜) (2003).

16) 花牟禮富美雄、野口裕史、伊藤浩史: ヘルニア嚢に認められた mesothelial hyperplasia の 1 例. 第 42 回日本臨床細胞学会秋期大会 (横浜) (2003).

17) 内之倉俊朗、宮田史朗、福島剛、貫慶嗣、伊藤浩史、片岡寛章: Hepatocyte growth factor activator (HGFA) のヒト多形膠芽腫細胞に於ける意義: 強制発現系を用いた解析. 第 17 回宮崎脳腫瘍研究会 (宮崎) (2003).

<特別講演・教育講演>

1) 片岡寛章: 悪性神経膠腫細胞の浸潤性増殖機構. 第 17 回宮崎脳腫瘍研究会 (宮崎) (2003).

◆その他

1) 伊藤浩史、片岡寛章: 腸管粘膜上皮再生における肝細胞増殖因子活性化因子の役割 (ノックアウトマウスを用いた解析). 厚生科学研究費補助金特定疾患対策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班平成 14 年度第 2 回総会 (東京) (2003).

微生物学講座

(Microbiology)

～2003年3月

感染症学講座 微生物病学分野

(Department of Infectious Diseases,

Division of Microbial Diseases)

2003年4月～

◆原 著

1) K. Nagai, T. Murata, S. Ohta, H. Zenda, M. Ohnishi and T. Hayashi: Two different mechanisms are involved in the extremely high-level benzalkonium chloride resistance of a *Pseudomonas fluorescens* strain. *Microbiol. Immunol.* 47: 709-715, 2003.

◆総 説

1) 林 哲也, 大西 真: 腸管出血性大腸菌 O157 の遺伝的多様性とその分子基盤. *最新医学*, 58: 136-141, 2003.

2) 林 哲也: ゲノムからみた病原細菌. *日本臨床*, 61 Suppl 3: 414-422, 2003.

3) 林 哲也: 大腸菌. *日本臨床*, 61 Suppl 3: 696-702, 2003.

◆学会報告等

<招待講演>

1) 林 哲也: 腸管出血性大腸菌 O157 のゲノム解析. 第 14 回日本臨床微生物学会総会, 2003, 2, 名古屋.

2) 林 哲也: ゲノムからみた細菌の病原性. 第 26 回日本医学会総会, 2003, 4, 福岡.

3) T. Hayashi: Genomic diversity of enterohemorrhagic *Escherichia coli* O157 revealed by whole genome PCR scanning. 5th International Symposium on "Shiga Toxin (Verocytotoxin)-Producing *Escherichia Coli* Infections", 2003, June, Edinburgh.

4) T. Hayashi: Genomic analysis of EHEC of serotype O157:H7. 2nd Partner Meeting of the EU-Project COLIRISK, 2003, August, Toulouse.

5) T. Hayashi, M. Ohnishi and Y. Ogura: Genomic diversity of enterohemorrhagic *Escherichia coli* O157. International Symposium of Research Center for Pathogenic Fungi and Microbial Toxicoses, Chiba Univ., 2003, November, Tokyo.

<シンポジウム>

1) 林 哲也: バクテリオファージの多様化と病原細菌の進化. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

2) 林 哲也: 病原細菌の適応戦略. 日本進化学会第 5 回大会, 2003, 8, 福岡.

3) 林 哲也: Genomic diversity and pathogenicity of *Escherichia coli* O157. 第 76 回日本生化学会大会, 2003, 10, 横浜.

4) 林 哲也: 病原性大腸菌 O157 の多様性—O157 の PFGE パターンが菌株毎に異なる理由—. 第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会, 2003, 11, 鹿児島.

<一般講演>

1) 中山恵介, 大西 真, 黒川 顕, 山下敦士, 大島健志朗, 服部正平, 福原正博, 浦上 弘, 多村 憲, 林 哲也:

Orientia tsutsugamushi のゲノム解析. 第 5 回ワークショップ「微生物ゲノム研究のフロンティア」, 2003, 3, 木更津.

2) 小椋義俊, 大西 真, 戸邊 亨, 黒川 顕, 中山恵介, 林 哲也: DNA チップを用いた病原性大腸菌 O157 ゲノムの比較解析. 第 5 回ワークショップ「微生物ゲノム研究のフロンティア」, 2003, 3, 木更津.

3) 小川倫洋, 大西 真, 林 哲也, 安永照雄, 黒川 顕: 微生物の全ゲノム配列の迅速な決定に適した条件. 第 5 回ワークショップ「微生物ゲノム研究のフロンティア」, 2003, 3, 木更津.

4) 松岡博史, 立山 直, 大西 真, 林 哲也: *Aeromonas* 属細菌の産生するヒアルロニダーゼの精製. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

5) 小川倫洋, 大西 真, 林 哲也, 黒川 顕: 微生物の全ゲノム配列の迅速な決定に適した条件. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

6) 中山恵介, 大西 真, 黒川 顕, 福原正博, 浦上 弘, 多村 憲, 林 哲也: *Orientia tsutsugamushi* のゲノム解析. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

7) 大谷 郁, 林 哲也, 林 英生, 清水 徹: ウェルシュ菌の全二成分制御系遺伝子による病原性発現調節機構の解析. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

8) 山口隆之, 小原 勝, 林 哲也, 菅井基行: 表皮細胞分化抑制因子 EDIN-A プラスミドの一次構造解析. 第 76 回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

9) T. Hayashi, Y. Ogura, M. Ohnishi, K. Nakayama, J. Terajima, H. Watanabe, K. Tashiro and S. Kuhara: Microarray analysis of *Escherichia coli* O157 genomic diversity. 平成 15 年度コレラ・細菌性腸管感染症専門部会総会, 2003, 7, 東京.

10) 小椋義俊, 黒川 顕, 大西 真, 中山恵介, 寺島 淳, 渡辺治雄, 林 哲也: マイクロアレイを用いた O157 ゲノムの比較解析. 第 56 回日本細菌学会九州支部総会, 2003, 9, 宮崎.

11) 中山恵介, 大西 真, 黒川 顕, 山下敦士, 福原正博, 浦上 弘, 多村 憲, 服部正平, 林 哲也: *Orientia tsutsugamushi* のゲノム解析. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003, 12, 神戸.

12) 戸邊 亨, 安倍裕順, 安藤弘樹, 田代康介, 久原 哲, 林 哲也, 杉本 央: 腸管出血性大腸菌 O157:H7 における細胞間コミュニケーションによる病原性発現調節. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003, 12, 神戸.

13) 安倍裕順, 安藤弘樹, 田代康介, 久原 哲, 林 哲也, 杉本 央, 戸邊 亨: 重炭酸イオンによる腸管出血性大腸菌 O157:H7 の病原性遺伝子発現制御機構の解析. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003, 12, 神戸.

14) 安藤弘樹, 安倍裕順, 石川博子, 田代康介, 久原 哲, 林 哲也, 杉本 央, 戸邊 亨: 嫌気的環境での腸管出血性大腸菌(EHEC)における病原性遺伝子の発現制御機構の解析. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003, 12, 神戸.

15) 石川博子, 安倍裕順, 田代康介, 久原 哲, 林 哲也, 杉本 央, 戸邊 亨: RcsC-RcsD-RcsB 二成分制御系による腸管出血性大腸菌 O157:H7 の病原因子の発現調節. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003, 12, 神戸.

16) 林 哲也: O157 DNA マイクロアレイの作製と遺伝子レパートリー解析. 平成 15 年度(第 35 回)九州微生物研究会総会, 2003, 12, 福岡.

<その他>

- 1) 林 哲也:感染予防と看護 平成 15 年度訪問看護婦
(士)養成講習会, 2003, 7, 宮崎.

衛 生 学 講 座

(Hygiene)

~2003 年 3 月

衛生・公衆衛生学講座 衛生学分野
(Department of Hygiene and Public Health,
Division of Hygiene)

2003 年 4 月~

◆原 著

1) Tadatashi Yamaguchi, Hajime Nomura, Kazuhisa Matsunaga, Shigeru Ito, Jiro Takata, and Yoshiharu Karube : The Behavior of Dihydropyrazine with DNA Strand-Breakage Activity in vivo, Biol.Pharm.Bull., 26 : 1523-1527, 2003.

2) N.Mibu, M.Yukawa, N.Kashige, Y.Iwase, Y.Goto, F.Miake, T.Yamaguchi, S.Ito and K.Sumoto : Synthesis and DNA strand Breakage Activity of Some 1, 4-Diazepines, Chem.Pharm.Bull., 51 : 27-31, 2003.

◆総 説

1) 伊藤茂, 山口忠敏:糖由来の生成物であるジヒドロピラジン類の生成と生物効果, 東京医科歯科大, 生体材料工学研究所報告, 37: 16-23, 2003.

◆学会報告

<国際学会>

1) Tadatashi Yamaguchi, Shigeru Ito, Nobuhiro Kashige, Hajime Nomura, Shinji Takechi, : The characteristics of dihydropyrazines having DNA strand-breakage activity, 19th International Congress of Heterocyclic Chemistry, August 10-15, 2003. Fort Collins, Colorado, U.S.A.

<一般講演>

1) 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 武知進士:糖由来の变化生成物: dihydropyrazine 類の生体への影響, 第 73 回日本衛生学会総会, 2003. 3. 大分市

2) 武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: 糖由来の变化生成物: dihydropyrazine 類の大腸菌への影響, 日本薬学会第 123 年会, 2003. 3. 長崎市

3) 松本茂信, 伊藤茂, 鹿志毛信広, 山口忠敏:ジヒドロピラジン化合物からのラジカル発生における金属イオンの関与, 日本薬学会第 123 年会, 2003. 3. 長崎市

4) 野村創, 山口忠敏, 武知進士, 峰松俊夫: 糖由来の dihydropyrazine 類の細胞周期に及ぼす作用について, 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003.12. 神戸市

5) 武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: DNA 切断活性を有するジヒドロピラジン類は大腸菌の増殖を阻害し突然変異を誘導する, 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003. 12. 神戸市

6) 山口忠敏, 野村創, 武知進士, 峰松俊夫: 糖由来の变化生成物: dihydropyrazine 類の生体への影響 (I), 第 3 回分子予防環境医学研究会, 2003. 12. 東京都

◆その他

1) 山口忠敏: DNA 鎖切断能を有する Dihydropyrazine 類の諸性質, 第 1 回「研究成果プレゼンテーション」, 平成 14 年度文部科学省助成事業 (大学研究成果の産業的・事業的観点からの評価と事業化の支援), 2003. 2. 福岡県春

日市

2) 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメディカル」, 2003 年 5 月 12 日 (月) シーガイアサミットホール

①山口忠敏, 鹿志毛信広, 原野一誠, 伊藤茂, 松本茂信, 野村創, 加留部善晴: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響 —DNA 鎖切断作用およびその他の諸性質—

②野村創, 山口忠敏, 武知進士, 峰松俊夫: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響 —培養細胞における基本的機能の分子生物学的解析—

③武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響 —大腸菌を用いた細胞毒性および遺伝毒性の検討—

④峰松俊夫, 山口忠敏, 野村創, 武知進士: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響 —細胞内寄生体, 特にヘルペスウイルスの感染に対する影響—

公衆衛生学講座
(Department of Public Health)
～2003 年 3 月

衛生・公衆衛生学講座 公衆衛生学分野
(Department of Hygiene and Public Health,
Division of Public Health)

2003 年 4 月～

◆著 書

1) New 予防医学・公衆衛生学: 人口統計と保健統計, 加藤貴彦, 中尾裕之

2) 環境化学物質の代謝とその周辺: 荻野景規, 小栗一太 監修, 加藤貴彦, 黒田嘉紀, 月野浩昌

◆原 著

1) 小宮康裕, 中尾裕之, 黒田嘉紀, 今井博久, 加藤貴彦, 顕微鏡作業と視力低下の関連性について, 産業衛生学雑誌, 45, 248-250, 2003.

2) Hashibe M, Brennan P, Strange RC, Bhisey R, Cascorbi I, Lazarus P, Ophuis MB, Benhamou S, Foulkes WD, Katoh T, Coutelle C, Romkes M, Gaspari L, Taioli E, Boffetta P. Meta-and Pooled Analyses of GSTM1, GSTT1, GSTP1, and CYP1A1 Genotypes and Risk of Head and Neck Cancer. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev.* 12: 1509-1517, 2003.

3) Akaogi J, Nacionales DC, Kuroda Y, Reeves WH, Satoh M. Ecotropic murine leukemia viruses and exogenous mouse mammary tumor viruses are not essential for pristane-induced lupus. *Arthritis Rheum.*, 48: 2990-2992, 2003.

4) Satoh M, Mizutani A, Behney KM, Kuroda Y, Akaogi J, Yoshida H, Nacionales DC, Hirakata M, Ono N, Reeves WH., X-linked immunodeficient mice spontaneously produce lupus-related anti-RNA helicase A autoantibodies, but are resistant to pristane-induced lupus., *Int Immunol.*, 15: 1117-1124, 2003.

5) Satoh M, Kuroda Y, Yoshida H, Behney KM, Mizutani A, Akaogi J, Nacionales DC, Lorenson TD, Rosenbauer RJ, Reeves WH., Induction of lupus autoantibodies by adjuvants, *J Autoimmun.*, 21:1-9, 2003.

6) Takahashi H, Li W, Watanabe M, Katoh T, Furusawa M, Tsukino H, Nakao H, Sudo A, Suzuki H, Akakura K, Ikemoto I, Asano K, Ito T, Wakui S, Muto T, Hano H, Ser217Leu polymorphism of the HPC2/ELAC2 gene associated with prostatic cancer risk in Japanese men, *Int. J. Cancer*, 107, 224-228, 2003.

7) Qiu DL, Chu CP, Shirasaka T, Nabekura T, Kunitake T, Kato K, Nakazato M, Katoh T, Kannmann H, Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing IH channel activity, *J Neurophysiol*, 90: 843-850, 2003.

8) 合志清隆, 加藤貴彦, 安部治彦, R.M. Wong, 潜水に伴う中枢神経障害, 産業衛生学雑誌, 45, 97-104, 2003.

9) Yamanaka M, Watanabe M, Yamada Y, Takagi A, Murata T, Takahashi H, Suzuki H, Itoh H, Tsukino H, Takahiko K, Katoh, Sugiura Y, Shiraishi T, Altered methylation of multiple genes in carcinogenesis of the prostate, *Int. J. Cancer*, 106, 382-387, 2003.

10) Munaka M, Kohshi K, Kawamoto T, Takasawa S,

Nagata N, Itoh H, Oda S, Katoh T, Genetic polymorphisms of tobacco- and alcohol-related metabolizing enzymes and the risk of hepatocellular carcinoma, J. Cancer Res. Clin. Oncology, 129, 355-360, 2003.

11) Tsukino H, Kuroda Y, Nakao H, Imai H, Inatomi H, Koshi K, Osada Y, Katoh T, E-cadherin gene polymorphism and risk of urothelial cancer, Cancer Lett. 195, 53-58, 2003.

12) Oishi Y., Shimizu K., Katoh T., Nakao H. Yamamura M., Furuko T., Narusawa K., Nakamura T.: Lack of association between lumbar disk degeneration and osteophyte formation in elderly Japanese women with back pain, Bone, 32, 405-411, 2003.

13) Hamasaki, T., Inatomi, H., Katoh, T., Aono H., Ikuyama, T., Muratani T., Matsumoto, T., N-acetyltransferase-2 gene polymorphism as a possible biomarker for prostate cancer in Japanese men, Int. J Urol., 10, 167-173, 2003.

14) Nishiura H, Imai H, Nakao H, Tsukino H, Kuroda Y, Katoh T, Genetically modified crops: consumer attitudes and trends in plant research in Japan, Food Service Technology, 2, 183-189, 2003.

15) Kuroda Y, Tsukino H, Nakao H, Imai H, Katoh T, p53 codon 72 polymorphism and urothelial cancer risk, Cancer Lett, 189, 77-83, 2003.

16) Koshi K, Kadoya C, Kuroda Y, Abe H, Yasugawa H, Generalized Calcium Deposition With Intracranial Surgical Lesion, Arch Neurol. 60:1801-1802, 2003.

17) 佐藤 実, 赤荻 淳, 黒田嘉紀, 吉田秀雄, 水谷昭衛, 平形道人: プリスタン誘発自己免疫リウマチ科 29 : 89-97, 2003

18) 細川理恵, 今井博久, 村岡潔, 中尾裕之, 月野浩昌, 加藤貴彦, 遺伝子医療の意識調査, 生命倫理: 13, 105-112, 2003.

◆総 説

1) 今井博久: 保険者機能強化と疾病管理プログラム、宮崎県プライマリケア研究会雑誌: 24, 3-6, 2003

2) 今井博久: 不適切な薬剤処方と関連する医師特性、ヘルスリサーチフォーラム論文集 9, 33-41, 2003

3) 今井博久: 無症候クラミジア感染症、HIV 感染予防のための市民啓発事業書: 69-84, 2003

4) 今井博久: 母子保健と男女共同参画 BRILLIANT: 41, 4, 2003

5) 今井博久: 喫煙の健康障害、健康宮崎市民プラン: 平成 15 年号, 42, 2003

6) 今井博久: 適切な薬剤処方の在り方、産業保健情報誌: 3, 8-9, 2003

7) 黒田嘉紀, 加藤貴彦, 睡眠時無呼吸症候群の生活習慣とは、肥満と糖尿病, 2: 110-111, 2003.

8) 土谷雅紀, 今井博久, 中尾裕之, 黒田嘉紀, 加藤貴彦, 内分泌攪乱物質と子宮内膜症との関連性について、J UOEH, 25: 307-316, 2003.

◆学会発表

1) Kuroda Y, Akaogi J, Nacionales DC, Reeves WH, Satoh M : Induction of Autoimmunity by Adjuvant Oils, The American association of Immunologists 90th Anniversary (2003)

2) Kuroda Y, Szabo NJ, Akaogi J, Nacionales DC, Reeves WH, Satoh M: Distinctive Autoimmune Responses Induced by Different Types of Hydrocarbons, American College of Rheumatology, 2003

3) 藤井良宜, 中尾裕之: 情報機器を用いた匿名性の保護平成 14 年度統計数理研究所共同研究「統計情報のセキュリティ」研究会、東京、2 月, 2003

4) 加藤貴彦, 中尾裕之, 月野浩昌, 黒田嘉紀, 今井博久, 常俊義三: 喫煙習慣の肺機能に対する影響: 横断・縦断研究, 第73回日本産業衛生学会、大分、3 月, 2003.

5) 小林弥生, 早川享, 菅野さな枝, 崔星, 山本恵, 加藤貴彦, 平野靖史郎: ヒ素メチル化酵素 Cyt19 の遺伝子情報について、日本薬学会、大阪、3 月, 2003

6) 加藤貴彦, 内村尚彦: シンポジウム 就業者の睡眠障害、第76回日本産業衛生学会、山口、4 月, 2003

7) 高橋正也, 内村直尚, 黒田嘉紀: シンポジウム 就業者の睡眠障害, 第76回日本産業衛生学会、山口、4 月, 2003

8) 小宮康裕, 中尾裕之, 黒田嘉紀, 今井博久, 加藤貴彦: 喫煙およびアルコール関連代謝酵素の遺伝子診断に対する意識調査, 第76回日本産業衛生学会、山口、4 月, 2003

9) Takahiko Katoh, Symposium Molecular epidemiology and cancer susceptibility -genetic polymorphisms and susceptibility to urothelial cancer, Molecular markers in toxicology, Seoul, Korean, May, 2003

10) 深津孝英, 山田泰司, 杉村芳樹, 広川佳史, 渡邊昌俊, 加藤貴彦, 白石泰三, 矢谷隆一: ステロイドホルモン関連遺伝子多型と前立腺発癌リスク, 第4回 日本分子疫学研究会、浜松、5 月, 2003

11) 今井博久: 医療連携システムに対する疾病管理プログラムの応用可能性の検討、第5回医療マネジメント学会、仙台、2003

12) 中尾裕之, 今井博久, 黒田嘉紀, 加藤貴彦: 業務担当制と地区担当制における保健師のメンタルヘルス、平成 15 年度 日本産業衛生学会 九州地方会、福岡、6 月、2003

13) 小宮康裕, 中尾裕之, 黒田嘉紀, 今井博久, 加藤貴彦: 就労女性の骨密度変化とその要因の解析、平成 15 年度 日本産業衛生学会 九州地方会、福岡、6 月、2003

14) 渡邊昌俊, 深津孝英, 村田哲也, 矢谷隆一, 杉村芳樹, 加藤貴彦, 白石泰三, : 日本におけるホルモン関連遺伝子多型と前立腺発癌リスクの関連についての解析、第 62 回日本癌学会総会、名古屋、9 月、2003

15) 深津孝英, 山田泰司, 広川佳史, 杉村芳樹, 渡邊昌俊, 加藤貴彦, 白石泰三, 矢谷隆一: ステロイドホルモン関連遺伝子多型と前立腺発癌リスク, 第 14 回 前立腺がんワークショップ、東京、9 月, 2003

16) 丸山浩平, 根本越男, 田中剛, 依田聖, 加藤貴彦, 竹山春子, 松永是: バイオナノ磁性粒子を用いた全血からの TGF-B1 遺伝子 SNP 検出システムの開発, 第18回生体機能関連化学部会・第7回バイオテクノロジー部会合同シンポジウム、熊本、10 月, 2003

17) 今井博久, 中尾裕之, 加藤貴彦: 学生における無症候クラミジア感染, 第61回日本公衆衛生学会、京都、10 月、2003

18) 今井博久: 精神保健担当保健師のバーンアウトと決定因子, 第41回日本疾病管理学会、東京、10 月、2003

19) 中尾裕之: レジオネラ集団感染の疫学調査, 医学, 看

護学分野における統計解析、宮崎、11月、2003

20) 加藤貴彦、小宮康裕、中尾裕之、黒田嘉紀、今井博久: ALDH2 遺伝子多型と飲酒習慣、各種検査データとの関連性、第3回分子予防環境医学研究会、東京、12月、2003

21) 土谷雅紀、中尾裕之、今井博久、加藤貴彦: 内分泌攪乱物質の暴露量の評価について、統計数理研究所 医学・看護学分野における統計解析研究会、宮崎、11月、2003

◆依頼講演

1) 加藤貴彦、疫学入門 第4回 健保連保健師連絡協議会、2月、2003

2) 今井博久、職場の若い人たちの HIV/STD 課題、平成15年度産業保健推進研修会、宮崎、4月、2003

3) 加藤貴彦、作業環境測定実習 騒音実習、宮崎県医師会産業医研修会、宮崎、6月、2003

4) 加藤貴彦、作業環境管理—化学的有害業務管理について—、宮崎県医師会産業医研修会、宮崎、8月、2003

5) 今井博久、宮崎県の若年者におけるクラミジア感染の現状と予防対策、平成15年度宮崎県保健所研修会、宮崎、8月、2003

6) 今井博久、若年者の性感染症の現状—危険因子と予防対策—、第51回九州学校保健学会、宮崎、8月、2003

7) 今井博久、学生のクラミジア感染の現状—危険因子と予防対策—、第33回九州地区大学保健管理研究協議会、宮崎、8月、2003

8) 今井博久、大学生の HIV/STD の現状と対策—特にクラミジア感染症—、第11回九州地区国立大学厚生補導関係係長研修会、宮崎、8月、2003

9) 今井博久、若年者の性感染症の現状—危険因子と予防対策—、平成15年度初任養護教諭研修会、宮崎、10月、2003

10) 今井博久、女性のライフサイクルにおける健康管理について—中高年のメンタルヘルスを通じて—、宮崎、10月、2003

11) 加藤貴彦、タバコの害と健康保持について、平成15年度職場における喫煙対策推進のための教育、12月、2003

寄生虫学講座

(Parasitology)

～2003年3月

感染症学講座 寄生虫病学分野

(Department of Infectious Diseases,
Parasitic Diseases Division)

2003年4月～

◆著書

1) Nawa, Y.: Expulsive Mechanisms against Intestinal Helminths. In: Progress of Medical Parasitology in Japan, Vol. 7, Otsuru, M., Kamegai, S. and Hayashi, S. (eds), Meguro Parasitological Museum, Tokyo, pp339-353, 2003.

◆原著

1) Ishiwata, K., Camacho, S. P. D., Ogata, K., Nakamura-Uchiyama, F., Hiromatsu, K. and Nawa, Y.: Evaluation of the antigenic similarities of adult-worm extracts from three *Gnathostoma* species, using sera from Mexican and Japanese patients with *Gnathostoma* infections. Ann. Trop. Med. Parasitol., 97(6):629-637, 2003.

2) 中村(内山) ふくみ, 名和行文: 肝蛭症およびウエステルマン肺吸虫症に対するトリクラベンダゾール使用経験 日本臨床寄生虫学会誌 14(1):107-109, 2003.

3) Dascher, C. C., Hiromatsu, K., Xiong, X., Morehouse, C., Watts, G., Liu, G., McMurray, D. N., LeClair, K. P., Porcelli, S. A. and Brenner, M. B.: Immunization with a mycobacterial lipid vaccine improves pulmonary pathology in the guinea pig model of tuberculosis. Int. Immunol., 15(8):915-925, 2003.

4) Cipriani, B., Chen, L., Hiromatsu, K., Knowles, H., Raine, C. S., Battistini, L., Porcelli, S. A. and Brosnan, C. F.: Upregulation of group 1 CD1 antigen presenting molecules in guinea pigs with experimental autoimmune encephalomyelitis: an immunohistochemical study. Brain Pathol., 13(1):1-9, 2003.

5) Wang, X., Huang, W., Schiffer, L. E., Mihara, M., Akkerman, A., Hiromatsu, K. and Davidson, A.: Effects of anti-CD154 treatment on B cells in murine systemic lupus erythematosus. Arthritis Rheum., 48(2):495-506, 2003.

6) Seki, Y., Inoue, H., Nagata, N., Hayashi, K., Fukuyama, S., Matsumoto, K., Komine, O., Hamano, S., Himeno, K., Inagaki-Ohara, K., Cacalano, N., O'Garra, A., Oshida, T., Saito, H., Johnston, J. A., Yoshimura, A. and Kubo, M.: SOCS-3 regulates onset and maintenance of T(H)2-mediated allergic responses. Nat. Med., 9(8):1047-1054, 2003.

7) Sasaki, A., Inagaki-Ohara, K., Yoshida, T., Yamanaka, A., Sasaki, M., Yasukawa, H., Koromilas, A. E. and Yoshimura, A.: The N-terminal truncated isoform of SOCS3 translated from an alternative initiation AUG codon under stress conditions is stable due to the lack of a major ubiquitination site, Lys-6. J. Biol. Chem., 278(4):2432-2436, 2003.

◆症例報告

1) Lamothe-Argumedo, R., Diaz-Camacho, S. P. and Nawa, Y.: The First Human Case in Mexico of Conjunctivitis caused by the Avian Parasite, *Philophthalmus lacrimosus*, J. parasitol., 89(1):183-185, 2003.

2) 吉川正英, 城井啓, 王寺幸輝, 美留町潤一, 西村文彦, 横田

浩,石坂重昭,米田諭,松森篤史,山根佳子,安藤稔,西村公男,山尾純一,福井博,内山ふくみ,名和行文,赤尾信明:腸閉塞症状を来した旋尾線虫幼虫 type X 感染例. 奈良医学雑誌 54(1):43-47, 2003.

3) 木下祐介,原弘之,落合豊子,鈴木啓之,森嶋和子,名和行文:ブラジル鉤虫の幼虫による Creeping Eruption. 皮膚科の臨床 45(2):109-110,125-127, 2003.

4) Kimura, S., Kashima, M., Kawa, Y., Nakamura, F., Nawa, Y., Takai, K. and Mizoguchi, M.: A case of subcutaneous sparganosis: therapeutic assessment by an indirect immunofluorescence antibody titration using sections of the worm body obtained from the patient. Br. J. Dermatol., 148:369-370, 2003.

5) 湯峯克也,藤原寛,紙森隆雄,棚野吉弘,三木良浩,藤川晃成,中村(内山) ふくみ:輸入上海ガニが原因と考えられるウエステルマン肺吸虫の集団感染例. 日本呼吸器学会雑誌 41(3):186-190, 2003.

6) Dainichi, T., Nakahara, T., Moroi, Y., Urabe, K., Koga, T., Tanaka, M., Nawa, Y. and Furue, M.: A case of cutaneous paragonimiasis with pleural effusion. Int. J. Dermatol., 42:699-702, 2003.

7) Kwon, I. H., Kim, H. S., Lee, J. H., Choi, M. H., Chai, J. Y., Nakamura-Uchiyama, F., Nawa, Y. and Cho, K. H. : A serologically diagnosed human case of cutaneous larva migrans caused by *Ancylostoma caninum*. Korean J. Parasitol., 41(4):233-237, 2003.

8) 吉川正英,石坂重昭,藤本清秀,多武保光宏,平尾佳彦,山下幹男,太田伸生,中村(内山) ふくみ,廣松賢治,名和行文,長田良雄:アフリカ滞在中に感染したと考えられるビルハルツ住血吸虫症の1例. 日本臨床寄生虫学会誌 14(1):48-50, 2003.

9) 吉川正英,石坂重昭,大森佐和子,中谷公彦,西野俊彦,吉本宗平,椎木英夫,斎藤能彦,中村(内山) ふくみ,名和行文:慢性関節リウマチ(RA)類似の臨床経過中に下腿浮腫,好酸球増多,低蛋白血症が出現しイヌ回虫幼虫 ES 抗原に対して高い抗体価を示した1例. 日本臨床寄生虫学会誌 14(1):74-76, 2003.

10) Chai, J. Y., Han, E. T., Shin, E. H., Park, J. H., Chu, J. P., Hirota, M., Nakamura-Uchiyama, F. and Nawa, Y.: An outbreak of Gnathostomiasis among Korean emigrants in Myanmar. Am. J. Trop. Med. Hyg., 69(1):67-73, 2003.

◆総 説

1) 名和行文:その他の吸虫症(肺吸虫症,肝吸虫症,横川吸虫症,肝蛭症). 今日の治療指針. 187-189, 2003.

2) 中村(内山) ふくみ,廣松賢治,名和行文:糞線虫駆虫薬. 医薬ジャーナル. 39, S-1. 131-137, 2003.

3) 中村(内山) ふくみ,名和行文:その他の吸虫症 横川吸虫症・肺吸虫症・肝吸虫症・肝蛭症. JIM (Journal of Integrated Medicine) . 13(3):243-247, 2003.

4) Nakamura-Uchiyama, F., Hiromatsu, K., Ishiwata, K., Sakamoto, Y. and Nawa, Y.: The Current Status of Parasitic Diseases in Japan. Intern. Med., 42(3):222-236, 2003.

5) 木村幹男,名和行文,大西健児:なぜ今,寄生虫症なのか. 治療学 Biomedicine& Therapeutics, 37(6):93(645)-105 (657), 2003.

6) 中村(内山) ふくみ,名和行文:寄生虫症における血清診断の活かし方. 治療学 Biomedicine& Therapeutics,

37(6):45(597)-49(601), 2003.

7) 木村幹男,名和行文:稀用薬の保管体制の進歩. 治療学 Biomedicine& Therapeutics. 37(6):69(621)-74(626), 2003.

8) 中村(内山) ふくみ,名和行文:寄生虫による皮膚疾患. 医学のあゆみ. 206(6・7):423-428, 2003.

9) 中村(内山) ふくみ,名和行文:ルーチン検査としての虫卵検査の意味. 内科診療 Q&A. 36:1088-1091, 2003.

10) 名和行文:臨床医に求められる寄生虫病診断. 日本臨床寄生虫学会誌 14(1):7-12, 2003.

11) Inagaki-Ohara, K., Hanada, T. and Yoshimura, A.: Negative regulation of cytokine signaling and inflammatory diseases. Curr. Opin. Pharmacol., 3(4):435-442, 2003.

12) Hanada, T., Kinjyo, I., Inagaki-Ohara, K. and Yoshimura, A.: Negative regulation of cytokine signaling by CIS/SOCS family proteins and their roles in inflammatory diseases. Rev. Physiol. Biochem. Pharmacol., 149:72-86, 2003.

◆学会報告

1) 中村(内山) ふくみ:イヌ・ブタ回虫性脊髄炎の病態形成に関与する因子について. 感染症若手研究者沖縄フォーラム(沖縄). 2003.1.

2) Hiromatsu, K.: Induction of CD1-restricted immune responses in guinea pigs by immunization with mycobacterial lipid antigens. 感染症若手研究者沖縄フォーラム(沖縄). 2003.1.

3) 石渡賢治:IL-13/Stat6 pathway を介した糖転移酵素発現と消化管寄生線虫排除. 感染症若手研究者沖縄フォーラム(沖縄). 2003.1.

4) 中村(内山) ふくみ:画像診断と免疫診断. 第72回日本寄生虫学会大会(久留米). 2003.3.

5) 名和行文:免疫と粘液:消化管寄生虫に対する感染防御. 第108回日本解剖学会総会・全国学術集会(久留米). 2003.4.

6) 名和行文:人畜共通寄生虫疾患. 第26回日本医学会総会(久留米). 2003.4.

7) 名和行文:臨床医に求められる寄生虫病診断. 第14回日本臨床寄生虫学会(長崎). 2003.6.

8) 中村(内山) ふくみ,名和行文:肝蛭症およびウエステルマン肺吸虫症に対するトリクラベンダゾール使用経験. 第14回日本臨床寄生虫学会(長崎). 2003.6.

9) 中村(内山) ふくみ,廣松賢治,実宝智子,北村幸雄,名和行文:*Strongyloides venezuelensis* 感染 *mi* 転写因子(MITE) *tg* マウスにおける小腸粘膜肥満細胞の反応. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会 第53回日本衛生動物学会南日本支部大会 合同大会(鹿児島). 2003.10.

10) 徳永佳史,中村(内山) ふくみ,廣松賢治,石渡賢治,名和行文:ブタ回虫幼虫移行症免疫診断におけるブタ回虫幼虫 ES 抗原の有用性. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会 第53回日本衛生動物学会南日本支部大会 合同大会(鹿児島). 2003.10.

11) 廣松賢治,中村(内山) ふくみ,徳永佳史,糸乗 前,杉田陸海,小副川 学,吉良潤一,名和行文:当教室で経験したイヌ・ブタ回虫性脳脊髄炎症例および寄生虫由来糖脂質抗原の病態形成における意義の検討. 第56回日本寄生虫学会南日本支部大会 第53回日本衛生動物学会南日本支部大会 合同大会(鹿児島). 2003.10.

12) 廣松賢治:抗結核脂質ワクチンの開発. 第52回日本感染症学会東日本地方会 第50回日本化学療法学会東日

本支部会 第86回日本細菌学会関東支部会 2003 合同学術集会(横浜). 2003.10.

13) Nawa, Y.: An overview of gnathostomiasis in the world, The 4th seminar on food-and water-borne parasitic zoonoses. The 2nd international meeting on Gnathostomiasis and joint international tropical medicine meeting 2003(Bangkok, Thailand). 2003.12.

14) Nakamura-Uchiyama, F.: The current status of paragonimiasis in Japan, The 4th seminar on food-and water-borne parasitic zoonoses, The 2nd international meeting on Gnathostomiasis and joint international tropical medicine meeting 2003 (Bangkok, Thailand). 2003.12.

15) 坂元幸子, 廣松賢治, 石渡賢治, 稲垣匡子, 池田拓人, 内山ふくみ, 名和行文: 消化管寄生線虫感染における Stat6 非依存性の好酸球増多. 第 33 回日本免疫学会総会・学術集会(福岡). 2003.12.

16) 中村(内山)ふくみ, 廣松賢治, 実宝智子, 名和行文: *mi* 転写因子(MITF)トランスジェニックマウスにおける *Strongyloides venezuelensis* 感染経過および小腸粘膜肥満細胞の反応. 第 33 回日本免疫学会総会・学術集会(福岡). 2003.12.

17) 稲垣匡子, 池田拓人, 廣松賢治, 名和行文, 吉村昭彦: 腸管上皮特異的 SOCS3 欠損マウスにおける炎症性腸疾患(IBD) 発症機序. 第 33 回日本免疫学会総会・学術集会(福岡). 2003.12.

◆その他

1) 名和行文: 胸に響くムシの話. 第1回呼吸器 UP TO DATE OSAKA (大阪). 2003.7.

法医学講座 (Legal Medicine)

◆原 著

1) Seo Y, Takami Y, Takahama K, Yoshizawa M, Nakayama T, Yukawa N. A method for genotyping Y chromosome-linked DYS385a and DYS385b loci. Legal Med 2003; 5: 228-232.

2) Jin ZB, Huang XL, Nakajima Y, Yukawa N, Osawa M, Takeichi S. Haploid allele mapping of Y-chromosome minisatellite, MSY1 (DYF155Sl), to a Japanese population. Legal Med 2003; 5: 87-92.

3) Ohara N, Takeichi S, Naito Y, Nakajima Y, Yukawa N, Nakano T, Nakajima K. Remnant-like particles from subjects who died of coronary artery disease suppress NO synthase activity and attenuate endothelium-dependent vasorelaxation. Clin Chim Acta 2003; 338: 151-156.

4) Chosa E, Sekimoto T, Sonoda N, Yamamoto K, Matsuda H, Takahama K, Tajima N. Evaluation of human β -enolase as a serum marker for exercise-induced muscle damage. Clin J Sport Med 2003; 13(4): 209-212.

5) 瀬尾泰久. 法医学用 DNA 抽出キットを利用した微量サンプルからの DNA 抽出. 医学の歩み 2003; 206: 484-487.

◆症例報告

1) 佐藤文子, 湯川修弘, 中島康洋, 瀬戸良久, 斎藤 剛, 武市早苗. Diffuse alveolar damage で死亡したシンナー, ブタンガス長期間乱用者の一部検例. 法医学病理 2003; 9: 34-39.

2) 網野真理, 吉岡公一郎, 中嶋 徹, 岩田 理, 森本浩司, 出口喜昭, 伴 和信, 椎名 豊, 後藤信哉, 半田俊之介, 田辺晃久, 湯川修弘, 武市早苗. 突然死を来した急性下壁梗塞の検討. 心臓 2003; 35 (Suppl 3): 104-108.

◆学会報告

1) 松田洋和, 瀬尾泰久, 柿崎英二, 小澤周二, 村岡恵里, 湯川修弘. ミトコンドリア DNA チトクロム b 領域のヒト特異的配列を指標とした人獣鑑別法について. 第 87 次日本法医学学会総会 2003. 富山.

2) 柿崎英二, 瀬尾泰久, 松田洋和, 小澤周二, 村岡恵里, 湯川修弘. 溺水中に存在する水棲細菌の検出について-選択培地を用いた簡易検査法-. 第 87 次日本法医学学会総会 2003. 富山.

3) 瀬尾泰久, 松田洋和, 柿崎英二, 小澤周二, 村岡恵里, 湯川修弘. Y 染色体 STR DYS385a, b ローカスの遺伝子型と遺伝子頻度. 第 53 回日本法医学会九州地方会 2003. 鹿児島.

4) 柿崎英二, 瀬尾泰久, 松田洋和, 小澤周二, 村岡恵里, 湯川修弘. 溺死体の血液中に存在する水棲細菌の検出-選択培地を用いた海洋細菌の簡易検出法-. 第 53 回日本法医学会九州地方会 2003. 鹿児島.

◆その他

1) 瀬尾泰久. DNA エキストラクター FM キットの評価. 和光純薬時報 2003; 71: 8-11.

臨床医学講座

内科学第一講座 (Internal Medicine I)

◆著 書

- 1) 江藤胤尚: 低血圧. 内科学 第8版 (杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦 総編集) 朝倉書店, 東京, 2003, pp 759-761
- 2) 江藤胤尚: 高血圧のコントロールと生活指導. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 (上松瀬勝男 編), 中山書店, 東京, 2003, pp 206-207
- 3) 江藤胤尚: Chapter 6 Ca拮抗薬で癌が増えると聞いたのですが, 本当ですか. ファーマナビゲーター Ca拮抗薬編 (浦 信行, 金 勝慶, 熊谷裕生, 堀内正嗣, 森下竜一 編), メディカルレビュー社, 東京, 2003, pp 228-231
- 4) 藤元昭一: 腎障害を伴う場合の管理・指導. 虚血性心疾患診療のコツと落とし穴 (上松瀬勝男 編), 中山書店, 東京, 2003, pp 208-209
- 5) 加藤丈司, 江藤胤尚: 中枢性交感神経抑制薬. 治療薬ガイド 2003~2004 (和田 攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義 編), 文光堂, 東京, 2003, pp 249-252
- 6) 窪山美穂, 上田正人: 横紋筋融解症. 高脂血症ナビゲーター, メディカルレビュー社, 2003, pp 322-323

◆原 著

- 1) Kuwasako K, Kitamura K, Uemura T, Nagoshi Y, Kato J, Eto T: The function of extracellular cysteines in the human adrenomedullin receptor. *Hypertens Res* 26: S25-S31, 2003.
- 2) Yamaga J, Hashida S, Kitamura K, Tokashiki M, Aoki T, Inatsu H, Ishikawa N, Kangawa K, Morishita K, Eto T: Direct measurement of glycine-extended adrenomedullin in plasma and tissue using an ultrasensitive immune complex transfer enzyme immunoassay in rats. *Hypertens Res* 26: S45-S53, 2003.
- 3) Kuwasako K, Kitamura K, Nagoshi Y, Eto T: Novel calcitonin-(8-32)-sensitive adrenomedullin receptors derived from co-expression of calcitonin receptor with receptor activity-modifying proteins. *Biochem Biophys Res Commun* 301: 460-464, 2003.
- 4) Christopoulos A, Christopoulos G, Morfis M, Udawela M, Laburthe M, Couvineau A, Kuwasako K, Tilakaratne N, Sexton PM: Novel receptor partners and function of receptor activity-modifying proteins. *J Biol Chem* 278: 3293-3297, 2003.
- 5) Kuwasako K, Kitamura K, Nagoshi Y, Cao Y-N, Eto T: Identification of the human receptor activity-modifying protein 1 domains responsible for agonist binding specificity. *J Biol Chem* 278: 22623-22630, 2003.
- 6) Chosa E, Hamada H, Kitamura K, Kuwasako K, Yanagita T, Eto T, Tajima N: Expression of adrenomedullin and its receptor by chondrocyte phenotype cells. *Biochem Biophys Res Commun* 303: 379-386, 2003.
- 7) Mishima K, Kato J, Kuwasako K, Imamura T, Kitamura

K, Eto T: Angiotensin II modulates gene expression of adrenomedullin receptor components in rat cardiomyocytes. *Life Sci* 73: 1629-1635, 2003.

8) Date H, Imamura T, Onitsuka H, Maeno M, Watanabe R, Nishihira K, Matsuo T, Eto T: Differential increase in natriuretic peptides in elite dynamic and static athletes. *Circ J* 67: 691-696, 2003.

9) Tokura T, Kinoshita H, Fujimoto S, Kitamura K, Eto T: Plasma levels of proadrenomedullin N-terminal 20 peptide and adrenomedullin in patients undergoing hemodialysis. *Nephron Clin Pract* 95: c67-c72, 2003.

10) Ishikawa T, Hatakeyama K, Imamura T, Date H, Shibata Y, Hikichi Y, Asada Y, Eto T: Involvement of C-reactive protein obtained by directional coronary atherectomy in plaque instability and developing restenosis in patients with stable or unstable angina pectoris. *Am J Cardiol* 91: 287-292, 2003.

11) Kita T, Kitamura K, Hashida S, Morishita K, Eto T: Plasma adrenomedullin is closely correlated with pulse wave velocity in middle-aged and elderly patients. *Hypertens Res* 26: 887-893, 2003.

12) Kato J, Tsuruda T, Kitamura K, Eto T: Adrenomedullin: a possible autocrine or paracrine hormone in the cardiac ventricles. *Hypertens Res* 26: S113-S119, 2003.

13) Kuboyama M, Ageta M, Ishihara T, Fujiura Y, Kashio N, Ikushima I: Serum lipoprotein(a) concentration and apo(a) isoform under the condition of renal dysfunction. *J Atheroscler Thromb* 10: 283-289, 2003.

14) Eto T, Kato J, Kitamura K: Regulation of production and secretion of adrenomedullin in the cardiovascular system. *Regul Pept* 112: 61-69, 2003.

15) Tsuruda T, Jougasaki M, Boerrigter G, Costello -Boerrigter LC, Catliotti A, Lee SC, Salz-Gilman L, Nordstrom LJ, McGregor CGA, Burnett JC, Jr: Ventricular adrenomedullin is associated with myocyte hypertrophy in human transplanted heart. *Regul Pept* 112: 161-166, 2003.

16) 江藤琢磨, 清田正司, 野崎藤子, 大山由香里, 西國原康子, 田中三夫: HMG-CoA還元酵素阻害剤による抗炎症作用. 宮崎医学会誌 27: 14-19, 2003.

17) 松尾剛志, 増山浩幸, 辰元 信, 今村卓郎, 江藤胤尚, 長町茂樹, 田村正三: 当院での 99mTc-tetrofosmin 負荷心筋シンチグラフィによる虚血性心疾患の診断能の検討. 宮崎医学会誌 27: 20-23, 2003.

18) 加藤丈司, 北村和雄, 江藤胤尚: 清武町における最近10年間の心血管危険因子の動向. 宮崎医学会誌 27: 30-34, 2003.

19) 小松弘幸, 原 誠一郎, 山田和弘, 佐藤祐二, 藤元昭一, 江藤胤尚: IgA腎症 267例の臨床病理学的検討. 宮崎医学会誌 27: 115-119, 2003.

20) 佐藤祐二, 藤元昭一, 山田和弘, 原 誠一郎, 江藤胤尚: 初診時に腎機能を有する患者の腎予後に関する因子の検討. 日本腎臓学会誌 45: 372-377, 2003.

◆症例報告

1) Kita T, Imamura T, Date H, Kitamura K, Moriguchi S, Sato Y, Asada Y, Eto T: Two cases of pheochromocytoma associated with tetralogy of fallot. *Hypertens Res* 26: 433-437, 2003.

2) Imamura T, Matsuura Y, Nagoshi T, Ishikawa T, Date H, Kita T, Matsuyama A, Matsuo T, Eto T: Hyperkalemia induced by the calcium channel blocker, benidipine. *Intern Med* 42: 503-506, 2003.

3) Imamura T, Nakazato M, Date Y, Komatsu H, Ashizuka S, Aoyama F, Sumi M, Tsuruda T, Ishikawa T, Hirayama N, Matsuo T, Eto T: Cardiac amyloidosis associated with a novel transthyretin aspartic acid-18 glutamic acid de novo mutation. *Circ J* 67: 965-968, 2003.

4) 下窪 徹、松本和彦、佐々木 昭、塩屋敬一、比嘉利信、隈本健司: 中心静脈カテーテルの内胸静脈迷入により両側胸水貯留を来した1例. *臨床と研究* 80: 313-316, 2003.

5) 西浦亮介、上園繁弘、原 誠一郎、山田和弘、久永修一、藤元昭一、江藤胤尚: L 鎖沈着症を原疾患とし、透析導入となった1症例. *透析会誌* 36: 217-222, 2003.

6) 小松弘幸、原 誠一郎、菊池正雄、松本充峰、山田和弘、佐藤祐二、藤元昭一、江藤胤尚: ステロイド療法が有効と考えられた原発性シェーグレン症候群による間質性腎炎の2例. *日腎会誌* 45: 398-404, 2003.

7) 辰元真理子、原 誠一郎、山田和弘、佐藤祐二、藤元昭一、江藤胤尚、中村恒雄: 肥満関連巣状糸球体硬化症に対し、ACE 阻害薬とアンジオテンシンII 受容体拮抗薬の併用療法が奏効した1例. *宮崎医学会誌* 27: 71-74, 2003.

8) 床島眞紀、長友美達、三好かほり: アルコール性ケトアシドーシスに、ビール瓶の破片誤飲による非外傷性小腸穿孔を併発したアルコール常飲者の1例. *宮崎医学会誌* 27: 124-127, 2003.

9) 三好かほり、長友美達、桑田 剛、野間健之、三村聡男、辰元 信、矢野理子、平野秀治、柴田剛徳: 急性冠症候群の発症に際し、偶発的に血栓閉塞性 Stanford B 型大動脈解離の所見を認めた2例. *宮崎医学会誌* 27: 128-132, 2003.

10) 押川勝太郎、石川直人、村田静香、伊達晴彦、山家純一、大塚正晃、稲津東彦、江藤胤尚: 大量出血に対し、内視鏡的に止血し得た潰瘍性大腸炎の1例. *宮崎医学会誌* 27: 141-144, 2003.

11) 桑田 剛、長友美達、三好かほり、三村聡男、野間健之、新名一郎: ペット動物咬傷によるパスツレラ感染症とアナフィラキシーショック. *宮崎医学会誌* 27: 145-149, 2003.

12) 角田 聖、神出 計、宮里純子、鈴木良彦、堀尾武史、中村敏子、稲永 隆、河野雄平: AII 受容体拮抗薬が奏功した片側腎血管性高血圧患者のレニン-アンジオテンシン系因子の動態. *血圧* 10: 673-377, 2003.

13) 長友美達、松山明彦: 高血圧を合併した左胸部腎の1例. *循環器科* 54: 177-179, 2003.

14) 三好かほり、長友美達: 血栓閉塞性 Stanford B 型大

動脈解離の経時的な X 線 CT 所見. *循環器科* 54: 180-181, 2003.

◆総 説

1) 江藤胤尚: 高血圧治療ガイドラインの推奨する治療法と実際 5 COPD と高血圧. *日医雑誌* 129: KG22-24, 2003.

2) 江藤胤尚: 内分泌 アドレノメデュリン. *内科* 91: 1447-1448, 2003.

3) 江藤胤尚: 収縮期血圧および拡張期血圧の病態生理学的意義. *血圧* 10: 703-707, 2003.

4) 江藤胤尚: 高血圧治療-最近の動向、降圧目標とその達成法. *日医雑誌* 130: 885-889, 2003.

5) 江藤胤尚: 高血圧を層別化して治療方針を決定する理由. *Current Therapy* 21: 916-920, 2003.

6) 藤元昭一: 特集 透析患者における心疾患への対応 II 心疾患を有する透析患者のマネージメント (1) 血液透析. *臨床透析* 19: 643-648, 2003.

7) 藤元昭一: 糖尿病性腎症の増加とその対策. *宮崎医学会誌* 64: 2-7, 2003.

8) 藤元昭一: 疾患・病態での治療法 熱中症での輸液療法. *Medicina* 40: 1898-1901, 2003.

9) 加藤丈司、江藤胤尚: 降圧薬の特性と使い方 ACE 阻害薬. *臨床と研究* 80: 10-13, 2003.

10) 加藤丈司、江藤胤尚: Ca 拮抗薬とレニン・アンジオテンシン系抑制薬の高齢者および収縮期高血圧における臓器保護効果. *循環器科* 54: 214-219, 2003.

11) 加藤丈司、北村和雄、江藤胤尚: アドレノメデュリンと肺高血圧. *Heart View* 7 (増刊号): 268-269, 2003.

12) 加藤丈司、江藤胤尚: 特集 降圧治療と臓器保護 高血圧と ANP/BNP/CNP. 成人病と生活習慣病 33: 1477-1481, 2003.

◆その他

1) 北 俊弘: トピックス 第 26 回日本高血圧学会 (JSH) 総会. *血圧* 11: 80-81, 2003.

◆学会報告

<国際学会>

1) Suzuki Y, Horio T, Iwashima Y, Kitamura K, Eto T, Kawano Y: Change in Doppler left ventricular inflow pattern by leg lifting maneuver unmasks diastolic dysfunction in hypertensive patients with diabetes. American college of cardiology 52th annual scientific session 2003-3 (Chicago, USA)

2) Kuwasako K, Kitamura K, Kato J, Eto T: of Identification dominant-negative rat RAMPs able to inhibit endogenous adrenomedullin receptor function. 18th Annual scientific meeting of the American society of hypertension 2003-5 (New York, USA)

3) Sato Y, Fujimoto S, Yamada K, Hara S, Eto T: Analysis of the factors affecting the course of renal disease progression-is there "point of no return"? World Congress

of Nephrol 2003 2003-6 (Berlin, Germany)

4) Yamada K, Fujimoto S, Kita T, Hara S, Sato Y, Sawano F, Hisanaga S, Ochiai H, Eto T: Impact of adrenomedullin on carotid intima media thickness in hemodialysis patients. World Congress of Nephrol 2003 2003-6 (Berlin, Germany)

5) Onitsuka H, Imamura T, Ito K, Kuwasako K, Yamakawa H, Hirano S, Kitamura K, Eto T: Differential gene expression of ventricular adrenomedullin and its receptors in rats with pressure and volume overload. 7th annual scientific meeting heart failure society of America 2003-9 (Las Vegas, USA)

6) Nakamura R, Kato J, Imamura T, Kitamura K, Eto T: Beneficial effects of adremedullin on left ventricular remodeling after myocardial infarction in rats. 7th annual scientific meeting heart failure society of America 2003-9 (Las Vegas, USA)

7) Komatsu H, Fujimoto S, Hara S, Sato Y, Yamada K, Eto T: The impact tonsillectomy on renal survival in patients with IgA nephropathy. American society of nephrology (ASN) renal week 2003 36th annual meeting 2003-11 (San Diego, USA)

8) Komatsu H, Fujimoto S, Hara S, Sato Y, Yamada K, Eto T: The serum IgA/C3 ratio in patients with IgA nephropathy: The marker of the histological severity and treatment efficacy. American society of nephrology (ASN) renal week 2003 36th annual meeting 2003-11 (San Diego, USA)

9) Suzuki Y, Kita T, Horio T, Kitamura K, Kawano Y, Eto T: Hyperglycemia after glucose loading is closely related to diastolic dysfunction in early staged dysglycemic subject. American Heart Association, scientific sessions 2003-11 (Orlando, USA)

<国内学会総会会長講演>

1) 江藤胤尚: 高血圧治療の展望-アドレノメデュリンからの視点. 第26回日本高血圧学会総会会長講演 2003年10月(宮崎)

<国内学会総会シンポジウム>

1) 北村和雄: アdreノメデュリンと関連ペプチドの基礎研究の進歩. 第26回日本高血圧学会総会シンポジウム1基礎 2003年10月(宮崎)

<国内学会総会一般演題>

1) Ishikawa T, Imamura T, Hatakeyama K, Date H, Nagoshi T, Kawamoto R, Onitsuka H, Matsuyama A, Matsuo T, Asada Y, Eto T: C-reactive protein of coronary circulation is higher in patient with stable angina pectoris than those with normal coronary arteries. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

2) Hirano S, Shibata Y, Yano M, Tatsumoto M, Matsuzaki T, Nagatomo Y, Ayabe T: Efficacy of concurrent use with antithrombotic therapy (pulse infusion thrombolysis: PIT) in acute myocardial infarction. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

3) Kuwasako K, Kitamura K, Onitsuka H, Uemura T, Nagoshi Y, Kato J, Eto T: Identification of dominant-negative rat RAMPs inhibit endogenous adrenomedullin receptor function. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

4) Suzuki Y, Horio T, Kitamura K, Eto T, Kangawa K, Kawano Y: Plasma adrenomedullin concentration is increased in patients with arteriosclerosis obliterans associated with vascular inflammation. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

5) Yano M, Shibata Y, Tatsumoto M, Hirano S, Matsuzaki T, Nagatomo Y, Ayabe T: Efficacy of pulse infusion thrombolysis (PIT) for acute myocardial infarction (AMI). 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

6) Yano M, Shibata Y, Tatsumoto M, Hirano S, Matsuzaki T, Nagatomo Y, Ayabe T: Treatment of no-reflow with the nitroprusside following percutaneous coronary intervention (PCI). 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

7) Kawamoto R, Hatakeyama K, Ishikawa T, Imamura T, Date H, Shibata Y, Takenaga M, Asada Y, Eto T: C-reactive protein is a critical contributor of in-stent restenosis but not restenosis after coronary atherectomy. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

8) Nakamura R, Kato J, Kitamura K, Onitsuka H, Imamura T, Asada Y, Kangawa K, Eto T: Beneficial effects of recombinant human adrenomedullin (hAM) on left ventricular (LV) remodeling after myocardial infarction (MI) in rats. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

9) Yasuko Nagoshi, Kenji Kuwasako, Kaoru Ito, Tomohiko Uemura, Johji Kato, Kazuo Kitamura, Tanenao Eto: The CGRP-(8-37)-sensitive effects of adrenomedullin are mediated via the CRLR/RAMP1 receptor. 第67回日本循環器学会総会 2003年3月(福岡)

10) 佐藤祐二、藤元昭一、原 誠一郎、山田和弘、江藤胤尚: 腎機能の保持 (point of no return) に影響する臨床的因子の検討. 第100回日本内科学会講演会 2003年4月(福岡)

11) 原 誠一郎、藤元昭一、山田和弘、佐藤祐二、今村卓郎、江藤胤尚、浅田裕士郎: コレステロール塞栓による急性腎不全. 第100回内科学会講演会 2003年4月(福岡)

12) 宮本宣秀、落合英幸、田中 充、名越秀樹、土居英生、松田順子、竹永 誠: 慢性維持透析患者の虚血性心疾患(IHD)合併の特徴と臨床像. 第100回日本内科学会総会 2003年4月(福岡)

13) 窪山美穂、上田正人、飯干宏俊、石原旅人、藤浦芳丈、石崎淳三、生島一平、加塩信行: 腎不全患者における血中 Lp(a) の特性. 第100回日本内科学会総会 2003年4月(福岡)

14) 青山典世、川野純一、生沼 勉、井手惣幸、菅沼龍夫: 凍結技法による adrenomedullin (AM) の免疫組織化学-ラット刺激伝導系における発現-. 第108回 日本解剖学会総会・全国学術集会 2003年4月(福岡)

15) 鈴木良彦、北 俊弘、堀尾武史、北村和雄、河野雄平、江藤胤尚:耐糖能障害患者における下肢上負荷ドップラー心エコーによる左室拡張能の評価. 第 100 回日本内科学会総会・講演会 2003 年 4 月(福岡)

16) 山田和弘、藤元昭一、北 俊弘、佐藤祐二、原 誠一郎、澤野文俊、落合英幸、江藤胤尚:Carotid Intima Media Thickness (IMT) と Pulse Wave Velocity (PWV) -透析患者の脳・心血管合併症との関連-. 第 46 回日本腎臓学会学術総会 2003 年 5 月(東京)

17) 小松弘幸、原 誠一郎、山田和弘、佐藤祐二、藤元昭一、江藤胤尚:当院の IgA 腎症 295 例の検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会 2003 年 5 月(東京)

18) 原 誠一郎、藤元昭一、辰元真理子、山田和弘、佐藤祐二、江藤胤尚、深江裕子、久永修一:肥満関連巣状糸球体硬化症(OB-FGS)の臨床病理学的検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会 2003 年 5 月(東京)

19) 佐藤祐二、藤元昭一、上園繁弘、原 誠一郎、山田和弘、江藤胤尚:骨髄移植後に腎障害を呈した 7 症例の臨床・病理学的検討. 第 46 回日本腎臓学会学術総会 2003 年 5 月(東京)

20) 原 誠一郎、藤元昭一、浅田裕士郎、江藤胤尚:剖検例からみた透析患者の心筋梗塞の特徴 シンポジウム透析者の死因の検証一心・血管障害一. 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会 2003 年 6 月(大阪)

21) 小松弘幸、山田和弘、佐藤祐二、原 誠一郎、藤元昭一、江藤胤尚:維持血液透析患者に発症した結核症の検討. 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会 2003 年 6 月(大阪)

22) 岩坪修司、藤本千夏、辰元真理子、山田和弘、佐藤祐二、原 誠一郎、藤元昭一、江藤胤尚、中村都英、鬼塚敏男:感染性心内膜炎に心室瘤破裂を合併した維持透析患者の 1 例. 第 48 回日本透析医学会学術集会・総会 2003 年 6 月(大阪)

23) 平野秀治、矢野理子、辰元 信、長友美達、柴田剛徳:高齢者急性心筋梗塞(AMI)の再灌流療法における血栓溶解療法(PIT: pulse infusion thrombolysis)の有用性. 第 51 回日本心臓病学会総会 2003 年 9 月(東京)

24) 石川直人、稲津東彦、大塚正晃、押川勝太郎、村田静香、山家純一、江藤胤尚:H. pylori 除菌療法により消失した直腸MALTリンパ腫の一例. 第10回日本消化器関連学会 2003 年 10 月(大阪)

25) 中島孝治、木谷道隆、澤野文俊、石川 正、益満幸一郎、白尾一定、秋山 裕、片岡寛章:著明貧血を契機に見られた小腸 hemolymphangioma (mixed lymphangioma and hemangioma) の 1 症例. 第 45 回日本消化器病学会大会 2003 年 10 月(大阪)

26) 北 俊弘、鈴木良彦、北村和雄、江藤胤尚:アドレノメデュリンは健常人の脈波伝播速度および血管弾性特性を改善する. 第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年 10 月(宮崎)

27) Kuwasako K: Identification of the human receptor activity-modifying protein 1 domains responsible for agonist binding specificity.第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年

10 月(宮崎)

28) 桑迫健二、北村和雄、名越康子、曹 袁寧、江藤胤尚:カルシトニン受容体と受容体活性調節蛋白の共発現による新規アドレノメデュリン受容体の形成. 第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年 10 月(宮崎)

29) 桑迫健二、北村和雄、名越康子、曹 袁寧、江藤胤尚:カルシトニン遺伝子関連ペプチドとアドレノメデュリンに共通の受容体の機能を抑制する dominant-negative RAMP1 の同定. 第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年 10 月(宮崎)

30) Cao YN, Kitamura K, Kato J, Kuwasako K, Nagoshi Y, Tsuruda T, Kawano J, Yanagita T, Wada A, Suganuma T, Eto T: Antioxidant effect of adrenomedullin in Dahl salt-sensitive rat.第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年 10 月(宮崎)

31) Tsuruda T, Lisy O, Burnett JC Jr.: Potential contribution of brain natriuretic peptide to prevent myocardial fibrosis through modulating matrix metalloproteinases. 第 26 回日本高血圧学会総会 2003 年 10 月(宮崎)

32) 桑迫健二、名越康子、曹 袁寧、鶴田敏博、北村和雄、江藤胤尚:受容体活性調節蛋白(RAMP)とカルシトニン受容体(CTR)で形成されるカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)受容体の薬理学的特徴. 第 7 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 2003 年 11 月(札幌)

33) 鶴田敏博、Burnett JC Jr., 江藤胤尚:カルジオトロピン-1の心線維化作用:エンドセリンとのクロストークメカニズム. 第 7 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 2003 年 11 月(札幌)

34) 鈴木良彦、北俊弘、北村和雄、江藤胤尚:ヒトにおけるアドレノメデュリンの心機能改善効果の検討. 第 7 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 2003 年 11 月(札幌)

35) 中村亮斉、加藤丈司、北村和雄、鬼塚久充、今村卓郎、寒川賢治、江藤胤尚:心筋梗塞(MI)急性期のアドレノメデュリン(AM)投与は慢性期の心機能低下を抑制する. 第 7 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会 2003 年 11 月(札幌)

36) 桑迫健二、北村和雄、名越康子、曹 袁寧、江藤胤尚:カルシトニン受容体と受容体活性調節蛋白の共発現により形成されるカルシトニン遺伝子関連ペプチド受容体の薬理学的特徴. 第 13 回日本循環薬理学会 2003 年 12 月(大阪)

<地方会>

1) 三好かほり、桑田 剛、長友美達、松崎忠樹、柴田剛徳、床島真紀、芦谷淳一:経過中に急性心筋梗塞を合併した異形肺炎の 1 例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003 年 2 月(福岡)

2) 西 桂子、押川勝太郎、村田静香、大塚正晃、石川直人、伊達晴彦、稲津東彦、江藤胤尚、秋山 裕:皮膚筋炎の合併が疑われた潰瘍性大腸炎の一例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003 年 2 月(福岡)

3) 林 英里香、白土明美、伊達晴彦、今村卓郎、江藤胤尚:非典型的な心電図所見と経過を示した大伏在静脈瘤を伴う肺血栓塞栓症の 1 例. 第 260 回日本内科学会九州地

方会 2003 年 2 月 (福岡)

4) 稲垣浩子、深江裕子、久永修一、栗林忠信、原 誠一郎、藤元昭一、江藤胤尚: Crohn 病に合併した、腎アミロイドーシス(AA)の一例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003 年 2 月 (福岡)

5) 馬場明子、三嶋和也、野津原 勝、福永隆司、鶴田和仁: 早期蘇生術により社会復帰可能であった心肺停止の一例. 第 22 回宮崎救急医学会 2003 年 2 月 (宮崎)

6) 井手口武史、中川真菜、中島孝治、戸倉 健、平山直輝、木谷道隆、澤野文俊、石川 正: 高度徐脈を伴う閉塞型睡眠時無呼吸症候群(OSAS)を合併した慢性腎不全の 1 例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003 年 2 月 (福岡)

7) 三好かほり、長友美達、桑田 剛、野間健之、三村聡男、辰元 信、矢野理子、平野秀治、柴田剛徳: 胸背部痛を主訴に来院し、遠位型の血栓閉塞性大動脈解離と急性冠症候群を認めた 1 例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003 年 5 月 (長崎)

8) 桑田 剛、野間健之、三好かほり、三村聡男、長友美達、新名一郎、青木洋子: 嫌気性菌による敗血症を合併したパストレラ症(*pasturella multocida*)の 1 例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003 年 5 月 (長崎)

9) 小山彰平、伊達晴彦、佐藤祐二、山田和弘、原 誠一郎、藤元昭一、江藤胤尚、丸塚浩助: 大量の胸腹水と腎機能障害を認めた Castleman 病(CD)の一例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003 年 5 月 (長崎)

10) 西園隆三、西平賢作、伊達晴彦、今村卓郎、江藤胤尚、松崎泰憲、鬼塚敏男、田中弘之、伊藤浩史、片岡寛章: フォン・レックリンハウゼン病に合併した心膜嚢腫の一例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003 年 5 月 (長崎)

11) 名越敏郎、伊達晴彦、松尾剛志、松山明彦、今村卓郎、江藤胤尚: 大動脈弁狭窄症を合併した閉塞性肥大型心筋症の一例. 第 94 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 6 月 (福岡)

12) 辰元 信、柴田剛徳、長友美達、平野秀治、矢野理子、綾部隆夫: Nitroprusside(NTP)の選択的冠動脈内投与が PCI 時 Slow Flow の改善に有効であった症例～FloWire による検討. 第 94 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 6 月 (福岡)

13) 辰元 信、柴田剛徳、長友美達、平野秀治、矢野理子、綾部隆夫、福島靖典: 腹部大動脈瘤術後の下肢動脈コレステロール血栓塞栓を経皮的吸飲用カテーテルを用いて改善を認めた 1 例. 第 94 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 6 月 (福岡)

14) 増山浩幸、伊達晴彦、今村卓郎、江藤胤尚、中村都英、鬼塚敏男、盛口清香、佐藤勇一郎: 原発性心房神経鞘腫の一例. 第 94 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 6 月 (福岡)

15) 土持若葉、村田静香、芦塚伸也、山家純一、湯池宏明、大塚正晃、石川直人、稲津東彦、江藤胤尚、外山孝典: 回腸悪性リンパ腫の一例. 第 262 回日本内科学会九州地方会 2003 年 8 月 (熊本)

16) 福田顕弘、伊達晴彦、石川哲憲、石川直人、今村卓郎、江藤胤尚、中村都英、鬼塚敏男: 腹部アングナの原因が解離性上腸管膜動脈瘤であった一例. 第 262 回日本内科学会九州地方会 2003 年 8 月 (熊本)

17) 有馬良一、辰元 信、松山明彦、平野秀治、長友美達、柴田剛徳: LAD 及び LCX 入口部病変に対して kissing stent を施行した 1 症例. 第 10 回日本心血管インターベンション学会九州地方会 2003 年 8 月 (久留米)

18) 馬場明子、佐藤祐二、原 誠一郎、山田和弘、小松弘幸、藤元昭一、江藤胤尚: 膜性腎症によるネフローゼ症候群をきたしたシェーグレン症候群の 3 例. 第 33 回日本腎臓学会西部学術大会 2003 年 10 月 (名古屋)

19) 岩坪修司、石井隆生、伊達晴彦、山田和弘、佐藤祐二、原 誠一郎、藤元昭一、外山勝浩、小宗静男、江藤胤尚: リウマチ性軟骨炎患者に発症した中枢性塩類喪失症候群の一例. 第 33 回日本腎臓学会西部学術大会 2003 年 10 月 (名古屋)

20) 稲垣浩子、深江裕子、久永修一、栗林忠信、原 誠一郎、藤元昭一、江藤胤尚: 維持透析導入となった溶血性尿毒症症候群(HUS)の一例. 第 33 回日本腎臓学会西部学術大会 2003 年 10 月 (名古屋)

21) 湯池宏明、西浦亮介、山家純一、中島孝治、上村修司、後藤俊之、永田賢治、石原 明、石川 正、江藤胤尚: アルゴンプラズマ凝固法(APC)併用内視鏡的胃粘膜切除術(EMR)にて治療した幽門輪近傍の早期胃癌の 1 例. 第 76 回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003 年 11 月 (長崎)

22) 有馬良一、柴田剛徳、長友美達、平野秀治、松山明彦、辰元 信、綾部隆夫: 造影剤アレルギーによるアナフィラキシーショック時、冠攣縮による閉塞を来した 1 症例. 第 95 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 12 月 (別府)

23) 辰元 信、柴田剛徳、長友美達、平野秀治、松山明彦、有馬良一、綾部隆夫、福島靖典: 多量胸水貯留・多発性肺膿瘍を合併した若年女性の三尖弁細菌性心内膜炎の 2 症例. 第 95 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 12 月 (別府)

24) 有馬良一、柴田剛徳、長友美達、平野秀治、松山明彦、辰元 信、綾部隆夫: 左前下行枝、回旋枝入口部病変に対する PCI 施行後、僧坊弁閉鎖不全症(MR)の改善を認めた 1 症例. 第 95 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 12 月 (別府)

25) 西園隆三、今村卓郎: 大動脈解離の亜急性期の偽腔内血栓化による腹部臓器虚血に対し腹部大動脈開窓術が有効であった一例. 第 95 回日本循環器学会九州地方会 2003 年 12 月 (別府)

<研究会>

1) 石川哲憲、今村卓郎、畠山金太、伊達晴彦、名越敏郎、川本理一郎、鬼塚久充、松山明彦、松尾剛志、浅田祐士郎、江藤胤尚: 冠動脈プラークにおける C 反応性蛋白の産生、および冠循環血中への放出に関する検討. 第 45 回老年医学談話会 2003 年 2 月 (福岡)

- 2) 山田和弘:透析患者における動脈硬化の指標としてのアドレノメデュリン. 第7回宮崎腎臓疾患研究会 2003年2月(宮崎)
- 3) 西浦亮介, 中川秀人, 児玉英昭:当病院で経験した維持透析患者のレジオネラ肺炎の一症例. 第11回宮崎県北地区腎不全研究会 2003年2月(延岡)
- 4) 佐藤祐二, 原 誠一郎, 山田和弘, 藤元昭一, 江藤胤尚:骨髓移植1年後に発症した難治性ネフローゼ症候群の1例. 第6回九州沖縄腎疾患研究会 2003年3月(福岡)
- 5) 西浦亮介, 中川秀人:ハコフグ摂取後に発症した急性横紋筋融解症の一症例. 第27回腎疾患研究会 2003年4月(宮崎)
- 6) 久永修一, 深江裕子, 稲垣裕子:当院における維持透析患者死亡例の検討(腎センター開設後3年間の状況について). 第27回腎疾患研究会 2003年4月(宮崎)
- 7) 加藤丈司:最近の臨床試験に基づいた AIIA の使い方. HCN 延岡研究会 2003年5月(延岡)
- 8) 井手口武史, 中島孝治, 窪山美穂, 福留慶一, 平山直輝, 木谷道隆, 澤野文俊:睡眠時無呼吸症候群の1例. 第2回宮崎社会保険病院症例検討会 2003年5月(宮崎)
- 9) 北 俊弘, 北村和雄, 江藤胤尚:腎疾患患者における脈波伝播速度と血中アドレノメデュリン濃度の相対関係. 第3回臨床動脈波研究会 2003年6月(東京)
- 10) 平山直輝, 中島孝治, 井手口武史, 窪山美穂, 福留慶一, 木谷道隆, 澤野文俊:当院での心臓カテーテル検査とPTCA. 第3回宮崎社会保険病院症例検討会 2003年6月(宮崎)
- 11) 北 俊弘, 北村和雄, 鈴木良彦, 江藤胤尚:動脈硬化指標である脈波伝播速度に及ぼすアドレノメデュリンの効果と両者の関連性. 第8回高血圧と動脈硬化研究会部会 2003年6月(東京)
- 12) 北村和雄:アドレノメデュリンの基礎と展開医療への可能性. ワイズマン・フォーラムNo.16 2003年7月(三重)
- 13) 澤野文俊, 平山直輝, 福留慶一, 湯池宏明, 窪山美穂, 渡邊玲子, 中島孝治:下肢ASOの治療後に急変した維持透析患者の検討. 第4回宮崎社会保険病院症例検討会 2003年7月(宮崎)
- 14) 北 俊弘, 北村和雄, 鈴木良彦, 江藤胤尚:健常人へのアドレノメデュリン投与時の血行動態の変化. 第2回九州脳と高血圧研究会 2003年7月(福岡)
- 15) 深江裕子, 稲垣浩子, 久永修一, 木原 康, 栗林忠信:当院におけるシャント経皮的血管形成術の現況. 第31回宮崎県人工透析研究会 2003年7月(宮崎)
- 16) 稲垣浩子, 深江裕子, 久永修一, 栗林忠信:長期留置型ダブルルーメンカテーテル(ソフトセル)を使用した維持血液透析患者の1症例. 第31回宮崎県人工透析研究会 2003年7月(宮崎)
- 17) 福留理恵, 山田和弘, 佐藤祐二, 原 誠一郎, 藤元昭一, 江藤胤尚:当院にて大動脈瘤に対し人工血管置換術を施行した慢性透析患者7例の検討. 第31回宮崎県人工透析研究会 2003年7月(宮崎)
- 18) 中川真菜, 山田和弘, 佐藤祐二, 原 誠一郎, 藤元昭一, 江藤胤尚:ヘルペス脳炎を発症した維持血液透析患者の1例. 第31回宮崎県人工透析研究会 2003年7月(宮崎)
- 19) 西浦亮介:当院透析室における薬物中毒症の検討. 第12回宮崎県北地区腎不全研究会 2003年8月(延岡)
- 20) 窪山美穂, 上田正人, 飯干宏俊, 石原旅人, 藤浦芳丈, 石崎淳三, 生島一平, 加塩信行:腎不全のLp(a). 第8回Lp(a)カンファレンス 2003年10月(京都)
- 21) 岩坪修司, 佐藤祐二, 山田和弘, 原 誠一郎, 藤元昭一, 江藤胤尚:リウマチ性軟骨炎患者に発症した中枢性塩類喪失症候群の一例. 第28回腎疾患研究会 2003年11月(宮崎)
- 22) 久永修一, 稲垣浩子, 深江裕子: hypophosphatic osteomalacia による多発性骨折を認めた慢性腎不全(Fanconi syndrome)の一例. 第28回腎疾患研究会 2003年11月(宮崎)
- 23) 中川秀人, 山田和弘, 佐藤祐二, 原 誠一郎, 藤元昭一, 江藤胤尚:悪性リンパ腫の両側陣転移が原因と考えられた急性腎不全の一例. 第36回九州人工透析研究会 2003年11月(佐賀)
- 24) 窪山美穂, 福留慶一, 澤野文俊, 石川正, 藤元昭一:下肢ASOに対するPTA後に, 急死した透析患者の1剖検例. 第36回九州人工透析研究会 2003年11月(佐賀)
- 25) 稲垣浩子, 深江裕子, 久永修一, 矢田康文, 早川隆啓, 南口尚紀, 藤元昭一, 栗林忠信:最近当院でみられた維持血液透析患者の前立腺癌症例について. 第36回九州人工透析研究会 2003年11月(佐賀)
- 26) 北村和雄:アドレノメデュリンと脈波伝播速度(PWV)九州・腎と高血圧研究会 2003年11月(福岡)
- 27) 宮本宣秀:穿刺法とシースの選択. 第10回鎌倉ライブデモンストレーション 2003 コメディカル教育レクチャー 2003年12月(横浜)

<講演会>

- 1) 江藤胤尚:新しい大規模臨床試験による降圧療法の考え方. 串木野市内科医会学術講演会 2003年1月(串木野)
- 2) 江藤胤尚:新しい大規模介入試験と降圧薬の選択. 日本高血圧学会生涯教育講演会 2003年2月(千葉)
- 3) 江藤胤尚:降圧薬の新しい選択法-ALLHATの結果から-. 日本高血圧学会生涯教育講演会 2003年2月(沖縄)
- 4) 江藤胤尚:降圧薬の新しい選択法-ALLHATの結果から-. 都城・北諸県郡内科医会学術講演会. 2003年2月(都城)
- 5) 江藤胤尚:高血圧治療の新たな展開. 第5回東北臨床血圧測定研究会 2003年3月(仙台)
- 6) 江藤胤尚:ALLHATが示す高血圧治療の新しいパラダイム. ALLHAT 講演会 in 千葉-高血圧治療最前線 2003年4月(千葉)
- 7) 江藤胤尚:高齢者高血圧の治療. 医療セミナー「高

「血圧治療の検証と新たな展望」 2003 年 4 月 (大阪)

8) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望-ALLHAT の結果から。延岡医学会学術講演会 2003 年 4 月 (延岡)

9) 江藤胤尚: ALLHAT が示す高血圧治療の新しいパラダイム。日本高血圧学会生涯教育講演会、高血圧治療大規模試験「ALLHAT」を考察する 2003 年 4 月 (宮崎)

10) 江藤胤尚: 降圧薬選択の新しい視点- ALLHAT の結果から。京都府医師会 ALLHAT 学術講演会 2003 年 4 月 (京都)

11) 江藤胤尚: 降圧薬の新しい選択法- ALLHAT の結果から。日本高血圧学会生涯教育講演会 2003 年 4 月 (熊本)

12) 江藤胤尚: 高血圧診療の最近の動向- ALLHAT から学ぶ。鳥取西部医師会学術講演会 2003 年 5 月 (米子)

13) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望- ALLHAT の結果から。鹿児島県川内市医師会学術講演会 2003 年 6 月 (川内)

14) 江藤胤尚: 高血圧治療の最近の動向。日向市東臼杵郡医師会学術講演会 2003 年 6 月 (日向)

15) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望- ALLHAT の結果から。鹿屋市医師会、肝属郡医師会、曾於郡医師会、肝属郡東部医師会学術講演会 2003 年 6 月 (鹿屋)

16) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな視点。高血圧学術講演会 2003 年 7 月 (札幌)

17) 江藤胤尚: 介入試験の示す高血圧治療の新たな視点。北陸高血圧セミナー「高血圧の薬物治療を考える」日本高血圧学会、北陸循環器懇話会 2003 年 7 月 (金沢)

18) 江藤胤尚: 降圧薬選択の新たな展望- ALLHAT をどう読むか。循環器学術講演会 2003 年 7 月 (名古屋)

19) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望- ALLHAT の結果から。ファイザー 50 周年循環器フォーラム 2003 年 7 月 (大阪)

20) 江藤胤尚: 最新の高血圧治療ガイドライン-JNC7 と 2003ESH/ESC の特徴。宮崎循環器疾患研究会 2003 年 10 月 (宮崎)

21) 江藤胤尚: 糖尿病患者における血圧管理。宮崎県糖尿病懇話会例会 2003 年 10 月 (宮崎)

22) 江藤胤尚: ALLHAT から学ぶ高血圧治療の新たな視点。久留米医師会学術講演会 2003 年 10 月 (久留米)

23) 江藤胤尚: 降圧療法の新たな展望。南那珂医師会学術講演会 2003 年 10 月 (日南)

24) 江藤胤尚: CHARM-Study から何を学ぶか。都城市北諸県郡内科医会 2003 年 12 月 (都城)

25) 江藤胤尚: 新しいガイドラインとその背景。西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会 2003 年 12 月 (小林)

26) 藤元昭一: 心血管系の感染症を合併した維持透析患者。平成 15 年度宮崎県人工透析研究会 2003 年 1 月 (宮崎)

27) 藤元昭一: 糖尿病性腎症の増加とその対策。宮崎県内科医会総会・特別講演会 2003 年 3 月 (宮崎)

28) 長友美達: 肺動脈血栓塞栓症～術後にも発生し、その可能性を疑うことが救命につながる～。宮崎市郡外科

医会講演会 2003 年 3 月 (宮崎)

29) 北村和雄: 見なおされてきた降圧薬としての利尿剤。児湯医師会学術講演会 2003 年 3 月 (高鍋)

30) 加藤丈司: 最近の臨床試験に基づいた ARB の使い方。三股木曜会学術講演会 2003 年 5 月 (都城)

31) 長友美達: 大動脈解離。第 23 回心臓病研究会 2003 年 6 月 (宮崎)

32) 藤元昭一: 宮崎県下の透析、及び宮崎医科大学透析室の現状。第 12 回宮崎県北地区腎不全研究会 2003 年 8 月 (延岡)

33) 北村和雄: 最近の高血圧ガイドラインと降圧剤。宮崎県病院薬剤師会研修会 2003 年 11 月 (延岡)

34) 北村和雄: アドレノメデュリン研究の新展開。第 7 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会ランチョンセミナー 4 2003 年 11 月 (札幌)

35) 今村卓郎: 虚血性心臓病と炎症-CRP のパラダイムシフト。南那珂内科学術講演会 2003 年 11 月 (日南)

36) 今村卓郎: 心不全の新しいエビデンス-CHARM Study について-。臨床医のための循環器疾患研究会 2003 年 9 月 (宮崎)

37) 今村卓郎: 炎症と動脈硬化。延岡内科医会 2003 年 6 月 (延岡)

38) 藤元昭一: 腎臓と高血圧。第 1 回都城地区第一内科同門講演会 2003 年 12 月 (都城)

<その他>

1) 北村和雄: 心臓血管疾患におけるアドレノメデュリンの有用性。第 2 回 平成 15 年度 循環器病委託費事業班会議 2003 年 12 月 (吹田)

内 科 学 第 二 講 座 (Internal Medicine II)

◆著 書

1) 岡山昭彦:リケッチア感染症(ツツガムシ病, 日本紅斑熱). 今日の治療指針 2003 年版(山口徹, 北原光夫編), pp141-142, 医学書院, 東京, 2003

2) Okayama A, Stuver O S.: Long-term follow-up of HTLV-1 carriers. Two Decades of Adult T-Cell Leukemia and HTLV-1 Research. (Ueda R, Matsuoka M, Noda T, Seiki M, Terada M, Yoshida T, Kitagawa T eds), pp127-139, Japan Scientific Societies Press Tokyo 2003

3) 坪内博仁, 井戸章雄: 肝臓の構造と機能. 疾患と治療薬(大内尉義, 伊賀立二編), pp207-210, 南江堂, 東京, 2003

4) 坪内博仁, 弘野修一: 肝細胞増殖因子(HGF). 臨床検査ガイド 2003-2004 これだけは必要検査のすすめかた・データのよみかた(和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編) pp221-222, 文光堂, 東京, 2003

5) 標準消化器病学: 林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編, 医学書院, 東京, 2003

6) 坪内博仁, 井戸章雄: 劇症肝炎. 内科学(杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦編) pp1108-1112, 朝倉書店, 東京, 2003

7) 坪内博仁, 弘野修一: 黄疸. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp52-59, 医学書院, 東京, 2003

8) 坪内博仁, 井戸章雄: 腹水. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp59-65, 医学書院, 東京, 2003

9) 坪内博仁, 堀 剛: 門脈圧亢進症. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) : pp65-69, 医学書院, 東京, 2003

10) 坪内博仁, 林克裕: 腹部膨満(腹部膨隆). 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp69-72, 医学書院, 東京, 2003

11) 坪内博仁, 堀 剛: 腹部腫瘤. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp73-75, 医学書院, 東京, 2003

12) 坪内博仁, 蓮池悟: 肝腫大, 脾腫. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp75-79, 医学書院, 東京, 2003

13) 坪内博仁, 宇都浩文: 劇症肝炎. 標準消化器病学(林紀夫, 日比紀文, 坪内博仁編) pp414-416, 医学書院, 東京, 2003

14) 坪内博仁, 村井幸一: 膠原病における AST, ALT の上昇. 消化器診療二頁の秘訣(加嶋敬編) pp122-123, 金原出版, 東京, 2003

15) 田原良博, 井戸章雄, 山本章二郎, 宮田義史, 宇都浩文, 加藤順也, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: デキストラン硫酸誘発潰瘍性大腸炎モデルにおける肝細胞増殖因子の粘膜修復促進作用. 臨床応用を目指した消化器分子生物学(小俣政男編) pp151-153, アークメディア, 東京, 2003

16) 坪内博仁, 井戸章雄: Section1 肝臓・胆道系疾患を

理解するための scientific basis1. 肝の構造と機能. 内科学第二版1(黒川清, 松澤祐次編) pp866-872, 文光堂, 東京, 2003

17) 宇都浩文: 肝再生過程における HGF の肝幹細胞に対する効果の解析. Liver Forum in Kyoto (第5回学術集会記録集編) pp55-59, メディカルトリビューン, 東京, 2003

◆原 著

1) Moriuchi A, Ido A, Nagata Y, Nagata K, Uto H, Hasuike S, Hori T, Hirono S, Hayashi K, Tsubouchi H. ACRE and the region occupied by a protein induced by growth actors contribute to up-regulation of cyclin D1 expression in hepatocytes. Biochem Biophys Res Commun 300:415-421, 2003

2) Sako K, Imamura Y, Nishimata H, Tahara K, Kubozono T, Tsubouchi H.: Branched-chain amino acids supplements in the late evening decrease the frequency of muscle cramps with advanced hepatic cirrhosis. Hepatol Res 26:327-329, 2003

3) Tahara Y, Ido A, Yamamoto S, Miyata Y, Uto H, Hori T, Hayashi K, Tsubouchi H. Hepatocyte growth factor facilitates colonic mucosal repair in experimental ulcerative colitis in rats. J Pharmacol Exp Ther 307:146-151, 2003

4) Hori T, Nagata K, Hasuike S, Onaga M, Motoda M, Moriuchi A, Iwakiri H, Uto H, Kato J, Ido A, Hayashi K, Tsubouchi H. Risk factors for the local recurrence of hepatocellular carcinoma after a single session of percutaneous radiofrequency ablation. J Gastroenterol 38:977-981, 2003

5) Onaga M, Ido A, Hasuike S, Moriuchi A, Nagata K, Hori T, Hayashi K, Tsubouchi H. Osteoactivin, expressed during cirrhosis development in rats fed a choline-deficient, L-amino acid-defined diet, accelerates motility of hepatoma cells. J Hepatol 39:779 - 785, 2003

6) 衛藤義, 大橋十也, 今井祐一, 厚東篤生, 松本義也, 宮武邦夫, 藤脇建久, 西美和, 岡山昭彦, 納光弘, 大和田操, 松尾清一, 両角罔男, 重松秀一, 北川照男: ファブリー病患者に対する α -ガラクトシダーゼ A 補充療法の多施設臨床試験成績. 小児科臨床 56:133-143, 2003

7) 山本章二郎, 宮田義史, 沼田政嗣, 南寛之, 田原良博, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 遠位潰瘍性大腸炎に対するメサラジン注腸療法の有用性. 宮崎県医師会医学会誌 27:9-13, 2003

8) 井戸章雄, 田原良博, 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 坪内博仁: 炎症性腸疾患に対する HGF を用いた新しい治療法の開発. 臨床消化器内科 18:39-44, 2003

9) 児玉裕文, 林克裕, 林要人, 山口昌俊, 山下康洋, 小野浩重, 八木優子, 堀真由美, 奥村学, 川崎由美子, 黒木恵美, 鈴智子, 田口なるみ, 荒武八起, 梅木一美, 鈴木千代子, 工藤正直, 長田幸夫, 有森和彦: 治験における事前審査の有用性と今後の展望. 臨床薬理 Jpn J Clin Pharmacol Ther 34:181s-182s, 2003

◆症例報告

1) 岩満章浩, 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁, 夏田康則: 短期間に再発を繰り返した若年者虚血性大腸炎の一例. 宮崎県医師会医学雑誌 27:75-78, 2003

2) 春山幸洋, 高橋伸育, 瀬口智子, 秋山裕, 伊藤浩史, 堀剛, 坪内博仁, 片岡寛章: Peribiliary cyst の1剖検例. 診断病理 20:141-143, 2003

3) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史: 術後早期に再燃した治療困難な simple ulcer 疑診例の1例. IBD Club Jr 第19回研究会記録集 36-41, 2003

4) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 宮路紫織, 坪内博仁, 佛坂正幸, 池田拓人, 千々岩一男: 腸管狭窄を来した分類不能型腸炎の1例. IBD Club Jr. 第20回研究会記録集 25-29, 2003

5) 翁長正明, 加藤順也, 蓮池悟, 永田賢治, 宇都浩文, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 急性発症型のII型自己免疫性肝炎の1例. 肝臓 44:460-464, 2003

6) 沼田政嗣, 松元有希子, 落合俊雅, 松岡均, 栗林忠信, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: インタフェロン治療終了後に網膜症が重症化したC型慢性肝炎の1例. 日本消化器病学会雑誌 100:62-65, 2003

7) 三池忠, 今津喜史, 黒木譲二, 矢埜正実, 久保田邦彦: アニリン系除草剤 DCPA 服用後に高濃度メトヘモグロビン呈した1例. 九州救急医学雑誌 3:27-31, 2003

8) 河野浩, 佐藤誠一, 前田宏一, 外山孝典, 久富木庸子, 坪内博仁: 亜鉛欠乏を合併した腎性貧血. 宮崎県医師会医学雑誌 27:133-136, 2003

◆総 説

1) 坪内博仁: HGF による再生医療の展望. 鹿児島県内科医会報 41-46, 2003

2) 山本章二郎, 宮田義史, 沼田政嗣, 堀 剛, 井戸章雄, 坪内博仁: 虚血性腸炎の原因とその対応の実際. Medical Practice 20:285-288, 2003

3) 橘宣祥, 岡山昭彦: リケッチア感染症ツツガムシ病. 日本臨床 61: 500-504, 2003

4) 坪内博仁, 蓮池悟, 森内昭博, 井戸章雄: 肝再生不全の機序と治療. BIO Clinica 18:44-48, 2003

5) 坪内博仁, 井戸章雄, 宇都浩文, 蓮池悟, 森内昭博: 肝発生と再生時の HGF. 肝胆膵 46:303-309, 2003

6) 橘宣祥, 岡山昭彦: ツツガムシ病. 総合臨床 52: 453-458, 2003

7) 坪内博仁, 林克裕: B 型慢性肝炎の治療. Mebio 20: 23-28, 2003

8) 坪内博仁, 楠元寿典, 井戸章雄: 酸化ストレスと NASH. 医学のあゆみ 206:371-374, 2003

9) 井戸章雄, 森内昭博, 蓮池悟, 宇都浩文, 坪内博仁: HGF を用いた肝再生療法. 最新医学 58:2023-2029, 2003

10) 岡山昭彦, 久富木庸子: リンフォーマ治療における展望. デルマ 67-73, 2003

11) 石塚賢治, 池田柊一, 和泉洋一郎, 今村豊, 鵜池直

邦, 魚住公治, 宇都宮與, 河野文夫, 久富木庸子, 榎藤久司, 佐分利能生, 渋谷恒文, 鈴島仁, 塚田順一, 林真, 前田宏一, 松石英城, 松岡均, 牧野茂義, 田村和夫: 造血器腫瘍治療時の感染症対策-九州血液疾患治療グループ (K-HOT) アンケート調査-臨床血液 44:483-490, 2003

◆学会報告

1) Hisada M, Stuver SO, Li H, Sawada T, Okayama A, Mueller NE.: Age- and sex-matched comparison of viral markers among HTLV-I carriers in Japan and Jamaica. The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

2) Birman B, Mueller E N, Okayama A, Tachibana N, Tsubouchi H, Hsieh C, Ham D, Stuver SO : Serologic evidence for type 1 dysregulation in healthy adults with human T-lymphotropic virus type I. The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

3) Raker C.A., Hayashi K, Okayama A, Mueller NE, Tsubouchi H, Stuver O S : Characterization of HTLV-I seroprevalence in a population of individuals with antibodies to hepatitis C virus. The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

4) Watanabe T, Shoda M, Terunuma H, Utsunomiya A, Yamada Y, Kamihira S, Koga S, Kikuchi H, Horie R, Okayama A, Uozumi K, Watanabe S, Yamaguchi K, Ito E : Expression profiles of HTLV-I infected T cells and ATL cells depicted by a novel microarray system with synthetic polynucleotides.

The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

5) Ishida T, Koiwa T, Hamano A, Arakawa M, Futagami Y, Okayama A, Yamaguchi K, Motizuki M, Kamihira S, Watanabe T : Expansion of demethylated HTLV-I provirus correlates with increased provirus loads. The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

6) Okayama A, Tanaka G, Stuver O S, Hsieh C, Tachibana N, Mueller N, Tsubouchi H : The clonal expansion of HTLV-I infected cells : A comparison between seroconverters and long-term carriers. The 11th international conference on human retrovirology HTLV and related viruses. 2003, 6, San Francisco

7) Kusumoto K, Hayashi K, Uto H, Hasuike S, Toyama K, Nagata K, Hori T, Okayama A, Tsubouchi H, Stuver O S : The usefulness of a new immunoradiometric assay to detect hepatitis C core antigen in a community-based population. 54 Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Disease. 2003, 10, Boston

8) Hasuike S, Uto H, Nakanishi C, Kusumoto K, Yamamoto S, Hori T, Hayashi K, Nagata Y, Moriuchi A, Ido A, Tsubouchi H : Hepatocyte growth factor accelerates differentiation of

hepatic oval cells in a 2-acetylaminofluorene/partial hepatectomy model in rat. 54 Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases. 2003, 10, Boston

<シンポジウム>

1) 岡山昭彦: HTLV-1 と ATL 発症. 第 26 回日本医学会総会 2003, 4, 福岡

2) 井戸章雄, 森内昭博, 田原良博: 肝細胞増殖因子 (HGF) による消化器疾患の再生医療. 第 89 回日本消化器病学会総会 2003, 4, さいたま

3) 宇都浩文, 井戸章雄, 坪内博仁: ラット oval cell の遺伝子発現に及ぼす HGF の影響. 第 39 回日本肝臓学会総会 2003, 5, 福岡

4) 森下和広, 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 浜田健嗣, 岡部尚文, 村上喜則: マイクロアレ-解析による ATL 細胞遺伝子発現. 第 62 回日本癌学会総会 2003, 9, 名古屋

5) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 坪内博仁: 難治性潰瘍性大腸炎における臨床的および内視鏡的検討. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 7, 宮崎

6) 宇都浩文: 肝再生過程における HGF の肝幹細胞に対する役割の解析. 第 5 回 Liver Forum in Kyoto 2003, 3, 京都

<ワークショップ>

1) 宇都浩文, 山岸俊哉, 坪内博仁: 新しい線維化マーカーとしての HGF activator inhibitor (HAI) -1 の有用性. 第 45 回日本肝臓学会, 日本消化器病学会大会合同 2003, 10, 大阪

2) 井戸章雄, 森内昭博, 金一徳: 肝再生を目的とした肝細胞増殖因子 (HGF) の臨床応用. 第 7 回日本肝臓学会大会 2003, 10, 大阪

3) 江藤敏治, 林克裕, 岩満章浩, 岩切久芳, 沼田政嗣, 蓮池悟, 加藤順也, 宇都浩文, 堀 剛, 元田みづえ, 末田光恵, 村山貴信, 村田光宏, 落合俊雅, 坪内直子, 黒木穰二, 黒木和男, 中間哲文, 坪内博仁: 高ウイルス量 C 型慢性肝炎に対するインターフェロン治療法の工夫-β インターフェロン 2 回分割先行リバビリン併用療法-. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

<一般演題>

1) 田中弦一, 岡山昭彦, 甲斐泰文, 森祐一朗, 山田琢也, 佐々木隆, 村井幸一, 坪内博仁: HTLV-1 感染細胞クローンの経時的变化. 第 77 回日本感染症学会総会 2003, 4, 福岡

2) 白土明美, 甲斐泰文, 山田琢也, 森祐一朗, 佐々木隆, 田中弦一, 村井幸一, 岡山昭彦, 坪内博仁: 髄膜脳炎を呈した再発性多発軟骨炎の一例. 第 47 回日本リウマチ学会総会 2003, 4, 東京

3) 宇都浩文, 楠元寿典, 中西千尋, 蓮池悟, 山本章二郎, 加藤順也, 堀 剛, 永田佳子, 森内昭博, 井戸章雄,

林克裕, 坪内博仁: コリン欠乏アミノ酸置換食飼育ラットにおけるペルオキシソーム増殖剤活性化受容体 (PPAR) γ の意義. 第 89 回日本消化器病学会総会 2003, 4, さいたま

4) 甲斐泰文, 吉澤大, 山田琢也, 森祐一朗, 田中弦一, 佐々木隆, 村井幸一, 岡山昭彦, 坪内博仁: Leukocytoclastic vasculitis の組織像を呈したアレルギー性肉芽腫性血管炎の一例. 第 47 回日本リウマチ学会総会 2003, 4, 東京

5) 宇都浩文, 蓮池悟, 井戸章雄, 堀 剛, 林克裕, 村田光宏, 落合俊雅, 江藤敏治, 黒木和男, 坪内博仁: B 型肝炎ウイルス関連肝硬変に対するラミブジン治療. 第 100 回日本内科学会総会 2003, 4, 福岡

6) 沼田政嗣, 宮田義史, 山本章二郎, 田原良博, 宮路紫織, 中西千尋, 宇都浩文, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 下血を契機に発見された胃 vascular ectasia の乳児例. 第 45 回日本消化器内視鏡学会総会 2003, 5, 福岡

7) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 宇都浩文, 加藤順也, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 大腸 vascular ectasia の治療 1 年 10 ヶ月後に出現した十二指腸 vascular ectasia に対してアルゴンプラズマ凝固法が有効であった一例. 第 65 回日本消化器内視鏡学会総会 2003, 5, 福岡

8) 外山孝典, 久富木庸子, 日高智徳, 坪内博仁: 成人 T 細胞白血病 (ATL) に対する経口エトポシド長期投与後に発症した治療関連骨髓異形成症候群 (t-MDS) の一例. 第 45 回日本臨床血液学会総会 2003, 8, 大阪

9) 久富木庸子, 日高智徳, 佐々木秀法, 外山孝典, 坪内博仁, 畠山金太, 丸塚浩助: 当科の血液疾患剖検例における感染症の検討. 第 65 回日本血液学会総会, 第 45 回日本臨床血液学会総会 2003, 8, 大阪

10) 河野浩, 鈴木恵子, 田中美幸, 松岡均, 栗林忠信: Myeloid/NK cell acute leukemia の 2 例. 第 65 日本血液学会総会, 第 45 回日本臨床血液学会総会 2003, 8, 大阪

11) 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 坪内博仁, 森下和広, 浜田健嗣, 岡部尚文, 深見武史, 村上喜則: 急性型 ATL 患者細胞における TSLC1 遺伝子の高発現. 第 65 回日本血液学会総会, 第 45 回日本臨床血液学会総会 2003, 8, 大阪

12) 佐々木秀法, 日高智徳, 久富木庸子, 岡山昭彦, 坪内博仁, 森下和広, 浜田健嗣, 岡部尚文, 深見武史, 村上喜則: 急性型 ATL 患者細胞における TSLC1 遺伝子の高発現. 第 62 回日本癌学会総会 2003, 9, 名古屋

13) 谷口裕子, 岡山昭彦, 野坂生郷, 安永純一朗, 松岡雅雄: HTLV-1 プロウイルスにおける DNA メチル化の進展. 第 62 回日本癌学会総会 2003, 9, 名古屋

14) 井上龍二, 安倍弘生, 坂元秀壮, 黒木和男, 上木原貴仁, 前村誠, 江藤敏治, 翁長正明, 坪内博仁: フィブラストスプレー散布により治癒傾向を示した胃全摘出後の空腸吻合部潰瘍の一例. 第 66 回日本消化器内視鏡学会総会 2003, 10, 大阪

15) 江藤敏治, 亀井健二, 高山文子, 俵迫つや子: 健康診断への腹部エコー導入の意義と生活習慣病への関与.

第 41 回全国大学保健管理研究集会 2003, 10, 金沢

16) 蓮池悟, 宇都浩文, 中西千尋, 楠元寿典, 山本章二郎, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: HGF により誘導される Solt Farber Model ラット肝における遺伝子蛋白の発現変動の網羅的解析. 第 7 回日本肝臓学会大会 2003, 10, 大阪

17) 山本章二郎, 宇都浩文, 中西千尋, 楠元寿典, 田原良博, 蓮池悟, 沼田政嗣, 宮田義史, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 肝細胞増殖因子 (HGF) のマウス硫酸デキストラン実験腸炎に対する有効性の検討. 第 45 回日本消化器病学会大会 2003, 10, 大阪

18) 楠元寿典, 林克裕, 蓮池悟, 岩満章浩, 岩切久芳, 沼田政嗣, 山本章二郎, 加藤順也, 宇都浩文, 堀 剛, 坪内博仁: 新しく開発された HCV コア抗原測定法の基本検診による有用性. 第 7 回日本肝臓学会大会 DDW Japan 2003, 2003, 10, 大阪

19) 森内昭博, 井戸章雄, 永田佳子, 金一徳, 蓮池悟, 宇都浩文, 坪内博仁: 抗 Fas 抗体誘導急性肝不全モデルにおける肝細胞増殖因子の抗アポトーシス作用の解明. 第 45 回消化器病学会大会 2003, 10, 大阪

20) 日高智徳, 外山孝典, 久富木庸子, 坪内博仁: 成人 T 細胞白血病の同種末梢血幹細胞移植時に sporothrix schenckii による敗血症で死亡した 1 例. 第 26 回日本造血幹細胞学会 2003, 12, 横浜

21) 岡山昭彦: HTLV-1 抗体陽転者のウイルスマ-カの継時的変化. 第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会 2003, 11, 鹿児島

22) 佐々木隆, 岡山昭彦, 松元信弘, 鈴木泉, 河野喜美子, 坪内博仁: 宮崎県 H 市温泉事故によるレジオネラ症集団感染の臨床的検討. 第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会 2003, 11, 鹿児島

23) 元田みづえ, 加藤順也, 楠元寿典, 岩切久芳, 岩満章浩, 蓮池悟, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: C 型慢性肝炎のインターフェロン治療効果予測における高感度 HCV コア抗原測定法による HCV コア抗原量の有用性について. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

24) 江藤敏治, 林克裕, 岩満章浩, 岩切久芳, 沼田政嗣, 蓮池悟, 加藤順也, 宇都浩文, 堀 剛, 元田みづえ, 末田光恵, 村山貴, 村田光宏, 落合俊雅, 坪内直子, 黒木穰二, 黒木和男, 中間哲文, 坪内博仁: C 型慢性肝炎に対するリバビリンインターフェロン併用療法の効果予測因子に関する検討. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

25) 江藤敏治, 亀井健二, 坪内博仁: 学生健診での Body Mass Index (BMI) ならびに脂肪肝と Non Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) の因果関係. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

26) 蓮池悟, 岩切久芳, 岩満章浩, 元田みづえ, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁, 弘野修一, 北村亨, 山口幹生: 高齢者 C 型慢性肝炎に対するインターフェロン-リバビリン療法の工夫. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

27) 河野浩, 松岡均: Febrile Neutropenia に対する初期治

療無効例における注射用 ciprofloxacin の有用性に関する検討. 第 51 回日本化学療法学会西日本支部総会 2003, 12, 福岡

28) 佐々木文郷, 日高智徳, 外山孝典, 久富木庸子, 林克裕, 坪内博仁: 大量の滲出性腹水で発症し, 神経症状に乏しかった POEMS 症候群の 1 例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003, 2, 福岡

29) 河野浩, 松岡均: 心タンポナーデを契機に発見された乳癌の 1 例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003, 5, 長崎

30) 三池忠, 今津善史, 黒木穰二, 矢埜正実: 急性アニリン中毒による重症メトヘモグロビン血症の 1 例. 第 7 回日本救急医学会九州地方会 2003, 6, 佐世保

31) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 田原良博, 岩切久芳, 岩満章浩, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 関屋亮, 坪内博仁: 後腹膜に穿孔し, 後腹膜膿瘍, 後腹膜および縦隔気腫をきたした潰瘍性大腸炎の 1 例. 第 81 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 6, 福岡

32) 楠元寿典, 宇都浩文, 蓮池悟, 宮田義史, 堀 剛, 林克裕, 谷口正次, 古賀和美, 和田徹也, 坪内博仁: 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) に原発性肝細胞癌 (HCC) を合併した 1 例. 第 81 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 6, 福岡

33) 児玉真由美, 落合俊雅, 坪内直子, 村山貴信, 宮田義史, 林克裕, 坪内博仁: 自己免疫性膵炎が疑われた高齢発症の「びまん性膵腫大」の 1 例. 第 81 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 6, 福岡

34) 木村友昭, 村山貴信, 中間哲文, 加藤順也, 宮田義史, 坪内博仁: 原発巣と肝転移巣に PMC 療法が著効した S 状結腸癌の 1 例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 7, 宮崎

35) 沼田政嗣, 山本章二郎, 岩切久芳, 岩満章浩, 宮田義史, 田原良博, 宇都浩文, 南寛之, 堀 剛, 井戸章雄, 林克裕, 坪内博仁: 術後早期に再燃した単純性潰瘍の 1 例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 7, 宮崎

36) 井上龍二, 安倍弘生, 坂元秀壮, 黒木和男, 江藤敏治, 翁長正明, 桑田剛, 宮田義史, 坪内博仁: 悪性貧血を契機に発見された多発性胃カルチノイド腫瘍の 1 例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 7, 宮崎

37) 岡山昭彦: HTLV-1 抗体陽転者のウイルスマ-カの継時的変化. 第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会 2003, 11, 鹿児島

38) 佐々木隆, 岡山昭彦, 松元信弘, 鈴木泉, 河野喜美子, 坪内博仁: 宮崎県 H 市温泉事故によるレジオネラ症集団感染の臨床的検討. 第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会 2003, 11, 鹿児島

39) 亀田拓郎, 元田みづえ, 宇都浩文, 島佐保, 岩切久芳, 岩満章浩, 坂元秀壮, 永田賢治, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: 多彩な画像所見を呈した肝内腫瘍の 1 例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

40) 中澤潤一, 元田みづえ, 岩切久芳, 中西千尋, 坂元秀壮, 蓮池悟, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁, 村

山貴信, 落合俊雅: ラミブジン治療を行なった B 型急性肝炎重症型の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

41) 木村友昭, 宮田義史, 宮路紫織, 沼田政嗣, 山本章二郎, 中西千尋, 安倍弘生, 林克裕, 坪内博仁: 胃 MALT リンパ腫に微小胃癌を合併した 1 例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 76 回日本消化器内視鏡学会 2003, 11, 長崎

42) 村山貴信, 児玉眞由美, 坪内直子, 宮田義史, 林克裕, 坪内博仁, 峯一彦: 食道壁内転移を来したと考えられた食道類基底細胞癌の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 76 回日本消化器内視鏡学会 2003, 11, 長崎

43) 桑田剛, 宇都浩文, 楠元寿典, 蓮池悟, 元田みづえ, 永田賢治, 堀 剛, 林克裕, 山岸俊哉, 長池一博, 坪内博仁: 迅速簡便な HGF 半定量測定キットの作製とその有用性. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 76 回日本消化器内視鏡学会 2003, 11, 長崎

44) 三池忠, 宇都浩文, 佐々木文郷, 加藤順也, 坂元秀壮, 元田みづえ, 楠元寿典, 蓮池悟, 永田賢治, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: ラミブジン投与後 1 年 9 ヶ月を経て腹水が消失した HBV 関連非代償性肝硬変の 1 例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 76 回日本消化器内視鏡学会 2003, 11, 長崎

45) 木村友昭, 宮田義史, 宮路紫織, 沼田政嗣, 山本章二郎, 中西千尋, 安倍弘生, 林克裕, 坪内博仁: 胃 MALT リンパ腫に微小胃癌を合併した 1 例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会, 第 76 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

46) 白土明美, 山本章二郎, 宮田義史, 藤本千夏, 熊谷公太郎, 木村友昭, 安倍弘生, 中西千尋, 沼田政嗣, 坪内博仁: 消化器病変で発症した腸型ベーチェット病の 1 女児例. 第 76 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

47) 中間哲文, 末田光恵, 落合俊雅, 元田みづえ, 坪内博仁: リピオドールにアレルギーのある進行肝細胞癌患者にリザーバー動注が著効した 1 症例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会 2003, 11, 長崎

48) 元田みづえ, 加藤順也, 楠元寿典, 岩切久芳, 岩満章浩, 蓮池悟, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: C 型慢性肝炎のインターフェロン治療効果予測における高感度 HCV コア抗原測定法による HCV コア抗原量の有用性について. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

49) 江藤敏治, 林克裕, 岩満章浩, 岩切久芳, 沼田政嗣, 蓮池悟, 加藤順也, 宇都浩文, 堀 剛, 元田みづえ, 末田光恵, 村山貴, 村田光宏, 落合俊雅, 坪内直子, 黒木穰二, 黒木和男, 中間哲文, 坪内博仁: C 型慢性肝炎に対するリバビリンインターフェロン併用療法の効果予測因子に関する検討. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

50) 江藤敏治, 亀井健二, 坪内博仁: 学生健診での Body Mass Index (BMI) ならびに脂肪肝と Non Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) の因果関係. 第 35

回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

51) 永田佳子, 井戸章雄, 森内昭博, 金一徳, 楠元寿典, 蓮池悟, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁: 遺伝性高 AFP 血症における遺伝子解析. 第 25 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

52) 蓮池悟, 岩切久芳, 岩満章浩, 元田みづえ, 宇都浩文, 堀 剛, 林克裕, 坪内博仁, 弘野修一, 北村亨, 山口幹生: 高齢者 C 型慢性肝炎に対するインターフェロン-リバビリン療法の工夫. 第 35 回日本肝臓学会西部会 2003, 11, 岡山

53) 河野浩, 松岡均: Febrile Neutropenia に対する初期治療無効例における注射用 ciprofloxacin の有用性に関する検討. 第 51 回日本化学療法学会西日本支部総会 2003, 12, 福岡

<研究会>

1) 山元美保子, 松山弘紀, 佐々木隆, 甲斐泰文, 黒木昌幸, 山田琢也, 森祐一朗, 田中弦一, 村井幸一, 岡山昭彦, 坪内博仁, 天野正宏, 丸塚浩助: MRI で病変を確認し得た Rothmann-Makai 症候群の一例. 第 12 回宮崎臨床免疫研究会 2003, 2, 宮崎

2) 鶴村佳人子, 田中弦一, 甲斐泰文, 黒木昌幸, 森祐一朗, 佐々木隆, 村井幸一, 岡山昭彦, 坪内博仁, 鳥原康治, 浅田祐士郎: 静脈血栓症を合併した MPO-ANCA 陽性肥厚性硬膜炎の一例. 第 18 回宮崎県リウマチ研究会 2003, 3, 宮崎

3) 外山孝典, 鈴木斎王, 久富木庸子, 前田宏一, 松岡均, 坪内博仁: 長期間にわたり良好に経過している皮膚原発性形質細胞腫の一例. 第 21 回宮崎血液研究会 2003, 3, 宮崎

4) 井戸章雄: 肝再生の関連遺伝子群-HGF の標的分子の探索. 第 15 回西部肝臓フォーラム 2003, 3, 大阪

5) 岡山昭彦: HTLV-1 感染の自然史. 第 2 回 ATL M RD 研究会 2003, 3, 福岡

6) 三池忠, 今津善史, 黒木穰二, 矢埜正実: CHDF によって救命し得た糖尿病性ケトアシドーシスの一例. 第 3 回血液浄化研究会 2003, 5, 宮崎

7) 石崎淳三, 岡山昭彦, 黒木昌幸, 坪内博仁: IL-PCR を用いた新しい HTLV-1 検出方法の開発. 第 9 回地域から発信する科学技術シンポジウム 2003, 5, 宮崎

8) 森内昭博, 井戸章雄, 永田佳子, 金一徳, 蓮池悟, 宇都浩文, 坪内博仁: c-Met/Fas complex formation against anti-Fas-induced lethal hepatic failure instigated by hepatocyte growth factor. 第 8 回 US-Japan GI & Liver Meeting in 21st Century 2003, 6, 京都

9) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 宮路紫織, 佛坂正幸, 池田拓人, 千々岩一男, 坪内博仁: 腸管狭窄を来した分類不能型腸炎の一例. 第 20 回 IBD Club Jr. 研究会 2003, 6, 東京

10) 沼田政嗣, 山本章二郎, 宮田義史, 坪内博仁: HBV 陽性の潰瘍性大腸炎. 第 1 回 IBD Club Jr. Kyushu 2003, 7, 福岡

11) 江藤敏治, 林克裕, 岩満章浩, 岩切久芳, 沼田政嗣,

蓮池悟, 加藤順也, 宇都浩文, 堀 剛, 元田みずえ, 末田光恵, 村山貴信, 村田光宏, 落合俊雅, 坪内直子, 黒木穰二, 黒木和男, 中間哲文, 坪内博仁: C 型慢性肝炎に対するリバビリンインターフェロン併用療法の効果予測因子に関する検討. 九州慢性肝炎研究会 2003, 9, 福岡

12) 井上龍二, 吉澤大, 上村修司, 黒木和男: 食道蠕動運動の著明な低下が考えられた糖尿病・維持透析患者の一例. 宮崎 GERD 研究会 2003, 10, 宮崎

13) Nagata Y, Ido A, Uto H, Hasuike S, Moriuchi A, Hori T, Hayashi K, Tsubouchi H: A G to A substitution at -119 bp of the AFP gene is responsible for HPAFP. The 2nd Educational Seminar for Young Investigators-The 2nd Japan GRG/AGA Symposium. 2003, 12, 京都

<講演>

1) 坪内博仁: HGF の発見から臨床応用へ. 第30回肝臓研究会 30 回記念会 2003, 1, 東京

2) 坪内博仁: HGF による肝再生医療の展望. 第 6 回京都肝疾患治療研究会 2003, 1, 京都

3) 林克裕: コホートをを用いた C 型肝炎ウイルスによる肝細胞障害機序の解明—HCV 感染の高浸淫地域における検診結果を中心に—. 第 10 回免疫血清検査研修会 2003, 2, 宮崎

4) 坪内博仁: HGF の生理活性と再生医療. 第 10 回免疫血清検査研修会 2003, 2, 宮崎

5) 坪内博仁: GF の生理作用と再生医療. 第 3 回京都肝移植周術期研究会 2003, 3, 京都

6) 岡山昭彦: 院内感染対策の実際. 串間地区勉強会 2003, 3, 串間

7) 岡山昭彦: SARS とはどんな病気か. SARS 講演会 2003, 5, 宮崎

8) 林克裕: C 型慢性肝炎の現況—HCV 感染高浸淫地区でのコホート研究の結果, HCV コア抗原の意義, 新しい治療法について—. 都城市北諸県郡医師会学術講演会 2003, 5, 都城

9) 村井幸一: 強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎をもっと知ろう. 平成 15 年度難病医療講演会 2003, 5, 宮崎

10) 岡山昭彦: 温泉事故によるレジオネラ肺炎の臨床的検討. 宮崎県内科医会総会 2003, 6, 宮崎

11) 坪内博仁: HGF による再生医療の展望. 第 4 回 KYOTO IBD CLUB 2003, 6, 京都

12) 村井幸一: リウマチ性疾患診断のポイント—特徴的な臨床所見と自己抗体の見方—. 第 8 回宮崎リウマチ医の会 2003, 7, 宮崎

13) 坪内博仁: 慢性肝炎に対する抗ウイルス療法の新しい展開. 学術講演会 2003, 8, 静岡

14) 坪内博仁: C 型肝炎治療の新しい展開. 第 33 回大分感染症研究会 2003, 8, 大分

15) 林克裕: C 型慢性肝炎の新しい治療戦略. 延岡医学会学術講演会 2003, 9, 延岡

16) 坪内博仁: 肝臓の研究アップデート. 第 19 回九州肝臓談話会 2003, 9, 福岡

17) 林克裕: C 型慢性肝炎に対する IFN 治療の工夫. 第

11 回宮崎消化器病研究会 2003, 9, 宮崎

18) 坪内博仁: HGF による再生医療の展望. 第 13 回大分肝臓疾患研究会 2003, 9, 大分

19) 坪内博仁: HGF 肝再生療法の現況と展望. 第 4 回東北肝疾患病態・治療研究会 2003, 11, 仙台

20) 坪内博仁: 肝がん. テーマ「消化器がんから身を守るために」第 35 回市民公開講座 2003, 5, 串間

21) 坪内博仁: やさしい肝臓病のお話. 日本肝臓学会市民公開講座 2003, 11, 宮崎

22) 林克裕: やさしい肝臓病のお話. 日本肝臓学会市民公開講座 2003, 11, 高城

23) 宇都浩文: やさしい肝臓病のお話. 日本肝臓学会市民公開講座 2003, 11, 小林

24) 永田賢治: やさしい肝臓病のお話. 日本肝臓学会市民公開講座 2003, 11, 延岡

25) 堀 剛: やさしい肝臓病のお話. 日本肝臓学会市民公開講座 2003, 11, 高鍋

26) 井戸章雄, 翁長由紀子, 坪内博仁: 骨髄性プロトポルフィリン症におけるフェロケラターゼ遺伝子低発現野生型アレルの解析. 長崎大学大学院セミナー 2003, 12, 長崎

内科学第三講座 (Internal Medicine III)

◆著 書

- 1) Nakazato M: Novel mechanism of feeding regulation by ghrelin. *Progress in Obesity Research* p806-809, 2003.
- 2) 中里雅光: 胃ペプチドグレリンと食行動. 脳と栄養 - 行動の分子基盤を求めて - p137-155, 255. 建帛社, 東京, 2003.
- 3) 水田雅也, 松倉 茂: 内分泌疾患 高齢者の疾病と栄養改善への戦略. p188-192, 第一出版, 東京, 2003.
- 4) 山口秀樹, 松倉 茂: 異所性ホルモン産生腫瘍. 内科学第8版, 朝倉書店, p1654-1659, 2003.
- 5) 芦谷淳一, 有村保次, 中里雅光, 松倉 茂: 呼吸器疾患におけるデフェンシン. 臨床化学 特集・肺関連蛋白群, 第32巻第3号: p240-244, 2003.

◆原 著

- 1) Katoh S, Matsumoto N, Kawakita K, Tominaga A, Kincade PW, Matsukura S: A role for CD44 in an antigen-induced murine model of pulmonary eosinophilia. *J Clin Invest* 111:1563-1570, 2003.
- 2) Toshinai K, Date Y, Murakami N, Shimada M, Guan J, Wang Q, Funahashi H, Sakurai T, Shioda S, Matsukura S, Kangawa K, Nakazato M: Ghrelin-induced food intake is mediated via the orexin pathway. *Endocrinology* 144:1506-1512, 2003.
- 3) Mondal MS, Yamaguchi H, Date Y, Shimbara T, Toshinai K, Shimomura Y, Mori M, Nakazato M: A role for neuropeptide W in the regulation of feeding behavior. *Endocrinology* 144:4729-4733, 2003.
- 4) Hiratsuka T, Mukae H, Iiboshi H, Ashitani J, Nabeshima K, Minematsu T, Chino N, Ihi T, Kohno S, Nakazato M: Increased concentrations of human β -defensins in plasma and bronchoalveolar lavage fluid of patients with diffuse panbronchiolitis. *Thorax* 58:425-430, 2003.
- 5) Qiu DL, Chu CP, Shirasaka T, Nabekura T, Kunitake T, Kato K, Nakazato M, Katoh T, Kannan H: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing IH channel activity. *J Neurophysiol* 90:843-850, 2003.
- 6) Katoh S, Fukushima K, Matsumoto N, Matsumoto K, Abe K, Onai N, Matsushima K, Matsukura S: Accumulation of CCR4-expressing CD4+ T cells and high concentration of its ligands (TARC and MDC) in bronchoalveolar lavage fluid of patients with eosinophilic pneumonia. *Allergy* 58:518-523, 2003.
- 7) Mondal MS, Date Y, Murakami N, Toshinai K, Shimbara T, Kangawa K, Nakazato M: Neuromedin U acts in the central nervous system to inhibit gastric acid secretion via corticotropin-releasing hormone system. *Am J Physiol*

284:G963-G969, 2003.

- 8) Liu RH, Mizuta M, Matsukura S: Long-term oral nicotine administration reduces insulin resistance in obese rats. *Eur J Pharmacol* 458:227-234, 2003.
- 9) Matsumoto N, Katoh S, Mukae H, Matsuo T, Takatsu K, Matsukura S: Critical role of IL-5 in antigen-induced pulmonary eosinophilia, but not in lymphocyte activation. *Int Arch Allergy Immunol* 130:209-215, 2003.
- 10) Tanaka M, Naruo T, Yasuhara D, Tarebe Y, Nagai N, Shiya T, Nakazato M, Matsukura S, Nozoe S: Fasting plasma ghrelin levels in subtypes of anorexia nervosa. *Psychoneuroendocrinology*, 28:829-835, 2003.
- 11) Hanada T, Toshinai K, Kajimura N, Nara-Ahizawa N, Tsukada T, Hayashi Y, Kangawa K, Matsukura S, Nakazato M: Anti-cachectic effect of ghrelin in nude mice bearing human melanoma cells. *Biochem Biophys Res Commun* 301:275-279, 2003.
- 12) Shimada M, Date Y, Mondal MS, Toshinai K, Shimbara T, Fukunaga K, Murakami N, Miyazato M, Kangawa K, Yoshimatsu H, Matsuo H, Nakazato M: Somatostatin suppresses ghrelin secretion from the rat stomach. *Biochem Biophys Res Commun* 302:520-525, 2003.
- 13) Nakahara K, Hayashida T, Nakazato M, Kojima M, Hosoda H, Kangawa K, Murakami N: Effect of chronic treatments with ghrelin on milk secretion in lactating rats. *Biochem Biophys Res Commun* 303:751-755, 2003.
- 14) Hanada T, Date Y, Shimbara T, Sakihara S, Murakami N, Hayashi Y, Kanai Y, Suda T, Kangawa K, Nakazato M: Central actions of neuromedin U via corticotropin-releasing hormone. *Biochem Biophys Res Commun* 311:954-958, 2003.
- 15) Tanaka M, Naruo T, Nagai N, Kuroki N, Shiya T, Nakazato M, Matsukura S, Nozoe S: Habitual binge/purge behavior influences circulating ghrelin levels in eating disorders. *J Psychiatr Res* 37:17-22, 2003.
- 16) Tanaka M, Tatebe Y, Nakahara T, Yasuhara D, Sagiya K, Muranaga T, Ueno H, Nakazato M, Nozoe S, Naruo T: Eating pattern and the effect of oral glucose on ghrelin and insulin secretion in patients with anorexia nervosa. *Clin Endocrinol* 59:574-579, 2003.
- 17) Sawabe M, Hamamatsu A, Ito T, Arai T, Ishikawa K, Chida K, Izumiyama N, Honma N, Takubo K, Nakazato M: Early pathogenesis of cardiac amyloid deposition in senile systemic amyloidosis: Close relationship between amyloid deposits and basement membranes of myocardial cells. *Virchows Arch* 442:252-257, 2003.
- 18) Ikeda S, Takei Y, Tokuda T, Nakazato M, Ando Y: Clinical and pathological findings of non-Val30Met TTR type familial amyloid polyneuropathy in Japan. *Amyloid* 10:39-47, 2003.
- 19) Gen S, Koike H, Misu K, Hattori N, Yamamoto M, Ikeda S, Ando Y, Nakazato M, Inukai A: Clinicopathologic

and genetic features of early- and late-onset FAP type I (FAP ATTR Val30 Met) in Japan. *Amyloid* 10:32-38, 2003.

20) Hattori T, Takei Y, Koyama J, Nakazato M, Ikeda S: Clinical and pathological studies of cardiac amyloidosis in transthyretin type familial amyloid polyneuropathy. *Amyloid* 10:229-239, 2003.

21) Imamura T, Nakazato M, Date Y, Komatsu H, Ashizuka S, Aoyama F, Sumi M, Tsuruda T, Ishikawa T, Hirayama N, Matsuo T, Eto T: Cardiac amyloidosis associated with a novel transthyretin aspartic acid-18 glutamic acid de novo mutation. *Circ J* 67:965-968, 2003.

22) Nakamura S, Mizuno M, Katakami H, Gore AC, Terasawa EI: Aging-related changes in in vivo release of growth hormone-releasing hormone and somatostatin from the stalk-median eminence in female rhesus monkeys (macaca mulatta). *J Clin Endocrinol Metab* 88:827-833, 2003.

23) Mukae H, Ashitani J, Tokojima M, Ihi T, Kohno S, Matsukura S: Elevated levels of circulating adhesion molecules in patients with active pulmonary tuberculosis. *Respirology* 8:326-331, 2003.

24) 北市正則, 柳 重久: 特発性間質性肺炎とその周辺 10 基本病理像 2) NSIP, COP/BOOP, AIP/DAD, PB-TLD, DIP, LIP について. *日本胸部臨床*, 62:5075-5083, 2003.

◆症例報告

1) Yazawa S, Kawasaki S, Ohi T: Is there less micrographia in foreign language in Parkinson's disease? *Neurology* 61:1817, 2003.

2) Nakazato M, Matsukura S: Aged onset amyloidosis caused by transthyretin gene mutations. *Geriatrics Gerontol Int* 3:113-119, 2003.

3) Ashitani J, Yanagi S, Arimura Y, Sano A, Mukae H: Acute respiratory distress syndrome induced by rifampicin with high levels of neutrophil and eosinophil products in bronchoalveolar lavage fluid. *Respiration* 70:541-543, 2003.

4) Abe K, Yanagi S, Imazu Y, Sano A, Iiboshi H, Mukae H, Matsukura S: Acute eosinophilic pneumonia with fine nodular shadows. *Internal Medicine* 42:88-91, 2003.

5) 山口秀樹, 片上秀喜, 中野真一, 脇坂信一郎, 松倉茂: 高齢男性に発生したリンパ球性下垂体炎の1例. 内分泌興味ある症例 第42集 ホルモンと臨床 51(増):63-69, 2003.

6) 床島真紀, 三好かほり, 芦谷淳一: 窒息による上気道閉塞を契機に発症した肺胞出血の1例. *日本呼吸器学会雑誌* 41(6):407-410, 2003.

7) 床島真紀, 長友美達, 三好かほり: アルコール性ケトアシドーシスにビール瓶の破片誤飲による非外傷性小腸穿孔を併発したアルコール常飲者の1例. *宮崎県医師会医学会誌* 27(2):124-127, 2003.

8) 佐野ありさ, 高谷 洋, 阿部 航, 迎 寛: 多彩な胸部X線を示し気管支鏡生検で診断しえた膀胱癌肺転移の1

例. *日本胸部疾患学会雑誌* 62(4):269-374, 2003.

9) 有村保次, 芦谷淳一, 福山 税, 佐野ありさ: 気管支狭窄をきたし, 擦過細胞診により虫卵を証明したウエステルマン肺吸虫症の一例. *気管支学* 25(1):27-31, 2003.

10) 有村保次, 大井長和, 塩見一剛, 山下 篤, 浅田裕士郎: 慢性心筋炎の急性増悪を合併した多発性筋炎の1剖検例. *脳と神経* 55:599-604, 2003.

11) 柳 重久, 芦谷淳一, 有村保次, 佐野ありさ, 加藤茂樹: 人工呼吸管理を要し, 播種性血管内凝固を合併した重症クラミジア肺炎の1例. *日本呼吸器学会雑誌* 41(11):840-845, 2003.

12) 草場哲朗, 中原祥文, 松室明義, 中村隆志, 澤田昌平, 中里雅光: 運動負荷時の循環動態指標を連続モニターしえた家族性アミロイドポリニューロパチー (FAP type I) の孤発例. *呼吸と循環* 51:1263-1266, 2003.

◆総 説

1) Yamaguchi H, Nakazato M, Kangawa K: Ghrelin A gastric peptide that regulates hypothalamic control of feeding. *Curr Med Chem* 3:177-188, 2003.

2) Matsuno A, Nagashima T, Katakami H, Sanno N, Teramoto A, Takekoshi S, Osamura RY, Kirino T, Lloyd RY: Production of pituitary hormone by human pituitary adenoma is under autocrine and paracrine regulation of hypothalamic hormones secreted from adenoma cells. *Acta Histochem Cytochem* 36:415-420, 2003.

3) Matsuno A, Katakami H, Katayama H, Nagashima T, Sanno N, Teramoto A, Osamura R Y, Kirino T: Autocrine or paracrine regulation of pituitary hormone secretion by hypothalamic hormone in human pituitary adenomas. *Devel Human Pathol* 1:53-62, 2003.

4) 中里雅光: グレリン. *日本内科学会雑誌* 92:603-608, 2003.

5) 中里雅光: グレリン. *日本臨床 (増刊) 肥満症-生理活性物質と肥満の臨床*-61:199-205, 2003.

6) 中里雅光: グレリンの分布と摂食調節作用. *BIO Clinica* 18:498-503, 2003.

7) 中里雅光: 内科認定医トレーニング問題. *日本内科学会雑誌* 92:645-658, 2003.

8) 中里雅光: グレリンの摂食調節作用. *ホルモンと臨床* 51:803-809, 2003.

9) 中里雅光: グレリン. *日本内科学会雑誌* 92:603-608, 2003.

10) 片上秀喜: GHRHの超高感度測定法の開発と臨床的意義. *神経研究の進歩* 47:353-363, 2003.

11) 水田雅也: 脾臓移植と再生医療. *はまゆう* 54:3-5, 2003.

12) 上野浩晶: 軽症糖尿病. *はまゆう* 56:3, 2003.

13) 上野浩晶, 中里雅光: 成長ホルモン分泌におけるグレリンの作用. *内分泌・糖尿病科* 17:157-162, 2003.

14) 伊達 紫, 中里雅光: 新たな消化管ペプチド グレリンの神経系を介する摂食調節機構. *Medical Practice* 20:348-349, 2003.

15) 嶋田充志、中里雅光:中枢作用性抗肥満薬. 内科 98:322-326, 2003.

16) 嶋田充志、中里雅光:グレリンによる摂食調節とその分子機構. 内分泌・糖尿病科 16:271-277, 2003.

17) 嶋田充志、中里雅光、寒川賢治:新しい活性ペプチドグレリンの神経系での機能. 遺伝子医学 7:221-225, 2003.

18) 嶋田充志、児島将康、寒川賢治、中里雅光:グレリンの発見とその生理機構. 神経研究の進歩 47:335-347, 2003.

19) 橋田誠一、片上秀喜:グレリンの超高感度免疫測定法. 内分泌・糖尿病科 16:90-97, 2003.

20) 橋田誠一、片上秀喜:グレリンの超高感度免疫測定法. ホルモンと臨床 51:775-787, 2003.

◆辞典分担執筆

1) 中里雅光:「ウログアニリン」「オレキシン」「オレキシン受容体」「グアニリン」「ニューロペプチド Y」「肥満遺伝子」「メニン」「メラニン凝縮ホルモン」「レプチン」「レプチン受容体」「グレリン」「神経ペプチド」「成長ホルモン分泌促進因子受容体」医学大辞典:医学書院(東京), 2003.

◆Proceeding・年報

1) 中里雅光:新規ペプチドグレリンとニューロメジン U による摂食調節とその分子機構. 上原記念生命科学財団研究報告集 17:385-387, 2003.

2) 中里雅光:胃から発見された摂食亢進ペプチドグレリン. 第 124 回日本医学会シンポジウム記録集「肥満の科学」45-52, 2003.

3) 中里雅光:当科で診断した過去 5 年のトランスサイレチン型アミロイドポリニューロパチーの臨床多型に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究費委託(13 公-3) 遺伝性ニューロパチーの診断システムの確立および治療に関する研究. 平成 15 年度研究報告 32

4) 中里雅光:トランスサイレチン型アミロイドポリニューロパチーの臨床多型に関する研究. 厚生労働省精神・神経疾患研究費委託(13 公-3) 遺伝性ニューロパチーの診断システムの確立および治療に関する研究. 3 年間のまとめ 53

5) 中里雅光:新規消化管ホルモングレリンの腸管増殖・再生因子としての機能解析. 厚生労働科学研究費補助金. ヒトゲノム・再生医療等研究事業-新規腸管増殖・再生因子のクローニングに関する研究-. 平成 15 年度 総括・分担研究報告書 H15 ゲノム-002

6) 中里雅光:消化管ペプチドグレリンおよび CCK の情報伝達における自律神経系の役割. 厚生化学研究費補助金. 長寿科学総合研究事業. 高齢者のソマトポーズとエネルギー代謝に及ぼす新規ホルモン グレリンの役割と臨床応用. 平成 15 年度 総括・分担研究報告書 35-37

7) 中里雅光:非集積地におえるトランスサイレチン Val30Met 型アミロイドーシス患者の臨床像. 厚生労働科学研究費補助金. 難治性疾患克服事業. アミロイドーシスに関する調査研究. 平成 15 年度総括研究報告書 77-78

8) 片上秀喜、橋田誠一、山口秀樹、矢澤省吾、中野真一、脇坂信一郎:CNS 胚細胞腫の診断と治療経過:超高感度 HCG- β 測定法の開発と臨床応用. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会 Proceeding 日本内分泌学会雑誌, 79:S58-60, 2003.

9) 片上秀喜、橋田誠一、山口秀樹、矢澤省吾、中野真一、脇坂信一郎、松谷雅生:超高感度 HCG- β 測定法による CNS 胚細胞腫の診断と治療経過. 内分泌病理学最近の進歩 2003 ホルモンと臨床, 51 増:196-206, 2003.

10) 長池涼子、山口秀樹、山下康洋、長田幸夫、片上秀喜:副腎生検が有用であった結核性 Addison disease の一例. ACTH RELATED PEPTIDES 14:217-222, 2003.

11) 長池涼子、山口秀樹、長町茂樹、片上秀喜:FDG-PET が診断に有用であった気管支カルチノイドによる異所性 ACTH 症候群の一例. ACTH RELATED PEPTIDES 14:61-67, 2003.

12) 橋田誠一、片上秀喜:抗ヒト成長ホルモン(hGH)自己抗体 IgG の超高感度測定法の開発と下垂体炎診断への臨床応用. 成長科学協会研究年報 26:309-323, 2003.

13) 河野文彰、関屋 亮、篠原立大、内野広文、奥村恭久、笠木寛治、鬼塚敏男、片上秀喜:副甲状腺機能亢進症における 99mTc-sesta MIBI (methoxyisobutyl-isonitrile) シンチグラフィー施行例の検討と陰性例の臨床病理組織学的特徴. 内分泌病理学最近の進歩 2003 ホルモンと臨床 51 増:90-97, 2003.

14) 木村伯子、片上秀喜、田口文人、坂本宣英、豊田謙兼、笠井憲雪:ヒト組織におけるグレリン陽性細胞の分布. 内分泌病理学最近の進歩 2003 ホルモンと臨床 51 増:175-182, 2003.

◆学会報告

1) Nakazato M, Date Y, Kangawa K: The role of the gastric afferent vagal nerve in ghrelin-induced feeding and growth hormone secretion. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting 2003.6.20, Philadelphia.

2) Katakami H, Yonekawa T, Matsukura S, Hashida S, Kimura N: Regulation of ghrelin release by endogenous somatostatin in a unique transgenic strain of spontaneous dwarf rats (SDR) with a chimeric human growth hormone gene fused to the mouse metallothionein- I promoter. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting 2003.6.20, Philadelphia.

3) Katakami H, Tojo K, Hayashida CY, Toledo S PA, Hashida S: GH producing cells in patients with germline mutations in the PROP-1, PIT-1 and GHRH receptor genes. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting 2003.6.20, Philadelphia.

4) Hotta M, Ohwada R, Katakami H, Hizuka N, Shibasaki T, Shibasaki T, Takano K: The suppressive effect of intravenous glucose infusion on ghrelin secretion in anorexia nervosa patients. The Endocrine Society's 85th Annual Meeting 2003.6.20, Philadelphia.

5) Shimizu K, Itoh M, Takumi K, Mori T, Hashida S,

Kimura N, Katakami H: Ghrelin in macaque monkeys: tissue localization, dynamics and source of circulating ghrelin in both plasma and cerebrospinal fluid. The 8th International Pituitary Congress 2003.6.22-25, New York City.

6) Liu RH, Ueno H, Saitou Y, Mizuta M: A role for nicotinic acetylcholine receptors of adipocytes on regulation of insulin resistance. 18th International Diabetes Federation Congress 2003.8.29, Paris.

7) Katoh S, Matsumoto N, Matsukura S: Critical role of IL-5 in antigen-induced pulmonary eosinophilia, but not in lymphocyte activation. 18th World Allergy Organization Congress 2003.9.

8) 片上秀喜, 橋田誠一, 山口秀樹, 矢澤省吾, 中野真一, 脇坂信一郎: CNS 胚細胞腫の診断と治療経過: 超高感度 HCG- β 測定法の開発と臨床応用. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会 2003.2.4. 島根.

9) 福山 税, 有村保次, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹: 細菌性肺炎の治療中に発症した薬剤性肺炎の一例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003.2.8, 福岡.

10) 床島真紀, 三好かほり, 柴田剛徳, 桑田 剛, 芦谷淳一, 長友美達, 松崎忠樹: 経過中に急性心筋梗塞を合併した異型肺炎の一例. 第 260 回日本内科学会九州地方会 2003.2.8, 福岡.

11) 松元信弘, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹: 温泉入浴を契機に発症したレジオネラ肺炎症例の検討. 第 43 回日本呼吸器学会総会 2003.3.14, 福岡.

12) 松元信弘, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹: IL-5 受容体 α 鎖欠損マウスにおける好酸球性気道炎症および気道過敏性に関する解析. 第 43 回日本呼吸器学会総会 2003.3.14, 福岡.

13) 京楽由佳, 伊井敏彦, 平塚雄聡, 隈本健司, 芦谷淳一, 中里雅光: 慢性閉塞性肺疾患患者における血漿グレリンの臨床的検討. 第 43 回日本呼吸器学会総会 2003.3.14, 福岡.

14) 福山 税, 有村保次, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹: 当科および関連施設にて経験した肺寄生虫症の臨床的検討. 第 43 回日本呼吸器学会総会 2003.3.14, 福岡.

15) 谷口幹太, 斉藤隆俊, 東条克能, 田嶋尚子, 片上秀喜: 下垂体複合ホルモン分泌不全を伴った 1 型糖尿病の一症例. 第 13 回臨床内分泌代謝 Update 2003.3.15, 東京.

16) 長池涼子, 片上秀喜, 山口秀樹, 脇坂信一郎: 男子プロラクチノーマ(P)の自験 10 症例での治療成績. 第 13 回臨床内分泌代謝 Update 2003.3.16, 東京.

17) 山口秀樹, 長池涼子, 長田幸夫, 片上秀喜: 両側副腎腫大を来した副腎結核と診断されたアジソン病の一例. 第 13 回臨床内分泌代謝 Update 2003.3.16, 東京.

18) 大澤博之, 中里雅光, 椎屋智美, 伊達 紫, 上野浩晶, 江田 証, 谷仲一郎, 佐藤貴一, 武藤弘行, 菅野健太郎: Helicobacter pylori 感染除菌前後の体重, 体脂肪量と血漿および胃粘膜グレリンの変化. 第 100 回日本内科

学会講演会 2003.4.1, 福岡.

19) 片上秀喜, 米川忠人, 山口秀樹, 東条克能, 橋田誠一: ヒト下垂体転写因子異常症における GH 産生細胞群の同定. 第 100 回日本内科学会講演会 2003.4.3, 福岡.

20) 山口秀樹, 米川忠人, 松倉 茂, 片上秀喜: 当院における甲状腺未分化癌の臨床的検討. 第 100 回日本内科学会講演会 2003.4.3, 福岡.

21) 大澤博之, 中里雅光, 椎屋智美, 伊達 紫, 上野浩晶, 佐藤貴一, 武藤弘行, 菅野健太郎: Helicobacter pylori 感染除菌前後の体重, 体脂肪量および胃粘膜グレリンの変化. 第 89 回日本消化器病学会総会 2003.4.24.

22) 片上秀喜, 奈須和幸, 森山晶子, 大橋京子, 橋本務, 橋田誠一, 木村伯子: アルギニン(Arg)によるグレリン(Ghr)分泌抑制と内因性ソマトスタチン. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.9, 横浜.

23) 橋本 務, 奈須和幸, 森山晶子, 大橋京子, 米川忠人, 松倉 茂, 片上秀喜: 下垂体以外の組織でヒト GH 遺伝子を過剰発現し, ラット巨人症を示したマウス Metallothionein I(MT)-hGH-Tg 遺伝性侏儒症ラット. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.9, 横浜.

24) 森山晶子, 大橋京子, 山口秀樹, 長池涼子, 奈須和幸, 橋本 務, 橋田誠一, 木村伯子, 石橋みゆき, 片上秀喜: アルギニン(Arg)によるヒト血中グレリン(Ghr)分泌抑制と成長ホルモンGH分泌促進作用. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.9, 横浜.

25) 清水慶子, 託見健, 橋田誠一, 大橋京子, 片上秀喜: ニホンザルにおける血中グレリンの分泌動態(1): 食物投与による血中濃度の変化. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.9, 横浜.

26) 福田顕弘, 上野浩晶, 長池涼子, 山口秀樹, 水田雅也: 神経性大食症(BN)と非アルコール性市肝炎(NASH)を合併した 1 型糖尿病の 1 例. 第 261 回日本内科学会九州地方会 2003.5.10. 長崎.

27) 奈須和幸, 森山晶子, 大橋京子, 片上秀喜: ラット生後発達と思春期発来に及ぼす内因性グレリンの作用. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.

28) 山口秀樹, 長池涼子, 片上秀喜: 術前診断に PET が有効であった異所性 ACTH 産生腫瘍(肺カルチノイド)の一例. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.

29) 片上秀喜, 米川忠人, 山口秀樹, 東条克能, 橋田誠一, 菊池 清, 望月貴博, 藤田敬之助, 野瀬 幸, 藤本茂紘: 下垂体前葉機能低下症診療の進歩 下垂体転写因子異常症ならびに成長ホルモン(GH)分泌促進ホルモン(GHRH)リセプター(Rc)異常症における GH 産生細胞群の同定. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.

30) 嶋田充志, 伊達紫, 中里雅光, 吉松博信: ソマトスタチンによるグレリン分泌調節に関する研究. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.

31) モンダール MS, 伊達 紫, 南野直人, 寒川賢治, 中里雅光: A role of central neuropeptide U in inhibition of gastric acid secretion via CRH. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.

- 32) 伊達 紫, 寒川賢治, 中里雅光: 胃グレリンの神経系を介する作用機構に関する研究. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.
- 33) 中里雅光, 伊達 紫, 寒川賢治: グレリンの局在と生理作用. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.
- 34) 山内敏正, 尾池雄一, 脇 裕典, 戸部一之, 佐伯武頼, 中里雅光, 山村研一, 永井良三, 木村 哲, 門脇 孝: CBP ヘテロ欠損マウスを用いたレプチン/アディポネクチン非依存性の体重・糖代謝調節経路の同定. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.
- 35) 十枝内厚次, 伊達 紫, 村上 昇, 舟橋久幸, 塩田清二, 井上修二, 寒川賢治, 中里雅光: 視床下部腹内側核破壊ラットにおけるグレリン発現. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.
- 36) 柴田美雅, 中里雅光, 上田陽一: ラット嗅球におけるオレキシンの役割の検討. 第 76 回日本内分泌学会 2003.5.11, 横浜.
- 37) 大井長和: 下位運動ニューロン徴候を中核とする FALS 患者における錐体路病変の検出について. 第 44 回日本神経学会総会 2003.5.15, 横浜.
- 38) 伊達 紫, 中里雅光: 迷走神経求心路の消化管ホルモン情報伝達機構における新たな役割. 第 44 回日本神経学会総会 2003.5.15, 横浜.
- 39) 水田雅也, 椎屋智美, 野間健之, 齋藤幸枝, 長池涼子, 上野浩品, 山口秀樹, 松倉 茂: 糖尿病患者における酸化ストレスと高トリグリセリド血症. 第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会 2003.5.23, 富山.
- 40) 上野浩品, 椎屋智美, 水田雅也, 中里雅光: 糖尿病における血中グレリン濃度の検討. 第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会 2003.5.23, 富山.
- 41) 劉 潤華, 上野浩品, 齋藤幸枝, 水田雅也: インスリン抵抗性における肝臓の役割に関する研究- ニコチン経口投与による検討. 第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会 2003.5.23, 富山.
- 42) 川端國旦, 高嶋伸幹, 杉本精一郎, 大井長和: 非定型的経過を示した CJD の一症例. 第 162 回日本神経学会九州地方会 2003.6.21, 沖縄.
- 43) 藤本千夏, 西桂子, 高嶋伸幹, 川端國旦, 杉本精一郎, 大井長和: 右視力低下と右眼の眼球運動障害を呈した侵襲性アスペルギルス症の一例. 第 162 回日本神経学会九州地方会 2003.6.21, 沖縄.
- 44) 村原貴史, 今津善史, 福山 税, 有村保次, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹: 移動し空洞を伴う腫瘤影を呈したウエステルマン肺吸虫症の一例. 第 50 回日本呼吸器学会九州地方会 2003.6, 福岡.
- 46) 松本 亮, 野村かおり, 加藤茂樹: 気管支肺胞洗浄液中の Th1 および Th2 サイトカインが高値を示した薬剤性肺炎の一例. 第 26 回日本気管支学会九州支部総会 2003.8.23, 長崎.
- 47) 片上秀喜, 清水慶子, 奈須和幸, 橋本 務, 大橋京子, 橋田誠一, 木村伯子: アカゲザルの Ghrelin の cloning, 組織濃度, 局在と成長ホルモンとの相関. 第 30 回日本神経内分泌学会 2003.9.11, 横浜.
- 48) 清水慶子, 伊藤麻里子, 託見 健, 森 琢磨, 奈須和幸, 橋本 務, 木村伯子, 片上秀喜: マカクザルにおける血中および髄液中グレリン分泌動態とその分泌源. 第 30 回日本神経内分泌学会 2003.9.11, 横浜.
- 49) 伊達 紫, 寒川賢治, 中里雅光: 末梢摂食促進ペプチド グレリンの中枢への情報伝達機構. 第 30 回日本神経内分泌学会 2003.9.11, 横浜.
- 50) 長池涼子, 片上秀喜, 山口秀樹, 中野真一, 脇坂信一郎, 池田秀敏: 若年者における下垂体偶発腫の診断と治療. 第 3 回日本内分泌学会九州地方会 2003.9.20, 福岡.
- 51) 山口秀樹, 長池涼子, 片上秀喜: 早期閉経, 頭痛の精査中に発見された家族性プロラクチノーマの 1 家系例. 第 3 回日本内分泌学会九州地方会 2003.9.20, 福岡.
- 52) 片上秀喜, 米川忠人, 山口秀樹, 東條克能, 橋田誠一, 菊池 清: 先天性ならびに後天性成長ホルモン (GH) 分泌不全症における GH 産生細胞群の同定. 第 3 回日本内分泌学会九州地方会 2003.9.20, 福岡.
- 53) 土持若葉, 山口秀樹, 長池涼子, 片上秀喜: 多発骨折と血液凝固異常を合併したクッシング症候群の 1 例. 第 3 回日本内分泌学会九州地方会 2003.9.20, 福岡.
- 54) 椎屋智美, 水田雅也, 上野浩品, 山口秀樹: 比較的急激な腎機能悪化を認めた高齢者 2 型糖尿病の一例. 第 41 回日本糖尿病学会九州地方会 2003.10.17, 福岡.
- 55) 松尾 崇, 山口秀樹, 椎屋智美, 上野浩品, 水田雅也: 結核性脊椎炎によりミエロパチーを来した 2 型糖尿病の一例. 第 41 回日本糖尿病学会九州地方会 2003.10.17, 福岡.
- 56) 土持若葉, 上野浩品, 長池涼子, 山口秀樹, 水田雅也: インスリン製剤規格変更後にケトアシドーシスを発症した 1 型糖尿病の一例. 第 41 回日本糖尿病学会九州地方会 2003.10.17, 福岡.
- 57) 椎屋智美, 水田雅也, 上野浩品, 山口秀樹: 比較的急激な腎機能悪化を認めた高齢者 2 型糖尿病の一例. 第 41 回日本糖尿病学会九州地方会 2003.10.17, 福岡.
- 58) 木村伯子, 片上秀喜, 田口文人, 相羽元彦: 拒食症患者の血中グレリン値と剖検胃のグレリン陽性細胞. 第 7 回日本内分泌病理学会 2003.10.24, 東京.
- 59) 加藤茂樹, 松元信弘, 松本 亮, 福島喜代康: 好酸球性肺炎における BALF 中 IL-18 の検討. 第 53 回日本アレルギー学会総会 2003.10, 岐阜.
- 60) 有村保次, 芦谷淳一, 床島真紀, 阿部 航, 迎 寛: 肺癌患者における β デフェンシンに関する臨床的検討. 第 44 回日本肺癌学会総会 2003.11.6, 東京.
- 61) 伊達 紫, 中里雅光: 新たな神経ペプチド Neuropeptide W の摂食調節機構に関する研究. 第 24 回日本肥満学会 2003.11.13, 千葉.
- 62) 幸田修一, 伊達 紫, 古谷真優美, 中里雅光: 消化管ペプチド PYY3-36 の摂食調節機構の検討. 第 24 回日本肥満学会 2003.11.13, 千葉.
- 63) 床島真紀, 福山 税, 今津善史, 有村保次, 佐野ありさ, 芦谷淳一, 加藤茂樹: 両側肺ムコール症を合併した 1 型糖尿病の 1 例. 第 51 回日本呼吸器学会九州地方会

2003.11.14, 久留米。

64) 熊谷公太郎, 床島真紀, 今津善史, 有村保次, 佐野ありさ, 芦谷淳一, 加藤茂樹, 外山勝浩, 小宗静男: 側頸嚢胞の膿瘍形成に伴う敗血症のため ARDS をきたした 1 例。第 51 回日本呼吸器学会九州地方会 2003.11.14, 久留米。

65) 今津善史, 芦谷淳一, 有村保次, 佐野ありさ, 床島真紀, 加藤茂樹, 中里雅光, 山田和弘, 原誠一郎: Goodpasture 症候群が疑われた肺胞出血の 1 例。第 263 回日本内科学会九州地方会 2003.11.16。

66) 石本裕士, 迎 寛, 平塚雄聡, 芦谷淳一, 伊達 紫, 河野 茂, 中里雅光: 抗菌ペプチド human β defensin(hBD)-3 の気道における発現と肺炎に伴う血清濃度変化に関する検討。第 73 回日本感染症学会西日本地方会総会 2003.11.20, 鹿児島。

67) 河野布三子, 松元信弘, 加藤茂樹: 好酸球性肺炎の病態における Th2 細胞の役割。第 33 回日本免疫学会総会 2003.12.8, 福岡。

68) 京楽 格, 川端國旦, 杉本精一郎, 大井長和, 中里雅光, 中村ふくみ, 広松賢治, 名和行文: 反復性の左下肢の感覚低下をきたした犬回虫幼虫関連脊髄炎の 1 症例。第 164 回日本神経学会九州地方会 2003.12.13, 福岡。

69) 大井長和, 高嶋伸幹, 小玉隆男, 中馬秀樹: 緩徐進行性の一側性動眼神経麻痺について。第 41 回日本神経眼科学会総会 2003.12.13, 京都。

70) 大井長和, 京楽 格, 長町茂樹, 中村都英: 脳血管障害による視覚性運動失調の責任病巣について。第 41 回日本神経眼科学会総会 2003.12.13, 京都。

71) 西 義人, 磯本 一, 上野浩晶, 迎 寛, 竹島史直, 水田陽平, 村瀬邦彦, 村田育夫, 中里雅光, 河野 茂: H.pylori 感染と血漿レプチン, グレリンの関連性。日本消化器内視鏡学会 2003。

72) 大澤博之, 中里雅光, 椎屋智美, 伊達 紫, 上野浩晶, 江田 証, 谷仲一郎, 佐藤貴一, 武藤弘行, 菅野健太郎: Helicobacter pylori 感染除菌前後の体重, 体脂肪量と血漿及び胃粘膜グレリンの変化。日本内科学会学術講演会, 2003。

73) 関 良二, 加藤茂樹: 宮崎県下における気管支喘息患者の実態調査と宮崎県気管支喘息フォーラム4年間の活動のまとめ。第 15 回日本アレルギー学会春季臨床大会。

◆招待講演・その他

1) 水田雅也: 糖尿病の成因・疫学について。第 1 回宮崎県糖尿病スタッフ研修会 2003.4.19, 宮崎。

2) 水田雅也: 外来における糖尿病管理。第 16 回宮崎県糖尿病ナース研修会 2003.6.29, 宮崎。

3) 中里雅光: 新規ペプチドホルモンの発見とその生理的意義。日本医師会シンポジウム 2003.8.30, 箱根。

4) 水田雅也: 糖尿病診断のすすめ方。平成 15 年度宮崎県医学会 2003.9.6, 宮崎。

5) 水田雅也: 脂肪細胞と糖尿病。第 15 回宮崎県糖尿病教育セミナー 2003.9.7, 日向。

6) Katakami H, Hashida S, Yamaguchi H, Yazawa S, Nakano S, Wakisaka S, Matsutani M: Development of an ultrasensitive EIA for human chorionic gonadotropin β -subunit (hCG- β) as a tumor marker of pure germinoma. The first international symposium on CNS Germ Cell Tumors 2003.9.19, 京都。

7) 中里雅光: 肥満のメカニズム-ペプチドによる摂食調節機構-。第 3 回南日本生活習慣病研究会 2003.9.20, 大分。

8) 中里雅光: 宮崎医科大学付属病院における呼吸器, 内分泌, 代謝, 肥満症, 神経内科の診断。延岡例会(延岡医師会) 2003.9.24, 延岡。

9) 中里雅光: 肥満のメカニズム: 摂食調節機構研究の進歩。第 2 回東北生活習慣病研究会 2003.9.30, 仙台。

10) 加藤茂樹: 気管支喘息における去痰薬の効果。学術講演会 2003.9, 福岡。

11) 中里雅光: 肥満と高脂血症。宮崎 1 期会学術講演会 2003.10.22, 宮崎。

12) 加藤茂樹: 好酸球性気道炎症における CD44 の役割。第 11 回九州肺生理セミナー 2003.10, 福岡。

13) 中里雅光: 宮崎大学医学部附属病院における呼吸器, 内分泌・代謝, 肥満症, 神経内科の診療。日向市東臼杵郡医師会学術講演会 2003.11.19, 日向。

14) 中里雅光: 人はなぜ太るのか? 食欲調節のしくみ。第 10 回生活習慣病研究会学術講演会 2003.11.28, 鹿児島。

15) 加藤茂樹: マウスモデルを用いた好酸球性気道炎症に関する研究- IL-5R と CD44 から。国立相模原病院臨床研究センター 11 月集談会 2003.11, 相模原。

16) 中里雅光: 肥満研究の進歩。宮崎県糖尿病懇話会 2003.12.6, 宮崎。

◆研究会

1) 上野浩晶: 神経性大食症(BN)と非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を合併した 1 型糖尿病の一例。第 85 回宮崎県糖尿病懇話会 2003.3.29, 宮崎。

2) 長池涼子, 山口秀樹, 長町茂樹, 片上秀喜: FDG-PET が診断に有用であった気管支カルチノイドによる異所性 ACTH 症候群の 1 例。第 14 回 ACTH-CRH 研究会 2003.3.29, 大阪。

3) 長池涼子, 山口秀樹, 山下康洋, 長田幸夫, 片上秀喜: 副腎不全, 副腎生検により診断した結核性 Addison 病の 1 例。第 14 回 ACTH-CRH 研究会 2003.3.29, 大阪。

4) 椎屋智美, 上野浩晶, 水田雅也: 内科・眼科の診療連携。現在の状況と今後のあり方。第 9 回宮崎県糖尿病内科眼科共同懇話会 2003.3, 宮崎。

5) 水田雅也, 上野浩晶: 糖尿病患者における酸化ストレス。第 6 回宮崎県糖尿病合併症研究会 2003.4.12, 宮崎。

6) 加藤茂樹: 気管支喘息のコントロール。第 8 回香川アレルギー研究会 2003.4, 高松。

7) 中里雅光: 新規ペプチドグレリンとニューロメジン U による脂質代謝と摂食調節の研究。財団法人小野医学研

8) 水田雅也: 宮崎糖尿病症例検討会 2003.7.23, 宮崎.

9) 中里雅光, 伊達 紫: 胃から発見された摂食亢進/成長ホルモン分泌促進ペプチドグレリンの脳への情報伝達に関する研究 第10回消化管分子機構研究会 2003.7.

10) 有村保次, 今津善史, 佐野ありさ, 床島真紀, 芦谷淳一, 加藤茂樹, 中里雅光: 肺癌患者における血中抗菌ペプチド値上昇. 第14回宮崎県肺癌研究会 2003.9.12, 宮崎.

11) 上野浩晶, 水田雅也: インスリン療法からアマリールへの変更症例の検討. アマリール症例検討会 2003.10.11, 宮崎.

12) Nasu K, Katakami H, Ohashi K, Hashida S, Hashimoto T: Ghrelin levels in human GH-transgenic rats. 第17回小児成長障害研究会 2003.11.1, 京都.

13) Katakami H, Tojo K, Kikuchi K, Nose O, Fujimoto S, Hayahida CY, Toledo S PA, Hashida S, Nasu K, Ohashi K: Function of prolactin-and GH-secreting cells in patients with inactivating mutations in PIT-1 and PROP-1 genes as assessed by ultrasensitive EIAs. 第17回小児成長障害研究会 2003.11.1, 京都.

14) 柳 重久, 北市正則: 呼吸細気管支炎を伴う間質性肺疾患 (RB-ILD) と剥離性間質性肺炎 (DIP) の臨床病理学的比較検討. 京都大学医学部附属病院病理部研究会 2003.12.13, 京都.

15) 柳 重久, 北市正則: 外科的肺生検対象症例における UIP と NSIP における基礎疾患の検討. 京都大学医学部附属病院病理部研究会 2003.12.13, 京都.

精神医学講座 (Psychiatry)

◆原著

1) Ueda Y, Doi T, Tokumaru J, Willmore LJ: Effect of zonisamide on molecular regulation of glutamate and GABA transporter proteins during epileptogenesis in rats with hippocampal seizures. *Mol Brain Res* 116(1-2):1-6 (2003)

2) Ueda Y, Nakajima A, Tokumaru J: Antioxidant ability and lipid peroxidation in the hippocampus with epileptogenesis induced by Fe⁺⁺⁺ injection into the amygdaloid body of rats. *Neurochem Res* 28:1895-1900 (2003)

3) Jin QH, Kunitake T, Chu CP, Qiu DL, Kato K, Ishizuka Y, Kannan H: Possible involvement of nitric oxide in the central salt-loading-induced cardiovascular responses in conscious rats. *Brain Res* 963: 224-231 (2003)

4) 石田康, 中村直人, 沖隆, 安部博史, 中原大一郎: 脳内自己刺激行動に伴うモノアミン生合成の促進に及ぼす副腎摘除効果. 脳と精神の医学 14 (4): 339-344 (2003)

5) 橋口浩志, 石田康, 武田龍一郎, 安部博史, 石塚雄太, 河南洋, 西森利数, 中原大一郎: 情動ストレスによるラット視床下部室傍核の Fos 蛋白発現. 脳と精神の医学 14 (4): 331-337 (2003)

6) 平佐佳代, 石田康, 宮原恵美, 西田深雪, 槇英俊, 徳丸潤, 植田聡美, 三山吉夫: 高齢者の非分裂病性精神障害に対する risperidone の臨床効果. 精神科治療学 18 (2): 209-215 (2003)

◆症例報告

1) 石田康, 鈴木康義, 長町茂樹, 三山吉夫: クエチアピンが有用であった薬剤性精神病を伴うパーキンソン病の1例. 精神医学 45 (4): 421-424 (2003)

2) 植田勇人: クロバザム(マイスタン)追加投与が奏効したレンノックス症候群の2例. *Pharma Medica* 21(5):176-178 (2003)

3) 植田勇人: メンタルヘルス相談事例. さんぽ 5(6): 6-7 (2003)

4) 植田勇人, 山下直子, 長町茂樹: 発作時 SPECT の3D SRT 解析によっててんかん焦点の同定にいたった1症例. 脳と神経 55(7): 637-640 (2003)

5) 植田勇人, 鈴木康義, 三山吉夫: 第四番染色体短腕中間部欠損症にみられた難治性複雑部分発作にクロバザム(マイスタン)が奏効した一症例. *Progress in Medicine* 23:1177-1179 (2003)

6) 後田卓成, 橋口浩志, 石田康, 三山吉夫: ヨードホルム創部充填によりせん妄を呈した1例. 九州神経精神医学 49 (2): 75-80 (2003)

7) 長友慶子, 長町茂樹, 石田康: C型慢性肝炎のインターフェロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験. *Pharma Medica* 21 (11): 133-137 (2003)

8) 船橋英樹, 土井拓, 徳丸潤, 石田康: クアゼパムによ

って睡眠薬が簡素化できた統合失調症の1例. Medical Postgraduates 41 (5): 363-365 (2003)

9) 鶴衛亜里沙, 植田勇人, 山崎啓之, 児玉裕文, 有森和彦, 石田康: パルプロ酸ナトリウム投与が著効した身体表現性疼痛性障害を伴った気分変調症の1例. 精神科 5 (3): 245-248 (2003)

◆総 説

1) 植田勇人: ゾニサミドの作用機序と最近の研究動向. Medical Academy News 872: 12 (2003)

◆その他(資料、報告書、医家向け情報誌記事、学会記録集等)

1) Ishida Y, Nakamura M, Mitsuyama Y, Nakahara D: Lack of glucocorticoids attenuates the intracranial self-stimulation-induced increase in the in vivo synthesis rate of dopamine but not serotonin in the rat nucleus accumbens. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S29 (2003)

2) Ishida Y, Ishizuka Y, Nakahara D, Kannan H: Effects of intraperitoneal interleukin-1 β or footshock stress on norepinephrine and nitric oxide metabolite concentrations in the rat brain. Journal of Brain Science 29: 48 (2003)

3) Ishida Y, Nakamura M, Takita M, Nakahara D: Differential time courses of extracellular glutamate concentrations in the rat medial prefrontal cortex during rewarding and aversive behaviors. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S59 (2003)

4) Ueda Y, Tokumaru J, Hayashi Y, Nakajima A, Yokoyama H, Doi T, Mitsuyama Y: Collapse of redox state by glutamate transporter inhibition in the rat's hippocampus. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: s31 (2003)

5) Ishizuka Y, Ishida Y, Kannan H: Effect of central interleukin-1 β on nitric oxide and hydroxyl radical productions in the medial prefrontal cortex. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S28 (2003)

6) Ishizuka Y, Hashiguchi H, Ishida Y, Kannan H: GABAA receptors in the medial prefrontal cortex modulating interleukin-1 β -induced nitric oxide releases in the hypothalamic paraventricular nucleus in conscious rats. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S59 (2003)

7) Ishizuka Y, Ishida Y, Kannan H: Effect of central or peripheral IL-1 β on hydroxyl radical and nitric oxide productions in the medial prefrontal cortex in conscious rats. Neurochemical Research 28(7): 1099 (2003)

8) Ishizuka Y, Ishida Y, Kannan H: GABA receptor in the medial prefrontal cortex modulating interleukin-1 β -induced NO release in the hypothalamic paraventricular nucleus. Neuroscience Res 46: S162 (2003)

9) Ishizuka Y, Callaway J, Jarrott B, Ishida Y, Kannan H: Effect of AM-36 on blood-brain barrier disruption endothelin-1-induced middle cerebral artery occlusion model of focal ischemia in conscious rats. Japanese Journal of Physiology 53: S324 (2003)

10) Hashiguchi H, Ishida Y, Takeda R, Nishimori T, Nakamura M, Nakahara D, Niki H: Immunohistochemical characterization of Fos immunopositive cells in the inferior and superior colliculi following audiogenic seizures in rats. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S32 (2003)

11) Doi T, Westfall TC, Willmore LJ, Ueda Y, Gardner A, Knuepfer MM, Yang CL, Naes L: Glutamate transporters expression in the rat hippocampus after Y1 and Y2 receptor antagonist injection. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S31 (2003)

12) Takeda R, Ishida Y, Hashiguchi H, Nishimori T, Mitsuyama Y: Effects of unilateral lesion of mesencephalic dopaminergic pathway on behavior response and c-Fos expression by mechanical stimulus to the rat hindpaw. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S25 (2003)

13) Takada R, Abe H, Hashiguchi H, Ishida Y, Ikeda T, Nishimori T: Effects of unilateral lesion of mesencephalic dopaminergic pathway on behavior response by mechanical stimulus to the rat hindpaw. Psychiatry and Clinical Neurosciences 57: S68 (2003)

14) 石田康, 高宮真樹, 竹内康三, 吉田建世: 非定型抗精神病薬における塩酸ペロスピロンの位置づけ. Pharma Medica 21 (3): 163-169 (2003)

15) 石田康: 学会印象記. 第8回日本神経精神医学会臨床精神医学 32(6): 703-704 (2003)

16) 石田康: 就任挨拶. みやせいきょう会誌 48: 2 (2003)

17) 石田康: 近況近影. いずみ 50(7): 11 (2003)

18) 石田康: “家裁の人”から学ぶこと(巻頭言). 精神医学 45(9): 914-915 (2003)

19) 石田康: 3代目(巻頭言). 宮崎県精神科医会会誌 18: 2-3 (2003)

20) 石田康: 自己と非自己の和合. 第28回すずかけ祭パンフレット 51 (2003)

21) 石田康: 宮崎医科大学教授新任挨拶. 日州医事 644: 31 (2003)

22) 植田勇人, 徳丸潤, 土井拓, 林要人, 三山吉夫: キンドリング形成に対する海馬レドックス変動の影響. てんかん研究 21(1): 80 (2003)

23) 石塚雄太, 石田康: 宮崎医科大学医学部附属病院精神科卒後臨床研修プログラム. 精神科 3(1): 88-90 (2003)

24) 土井拓, Westfall T, Willmore LJ, 植田勇人, Gardner A, Knuepfer M, Yang CL, Naes L: Neuropeptide Y1及びY2受容体阻害剤の脳室内投与に伴う海馬、前頭皮質グルタミン酸トランスポーターの発現変化. てんかん研究 21(1): 82 (2003)

25) 安部博史, 岩崎庸男: ラットの物体再認識記憶課題の遂行における嗅周皮質NMDA系及びアセチルコリン系の役割. 生理心理学と精神生理学 21: 147 (2003)

26) 鶴紀子, 植田勇人, 土井拓: Amygdaloid kindling and secondary epileptogenesis in glutamate transporter (GLAST or GLT-1) knockout mice. てんかん研究 21(1): 81 (2003)

27) 橋口浩志, 植田聡美, 石田康, 赤松馨, 上田啓司:

児童思春期の外来統計とその考察- 宮崎医大と県立富養園との比較検討- . 宮崎県精神科医学会誌, 18: 23-24 (2003)

28) 長友慶子, 長町茂樹, 石田康, 三山吉夫: インターフェロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験. 宮崎県精神科医学会誌, 18: 27-28 (2003)

29) 松田裕, 石塚雄太, 西井龍一, 石田康: 閉鎖性頭部外傷後遺症として痴呆症状を呈した一症例. 宮崎県精神科医学会誌, 18: 28-29 (2003)

30) 石塚雄太, 橋口浩志, 石田康, 河南洋: ストレス負荷時の視床下部室傍核・前頭前野における一酸化窒素とGABAの機能解明. マイクロダイアリシス及び免疫組織化学法による神経薬理・形態学的研究. 平成13-14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書

◆国内学会での発表

1) 茂野あずさ, 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 石田康: ^{99m}Tc-HMPAO SPECT 及び3D-SSPを用いた鬱病の脳血流評価. 第38回日本核医学会九州地方会, 2003年1月24-25日(福岡)

2) 石塚雄太, Callaway J, Jarrott B, 石田康, 河南洋: 意識下ラットにおいて局所脳虚血後の血液脳関門の破壊に対するAM-36の効果. 第80回日本生理学会・第76回日本薬理学会年会, 2003年3月24-26日(福岡)

3) 中島暉, 植田勇人, 田嶋邦彦, 牧野圭祐: ウラン-過酸化水素系における抗酸化物質の挙動. 日本原子力学会2003年春の年会, 2003年3月27日(佐世保)

4) 石田康, 長友慶子, 三山吉夫: インターフェロン療法終了後に出現したせん妄の治療経験. 第8回日本神経精神医学会, 2003年4月3-4日(松山)

5) 長友慶子, 植田勇人, 三山吉夫, 嵐千尋: 薬物治療抵抗性老年期うつ病に対して行ったmodified ECT前後の^{99m}Tc-HMPAO SPECT 所見の変化. 第8回日本神経精神医学会, 2003年4月3-4日(松山)

6) 武田龍一郎, 橋口浩志, 石田康, 池田哲也, 西森利数: パーキンソン病モデルラットにおける痛覚過敏についての研究(第2報). 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日(金沢)

7) 石田康, 中村直人, 瀧田正壽, 中原大一郎: 欲求性行動および嫌悪性行動に伴うラット内側前頭前野のグルタミン酸濃度変化. 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日(金沢)

8) 石塚雄太, 橋口浩志, 石田康, 河南洋: ストレス負荷時における視床下部室傍核の一酸化窒素動態に対する内側前頭前野のGABAの影響. 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日(金沢)

9) 植田勇人, 横山秀克, 中島暉, 林要人: NMDA 受容体活性化に伴う痙攣発現と細胞膜過酸化障害におけるO₂-とNOの役割-EPR測定系を用いたin vivo検証-. 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日(金沢)

10) 横山秀克, 植田勇人, 伊東治, 池田智明, Noor JI, 池ノ上克: 片側頸動脈結紮低酸素暴露ラットの非結紮半

球における還元能の電子スピン共鳴画像による分析. 第25回日本生物学的精神医学会, 2003年4月16-18日(金沢)

11) 安部博史, 岩崎庸男: ラットの物体再認識記憶課題の遂行における嗅周皮質NMDA系及びアセチルコリン系の役割. 第21回日本生理心理学会, 2003年5月26-27日(茨城)

12) 石田康, 石塚雄太, 中原大一郎, 河南洋: ストレス負荷時の脳内ノルアドレナリンおよび一酸化窒素動態の変化. 第30回日本脳科学会, 2003年6月6-7日(久留米)

13) 植田勇人, Noor JI, 中島暉, 池田智明, 池ノ上克: ラット低酸素虚血性脳症モデルの海馬におけるフリーラジカルの捕捉-脳内微小透析法によるスピントラップ剤の海馬灌流実験-. 第25回日本フリーラジカル学会, 2003年6月27-28日(東京)

14) 中島暉, 植田勇人, 遠藤伸之, 田嶋邦彦, 牧野圭祐: ニトロン系スピントラップ剤の塩化金酸による酸化反応. 第25回日本フリーラジカル学会, 2003年6月27-28日(東京)

15) 石塚雄太, 石田康, 河南洋: 視床下部室傍核の一酸化窒素の動態に対する内側前頭前野のGABA受容体の関与. 第26回日本神経科学大会, 2003年7月23-25日(名古屋)

16) 武田龍一郎, 池田哲也, 津田文子, 橋口浩志, 石田康, 西森利数: ヘミ・パーキンソン病モデル動物における痛覚過敏. 第26回日本神経科学大会, 2003年7月23-25日(名古屋)

17) 梅北邦彦, 大井長和, 土持若葉, 川端國旦, 京楽格, 杉本精一郎, 船橋英樹, 林要人: 長期にわたる記憶障害を来した脳炎の一例. 第163/85回日本神経学会九州地方会, 2003年9月13日(宮崎)

18) 船橋英樹, 植田勇人, 石田康: SSRI が著効した持続性身体表現性疼痛障害の1例. 第5回九州地区SSRI研究会学術講演会, 2003年9月27日(福岡)

19) 赤松馨, 橋口浩志: 質問紙法によるLD・AD/HDスクリーニングの試み. 第44回日本児童青年精神医学会, 2003年10月22-24日(福岡)

20) 植田勇人, 中島暉: ラット脳内におけるニトロキシドラジカルの半減期に及ぼすpHの影響. 第42回電子スピンサイエンス学会年会 (SEST 2003), 2003年10月29-31日(広島)

21) 中島暉, 植田勇人, 渡部るし, 田嶋邦彦, 牧野圭祐: ウラン-過酸化水素系における抗酸化物質の挙動. 第42回電子スピンサイエンス学会年会 (SEST 2003), 2003年10月29-31日(広島)

22) 植田勇人, Noor JI, 徳丸潤, 土井拓, 池田智明, 池ノ上克: 新生児低酸素虚血脳症モデルのPTZ けいれん感受性とグルタミン酸輸送蛋白の発現変化. 第37回日本てんかん学会, 2003年10月30-31日(仙台)

23) 土井拓, 徳丸潤, 植田勇人: クロバザム慢性投与によるグルタミン酸トランスポーターの発現変化. 第37回日本てんかん学会, 2003年10月30-31日(仙台)

24) 船橋英樹, 土井拓, 徳丸潤, 石田康: クアゼパムによ

って睡眠薬が簡素化できた統合失調症の1例. 第56回九州精神神経学会, 2003年11月6-7日(久留米)

25) 松田裕, 石塚雄太, 西井龍一, 石田康:閉鎖性頭部外傷後遺症として痴呆症状を呈した一症例. 第56回九州精神神経学会, 2003年11月6-7日(久留米)

26) 長友慶子, 長町茂樹, 石田康, 三山吉夫:インターフェロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験. 第56回九州精神神経学会, 2003年11月6-7日(久留米)

27) 野中博意, 安部博史, 野瀬出, 泰羅雅登, 靱負正雄:両側手がかり弁別課題遂行中のヒトにおける機能的MRI. 第12回海馬と高次脳機能学会, 2003年11月23-24日(東京)

28) 石田康, 石塚雄太, 橋口浩志, 武田龍一郎, 中原大一郎, 西森利数, 河南洋:ストレス負荷時の視床下部室傍核・内側前頭前野における一酸化窒素動態と機能の解析. 第36回精神神経系薬物治療研究報告会, 2003年12月5日(豊中)

29) 池田哲也, 武田龍一郎, 安部博史, 石田康, 西森利数:坐骨神経結紮モデルラットにおける神経因性疼痛行動に対する抗うつ薬, ミルナシプランの効果. 第25回日本疼痛学会, 2003年12月6日(東京)

◆特別・教育講演、ランチョンセミナー等

1) 橋口浩志:引きこもり・家庭内暴力を呈した思春期の1症例. 第5回アディクション研究会, 2003年1月14日(宮崎県精神保健福祉センター(宮崎))

2) 石田康:高齢者の感情障害. 第8回九州地区11大学合同卒後研修講座, 2003年2月22-23日(久留米)

3) 石塚雄太:ストレスと脳内のノルアドレナリン・一酸化窒素・GABAなどの神経伝達物質との関連について. 宮崎県精神神経診療所協会特別講演, 2003年5月24日(宮崎)

4) 石田康:ドーパミン研究と老年精神医学の接点. 第49回宮崎県精神科医会懇話会, 2003年6月14日(宮崎)

5) 石田康:一般診療であつかう不眠と不安. 都城市北諸県医師会学術講演会, 2003年6月20日(都城)

6) 植田勇人:活性酸素種とてんかん性病態. 第32回山陰てんかん懇話会, 2003年6月21日(米子)

7) 植田勇人:精神科医からみたメンタルヘルス. 2003年(夏)全日本鍼灸学会広島地方特別講演会, 2003年6月29日(広島)

8) 石田康:精神科・心療内科でみられる“痛み”について. 第5回宮崎県頭痛を考える会, 2003年7月12日(宮崎)

9) 橋口浩志:発達障害の基礎知識. 職能別専門研修講座, 宮崎県教育研修センター, 2003年7月22日(宮崎)

10) 石田康:性同一性障害=診断から治療への流れ-. 宮崎市産婦人科医会講演会, 2003年9月8日(宮崎)

11) 植田勇人:基礎てんかん学会と臨床てんかん学の狭間. 宮崎診療所協会研究会, 2003年12月13日(宮崎)

◆学会でのシンポジウム発表

1) 植田勇人, 長友慶子, 河野次郎, 山下直子, 長町茂

樹:精神科治療・診断時におけるSPECT解析の有用性. 21世紀カンファレンス-脳核医学の進歩-画像解析の面から, 2003年2月1日(福岡)

2) 林要人:クリニカル・カンファレンス・セミナー. 2003年世界アルツハイマーデー記念シンポジウム, 2003年11月(宮崎)

3) 植田勇人, 中島暉, 三山吉夫:痴呆性疾患における微量元素の放射化分析と病態関与の検討. 第12回原子力研究総合センターシンポジウム, 2003年12月11-12日(茨城)

◆一般向け講演

1) 石田康:思春期・青年期のメンタルヘルス. 平成15年度宮崎医科大学医学部医学科新入生合宿研修, 鹿児島レクリエーションセンター, 2003年4月10-11日(鹿児島県霧島ハイツ)

2) 植田勇人:メンタルヘルスにおける初期介入. 宮崎産業保健推進セミナー, 2003年5月16日(宮崎)

3) 植田勇人:ゾニザミドの抗てんかん作用機序に関する最近の話題. メディカルアカデミーインタビュー, 2003年6月12日(宮崎)

4) 植田勇人:日常生活におけるメンタルヘルスケア. JA共済連, 2003年7月2日(宮崎)

5) 植田勇人:エダラボンの脳神経保護作用に関するin vivo実験報告. 三菱ウエルファーマ社外講師勉強会, 2003年9月26日(宮崎)

6) 植田勇人:メンタル上の問題を抱える職員の見極めと対処. 宮崎地方裁判所メンタルヘルス講習会, 2003年10月8日(宮崎)

7) 植田勇人:メンタルヘルスにおける初期介入の重要性—メンタルヘルスに必要な労働衛生管理システム—. 産業健康推進研修会, 2003年11月10日(都城)

8) 石田康:正常と異常. 宮崎県地方裁判所司法修習生講習会, 2003年12月11日(宮崎地方裁判所)

◆その他の発表(懇話会、談話会、座談会等)

1) 石田康, 高宮真樹, 竹内康三, 吉田建世:非定型抗精神病薬における塩酸ペロスピロンの位置づけ. ペロスピロン座談会, 2003年1月31日(宮崎)

2) 船橋英樹, 徳丸潤, 土井拓, 石田康:クアゼパムによって就寝前薬が簡素化できた統合失調症の1例. ドラール学術講演会, 2003年2月14日(宮崎)

3) 茂野あずさ, 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 石田康:Tc-99m-HMPAO及び3D-SSPを用いた鬱状態の脳血流評価. 第14回宮崎脳循環代謝研究会, 2003年3月7日(宮崎)

4) 橋口浩志, 植田聡美, 石田康:不安状態を呈した児童期の1症例. 第6回宮崎こころのケアを考える会, 2003年4月19日(宮崎)

5) 植英俊, 小松奈美, 福岡秀一郎, 松岡博史, 白坂哲郎, 濱川俊朗, 高崎真弓:卵巣癌の化学療法中に敗血症性ショックとなった患者にエンドトキシン吸着療法5回行い救命した一症例. 第3回宮崎急性血液浄化研究会, 2003

年5月10日(宮崎)

6) 安部博史, 石田康, 岩崎庸男: 嗅周皮質の記憶機能. 第49回宮崎県精神科医会懇話会, 2003年6月14日(宮崎)

7) 鈴木康義, 植田勇人, 三山吉夫: 複雑部分発作を呈した第4番染色体短腕中間部欠失の1症例. 第24回宮崎てんかん懇話会, 2003年7月11日(宮崎)

8) 橋口浩志, 河野次郎, 石田康: オランザピンを使用した児童・思春期の2症例. 宮崎県ジプレキサ学術講演会, 2003年11月25日(宮崎)

9) 松田裕, 石塚雄太, 西井龍一, 石田康: 閉鎖性頭部外傷後遺症として痴呆症状を呈した一症例. 第50回宮崎県精神科医会懇話会, 2003年12月6日(宮崎)

10) 長友慶子, 長町茂樹, 石田康, 三山吉夫: インターフェロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験. 第50回宮崎県精神科医会懇話会, 2003年12月6日(宮崎)

小児科学講座 (Department of Pediatrics)

◆著 書

1) 園田 徹: 骨端軟骨異形成症 マクージック型. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 86(only) 2003

2) 園田 徹: スミス・レムリ・オッピツ症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1341(only) 2003

3) 園田 徹: ゼッケル症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1403(only) 2003

4) 園田 徹: CHILD症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1620-1621 2003

5) 園田 徹: CHARGE 連合. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1621(only) 2003

6) 園田 徹: ナジェ症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1821(only) 2003

7) 園田 徹: ネーグリ症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1889(only) 2003

8) 園田 徹: パイフェル症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1948(only) 2003

9) 園田 徹: ハラーマン・シュトライフ症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 1993(only) 2003

10) 園田 徹: ビーモント症候群Ⅰ. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2082(only) 2003

11) 園田 徹: ビーモント症候群Ⅱ. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2082(only) 2003

12) 園田 徹: フランソワ症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2171(only) 2003

13) 園田 徹: フリーマン・シェルドン症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2174(only) 2003

14) 園田 徹: メッケル症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2400(only) 2003

15) 園田 徹: 妖精症. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2472(only) 2003

16) 園田 徹: ランガー・ギーディオン症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2500(only) 2003

17) 園田 徹: ロートムント・トムソン症候群. 医学書院医学大事典, 伊藤正男 他編, 医学書院 2596(only) 2003

◆原 著

1) Nunoi H, Kohi F, Kajiwar H, Suzuki K. : Prevalence of inherited myeloperoxidase deficiency in Japan. Microbiol Immunol. 47:527-31, 2003

2) Sugimoto Y, Tsukahara S, Sato S, Suzuki M, Nunoi H, Malech HL, Gottesman MM, Tsuruo T. : Drug-selected co-expression of P-glycoprotein and gp91 in vivo from an MDR1-bicistronic retrovirus vector Ha-MDR-IRES-gp91. J Gene Med. 5:366-76. 2003

3) Takeya R, Ueno N, Kami K, Taura M, Kohjima M, Izaki T, Nunoi H, Sumimoto H. : Novel human homologues of p47phox and p67phox participate in activation of superoxide-producing NADPH oxidases. J Biol Chem. 278:25234-46, 2003

4) Nagai T, Matsumoto N, Kurtotani N, Harada N, Niikawa N, Ogata T, Imaizumi K, Kurosawa K, Kondoh T, Ohashi H, Tsukahara M, Makita Y, Sugimoto T, Sonoda T, Yokoyama T, Uetake K, Sakazume S, Fuyukushima Y, Naritomi K : Sotos syndrome and haploinsufficiency of NSD1: clinical features of intragenic mutations and submicroscopic deletions. J.Med.Genet.40(4):285-289, 2003

5) Miyake N, Kurotani N, Sugawara H, Shimokawa O, Harada N, Kondoh T, Tsukahara M, Ishikiriya S, Sonoda T, Miyoshi Y, Sakazume S, Fukushima Y, Ohashi H, Nagai T, Sawame H, Kurosawa K, Touyama M, Shiihara T, Okamoto N, Nishimoto J, Yoshiura K, Ohta N, Kishino T, Niikawa N, Matsumoto N: Preferential paternal origin of microdeletions caused by prezygotic chromosome or chromatid rearrangements in Sotos syndrome. Am.J.Med.Genet.72(5):1331-1337, 2003

6) Kurotaki N, Harada N, Shimokawa O, Miyake N, Kawame H, Uetake K, Makita Y, Kondoh T, Ogata T, Hasegawa T, Nagai T, Ozaki T, Touyama M, Shenhar R, Ohashi H, Medne L, Shiihara T, Ohtsu S, Kato Z, Okamoto N, Nishimoto J, Lev D, Miyoshi Y, Ishikiriya S, Sonoda T, Sakazume S, Fukushima Y, Kurosawa K, Cheng J, Yoshiura K, Ohta T, Kishino T, Niikawa N, Matsumoto N: Fifty microdeletions among 112 cases of Sotos syndrome: low copy repeats possibly mediate the common deletion. Human Mutation 22:378-387, 2003

7) Moritake H, Kamimura S, Akiyoshi K, Nagatoshi Y, Chuman H, Okamura J. Prognostic significance of elevated lactate dehydrogenase and creatine kinase in patients with rhabdomyosarcoma. Med Pediatr Oncol 40:187-8,2003

8) Moritake H, Sugimoto T, Kuroda H, Hidaka F, Takahashi Y, Tsuneyoshi Y, Yoshida MA, Cui Q, Akiyoshi K, Izumi T, Nunoi H. Newly established Askin tumor cell line and overexpression of focal adhesion kinase in Ewing sarcoma family of tumors cell lines. Cancer Genet Cytogenet 146:102-9,2003

9) 池田智明、池ノ上 克、鮫島 浩、金子政時、川越清之、古川誠志、米田由香里、大西淳仁、卜部浩俊、大里和広、山下理絵、田中博明、福島和子、村田雄二、Quilligan EJ, Choi BH, Park S-D, 土井茂治、Parer JT, 児玉由紀、寺尾公成、西口俊裕、河野慶一郎、嶋本富博、春山康久、今村登志子、桂木信司、高崎 泰、三輪勝洋、徳永修一、山内憲之、園田 徹、布井博幸:胎児子宮内環境評価の新たな展開と可能性。Asphyxia 性脳障害の診断に関する臨床および基礎的研究。日本新生児学会誌 39(4):724-734, 2003

10) 水上智之、布井博幸:原発性免疫不全症の遺伝カ

ウンセリングと予後。周産期医学, 33(9):1145-1149, 2003

◆症例報告

1) Sonoda T, Kouno K, Sawada K, Takagi J, Nunoi H, Harada N, Matsumoto N.:Duplication (22)(q11.22-q11.23) without coloboma and cleft lip or palate. Pediatr Int. 45:97-9. 2003

2) Sonoda T, Kouno K, Sawada K, Takagi J, Nunoi H, Harada N, Matsumoto N.:Duplication (22)(q11.22-q11.23) without coloboma and cleft lip or palate. Pediatrics International 45(1): 96-100, 2003

3) 澤田浩武, 上村佳奈, 松山美静代, 布井博幸, 長野正史, 山下篤, 井上忍:腫瘍摘出後に LH-RH 依存性思春期早発をきたした小児ライディッシュ細胞腫の 1 例。ホルモンと臨床 (0045-7167)51 巻 夏季増刊 Page 194-198(2003.07)

◆総 説

1) 園田 徹:III- 先天異常 32、胎児 hydantoin 症候群および胎児 valproate 症候群, fetal hydantoin syndrome and fetal valproate syndrome. 小児内科 35 (増刊号) 小児疾患診療のための病態生理 (第 3 版) -2: 277-280, 2003

◆学会報告

1) Sonoda T, Nunoi H : Association of Opitz syndrome and penile agenesis after IVF-ET (ICSI).The American Society of Human Genetics 53rd Annual Meeting, 2003,11. Los Angeles

2) Manabe A, Yoshimasu T, Yagasaki H, Wada M, Ishikawa K, Ebihara Y, Hara J, Koike K, Moritake H, Noguchi Y, Park D, Tsuji K, Nakahata T. Viral infections in juvenile myelomonocytic leukemia (JMML): Prevalence and clinical implications. International symposium on MDS in childhood. 2003, 4 Italy

3) 真部淳、吉益哲、谷ヶ崎博、和田美夏、石川久美子、海老原康博、原 純一、小池健一、盛武 浩、野口 靖、朴 永東、辻浩一郎、中畑龍俊:若年性骨髄単球性白血病 (JMML) におけるウイルス感染症の関与。第 65 回日本血液学会総会、2003,8 大阪

4) 盛武浩、池田俊郎、日高文郎、満木ひとみ、上村幸代、布井博幸、吉牟田純一郎、上野靖史、高崎 泰: サイトメガロウイルス感染により珍しい血液学的変化をきたした 2 症例。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

5) 盛武浩、池田俊郎、日高文郎、満木ひとみ、上村幸代、布井博幸、峰松俊夫、吉益哲、真部淳: CMV 感染により若年性骨髄単球性白血病と先天性赤芽球癆類似病態を呈した 2 症例。第 45 回日本小児血液学会、2003,10 金沢

6) 盛武浩、満木ひとみ、日高文郎、外山誠也、上村幸代、此元隆雄、園田徹、布井博幸、金子安比古: 定期的フォローを施行していたにもかかわらず突然の肉眼的血尿にて Wilms 腫瘍が発見された WAGR 症候群の 1 例。フ

フォローアップの間隔と WT1 遺伝子解析結果について、第 19 回日本小児がん学会、2003,11 東京

7) 園田 徹、布井博幸、金子政時、池田智明、鮫島 浩、池ノ上 克、河野慶一郎：不妊治療による 46,XY,t(12;13)(q24.3;q32)の父親からの 3 胎。第 48 回日本人類遺伝学会、2003,10 長崎

8) 今村秀明(済生会日向病院小児科)、東真由美(済生会日向病院小児科)、四元茂(済生会日向病院小児科)：日向地区小児夜間急患センターの統計より考える今後の小児夜間救急医療。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

9) 小泉博彦：カテーテルインターベンションによる動脈管開存症治療。日本小児科学会宮崎地方会、第 54 回例会、2003,9 宮崎

10) 日高智子、佐藤潤一郎、小泉博彦、久保尚美、高木純一、布井博幸、池田俊郎(県立日南病院小児科)、黒田直宏(県立日南病院小児科)：特発性両心房拡大 (Idiopathic Bilateral Atrial Dilatation) の 1 例について。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

11) 大庭健一(宮崎市総合発達支援センター)、安部なつみ(国立療養所宮崎東病院小児科)、澤田一美(宮崎県立こども療育センター)、松岡裕二(まつおか小児科)、小泉博彦、高木純一、園田徹、布井博幸：自閉症を伴うダウン症候群の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

12) 大庭健一(宮崎市総合発達支援センター)：施設紹介 宮崎市総合発達支援センター。日本小児科学会宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

13) 佐藤潤一郎、久保尚美、高木純一：先天性 QT 延長症候群の 1 例。第 8 回日本小児心電学会、2003,7 福岡

14) 佐藤潤一郎、大塚珠美、久保尚美、高木純一、園田徹、布井博幸、池ノ上 克(宮崎大学産婦人科)：治療を要した新生児期頻脈性不整脈の 6 症例についての検討。日本小児科学会 宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

15) 佐藤潤一郎、小泉博彦、大塚珠美、久保尚美、高木純一、布井博幸、松岡裕二(まつおか小児科)、川口健二：当科における最近の乳幼児心筋炎様症例 3 例についての検討。第 107 回日本小児科学会学術集会、2003,4 宮崎

16) 佐藤潤一郎、大塚珠美、久保尚美、高木純一：上室性頻拍症にて治療を要した新生児 7 症例の検討。第 39 回日本小児循環器学会学術集会、2003,7 神戸

17) 松山美静代、澤田浩武、佐藤さくら、園田徹、布井博幸、橋本淳一：思春期に副甲状腺機能低下症で発見された 22q11.2 欠失症候群の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

18) 日高文郎、水上智之、布井博幸、杉本哲朗(脳神経外科)、濱田恵亮(県立宮崎病院小児科)：小脳肉芽腫を伴った慢性肉芽腫症の外科的切除術。第 11 回食細胞機能異常研究会、2003,12 東京

19) 水上智之、日高文郎、布井博幸、杉本哲朗(宮崎大学脳神経外科)、濱田恵亮(宮崎県立宮崎病院小児科)：外科的切除が必要であった小脳肉芽腫を伴った慢性肉

芽腫症の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

20) 水上智之、日高文郎、布井博幸、吉本寿美(熊本大学小児科)、石橋史成(熊本大学小児科)、高木一孝(国立熊本病院)、住本英樹(九州大学生体防御医学研究所)：X-linked dyskeratosis congenita 患者の解析。RAND 研究会、2003,11 東京

21) 日高文郎、水上智之、布井博幸、杉本哲朗(宮崎大学脳神経外科)、濱田恵亮(宮崎県立宮崎病院小児科)：小脳肉芽腫を伴った慢性肉芽腫症の外科的切除例。第 11 回食細胞機能異常症研究会、2003,12 東京

22) 今村秀明、長岡克弥、池田俊郎、西尾壽乗、清保博、西口俊裕、濱田恵亮：原疾患の診断に苦慮した高血圧性脳症の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

23) 今村秀明、西尾壽乗、池田俊郎、清保博、西口俊裕、濱田恵亮：Vit.K 欠乏による広汎な頭蓋内出血で発症した胆道閉鎖症の 1 例。宮崎県小児科医会、2003,4 宮崎

24) 今村秀明、東真由美、四元茂：日向地区小児夜間急患センターの統計より考える今後の小児夜間救急医療。第 54 回日本小児科学会宮崎地方会、2003,9 宮崎

25) 上村幸代、満木ひとみ、盛武浩：当科における過去 5 年間の小児がん症例の内訳～今年の骨髄移植施行例の紹介。第 6 回ひむか小児クリニカルカンファランス、2003,12 宮崎

26) 上村幸代、日高文郎、満木ひとみ、盛武浩、布井博幸、佐藤潤一郎(県立日南病院小児科)、久保尚美(県立日南病院小児科)：血球貪食症候群で発症した急性リンパ性白血病の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

27) 上村幸代、日高文郎、満木ひとみ、盛武浩、布井博幸：パルボウイルス B19 感染後に血球貪食症候群で発症した急性リンパ性白血病の 1 例。第 45 回日本小児血液学会総会、2003,10 石川

28) 佐藤さくら、清保博、今村秀明、西口俊裕、濱田恵亮：血液浄化療法中に卵巣出血から腹腔内大量出血をきたしたネフローゼ症候群の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

29) 佐藤さくら、満木ひとみ、高橋真悠子、上村幸代、盛武浩：当科で経験した reversible posterior leukoencephalopathy syndrome の 3 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 53 回例会、2003,3 宮崎

30) 高橋真悠子、河野慶一郎、木佐貫隆、西口俊裕、濱田恵亮(県立宮崎病院小児科)：chondrodysplasia punctata の 1 例。日本小児科学会宮崎地方会 第 54 回例会、2003,9 宮崎

31) 東真由美(宮崎県済生会日向病院小児科)、愛甲浩志：持続吸引チューブつきエアウェイ使用により長期間安定した呼吸状態を保っている Tay-Sachs 病の 4 歳女児例。第 29 回日本重症心身障害学会、2003,9 横浜

32) 池田俊郎、清保博、西尾壽乗、西口俊祐、濱田恵亮(宮崎県立宮崎病院小児科)：肥厚性幽門狭窄症の臨床像

日本小児科学会宮崎地方会 第53回例会、2003,3 宮崎

33) 澤田浩武, 松山美静代, 井上忍: LH-RH 依存性思春期早発を伴った McCune-Albright 症候群の乳児例. 第36回日本小児内分泌学会、2003,10 北海道

34) 沼倉周彦, 澤田浩武, 井上忍, 檜作和子, 溝田美智代, 長谷川行洋: Leidig 細胞腫摘出後に LHRH 依存性思春期早発症を発症した8症例における発症後年数と骨年齢の検討. 第36回日本小児内分泌学会、2003,10 北海道

35) 満木ひとみ, 日高文郎, 外山誠也, 上村幸代, 盛武浩, 園田徹, 布井博幸: WT1 遺伝子解析を施行した WAGR 症候群の1例. 日本小児科学会宮崎地方会 第53回例会、2003,3 宮崎

36) 満木ひとみ, 高橋真悠子, 上村幸代, 盛武浩, 布井博幸, 佐藤さくら (県立宮崎病院小児科), 西尾壽乗 (県立宮崎病院小児科), 清保博 (県立宮崎病院小児科), 浜田恵亮 (県立宮崎病院小児科): 早期の intensive な治療により救命しえた劇症型 Epstein-Barr ウイルス関連血球貪食症候群の1例. 日本小児科学会宮崎地方会 第54回例会、2003,9 宮崎

37) 満木ひとみ, 日高文郎, 外山誠也, 上村幸代, 此元隆雄, 盛武 浩, 園田 徹, 布井博幸, 金子安比古 (埼玉県立がんセンター病院化学療法部): WT1 遺伝子解析を施行した WAGR 症候群の一例. 第32回九州地区小児固形悪性腫瘍研究会、2003,2 福岡

38) 満木ひとみ, 上村幸代, 盛武浩, 布井博幸, 緒方克己 (宮崎大学医学部皮膚科): 術前化学療法にて患肢を温存しえた左大腿部原発新生児線維肉腫の1例. 第9回九州山口小児血液・腫瘍研究会、2003,5 熊本

39) 満木ひとみ, 上村幸代, 盛武浩, 布井博幸, 緒方克己 (宮崎大学医学部皮膚科): 術前化学療法にて患肢を温存しえた左大腿部原発 infantile fibrosarcoma の1例. 第18回日本小児がん学会、2003,11 東京

40) 満木ひとみ, 上村幸代, 盛武浩, 布井博幸, 天野正宏, 緒方克己, 瀬戸山充 (宮崎大学医学部皮膚科), 山下篤, 佐藤 勇一郎, 浅田 祐士郎 (同病理学第I): 患肢温存に術前化学療法が有効であった左大腿部原発新生児線維肉腫の1例. 第9回宮崎腫瘍治療研究会、2003,10 宮崎

41) 愛甲浩志, 河野由紀子, 佐藤さくら, 布井博幸: 発作時脳波で前頭葉の結節性病変に局限した発作波を認めた結節性硬化症の1例～てんかん外科の適応は?～. 宮崎てんかん懇話会、2003,6 宮崎

◆その他 (講演など)

1) 高木純一: 学童心臓検診のコツ. 都城医師会学童検診検討会、2003,2 都城

2) 高木純一: 新生児の心疾患 (診断と治療戦略). 第7回宮崎県産婦人科病医院従事者研修会、2003,3 宮崎

3) 高木純一: 小児不整脈の治療戦略. 第6回九州小児科学会、2003,11 佐賀

4) 園田 徹: 先天異常を伴うこどもの診断と治療・療育. 第42回日本心身医学会九州地方会 2003. 1. 31-2.1 宮

崎

5) 園田 徹: ここ9か月で外来にて経験した先天異常の症例. 第4回ひむかクリニカルカンファレンス 2003,2,7 宮崎

6) 園田 徹: だっこのできないお母さん. 宮崎県産婦人科病院従事者研修会 第7回ひむかセミナー. 2003,3 宮崎

7) 布井博幸: 小児科の立場から診た1ヶ月健診. 第7回ひむかセミナー、2003,3 宮崎

8) 布井博幸: 「遺伝子治療について」-慢性肉芽腫症の例を含めて. 第33回小児科学会セミナー、2003,9 長崎

9) 布井博幸: 原発性, 続発性, 後天性免疫不全症. アレルギー・臨床免疫医を目指す人達のための研修会 Afternoon Lecture、2003,10 福岡

10) 布井博幸: 慢性肉芽腫症の治療と問題点. 日本小児感染症学会 教育講演、2003,11 北海道

外 科 学 第 一 講 座 (Surgery I)

◆著 書

1) 大内田次郎, 千々岩一男: 第3章 主要疾患の診療ポイント. B 消化器疾患「胆嚢」: 膵・胆管合流異常, 総胆管拡張症. 外来診療のすべて 改訂第3版: 458-459, 2003. 総監修: 高久史麿, 総 1039 頁, メジカルビュー社.

2) 徳留なほみ, 伊藤良則: 第10章 薬物療法 5. 術後抗癌剤治療の実際. 先端医療シリーズ 21 癌 乳癌の最新医療: 319-325, 2003. 監修: 小山博記, 霞富士雄, 総 453 頁, 先端医療技術研究所.

◆原 著

1) Toyonaga, T., Chijiwa, K., Nakano, K., Noshiro, H., Yamaguchi, K., Sada, M., Terasaka, R., Konomi, K., Nishikata, F. and Tanaka, M. : Completion radical surgery after cholecystectomy for accidentally undiagnosed gallbladder carcinoma. *World Journal of Surgery* 27 : 266-271, 2003.

2) Nakano, K., Chijiwa, K., Toyonaga, T., Ueda, J., Takamatsu, Y., Kimura, M., Nakamura, K., Yamaguchi, K. and Tanaka, M. : Combination therapy of resection and intraoperative radiation for patients with carcinomas of extrahepatic bile duct and ampulla of Vater: prognostic advantage over resection alone? *Hepato-Gastroenterology* 50 : 928-933, 2003.

3) Noshiro, H., Chijiwa, K., Yamaguchi, K., Shimizu, S., Sugitani, A. and Tanaka, M. : Factors affecting surgical outcome for gallbladder carcinoma. *Hepato-Gastroenterology* 50 : 939-944, 2003.

4) Nakamura, K., Chijiwa, K., Kuroki, S., Naito, T., Mizuta, A. and Tanaka, M. : Serum 7 α -hydroxycholesterol levels during liver regeneration after hepatectomy in humans. *Hepato-Gastroenterology* 50 : 1593-1597, 2003.

5) Ohtsuka, T., Yamaguchi, K., Ohuchida, J., Inoue, K., Nagai, E., Chijiwa, K. and Tanaka, M. : Comparison of quality of life after pylorus-preserving pancreaticoduodenectomy and whipple resection. *Hepato-Gastroenterology* 50 : 846-850, 2003.

6) Toyonaga, T., Nakano, K., Nagano, M., Zhao, G., Yamaguchi, K., Kuroki, S., Eguchi, T., Chijiwa, K., Tsuneyoshi, M. and Tanaka, M. : Blockade of constitutively activated Janus kinase/signal transducer and activator of transcription-3 pathway inhibits growth of human pancreatic cancer. *Cancer Letters* 201 : 107-116, 2003.

7) Farrow, B., O'Connor, K.L., Hashimoto, K., Iwamura, T. and Evers, B.M. : Selective activation of PPAR γ inhibits pancreatic cancer invasion and decreases expression of tissue plasminogen activator. *Surgery* 134 : 206-212, 2003.

8) Farrow, B., Rychahou, P., Murillo, C., O'Connor, K.L., Iwamura, T. and Evers, B.M. : Inhibition of pancreatic cancer cell growth and induction of apoptosis with novel therapies

directed against protein kinase A. *Surgery* 134 : 197-205, 2003.

9) Buchholz, M., Biebl, A., Neebatae, A., Wagner, M., Iwamura, T., Leder, G., Adler, G. and Gress, T.M. : SERPINE2 (protease nexin I) promotes extracellular matrix production and local invasion of pancreatic tumors *in vivo*. *Cancer Research* 63 : 4945-4951, 2003.

10) Michl, P., Barth, C., Buchholz, M., Lerch, M.M., Rolke, M., Holzmann, K.-H., Menke, A., Fensterer, H., Giehl, K., Löhner, M., Leder, G., Iwamura, T., Adler, G. and Gress, T.M.: Claudin-4 expression decreases invasiveness and metastatic potential of pancreatic cancer. *Cancer Research* 63 : 6265-6271, 2003.

11) Mibu, R., Hotokezaka, M., Mihara, S. and Tanaka, M. : Results of linearly polarized near-infrared irradiation therapy in patients with intractable anorectal pain. *Disease of the Colon and Rectum* 46(10 Suppl):S50-53, 2003.

12) Jo, Y., Matsumoto, T., Yada, S., Nakamura, S., Yao, T., Hotokezaka, M., Mibu, R. and Iida, M. : Histological and immunological features of appendix in patients with ulcerative colitis. *Digestive Diseases and Sciences* 48 : 99-108, 2003.

13) Tanaka, S.-I., Kinowaki, M., Eto, T.-A., Ota, Y., Maeda, Y., Okuda, K.-I., Setoguchi, T. and Chijiwa, K. : Sulfhydryl groups responsible for extreme lability of human cholesterol 7 α -hydroxylase identified by site-directed mutagenesis. *Journal of Steroid Biochemistry & Molecular Biology* 86 : 35-40, 2003.

14) Ota, Y., Eto, T.-A., Tanaka, S.-I., Sueta, H., Shiotsuki, H., Maeda, Y., Une, M. and Chijiwa, K. : Assay method for mitochondrial sterol 27-hydroxylase with 7 α -hydroxy-4-cholesten-3-one as a substrate in the rat liver. *Journal of Lipid Research* 44 : 2400-2405, 2003.

15) Sato, N., Maehara, N., Su, G.H. and Goggins, M. : Effects of 5-aza-2'-deoxycytidine on matrix metalloproteinase expression and pancreatic cancer cell invasiveness. *Journal of the National Cancer Institute* 95 : 327-330, 2003.

16) Sato, N., Fukushima, N., Maehara, N., Matsubayashi, H., Koopmann, J., Su, G.H., Hruban, R.H. and Goggins, M. : SPARC/osteonectin is a frequent target for aberrant methylation in pancreatic adenocarcinoma and a mediator of tumor-stromal interactions. *Oncogene* 22 : 5021-5030, 2003.

17) Qian, L.-W., Mizumoto, K., Maehara, N., Ohuchida, K., Inadome, N., Saimura, M., Nagai, E., Matsumoto, K., Nakamura, T. and Tanaka, M. : Co-cultivation of pancreatic cancer cells with orthotopic tumor-derived fibroblasts: fibroblasts stimulate tumor cell invasion via HGF secretion whereas cancer cells exert a minor regulative effect on fibroblasts HGF production. *Cancer Letters* 190 : 105-112, 2003.

18) Sahin, F., Maitra, A., Argani, P., Sato, N., Maehara, N., Montgomery, E., Goggins, M., Hruban, R.H. and Su, G.H. : Loss of Stk11/Lkb1 expression in pancreatic and biliary

neoplasms. *Modern Pathology* 16 : 686-691, 2003.

19) Inoue, K., Ohuchida, J., Ohtsuka, T., Nabae, T., Yokohata, K., Ogawa, Y., Yamaguchi, K. and Tanaka, M. : Severe localized stenosis and marked dilatation of the main pancreatic duct are indicators of pancreatic cancer instead of chronic pancreatitis on endoscopic retrograde balloon pancreatography. *Gastrointestinal Endoscopy* 58 : 510-515, 2003.

20) Naganuma, S., Itoh, H., Uchiyama, S., Tanaka, H., Nagaïke, K., Miyata, S., Uchinokura, S., Nuki, Y., Akiyama, Y., Chijiwa, K. and Kataoka, H. : Characterization of transcripts generated from mouse hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2 (HAI-2) and HAI-2-related small peptide (H2RSP) genes: chimeric mRNA transcribed from both HAI-2 and H2RSP genes is detected in human but not in mouse. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 302 : 345-353, 2003.

21) 伊藤浩史, 長沼誠二, 内山周一郎, 長池幸樹, 田中弘之, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子 (HGFA) の役割 (ノックアウトマウスを用いた解析). *消化器と免疫* 40:18-21, 2003.

22) Yoshimoto, M., Tada, K., Tokudome, N., Kutomi, G., Tanabe, M., Goto, T., Nishimura, S., Makita, M. and Kasumi, F. : The potential for oral combination chemotherapy of 5'-deoxy-5-fluorouridine, a 5-FU prodrug, and cyclophosphamide for metastatic breast cancer. *British Journal of Cancer* 89 : 1627-1632, 2003.

◆症例報告

1) Akiyoshi, T., Yamaguchi, K., Chijiwa, K. and Tanaka, M. : Cystadenocarcinoma of the liver without mesenchymal stroma: possible progression from a benign cystic lesion suspected by follow-up imagings. *Journal of Gastroenterology* 38 : 588-592, 2003.

2) Masatsugu, T., Shimizu, S., Noshiro, H., Mizumoto, K., Yamaguchi, K., Chijiwa, K. and Tanaka, M. : Liver cyst with biliary communication successfully treated with laparoscopic deroofing: a case report. *Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons* 7 : 249-252, 2003.

3) Sonoda, Y., Yamaguchi, K., Nagai, E., Nakamuta, M., Ito, T., Eguchi, T., Chijiwa, K. and Tanaka, M. : Small cell carcinoma of the cystic duct: a case report. *Journal of Gastrointestinal Surgery* 7 : 631-634, 2003.

4) 櫻井俊孝, 新名一郎, 藤原まゆみ, 山成英夫, 島山俊夫, 千々岩一男: 早期胃癌に併存した腹腔内異所性アニサキス症の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 64 : 855-859, 2003.

5) 櫻井俊孝, 森洋一郎, 藤原まゆみ, 山成英夫, 島山俊夫, 千々岩一男: 成人原発性小腸軸捻転症の1例. *宮崎県医師会医学会誌* 27:79-83, 2003.

6) 綾部貴典, 吉岡 誠, 福島靖典, 櫻井俊孝, 鬼塚敏男: 重度多発外傷を合併した外傷性横隔膜破裂の1救命治験例. *宮崎県医師会医学会誌* 27:39-43, 2003.

7) 自見政一郎, 佛坂正幸, 松本伸二, 藤井 圭, 柴田恵介, 谷本昭英, 武田成彰: 術前に診断しえた瘻孔形成を伴う回腸原発T細胞性悪性リンパ腫の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 36:289-293, 2003.

8) 今村直哉, 井手秀幸, 佐藤勇一郎, 林 透, 豊田清一: 左半結腸合併切除によって切除しえた十二指腸空腸曲の巨大な悪性 gastrointestinal stromal tumor の1例. *外科* 65:480-483, 2003.

9) 國枝良行, 竹内 茂, 長友安弘, 中村一夫, 竹内三郎: ゲフィチニブによる薬剤性間質性肺炎の1例. *宮崎県医師会医学会誌* 27:62-65, 2003.

◆総 説

1) 千々岩一男, 牧野一郎, 大内田次郎, 江藤忠明, 甲斐真弘, 近藤千博: 消化器外科手術アトラス: 拡大肝右葉切除術. *消化器外科* 26:527-537, 2003.

2) 千々岩一男, 大内田次郎, 上田純二, 江藤忠明, 牧野一郎, 甲斐真弘: 今日の問題: 胆嚢癌の Surgical decision making. *外科治療* 88:926-932, 2003.

3) 甲斐真弘, 千々岩一男, 大内田次郎, 牧野一郎, 江藤忠明, 近藤千博: 特集 胆嚢癌治療の基本方針 II. 手術方針についてのエビデンス 3. 胆嚢癌に対する肝切除範囲についての理論的根拠. *外科* 65 : 400-404, 2003.

4) 甲斐真弘, 千々岩一男: 特集 肝内結石症の成因をめぐって: 胆道再建術後の肝内結石症. *胆と膵* 24 : 763-768, 2003.

5) 田辺嘉高, 佛坂正幸, 三原章一, 壬生隆一, 田中雅夫: 特集 I 機能的腸管障害の病態生理と治療: 外来神経遮断が大腸運動に及ぼす影響. *消化器科* 36:434-439, 2003.

6) 上田純二, 千々岩一男, 佐伯修治: 特集II 胆汁酸の腸肝循環の機構と機能: 肝切除後の肝再生における腸管内胆汁の意義. *消化器科* 36:80-86, 2003.

7) 津曲幸二, 音田正光, 長幡武光, 江見 充: 特集 臨床遺伝子学 '03-がんのジェネティクス-: 乳がんのジェネティクス. *最新医学* 58:2336-2343, 2003.

8) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 江見 充: 特集 抗癌剤感受性試験~テーラーメード癌化学療法への展望~ 3. 乳癌術後予後の DNA 診断と RNA 診断. *医薬ジャーナル* 39:1006-1011, 2003.

9) Kataoka, H., Tanaka, H., Nagaïke, K., Uchiyama, S. and Itoh, H. : Role of cancer cell-stroma interaction in invasive growth of cancer cells. *Human Cell* 16 : 1-14, 2003.

◆論文その他

1) 千々岩一男, 甲斐真弘, 上田純二, 牧野一郎, 江藤忠明: 臨床講義 胆嚢癌. *臨床と研究* 80:135-141, 2003.

2) 千々岩一男: 肝内結石症における結石再発および結石種類別の胆管癌合併についての検討. 厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業肝内結石症調査に関する調査研究平成14年度総括・分担研究報告書:

27-31, 2003.

3) 甲斐真弘:宮崎医科大学だより-外科学第一講座-
日州医事 645:40, 2003.

4) 回答:徳留なほみ, 伊藤良則:Questions & Answers:
再発乳癌治療の基本的な考え方を教えてください. 乳癌
診療 TIPS & TRAPS 9:2-3, 2003.

◆全国学会

1) 甲斐真弘, 大内田次郎, 千々岩一男:パネルディス
カッション3 漿膜非露出(S0)進行胆嚢癌の外科的戦略:
S0 進行胆嚢癌に対する手術術式についての理論的根
拠. 第15回日本肝胆膵外科学会. 2003, 5, 14-16, 金沢.

2) 上田純二, 千々岩一男:門脈結紮後非結紮葉と肝
切除後の再生肝における細胞周期制御蛋白発現の比較.
第15回日本肝胆膵外科学会. 2003, 5, 14-16, 金沢.

3) 大内田次郎, 千々岩一男, 田中雅夫:シンポジウム
2 非拡張型膵管胆道合流異常症手術後の長期予後:胆
管拡張を伴わない膵・胆管合流異常の長期予後. 第15回
日本肝胆膵外科学会. 2003, 5, 14-16, 金沢.

4) 下藺孝司, 豊田清一:大腸若年性ポリポースの1
例. 第40回日本小児外科学会. 2003, 5, 28-30, 京都.

5) 河埜喜久雄, 岩村威志, 山成英夫, 菅沼龍夫, 千々
岩一男:ヌードマウスでリンパ節転移および肺転移を認め
たヒト膵癌細胞株の樹立とその性状の解析. 第103回日
本外科学会定期学術集会. 2003, 6, 4-6, 札幌.

6) 日高秀樹, 石河隆敏, 小川道雄, 岩村威志, 千々岩
一男:curcumin が癌細胞の IL-8 レセプター発現に及ぼ
す効果. 第103回日本外科学会定期学術集会. 2003, 6,
4-6, 札幌.

7) 池田拓人, 日高秀樹, 谷口智隆, 岩田鉦司, 難波
清, 前田資雄, 千々岩一男:Gross cystic disease における
cyst 内 steroid 分析. 第103回日本外科学会定期学術集
会. 2003, 6, 4-6, 札幌.

8) 津曲幸二, 江見 充, 音田正光, 長幡武光, 永井尚
生, 藤本崇司, 坂元吾偉, 霞富士雄, 千々岩一男:n0 乳
癌における再発予後と体系的遺伝子解析. 第103回日本
外科学会定期学術集会. 2003, 6, 4-6, 札幌.

9) 大内田次郎, 千々岩一男, 田中雅夫:胆管拡張を伴
わない膵・胆管合流異常の長期予後. 第103回日本外科
学会定期学術集会. 2003, 6, 4-6, 札幌.

10) 西村誠一郎, 高橋かおる, 五味直哉, 多田敬一郎,
蒔田益次郎, 多田隆士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太,
坂元吾偉:非触知石灰化乳癌における浸潤の有無の検
討. 第11回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

11) 佐藤亜希, 西村誠一郎, 多田敬一郎, 高橋かおる,
蒔田益次郎, 多田隆士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太,
坂元吾偉:悪性との鑑別が困難な乳腺疾患の検討. 第11
回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

12) 九富五郎, 高橋かおる, 西村誠一郎, 多田敬一郎,
蒔田益次郎, 多田隆士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太,
坂元吾偉:術前診断が難しかった乳腺
adenomyoepithelioma の1例. 第11回日本乳癌学会総会.
2003, 6, 12-13, 新潟.

13) 神吉真紀子, 蒔田益次郎, 多田隆士, 高橋かおる,
多田敬一郎, 西村誠一郎, 九富五郎, 田辺真彦, 吉本賢
隆, 霞富士雄, 徳留なほみ, 高橋俊二, 伊藤良則:パクリ
タキセルと塩酸エピルピシンの単独投与による術前化学
療法の副作用の比較. 第11回日本乳癌学会総会. 2003,
6, 12-13, 新潟.

14) 田村美規, 多田隆士, 吉本賢隆, 高橋かおる, 蒔
田益次郎, 多田敬一郎, 西村誠一郎, 田辺真彦, 九富五
郎, 徳留なほみ, 小倉廣之, 関根靖子, 神吉真紀子, 佐
藤亜希, 霞富士雄, 田村めぐみ, 辻 英貴:乳癌眼転移症
例の臨床的検討. 第11回日本乳癌学会総会. 2003, 6,
12-13, 新潟.

15) 多田隆士, 田村美規, 関根靖子, 九富五郎, 田辺
真彦, 小倉廣之, 西村誠一郎, 多田敬一郎, 高橋かおる,
蒔田益次郎, 吉本賢隆, 霞富士雄:乳癌発生からみた卵
巣癌重複例の臨床的特徴の検討. 第11回日本乳癌学会
総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

16) 小倉廣之, 秋山 太, 多田隆士, 蒔田益次郎, 高橋
かおる, 多田敬一郎, 西村誠一郎, 吉本賢隆, 霞富士雄,
坂元吾偉:乳癌における化学療法感受性の予知指標. 第
11回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

17) 関根靖子, 多田敬一郎, 吉本賢隆, 佐藤亜希, 田
村美規, 九富五郎, 田辺真彦, 神吉真紀子, 西村誠一郎,
蒔田益次郎, 多田隆士, 高橋かおる, 霞富士雄, 伊藤良
則, 畠 清彦:Bonadonna による classical CMF に対する
日本人の許容性についての検討. 第11回日本乳癌学会
総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

18) 多田敬一郎, 吉本賢隆, 関根靖子, 佐藤亜希, 田
村美規, 九富五郎, 神吉真紀子, 田辺真彦, 小倉廣之,
西村誠一郎, 高橋かおる, 蒔田益次郎, 多田隆士, 霞富
士雄, 高橋俊二, 伊藤良則, 畠 清彦:日本人に対するタ
モキシフェン5年投与の有用性について. 第11回日本乳
癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

19) 津曲幸二, 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 長幡武
光, 藤本崇司, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉, 三木義男,
千々岩一男:n0 乳癌における再発と体系的遺伝子解析.
第11回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

20) 長幡武光, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井
尚生, 江見 充, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉, 三木義
男, 横山史朗, 角田達彦:ER 陰性乳癌の5年生存術後
予後と体系的遺伝子発現解析. 第11回日本乳癌学会総
会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

21) 音田正光, 藤本崇司, 津曲幸二, 長幡武光, 霞富
士雄, 三木義男, 角田達彦, 永井尚生, 江見 充:
Microarray 解析による新しい乳癌予後マーカー. 第11回
日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

22) 徳留なほみ, 伊藤良則, 古川恵子, 入江哲也, 水
沼信之, 高橋俊二, 堀越 昇, 畠 清彦, 霞富士雄, 秋山
太, 坂元吾偉:乳癌鎖骨上リンパ節転移症例に対する集
学的治療の検討. 第11回日本乳癌学会総会. 2003, 6,
12-13, 新潟.

23) 田中久美子, 秋山 太, 徳留なほみ, 澤木正孝, 奥
山直子, 堀井理絵, 堀 文子, 吉本賢隆, 霞富士雄, 坂元

吾偉:センチネルリンパ節の適切な病理学的検索方法についての考察. 第 11 回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

24) 古川恵子, 伊藤良則, 徳留なほみ, 堀越 昇, 水沼信之, 高橋俊二, 畠 清彦, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉:Herceptin と Paclitaxel の併用療法における有用性の検討. 第 11 回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

25) 堀越 昇, 伊藤良則, 高橋俊二, 水沼信之, 永崎栄次郎, 古川恵子, 徳留なほみ, 三嶋裕子, 畠 清彦, 山下孝, 霞富士雄, 坂元吾偉:乳癌の中枢神経系転移 207 例の検討. 第 11 回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

26) 田辺真彦, 吉本賢隆, 九富五郎, 佐藤亜希, 田村美規, 関根靖子, 神吉真紀子, 小倉廣之, 徳留なほみ, 西村誠一郎, 多田敬一郎, 高橋かおる, 蒔田益次郎, 多田隆士, 霞富士雄:予後因子, 治療効果予測因子としての ER, PgR. 第 11 回日本乳癌学会総会. 2003, 6, 12-13, 新潟.

27) 岩村威志, 日高秀樹, 岩田鉦司, 佛坂正幸, 谷口智隆, 江藤忠明, 池田拓人, 上田純二, 千々岩一男:要望演題 術式・治療成績:食道癌 264 症例の治療成績. 第 57 回日本食道学会学術集会. 2003, 6, 27-28, 京都.

28) 岩村威志, 佛坂正幸, 谷口智隆, 江藤忠明, 池田拓人, 日高秀樹, 岩田鉦司, 佐野浩一郎, 上田純二, 千々岩一男:ビデオセッション 11-2 消化器癌手術における私の工夫(下部消化管):直腸癌, 局所再発直腸癌に対する右側臥位併用腹会陰式直腸切断術. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

29) 近藤千博, 牧野一郎, 甲斐真弘, 江藤忠明, 上田純二, 大内田次郎, 千々岩一男:高齢者の肝細胞癌手術症例の検討. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

30) 甲斐真弘, 千々岩一男, 日高秀樹, 江藤忠明, 大内田次郎, 上田純二, 牧野一郎, 近藤千博:ビデオセッション6 良性肝疾患に対する外科治療, その他:肝内結石症に対する肝切除術. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

31) 牧野一郎, 千々岩一男, 大内田次郎, 上田純二, 江藤忠明, 甲斐真弘, 近藤千博:肝細胞癌に対する肝切除術における選択的肝阻血法の有用性. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

32) 日高秀樹, 佛坂正幸, 上田純二, 佐野浩一郎, 池田拓人, 江藤忠明, 谷口智隆, 岩田鉦司, 岩村威志, 千々岩一男:小腸・大腸悪性リンパ腫切除例の予後. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

33) 上田純二, 千々岩一男, 中野賢二:門脈結紮葉および非結紮葉における Cyclin の発現の違い. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

34) 自見政一郎, 宮崎安裕, 大里 隆, 田中雅夫, 佛坂正幸, 千々岩一男:固有筋層にみられた横行結腸脂肪腫の1例. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

35) 新名一郎, 島山俊夫, 藤原まゆみ, 山成英夫, 櫻

井俊孝, 千々岩一男:要望演題 17 イレウスの手術タイミング:開腹歴のない小腸イレウスの手術のタイミング. 第 58 回日本消化器外科学会総会. 2003, 7, 16-18, 東京.

36) Nagaïke, K., Tanaka, H., Naganuma, S., Uchiyama, S., Komaki, W., Itoh, H. and Kataoka, H. : Diverse roles of integral membrane Kunitz-type inhibitor, HAI-1, in the progression of colorectal cancer. The 21st Annual Meeting of Japan Human Cell Society. 2003, 8, 29-30, Saitama.

37) 津曲幸二, 江見 充, 音田正光, 永井尚生, 長幡武光, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉, 三木義男, 千々岩一男, 角田達彦:n0 乳癌における再発予後に関する体系的遺伝子発現解析. 第 62 回日本癌学会総会. 2003, 9, 25-27, 名古屋.

38) 音田正光, 永井尚生, 長幡武光, 津曲幸二, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉, 三木義男, 角田達彦, 江見充:マイクロアレイ解析で同定された遺伝子の乳癌予後マーカーとしての可能性. 第 62 回日本癌学会総会. 2003, 9, 25-27, 名古屋.

39) 長幡武光, 江見 充, 音田正光, 津曲幸二, 藤本崇司, 永井尚生, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉, 三木義男, 角田達彦:cDNA マイクロアレイによる ER 陰性乳癌予後マーカー遺伝子の発現解析. 第 62 回日本癌学会総会. 2003, 9, 25-27, 名古屋.

40) 江見 充, 音田正光, 長幡武光, 藤本崇司, 津曲幸二, 霞富士雄, 坂元吾偉, 角田達彦:乳がん・甲状腺がんのゲノム解析と遺伝子診断. 第 62 回日本癌学会総会. 2003, 9, 25-27, 名古屋.

41) 太田 竜, 和泉弘人, 柴尾和徳, 中山善文, 新名一郎, 若杉哲郎, 河野公俊:P/CAF による GalNAc-T3 遺伝子発現調節. 第 62 回日本癌学会総会. 2003, 9, 25-27, 名古屋.

42) 近藤千博, 牧野一郎, 甲斐真弘, 江藤忠明, 上田純二, 大内田次郎, 長沼誠二, 千々岩一男:肝細胞癌の肺転移と骨転移例における臨床病理学的特徴. 第 45 回日本消化器病学会大会. 2003, 10, 15-17, 大阪.

43) 自見政一郎, 宮崎安裕, 佛坂正幸, 千々岩一男, 田中雅夫:多剤耐性病原性大腸感染について. 第 45 回日本消化器病学会大会. 2003, 10, 15-17, 大阪.

44) 西村誠一郎, 高橋かおる, 五味直哉, 多田敬一郎, 蒔田益次郎, 多田隆士, 岩瀬拓士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉:非触知石灰化乳癌の適切な術式は? 第 41 回日本癌治療学会総会. 2003, 10, 22-24, 札幌.

45) 岩瀬拓士, 西村誠一郎, 多田敬一郎, 高橋かおる, 蒔田益次郎, 多田隆士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉:シンポジウム 17 乳癌, 消化管癌, 婦人科癌におけるリンパ節郭清の意義と諸問題-郭清の程度と予後, QOL を考慮して-:早期乳癌患者におけるリンパ節転移の実態と胸骨傍転移陽性者に対するリンパ節郭清の意義. 第 41 回日本癌治療学会総会. 2003, 10, 22-24, 札幌.

46) 多田敬一郎, 吉本賢隆, 九富五郎, 田辺真彦, 西村誠一郎, 高橋かおる, 蒔田益次郎, 多田隆士, 岩瀬拓士, 高橋俊二, 伊藤良則, 畠 清彦, 霞富士雄:

Bonadonna による Classical CMF に対する日本人の副作用についての検討. 第 41 回日本癌治療学会総会. 2003, 10, 22-24, 札幌.

47) 九富五郎, 多田敬一郎, 吉本賢隆, 田辺真彦, 西村誠一郎, 高橋かおる, 蒔田益次郎, 多田隆士, 岩瀬拓士, 霞富士雄, 伊藤良則, 高橋俊二, 畠 清彦, 秋山 太, 坂元吾偉: 乳癌粘液癌に対する化学療法の有効性の検討. 第 41 回日本癌治療学会総会. 2003, 10, 22-24, 札幌.

48) 徳留なほみ, 伊藤良則, 堀越 昇, 小倉廣之, 陳勁松, 水沼信之, 高橋俊二, 畠 清彦, 霞富士雄: 転移性乳癌に対する Herceptin 投与により間質性肺炎を来した 2 例. 第 41 回日本癌治療学会総会. 2003, 10, 22-24, 札幌.

49) 柴田直哉, 淵本倫久, 柴北宗顕, 福永光子, 谷村修, 佐村博範, 緒方俊二, 佐藤公治, 山田一隆, 高野正博: 機能的便秘の診断のフローチャートおよび Outlet obstruction syndrome の鑑別と治療法についての検討. 第 58 回日本大腸肛門病学会総会. 2003, 11, 7-8, 名古屋.

50) 江藤忠明, 大内田次郎, 牧野一郎, 甲斐真弘, 近藤千博, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男: シンポジウム 9 転移性肝癌の治療戦略: 大腸癌肝転移切除例に関する予後規定因子と補助化学療法の効果に関する検討. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

51) 西村誠一郎, 高橋かおる, 多田敬一郎, 蒔田益次郎, 多田隆士, 岩瀬拓士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 小倉廣之, 秋山 太, 坂元吾偉: 男性乳腺に発生した明細胞汗腺腫の 1 例. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

52) 森洋一郎, 島山俊夫, 藤原まゆみ, 新名一郎, 山成英夫, 櫻井俊孝, 千々岩一男: 臍温存手術を施行した IIIb 型臍損傷の 1 例. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

53) 藤原まゆみ, 島山俊夫, 高橋伸育, 河埜喜久雄, 井手秀幸, 千々岩一男: 閉腹操作における Maxon と Vicryl 連続縫合の比較検討. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

54) 徳留なほみ, 伊藤良則, 高橋俊二, 小倉廣之, 佐藤亜希, 畠 清彦, 多田隆士, 霞富士雄, 菊地かな子, 秋山 太, 坂元吾偉: 皮膚筋炎を合併した乳癌の 2 症例. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

55) 高橋伸育, 島山俊夫, 藤原まゆみ, 河埜喜久雄, 井手秀幸, 千々岩一男: 開腹歴のない小腸イレウス症例の検討-特に CT 検査の重要性について. 第 65 回日本臨床外科学会総会. 2003, 11, 13-15, 福岡.

56) 徳留なほみ, 高橋かおる, 田辺真彦, 西村誠一郎, 多田敬一郎, 蒔田益次郎, 多田隆士, 岩瀬拓士, 吉本賢隆, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉: マンモグラフィ検診における豊胸術後症例の問題点. 第 13 回日本乳癌検診学会総会. 2003, 11, 21-22, 高崎.

57) 高橋かおる, 五味直哉, 田辺真彦, 徳留なほみ, 西村誠一郎, 蒔田益次郎, 岩瀬拓士, 霞富士雄, 秋山 太, 坂元吾偉: ステレオガイド下マンモトーム生検診断の限界

と注意点. 第 13 回日本乳癌検診学会総会. 2003, 11, 21-22, 高崎.

58) 内山周一郎, 伊藤浩史, 長沼誠二, 片岡寛章: 消化管組織における Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor(HAI) type 2-Related Small Peptide(H2RSP)遺伝子発現の検討. 第 26 回日本分子生物学会年会. 2003, 12, 10-13, 神戸.

59) 伊藤浩史, 長沼誠二, 内山周一郎, 長池幸樹, 田中弘之, 片岡寛章: 消化管粘膜上皮再生修復における肝細胞増殖因子活性化因子 HGF Activator の役割(ノックアウトマウスを用いた解析). 第 26 回日本分子生物学会年会. 2003, 12, 10-13, 神戸.

◆地方会

1) 下園孝司, 豊田清一, 上田祐滋, 井手秀幸, 樋口茂輝, 大友直樹, 中島 洋, 山田大輔, 大橋生嗣, 田中晴生, 今金逸美, 蔵田伸明: 腹痛で来院するまれな小児外科疾患. 第 21 回宮崎救急医学会. 2003, 2, 15, 西都.

2) 今金逸美, 湯田敏行, 戸田理一郎, 下園孝司, 大橋生嗣, 山田大輔, 大坪涼子, 福永隆司, 後藤勝也, 花村善洋: 上行結腸癌術後 2 日目に急性肺塞栓症を発症し, PCPS, 緊急肺動脈内血栓除去術にて救命し得た一例. 第 21 回宮崎救急医学会. 2003, 2, 15, 西都.

3) 永野元章, 牧野剛緒, 日高淑晶, 弓削麻里子, 黒木建, 西山憲一, 内野竜二, 佐野浩一郎, 千々岩一男: 小腸炎症性線維性ポリープによる成人腸重積の 1 例. 第 21 回宮崎救急医学会. 2003, 2, 15, 西都.

4) 池田拓人, 岩村威志, 岩田鉦司, 佛坂正幸, 谷口智隆, 日高秀樹, 上田純二, 山下 篤, 浅田祐士郎, 千々岩一男: 多発性腫瘤病変を形成し胸部上部食道まで進展した胃癌の 1 切除例. 第 40 回九州外科学会. 2003, 5, 23-24, 北九州.

5) 上田純二, 甲斐真弘, 大内田次郎, 江藤忠明, 牧野一郎, 近藤千博, 千々岩一男: 銃弾による肝外傷の 1 例. 第 40 回九州外科学会. 2003, 5, 23-24, 北九州.

6) 自見政一郎, 宮崎安裕, 大里 隆, 田中雅夫, 佛坂正幸, 千々岩一男: 病原性大腸菌感染について. 第 40 回九州外科学会. 2003, 5, 23-24, 北九州.

7) 大橋生嗣, 下園孝司, 豊田清一: 胎便性腹膜炎の 1 例. 第 40 回九州小児外科学会. 2003, 5, 23-24, 北九州.

8) 佛坂正幸, 自見政一郎, 岩村威志, 千々岩一男: シンポジウム 内視鏡所見からみた大腸疾患治療法の選択: クロウン病における術中内視鏡の意義. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2003, 7, 4-5, 宮崎.

9) 迫田 敏, 駒田直人, 島 雅保, 西井龍一, 谷 敦至, 藤元登四郎, 沼田政嗣, 山本章二郎, 宮田義史, 坪内博仁: FDG-PET で発見された早期胃癌の 1 例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2003, 7, 4-5, 宮崎.

10) 白土明美, 村田静香, 山家純一, 押川勝太郎, 大塚正晃, 伊達晴彦, 石川直人, 稲津彦彦, 江藤胤尚, 上田純二, 佛坂正幸, 伊藤浩史: 消化管出血を繰返した小腸腫瘍の 1 例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2003, 7, 4-5, 宮崎.

11) 佐野浩一郎, 谷口智隆, 岩村威志, 千々岩一男, 長沼誠二, 内山周一郎, 伊藤浩史, 片岡寛章: Neuroendocrine feature を伴った壁外発育性胃癌の1例. 第 75 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2003, 7, 4-5, 宮崎.

12) 落合竜三, 榮 建文, 立野太郎, 古賀浩幸, 山口健一郎, 杉村 宏, 田村正三, 岩田鉦司, 千々岩一男, 片岡寛章: 膵インスリノーマに選択的動脈内カルシウム注入刺激試験 (ASVS) を試行した一例. 第 157 回日本医学放射線学会九州地方会. 2003, 7, 5-6, 佐賀.

13) 田中弘之, 伊藤浩史, 長池幸樹, 小牧 亘, 片岡寛章: ヒト Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor type-1 (HAI-1) 遺伝子の構造とその機能解析. 第 27 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム. 2003, 7, 17-19, 宮崎.

14) 日高秀樹, 上田祐滋, 樋口茂輝, 大友直樹, 下園孝司, 豊田清一: 6歳未満急性虫垂炎症例の臨床的検討. 第 22 回宮崎救急医学会. 2003, 8, 9, 小林.

15) 佛坂正幸, 自見政一郎, 岩村威志, 千々岩一男: シンポジウム IBD の診断と治療の最前線: クロウン病に対する狭窄形成術の術後成績. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

16) 池田拓人, 佛坂正幸, 谷口智隆, 岩村威志, 千々岩一男, 佐藤勇一郎, 畠山金太, 浅田祐士郎, 山本佳正: S状結腸狭窄をきたした子宮内膜症の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

17) 大内田次郎, 甲斐真弘, 谷口智隆, 江藤忠明, 牧野一郎, 近藤千博, 千々岩一男: パネルディスカッション 胆・膵疾患の診断と内視鏡治療への戦略: 膵仮性嚢胞に対する超音波内視鏡下経胃的ドレナージ術. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

18) 田邊麗子, 大内田次郎, 甲斐真弘, 盛口清香, 浅田祐士郎, 千々岩一男: 術前診断に難渋した肝内胆管嚢胞腺癌の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

19) 麻田貴志, 田邊麗子, 大内田次郎, 岩村威志, 千々岩一男: ミニワークショップ GIST: 同時性肝転移を伴った巨大な胃 Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

20) 有馬里美, 江藤忠明, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男, 村原貴史, 石川直人, 稲津東彦, 江藤胤尚, 畠山金太, 丸塚浩助, 浅田祐士郎: 胃上部に発生した迷入膵の一例. 第 82 回日本消化器病学会九州支部例会. 2003, 11, 21-22, 長崎.

21) 自見政一郎, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男: 要望演題3 IBD 治療の問題点①: ステロイド減量中にショック状態になった潰瘍性大腸炎の1例. 第 28 回日本大腸肛門病学会九州地方会. 2003, 11, 29, 武雄.

22) 柴田伸弘, 佛坂正幸, 自見政一郎, 島 雅保, 森洋一郎, 岩村威志, 千々岩一男: 子宮留膿腫の大腸穿孔により直腸子宮瘻を生じた一例. 第 28 回日本大腸肛門病学会九州地方会. 2003, 11, 29, 武雄.

◆研究会

1) 佛坂正幸: 潰瘍性大腸炎に対する外科的治療-特に術前ステロイドの影響について-. 第1回宮崎大腸疾患研究会. 2003, 1, 17, 宮崎.

2) 岩村威志: 教室食道癌治療の現況. 第1回宮崎消化器癌治療研究会. 2003, 2, 14, 宮崎.

3) 甲斐真弘: 教室における胆道癌治療の現状. 第2回宮崎胆膵疾患研究会. 2003, 6, 13, 宮崎.

4) 近藤千博, 牧野一郎, 甲斐真弘, 江藤忠明, 上田純二, 大内田次郎, 千々岩一男: 肝細胞癌における術前動注療法の意義について. 第 25 回九州肝臓外科研究会. 2003, 7, 26, 北九州.

5) 田中晴生, 上田祐滋, 大橋生嗣, 今釜逸美, 萱島理, 坂井 寛, 日高秀樹, 樋口茂樹, 大友直樹, 下園孝司, 豊田清一: 大腸癌肝肺転移に対する切除成績の検討. 第 25 回九州肝臓外科研究会. 2003, 7, 26, 北九州.

6) 長友安弘, 岩田鉦司, 竹内 茂, 中村一夫, 竹内三郎: パスツレラ肺炎の2例. 第 11 回宮崎感染症研究会. 2003, 7, 31, 宮崎.

7) 自見政一郎, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男: ステロイド減量中に中心静脈カテーテル熱を契機にショック状態になった潰瘍性大腸炎の1例. 第 11 回宮崎感染症研究会. 2003, 7, 31, 宮崎.

8) 江藤忠明, 大内田次郎, 牧野一郎, 甲斐真弘, 近藤千博, 佛坂正幸, 岩村威志, 千々岩一男: 当科における大腸癌肝転移の治療. 第2回宮崎 BCM 研究会. 2003, 8, 29, 宮崎.

9) 日高淑晶, 内野竜二, 永野元章, 千々岩一男, 牧野剛緒, 國枝良行: 結腸がん多発肝転移に対し肝動注化学療法で縮小効果を得ている1例. 第2回宮崎 BCM 研究会. 2003, 8, 29, 宮崎.

10) 近藤千博: 宮崎県における外科周術期の抗菌薬使用に関するアンケート結果. 第1回宮崎外科感染症研究会. 2003, 10, 9, 宮崎.

11) 佛坂正幸: 教室における腹腔鏡補助下大腸切除術の現況. 第2回宮崎内視鏡外科研究会. 2003, 10, 10, 宮崎.

12) 江藤忠明, 自見政一郎, 島 雅保, 田邊麗子, 春山幸洋, 千々岩一男, 榮 建文, 小野誠治, 田村正三: 乳癌術後骨転移による背部痛に対して骨セメント注入療法が奏効した一例. 第 16 回宮崎乳腺疾患研究会. 2003, 10, 18, 宮崎.

13) 自見政一郎, 江藤忠明, 前田資雄, 前原直樹, 土屋和代, 千々岩一男: 急激に増大した乳腺悪性リンパ腫の一例. 第 16 回宮崎乳腺疾患研究会. 2003, 10, 18, 宮崎.

14) 春山幸洋, 江藤忠明, 大内田次郎, 自見政一郎, 牧野一郎, 甲斐真弘, 近藤千博, 千々岩一男, 榮 建文, 古賀治幸, 小野誠治, 田村正三: 肝細胞癌術後の骨転移に対して RFA と骨セメント注入療法が著効した一例. 第 9 回宮崎腫瘍治療研究会. 2003, 10, 31, 宮崎.

15) 永野昌宏, 黒木祥司, 能城光秀, 水田篤志, 千々岩一男, 田中雅夫: FXR は in vivo の胆汁酸生合成調

節を説明しうるか？第25回胆汁酸研究会. 2003, 11, 1, 旭川.

16) 末田秀人, 前田資雄, 太田嘉一, 塩月裕範, 田中俊一, 甲斐真弘, 千々岩一男: Dehydroepiandrosterone 経口投与が cholesterol 7 α -hydroxylase と sterol 12 α -hydroxylase 活性に与える影響. 第25回胆汁酸研究会. 2003, 11, 1, 旭川.

◆発表その他

1) 西村誠一郎: Section 1 乳癌手術拠点病院における乳腺外科の現状: ①癌研究会附属病院の場合. 6th Breast Cancer UP-TO-DATE Meeting-乳癌治療の現状と将来展望-. 2003, 1, 18, 神戸.

2) 二村雄次, 永井秀雄, 本田和男, 露口利夫, 海野倫明, 千々岩一男, 跡見 裕: ワーキンググループ報告: 病型分類ワーキンググループ. 厚生労働省特定疾患対策研究事業肝内結石症に関する調査研究班平成14年度第2回研究打ち合わせ会. 2003, 1, 24, 東京.

3) 甲斐真弘, 江藤忠明, 大内田次郎, 千々岩一男: 肝内結石症95例の検討-とくに胆道再建術後の結石形成について-. 厚生労働省特定疾患対策研究事業肝内結石症に関する調査研究班平成14年度第2回研究打ち合わせ会. 2003, 1, 24, 東京.

4) 池田拓人, 岩村威志, 岩田鉦司, 佛坂正幸, 谷口智隆, 日高秀樹, 上田純二, 山下 篤, 浅田祐士郎, 千々岩一男: 多発性腫瘤病変を形成し胸部上部食道まで進展した胃癌の1切除例. 宮崎胃と腸懇話会. 2003, 4, 18, 宮崎.

5) 山本章二郎, 沼田政嗣, 宮田義史, 宮路紫織, 佛坂正幸, 池田拓人, 千々岩一男, 坪内博仁: 腸管狭窄を来した分類不能型腸炎の一例. 第20回IBD Club Jr. 2003, 6, 28, 東京都.

6) 谷口智隆: 教室における胃癌治療の現況. 第2回宮崎がんフォーラム. 2003, 7, 11, 宮崎.

7) 佛坂正幸: 大腸癌, 良性大腸疾患に対する低侵襲手術-腹腔鏡補助下手術と TEM-. 宮崎消化器外科フォーラム. 2003, 8, 1, 宮崎.

8) 田邊麗子, 大内田次郎, 甲斐真弘, 千々岩一男, 盛口清香, 浅田祐士郎: 肝悪性腫瘍の1例. 第2回Hepatology Forum. 2003, 8, 2, 福岡.

9) 二村雄次, 永井秀雄, 本田和男, 露口利夫, 海野倫明, 千々岩一男, 山上裕機, 跡見 裕: ワーキンググループ報告: MRC による胆管拡張の定量化. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業肝内結石症調査に関する調査研究班平成15年度第1回研究打ち合わせ会. 2003, 9, 5, 東京.

10) 甲斐真弘, 江藤忠明, 大内田次郎, 千々岩一男: 胆道再建術後肝内結石症例の検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業肝内結石症調査に関する調査研究班平成15年度第1回研究打ち合わせ会. 2003, 9, 5, 東京.

11) 津曲幸二, 千々岩一男, 永井尚生, 長幡武光, 藤本崇司, 角田達彦, 江見 充, 音田正光: n0 乳癌における再発予後に関する体系的遺伝子発現解析. 第71回日

本医科大学医学会総会. 2003, 9, 6, 東京.

12) 長幡武光, 津曲幸二, 音田正光, 江見 充, 永井尚生: ER 陰性乳癌術後予後の体系的遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会. 2003, 9, 6, 東京.

13) 音田正光, 赤石純子, 浅香晋一, 津曲幸二, 長幡武光, 永井尚生, 江見 充: マイクロアレイ解析で同定された遺伝子の乳癌予後マーカーとしての可能性. 第71回日本医科大学医学会総会. 2003, 9, 6, 東京.

14) 浅香晋一, 藤本崇司, 赤石純子, 津曲幸二, 永井尚生, 江見 充, 音田正光: ヒト乳癌における XBP-1 遺伝子の発現. 第71回日本医科大学医学会総会. 2003, 9, 6, 東京.

15) 赤石純子, 浅香晋一, 藤本崇司, 津曲幸二, 永井尚生, 江見 充, 角田達彦, 音田正光: 腋窩リンパ節転移乳癌における遺伝子発現解析. 第71回日本医科大学医学会総会. 2003, 9, 6, 東京.

16) 東 秀史, 田中俊一, 瀬口浩司, 太田嘉一, 春山幸洋, 高橋 誉, 櫻井俊孝, 川畑眞治, 佐藤勇一郎, 山下兼一: 肝転移を来した AFP 産生膵 acinar cell adenocarcinoma の一切除例. 宮崎県外科医会夏期講演会. 2003, 9, 12, 宮崎.

17) 樋口茂輝, 上田祐滋, 今釜逸美, 下藺孝司, 豊田清一, 嶋本富博, 島尾義也, 林 透: 術前に縦隔腫瘍と診断された非定型肺カルチノイドの1切除例. 宮崎県外科医会夏期講演会. 2003, 9, 12, 宮崎.

18) 瀬口浩司, 太田嘉一, 高橋 誉, 田中俊一, 春山幸洋, 櫻井俊孝, 東 秀史, 川畑眞治, 山下兼一: 捻転により急性胆嚢炎症状を呈した floating gallbladder の2例. 宮崎県外科医会夏期講演会. 2003, 9, 12, 宮崎.

19) 高橋伸育, 新名一郎, 永野元章, 旭吉雅秀, 河埜喜久雄, 島山俊夫, 丸塚浩助: 直腸狭窄を認めた後腹膜黄色肉芽腫の1例. 宮崎県外科医会夏期講演会. 2003, 9, 12, 宮崎.

20) 甲斐真弘, 内山周一郎, 千々岩一男: 粘液産生胆管癌の一切除例. 第9回21世紀外科セミナー. 2003, 11, 13, 福岡.

21) Nagahata, T., Onda, M., Sato, T., Tsumagari, K., Nagai, H., Kasumi, F., Yokoyama, S., Tsunoda, T. and Emi, M. : Novel genetic markers for prediction of postoperative prognosis in estrogen receptor-negative breast cancer. 26th San Antonio Breast Cancer Symposium. 2003, 12, 3-6, San Antonio, USA.

22) Nagaike, K., Tanaka, H., Itoh, H. and Kataoka, H. : Diverse roles of hepatocyte growth factor activator inhibitor type1, HAI-1, in the progression of colorectal carcinoma. The 2nd Japan GRG/AGA Symposium. 2003, 12, 12-13, Kyoto.

◆講演

1) 千々岩一男: 胆嚢癌-外科治療の現状と肝不全対策-. 一親会・福岡勤務医会・九州大学第一外科教室合同特別講演会. 2003, 1, 10, 福岡.

2) 岩村威志, 岩田鉦司, 佛坂正幸, 江藤忠明, 谷口智隆, 日高秀樹, 池田拓人, 上田純二, 千々岩一男: 胃癌の

定型手術に対する最近の考え方. 宮崎県外科医会冬期講演会. 2003, 2, 8, 宮崎.

3) 千々岩一男:胆道癌の外科治療-肝切除から脾頭十二指腸切除まで-. 第7回宮崎肝疾患フォーラム. 2003, 4, 11, 宮崎.

4) 千々岩一男:胆石症と胆道癌の外科治療. 西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会. 2003, 5, 20, 小林.

5) 千々岩一男:胆道癌 特に胆嚢癌の外科治療の現状と肝不全対策. 第9回外科侵襲フォーラム NOW. 2003, 10, 4, 大阪.

6) 佛坂正幸:クローン病の肛門病変. 第20回宮崎直腸肛門疾患懇話会. 2003, 10, 4, 宮崎.

7) 佛坂正幸:大腸癌に対する低侵襲手術-腹腔鏡補助手術と TEM-. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 6, 延岡.

8) 江藤忠明:乳癌術後のフォローアップと進行・再発乳癌治療の要点. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 6, 延岡.

9) 佛坂正幸:大腸癌に対する低侵襲手術-腹腔鏡補助手術と TEM-. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 12, 宮崎.

10) 江藤忠明:乳癌術後のフォローアップと進行・再発乳癌治療の要点. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 12, 宮崎.

11) 千々岩一男:胆嚢癌-外科治療の現状と術前術後管理-. 第2回外科術前・術後病態研究会. 2003, 12, 13, 千葉.

12) 佛坂正幸:大腸癌に対する低侵襲手術-腹腔鏡補助手術と TEM-. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 13, 都城.

13) 江藤忠明:乳癌術後のフォローアップと進行・再発乳癌治療の要点. 平成15年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会. 2003, 12, 13, 都城.

外科学第二講座 (Surgery II)

◆原 書

1) Tomita M., Matsuzaki Y., Edagawa M., Shimizu T., Hara M. and Onitsuka T.: Distribution of mast cells in mediastinal lymph nodes from lung cancer patient, *World J Surg Oncol*, 1:1-4, 2003

2) Nakamura K., Onitsuka T., Yano M. and Yano Y.: Study in three different type of cardiopulmonary bypass on arterial ketone body ratio: its prognostic implication and participation of body temperature., *Interactive Cardiovasc Thorac Surg*, 2:25-29, 2003

3) Nakamura K., Onitsuka T., Yano M., Yano Y., Matsuyama M. and Niina K.: Influence of heparin dosage on hemostasis under combined use of nafanostat mesilate during deep hypothermic circulatory arrest, *Jpn J Thorac Cardiovasc Surg*, 51:186-191, 2003

4) Tomita M., Matsuzaki Y., Edagawa M., Shimizu T., Hara M. and Onitsuka T.: Lack of prognostic significance of tumor angiogenesis in resected pN2 non-small cell lung cancer., *Interactive Cardiovasc Thorac Surg*, 2:201-205, 2003

5) Matsuzaki Y., Shimizu T., Edagawa M., Hara M., Tomita M., Ayabe T. and Onitsuka T.: ""The law of 3"": prognostic parameters for resected metastatic pulmonary tumors., *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 9:290-294, 2003

6) Tomita M., Matsuzaki Y., Edagawa M., Shimizu T., Hara M. and Onitsuka T.: Prognostic significance of bcl-2 expression in resected pN2 non-small cell lung cancer., *EJSO*, 29:654-657, 2003

7) Yanagita, T., Kobayashi, H., Uezono, Y., Yokoo, H., Sugano, T., Saitoh, T., Minami, S., Shiraishi, S. and Wada, A.: Destabilization of Nav1.7 sodium channel subunit mRNA by constitutive phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase: negative regulation of steady-state level of cell surface functional sodium channels in adrenal chromaffin cells. *Mol. Pharmacol.* 63:1125-1136, 2003.

8) Yokoo, H., Saitoh, T., Shiraishi, S., Yanagita, T., Sugano, T., Minami, S., Kobayashi, H. and Wada, A.: Distinct effects of ketone bodies on down-regulation of cell surface insulin receptor and insulin receptor substrate-1 phosphorylation in adrenal chromaffin cells. *J. Pharmacol. Exp. Ther.* 304:994-1002, 2003.

9) Shiraishi, S., Yokoo, H., Yanagita, T., Kobayashi, H., Minami, S., Saitoh, T., Takasaki, M. and Wada, A.: Differential effects of bupivacaine enantiomers, ropivacaine and lidocaine on up-regulation of cell surface voltage-dependent sodium channels in adrenal chromaffin cells. *Brain Res.* 966:175-184, 2003.

10) Naganuma, S., Itoh, H., Uchiyama, S., Tanaka, H., Nagaike, K., Miyata, S., Uchinokura, S., Nuki,

Y., Akiyama, Y., Chijiwa, K., Kataoka, H. : Characterization of transcripts generated from mouse hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2 (HAI-2) and HAI-2-related small peptide (H2RSP) genes: chimeric mRNA transcribed from both HAI-2 and H2RSP genes is detected in human but not in mouse., *Biochemical and Biophysical Research Communication* 302: 345-353., 2003.

11) Kataoka, H., Tanaka, H., Nagaike, K., Uchiyama, S., Itoh, H. : Role of cancer cell-stroma interaction in invasive growth of cancer cells., *Human Cell*, 16: 1-14, 2003.

12) 清水哲哉, 松崎泰憲, 枝川正雄, 富田雅樹, 原政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 和田俊介, 鬼塚敏男 : シスプラチン、ドセタキセルによる非小細胞肺癌 N2 症例に対する Induction therapy の検討, 第 43 回日本肺癌学会総会報告集 *Aventis Oncology*, 9, 2003

13) 綾部貴典, 福島靖典, 帖佐英一, 吉岡 誠, 鬼塚敏男 : 心筋梗塞に合併した後心室中隔穿孔に対する急性期 Daggett 手術の経験, *宮崎県医師会医学学会誌*, 27: 54-57, 2003

14) 綾部貴典, 中村都英, 矢野光洋, 鬼塚敏男 : 破裂性胸部大動脈瘤手術症例の臨床検討, *胸部外科*, 56: 555-559, 2003

15) 河野文彰, 関屋 亮, 篠原立大, 内野広文, 奥村恭久, 笠木寛治, 鬼塚敏男, 片上秀喜 : 副甲状腺機能亢進症における ^{99m}Tc-sesta MIBI (methoxyisobutyl-isonitrile) シンチグラフィ施行例の検討と陰性症例の臨床病理組織学的特徴 (特集), *ホルモンと臨床*, 51: 90-97, 2003

16) 綾部貴典, 福島靖典, 吉岡 誠, 鬼塚敏男 : 下腹壁動脈を composite graft として使用した CABG (特集), *胸部外科*, 56: 731-741, 2003

17) 綾部貴典, 吉岡 誠, 福島靖典, 松崎泰憲, 鬼塚敏男 : 胸部外科の指針 慢性膿胸に対する外科的治療法の臨床的検討 大網充填法を中心に, *胸部外科*, 56: 989-996, 2003

18) 古川貢之, 桑原正知, 中村栄作, 松山正和 : Carpentier Edwards pericardial valve 19mm, 21mm を用いた大動脈弁置換術の術後血行動態の検討, *日本心臓血管外科学会雑誌*, 32: 240-242, 2003

◆症例報告

1) Nakamura, K., Onitsuka, T., Yano, M. and Yano, Y. : Surgical resection of right atrial neurilemoma extending to pulmonary vein., *Eur J Cardio-thorac Surg*, 24: 840-842, 2003

2) Tomita, M., Matsuzaki, Y., Edagawa, M., Shimizu, T., Hara, M. and Onitsuka, T. : Pulmonary granuloma possibly caused by staples after video-assisted thoracoscopic surgery., *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 9: 123-125, 2003

3) Furukawa, K., Kuwabara, M., Nakamura, E.,

Ninomiya H. and Onitsuka T. : Protruding thrombus in the left atrium found 7 years after percutaneous transvenous mitral commissurotomy: report of a case., *Surg today*, 33: 55-57, 2003

4) Tomita, M., Ichinari, H., Tomita, Y., Mine, K., Iiboshi, H., Kisanuki, A., Shibata, K. : Pulmonary granuloma possibly caused by staples after video-assisted thoracoscopic surgery., *Ann Thorac Cardiovasc Surg*, 9: 123-125, 2003

5) 綾部貴典, 吉岡 誠, 福島靖典, 櫻井俊孝, 鬼塚敏男 : 重度多発外傷を合併した外傷性横隔膜破裂の1救命治療例, *宮崎県医師会医学学会誌*, 27: 39-43, 2003

6) 綾部貴典, 土田裕一, 井上正邦, 小坂裕之, 中島清美, 鬼塚敏男 : 急性虫垂炎発症を契機に発見された盲腸癌の1例, *宮崎県医師会医学学会誌*, 27: 120-123, 2003

7) 河野文彰, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 松山正和, 黒木順哉, 鬼塚敏男 : 心タンポナーデで発症した遠位弓部大動脈瘤破裂の1例, *胸部外科*, 56: 497-500, 2003

8) 河野文彰, 関屋 亮, 篠原立大, 中平孝明, 中島健, 榎本雄介, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男 : 転移リンパ節に腺扁平上皮癌を認めた胃腺癌の1手術症例, *日本消化器外科学会雑誌*, 36: 1406-1409, 2003

9) 福島靖典, 長濱博幸, 早瀬崇洋, 吉岡 誠, 鬼塚敏男 : 外傷性大動脈弁閉鎖不全症の1例, *胸部外科*, 56: 1053-1055, 2003

10) 長池涼子, 片上秀喜, 山口秀樹, 長町茂樹, 二宮浩範, 松崎泰憲, 鬼塚敏男, 陣之内正史 : FDG-PET が有用であった気管支カルチノイドによる異所性 ACTH 症候群の一例, 14: 61-67, 2003

11) 綾部貴典, 福島靖典, 帖佐英一, 吉岡 誠, 鬼塚敏男 : 心筋梗塞に合併した後心室中隔に対する急性期 Daggett 手術の経験, *宮崎県医師会医学学会誌*, 27: 54-57, 2003

12) 清水勲君, 清原省吾, 落合栄志, 市成秀樹, 富田雅樹, 富田裕二, 峯 一彦, 柴田紘一郎, 木佐貫篤 : 大網に発生した Castleman 病の1例, *宮崎県医師会医学学会誌*, 27: 155-158, 2003

◆総 説

1) 綾部貴典, 福島靖典, 松崎泰憲, 吉岡 誠, 鬼塚敏男 : 慢性膿胸に対する外科的治療法の臨床的検討—大網充填法を中心に—, *胸部外科*, 56: 989-996, 2003

2) 綾部貴典 : 私の医療情報伝達法, *胸部外科*, 56: 861-866, 2003

◆学会発表

1) 原政樹, 松崎泰憲, 帖佐英一, 枝川正雄, 清水哲哉, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 鬼塚敏男 : 非小細胞肺癌患者の末梢血中免疫調節細胞の解析, 第8回

九州肺癌カンファレンス, (2003.2 福岡)

2) 綾部貴典, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原政樹, 二宮浩範, 和田俊介, 鬼塚敏男: 赤芽球瘍(PRCA)を合併した胸腺腫の2切除例, 第22回日本胸腺研究会, (2003.2 宮崎)

3) 柳田俊彦, 菅野孝, 齋藤智和, 小林英幸, 横尾宏毅, 和田明彦: Insulin-like growth factor-I受容体の生合成過程におけるheat shock protein 90の役割 培養ウシ副腎髄質細胞での検討, 第76回日本薬理学会年会, (2003.3 福岡)

4) 横尾宏毅, 齋藤智和, 白石成二, 小林英幸, 柳田俊彦, 南慎一, 菅野孝, 和田明彦: ケトン体アセトアセテートによる副腎髄質細胞でのインスリン受容体シグナリングの低下, 第76回日本薬理学会年会, (2003.3 福岡)

5) 綾部貴典, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原政樹, 二宮浩範, 黒木順哉: von Recklinghausen病に合併した胸部外科疾患の臨床的検討, 第20回日本呼吸器外科学会総会, (2003.5 東京)

6) 枝川正雄, 松崎泰憲, 清水哲哉, 原政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 関屋亮, 鬼塚敏男: ヨードホルムガーゼの開窓創内充填により意識障害を呈した慢性膿胸の2例, 第20回日本呼吸器外科学会総会, (2003.5 東京)

7) 原政樹, 松崎泰憲, 帖佐英一, 渡邊章, 枝川正雄, 清水哲哉, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 鬼塚敏男: 非小細胞肺癌患者の末血免疫調節細胞の解析, 第20回日本呼吸器外科学会総会, (2003.5 東京)

8) 矢野光洋, 中村都英, 西村正憲, 黒木順哉, 遠藤稯治, 新名克彦, 齋藤智和, 矢野義和, 鬼塚敏男: 腹部大動脈瘤術後遠隔期成績と死亡原因, 第33回日本心臓血管外科学会学術総会, (2003.5 札幌)

9) 黒木順哉, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 関屋亮, 中村都英, 鬼塚敏男: 月経随伴気胸再発例に対する胸腔内蒸留水洗浄の効果, 第40回九州外科学会, (2003.5 北九州)

10) 榎本雄介, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 古川貢之, 西村正憲, 関屋亮, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: ASDと左内腸骨静脈瘤を合併し、2期的に手術を施行した1例, 第40回九州外科学会, (2003.5 北九州)

11) 西村正憲, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 古川貢之, 榎本雄介, 関屋亮, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 解離性上腸間膜動脈瘤の1手術例, 第40回九州外科学会, (2003.5 北九州)

12) 和田俊介, 関屋亮, 篠原立大, 中平孝明, 中島健, 河野文彰, 中村都英, 松崎泰憲, 伊藤浩史, 鬼塚敏男: 消化管出血で発見された小腸血管拡張症の一例, 第40回九州外科学会, (2003.5 北九州)

13) 河野文彰, 関屋亮, 篠原立大, 中平孝明, 中島健, 和田俊介, 山下篤, 浅田祐士郎, 楠元規生, 佐々木文郷, 甲斐泰文, 沼田政嗣, 山本章二郎, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 結節性多発動脈炎に併発した虚

血性腸炎の1例, 第40回九州外科学会, (2003.5 北九州)

14) 二宮浩範, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原政樹, 綾部貴典, 黒木順哉, 中村都英, 関屋亮, 鬼塚敏男: 肺癌切除例における気管支断端陽性の臨床的検討, 第26回日本気管支学会総会, (2003.5 東京)

15) 中島健, 関屋亮, 榎本雄介, 河野文彰, 中平孝明, 篠原立大, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 上皮小体機能亢進症における^{99m}Tc-MIBシンチ陰性例についての検討, 第103回日本外科学会定期学術集会, (2003.6 札幌)

16) 遠藤稯治, 児嶋一司, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男, 荒木賢二: モータ消費電流のモニタリングによるPCPSの吸い付き自動回避に関する検討, 第103回日本外科学会定期学術集会, (2003.6 札幌)

17) 原政樹, 松崎泰憲, 帖佐英一, 枝川正雄, 清水哲哉, 綾部貴典, 二宮浩範, 和田俊介, 鬼塚敏男: 肺癌患者における末梢血中免疫調節T細胞(CD4+CD25+)の解析, 第103回日本外科学会定期学術集会, (2003.6 札幌)

18) 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 黒木順哉, 西村正憲, 松崎泰憲, 関屋亮, 鬼塚敏男: 脳分離体外循環を用いた胸部大動脈手術の多変量解析および低侵襲化の効果の検討, 第103回日本外科学会定期学術集会, (2003.6 札幌)

19) 河野文彰, 関屋亮, 篠原立大, 内野広文, 中平孝明, 中島健, 和田俊介, 児玉英之, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 原発性虫垂癌の3例, 第81回日本消化器病学会九州支部例会, (2003.6 福岡)

20) 児玉英之, 河野文彰, 内野広文, 清水哲哉, 篠原立大, 関屋亮, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 術後後期に肺転移を来した大腸癌の3例, 第81回日本消化器病学会九州支部例会, (2003.6 福岡)

21) 古川貢之, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 児嶋一司, 榎本雄介, 鬼塚敏男, 山下篤, 浅田祐士郎: 左房粘液腫が疑われた左房内有茎状球状血栓症の一例, 宮崎循環疾患研究会, (2003.6 宮崎)

22) 古川貢之, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 児嶋一司, 榎本雄介, 鬼塚敏男, 山下篤, 浅田祐士郎: 左房粘液腫が疑われた左房内有茎状球状血栓症の一例, 第94回日本循環器学会九州地方会, (2003.6 福岡)

23) 児玉英之, 関屋亮, 篠原立大, 内野広文, 河野文彰, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 広範なリンパ節転移を来した径10x6mmのPM接合部胃癌の1手術例, 第75回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, (2003.7 宮崎)

24) 河野文彰, 関屋亮, 篠原立大, 内野広文, 児玉英之, 稲津東彦, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 放射線治療が奏効した十二指腸follicular lymphomaの1例, 第75回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, (2003.7 宮崎)

25) 矢野光洋, 中村都英, 西村正憲, 榎本雄介, 古川

貢之, 新名克彦, 齋藤智和, 矢野義和, 鬼塚敏男: いわゆる Open Stent 法を折り返し吻合と解剖学的経路による鎖骨下動脈再建で行う弓部置換術, 第 31 回 日本血管外科学会学術総会, (2003.7 金沢)

26) 矢野義和, 中村都英, 矢野光洋, 齋藤智和, 新名克彦, 古川貢之, 榎本雄介, 西村正憲, 関屋 亮, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 腎動脈上で遮断を要した腹部大動脈瘤手術症例の検討, 第 31 回 日本血管外科学会学術総会, (2003.7 金沢)

27) 古川貢之, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 榎本雄介, 西村正憲, 鬼塚敏男: B 型大動脈 解離に対する急性期治療の選択ー保存的治療は妥当かー, 第 31 回 日本血管外科学会学術総会, (2003.7 金沢)

28) 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 古川貢之, 榎本雄介, 西村正憲, 鬼塚敏男: 胸腹部大動脈瘤手術症例の検討ー特に肋間動脈再建法の違いについてー, 第 31 回 日本血管外科学会学術総会, (2003.7 金沢)

29) 二宮浩範, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原 政樹, 綾部貴典, 和田俊介, 鬼塚敏男: 稀な肺 hepatoid adenocarcinoma の 1 例, 第 43 回 日本肺癌学会九州地方会, (2003.7 大分)

30) 河野文彰, 関屋 亮, 篠原立大, 中平孝明, 中島 健, 和田俊介, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 当科における胃腺扁平上皮癌の臨床病理学的検討, 第 58 回 日本消化器外科学会総会, (2003.7 東京)

31) 篠原立大, 関屋 亮, 和田俊介, 榎本雄介, 河野文彰, 中島 健, 中平孝明, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 腹膜偽粘液腫の治療に低分子デキストランは有効か? ハイポニックと比較して, 第 58 回 日本消化器外科学会 総会, (2003.7 東京)

32) 関屋 亮, 篠原立大, 中平孝明, 中島 健, 河野文彰, 和田俊介, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 噴門部胃癌 症例の臨床病理学的検討, 第 58 回 日本消化器外科学会 総会, (2003.7 東京)

33) Matsuzaki, Y., Edagawa, M., Shimizu, T., Hara, M., Ayabe, T., Ninomiya, H., Kuroki, J. and Onitsuka, T. : Profitable effect of PGE 1 for esophageal reconstruction surgery, 第 16 回 World society of cardio-thoracic surgeons, (2003.7 Kumamoto)

34) Furukawa, K., Nakamura, K., Yano, M., Yano, Y., Saitoh, T., Kojima K., Enomoto, Y. and Onitsuka, T. : Long-term results of operated and non-operated acute B aortic dissection, 第 16 回 World society of cardio-thoracic surgeons, (2003. 7 Kumamoto)

35) 河野文彰, 関屋 亮, 篠原立大, 内野広文, 児玉英之, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 肝細胞癌に対する開腹・開胸焼灼術症例の検討, 第 25 回 九州肝臓外科研究会, (2003.7 北九州)

36) 榎本雄介, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 児嶋一司, 古川貢之, 関屋 亮, 松崎

泰憲, 鬼塚敏男: 側副路塞栓術を要した TF 術後心不全症例, 第 36 回 日本胸部外科学会九州地方会総会, (2003.7 久留米)

37) 綾部貴典, 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原 政樹, 二宮浩範, 黒木順哉, 鬼塚敏男: 両側下葉切除を行った肺ムコール症, 第 36 回 日本胸部外科学会九州地方会 総会, (2003.7 久留米)

38) 矢野義和, 中村都英, 矢野光洋, 齋藤智和, 新名克彦, 児嶋一司, 古川貢之, 榎本雄介, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 心臓原発の神経鞘腫の 1 手術例, 第 36 回 日本胸部外科 学会九州地方会総会, (2003.7 久留米)

39) 枝川正雄, 松崎泰憲, 清水哲哉, 原 政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 鬼塚敏男: 食道アカラシア穿孔 に対する 2 期的手術, 第 36 回 日本胸部外科学会九州地方 会総会, (2003.7 久留米)

40) 矢野光洋, 中村都英, 榎本雄介, 古川貢之, 児嶋一司, 新名克彦, 齋藤智和, 矢野義和, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: open stent 法による弓部置換術の検討, 第 36 回 日本胸部 外科学会九州地方会総会, (2003.7 久留米)

41) 古川貢之, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 児嶋一司, 榎本雄介, 鬼塚敏男: 疣贅による AMI を発症した IE の一例, 第 36 回 日本胸部外科学会九州 地方会総会, (2003.7 久留米)

42) 田中弘之, 伊藤浩史, 長池幸樹, 小牧 亘, 片岡寛章: ヒト Hepatocyte Growth Factor Activator Inhibitor type-1 (HAI-1) 遺伝子の構造とその機能解析, 第 27 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム, (2003.7 宮崎)

43) 児嶋一司, 矢野光洋, 中村都英, 矢野義和, 齋藤智和, 新名克彦, 古川貢之, 榎本雄介, 関屋 亮, 松崎泰憲, 盛口清香, 浅田祐士郎, 鬼塚敏男: 成人 T 細胞リンパ腫 活動期に発症した急性大動脈解離の一例, 第 82 回 日本血管外科学会九州地方会, (2003. 8 鹿児島)

44) Nagaike, K., Tanaka, H., Naganuma, S., Uchiyama, S., Komaki, W., Itoh, H., Kataoka, H. : Diverse roles of integral membrane Kunitz-type inhibitor, HAI-1, in the progression of colorectal cancer, The 21st Annual Meeting of Japan Human Cell Society, (2003. 8 Saitama)

45) 松崎泰憲, 枝川正雄, 清水哲哉, 原 政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 鬼塚敏男: 胸膜悪性病変に対する胸腔内ハイパーサーミア治療の検討, 第 20 回 日本ハイパーサーミア学会, (2003.9 福岡)

46) 河野文彰, 関屋 亮, 鬼塚敏男: 大腸・小腸病変を伴った全身性壊死性血管炎の 3 例, 第 58 回 日本大腸肛門病学会総会, (2003.11 名古屋)

47) 篠原立大, 関屋 亮, 児玉英之, 河野文彰, 内野広文, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 直腸癌の再発・転移 症例の検討, 第 65 回 日本臨床外科学会総会, (2003.11 久留米)

48) 清水哲哉, 松崎泰憲, 枝川正雄, 原 政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 中村都英, 関屋 亮, 鬼塚敏

男: 肺腺癌完全切除例における胸腔内洗浄液 CEA 値・CYFRA 値・細胞診の診断的意義, 第 56 回 日本胸部外科学会総会, (2003.11 東京)

49) 清水哲哉, 松崎泰憲, 枝川正雄, 原 政樹, 綾部貴典, 二宮浩範, 黒木順哉, 中村都英, 関屋 亮, 鬼塚敏男: 発症後 24 時間以上を経過した食道破裂・穿孔の臨床的検討, 第 56 回 日本胸部外科学会総会, (2003.11 東京)

50) 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 齋藤智和, 児嶋一 司, 新名克彦, 古川貢之, 榎本雄介, 鬼塚敏男: 脳分離体外 循環の術前検査に脳血管病変は必要か?, 第 56 回 日本 胸部外科学会総会, (2003.11 東京)

51) 河野文彰, 関屋 亮, 篠原立大, 内野広文, 児玉英之, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 腸回転異常症を伴った胃癌の 1 手術症例, 第 82 回 日本消化器病学会九州支部例会, (2003.11 長崎)

52) 児玉英之, 関屋 亮, 篠原立大, 内野広文, 河野文彰, 中村都英, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: クロウン病術後 17 年 で肛門管癌を発症した 1 例, 第 82 回 日本消化器病学会 九州支部例会, (2003.11 長崎)

53) 矢野義和, 中村都英, 矢野光洋, 齋藤智和, 児嶋一 司, 古川貢之, 榎本雄介, 松崎泰憲, 鬼塚敏男, 長池幸樹, 伊藤高史: 感染性心内膜炎術後のアスペルギルスによる 感染性上行大動脈瘤手術の経験, 第 83 回 日本血管外科 学会九州地方会, (2003.11 福岡)

54) Yanagita, T., Uezono, Y., Saitoh, T., Sugano, T., Kobayashi, H., Yokoo, H., Satoh, S., Iwakiri, T. and Wada, A. : Down-regulation of insulin-like growth factor-I receptor by heat shock protein 90 inhibitor in adrenal chromaffin cells. Society for Neuroscience, 33rd Annual Meeting, (2003.11 New Orleans)

55) Yokoo, H., Saitoh, T., Shiraishi, S., Yanagita, T., Sugano, T., Minami, S., Kobayashi, H. and Wada, A. : Selective suppression of insulin signaling by a ketone body acetoacetate in adrenal chromaffin cells. Society for Neuroscience, 33rd Annual Meeting, (2003.11 New Orleans)

56) 齋藤智和, 中村都英, 矢野光洋, 矢野義和, 児嶋一 司, 古川貢之, 榎本雄介, 関屋 亮, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: 血栓閉塞型 Stanford A 型急性大動脈解離の検討, 第 95 回 日本循環器学会九州地方会, (2003.12 大分)

57) Nagaike, K., Tanaka, H., Itoh, H., Kataoka, H., : Diverse roles of hepatocyte growth factor activator inhibitor type1, HAI-1, in the progression of colorectal carcinoma Educational Seminar for Young Investigators Ⅲ, The 2nd Japan GRG/AGA Symposium, (2003.12 Kyoto)

◆講 演

1) 鬼塚敏男: 先天性心疾患の診断と治療, 大分医科大学講義, (2003.2 大分)

2) 清水哲哉: 第二外科における肺癌の治療戦略 (特

に N2 病変について), 第 11 回 宮崎呼吸器懇話会, (2003. 6 宮崎)

3) 中村都英: 大動脈疾患の最新治療について, 第 11 回 県北脈管研究会, (2003.8 延岡)

4) 松崎泰憲: 癌性胸膜炎に対する治療, 第 1 回 成人 病検診従事者研修会肺癌部会・細胞診部会合同研修会, (2003.11 宮崎)

5) 関屋 亮: H ピロリと胃癌の関係, 平成15年度 東諸県郡医師会班勉強会, (2003.12 宮崎)

◆座 長

1) 松崎泰憲: (講演), SIRS/ALI シンポジウム in MIYAZAKI, (2003.1 宮崎)

2) 松崎泰憲: 第 20 回 日本呼吸器外科学会総会, (2003.5 東京)

3) 鬼塚敏男: 第 33 回 日本心臓血管外科学会学術総会, (2003.5 札幌)

4) 松崎泰憲: 第 40 回 九州外科学会, (2003. 5 北九州)

5) 中村都英: 宮崎循環疾患研究会, (2003.6 宮崎)

6) 関屋 亮: 第 75 回 日本消化器内視鏡学会九州支部 例会, (2003.7 宮崎)

7) 鬼塚敏男: 第 31 回 日本血管外科学会学術総会, (2003.7 金沢)

8) 鬼塚敏男: (特別講演), 第 7 回 宮崎甲状腺疾患研究会, (2003.7 宮崎)

9) 関屋 亮: 第 7 回 宮崎甲状腺疾患研究会, (2003.7 宮崎)

10) 篠原立大: 第 28 回 消化器疾患宮崎セミナー, (2003.7 宮崎)

11) 松崎泰憲: 第 43 回 日本肺癌学会九州地方会, (2003.7 大分)

12) 中村都英: 第 36 回 日本胸部外科学会九州地方会総 会, (2003.7 久留米)

13) 松崎泰憲: 第 36 回 日本胸部外科学会九州地方会総 会, (2003.7 久留米)

14) 鬼塚敏男: (特別講演), 第 14 回 宮崎肺癌研究会, (2003.9 宮崎)

15) 枝川正雄: 第 14 回 宮崎肺癌研究会, (2003. 9 宮崎)

16) 松崎泰憲: 第 20 回 日本ハイパーサーミア学会, (2003.9 福岡)

17) 鬼塚敏男: (特別講演), 宮崎循環疾患研究会, (2003.10 宮崎)

18) 松崎泰憲: 第 2 回 宮崎内視鏡外科研究会, (2003. 10 宮崎)

19) 松崎泰憲: 第 44 回 日本肺癌学会総会, (2003.11 東 京)

20) 鬼塚敏男: 第 44 回 日本脈管学会総会, (2003.11 福 岡)

21) 鬼塚敏男: 第 65 回 日本臨床外科学会総会, (2003. 11 福岡)

22) 鬼塚敏男: 第 56 回 日本胸部外科学会総会,

(2003. 11 東京)

23) 中村都英: 第83回 日本血管外科学会九州地方会, (2003. 11 福岡)

整形外科学講座 (Orthopedics)

◆原 著

1) Kubo S, Goel VK, Yang SJ, Tajima N: Biomechanical evaluation of cervical double-door laminoplasty using hydroxyapatite spacer, *Spine*, 28(3):227-234, 2003.

2) 高村徳人, 帖佐悦男, 奥村 学, 横田 崇, 藤田健一, 日高宗明, 緒方賢次, 山崎啓之, 徳永 仁, 津田聖一, 川井恵一, 有森和彦: 関節リウマチ (RA) 患者に対する鎮痛薬ナブメトンの効果的な投与法, *医薬ジャーナル*, 39(3):1041-1046, 2003.

3) 西里徳重, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学, 公文崇詞, 山田正寿: セメントレス AML 型 THA の 5 年以上の臨床成績, *整形外科と災害外科*, 52(1):39-42, 2003.

4) 大倉俊之, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 帖佐悦男, 田島直也: 宮崎県高校野球選手に対する傷害調査, *整形外科と災害外科*, 52(2):287-289, 2003.

5) Chosa E, Hamada H, Kitamura K, Kuwasako K, Yanagita T, Eto T, Tajima N: Expression of adrenomedullin and its receptor by chondrocyte phenotype cells, *Biochem Biophys Res Commun*, 303(1):379-386, 2003.

6) Totoribe K, Matsumoto M, Goel VK, Yang SJ, Tajima N, Shikinami Y: Comparative biomechanical analysis of a cervical cage made of an unsintered hydroxyapatite particle and poly-L-lactide composite in a cadaver model, *Spine*, 28(10):1010-1015, 2003.

7) Chosa E, Sekimoto T, Sonoda N, Yamamoto K, Matsuda H, Takahama K, Tajima N: Evaluation of Human b-actin as a Serum Marker for Exercise-induced Muscle Damage, *Clin J Sport Med*, 13(4):209-212, 2003.

8) Sonoda N, Chosa E, Totoribe K, Tajima N: Biomechanical analysis for stress fractures of the anterior middle third of the tibia in athletes: nonlinear analysis using a three-dimensional finite element method, *J Orthop Sci*, 8(4):505-513, 2003.

9) Goto K, Tajima N, Chosa E, Totoribe K, Kubo S, Kuroki H, Arai T: Effects of lumbar spinal fusion on the other lumbar intervertebral levels (three-dimensional finite element analysis), *J Orthop Sci*, 8(4):577-584, 2003.

10) Chosa E, Tajima N: Anterior acetabular head index of the hip on false-profile views. New index of anterior acetabular cover, *J Bone Joint Surg Br*, 85(6):826-829, 2003.

11) 山田正寿, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 公文崇詞, 大宮博史: 術後 10 年以上経過した bipolar 型人工骨頭置換術の臨床成績, *整形外科と災害外科*, 52(3):681-684, 2003.

12) 帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治: 股関節の手術的脱臼法の経験, *Hip Joint*, 29:232-235, 2003.

13) 黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 田島直

也, 安田舜一:MX-1 人工股関節における UHMWPE 磨耗の検討, Hip Joint, 29:453-456, 2003.

14) Kubo S, Tajima N, Chosa E, Kuroki H, Goto K:Posterior releasing techniques for idiopathic scoliosis:microscopic discectomy and transverse process resection :a technical note, J Spinal Disord Tech,16(6):528-533,2003.

15) Chosa E, Hamada H, Kitamura K, Eto T, Tajima N:Increased plasma and joint tissue adrenomedullin concentrations in patients with rheumatoid arthritis compared to those with osteoarthritis, J Rheumatol, 30(12):2553-2556, 2003.

16) Hiroshi Kurki, Scott Holekamp, Vijay K.Goel, Manohar M.Panjabi, Nabil A.Ebraheim, Kevin P.Singer:Biomechanics of spinal deformity in inflammatory disease, Inflammatory disease of the spine(1st ed):1-20, 2003.

17) 鳥取部光司, 帖佐悦男, 園田典生, 後藤啓輔, 田島直也:TKA における骨移植の脛骨コンポーネントの安定性に及ぼす影響 有限要素法を用いて, 日本臨床バイオメカニクス学会誌, 24:299-303, 2003.

◆症例報告

1) 公文崇詞, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 田口 学, 西里徳重, 山田正寿:感染人工膝関節を抜去し再置換しなかった2例, 整形外科と災害外科, 52(1):206-209, 2003.

◆その他

1) 後藤啓輔, 久保紳一郎, 田島直也:[脊椎疾患へのアプローチ] 脊柱管狭窄症の診断と治療, リウマチ科, 29(2):157-163, 2003.

2) 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 渡邊信二, 山本恵太郎:スポーツメディカルチェック 異常と許容範囲 整形外科の立場から, 日本臨床スポーツ医学会誌, 11(1):10-18, 2003.

3) 黒木浩史, 田島直也:[脊椎疾患による痛み]腰部変性疾患の手術療法, 痛みと臨床, 3(2):144-153, 2003.

4) 田島直也:[腰痛-外来診療の全て] ライフスタイルの改善, 臨牀と研究, 80(3):449-452,2003.

5) 田島直也:序 脊椎脊髄病学最近の進歩-第31回日本脊椎脊髄病学会より, 臨牀整形外科, 38(4):374-375, 2003.

6) 久保紳一郎:画像診断ワークショップ 頸椎, 関節外科, 22(5):625-628, 2003.

7) 帖佐悦男, 田島直也:[筋・筋膜性疼痛の病態と治療] 筋・筋膜性腰痛について, ペインクリニック, 24(6):783-788, 2003.

8) 帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢治:[Hip-Spine Syndrome] Hip-Spine Syndrome の定義と分類の問題点, 整形・災害外科, 46(8):917-925, 2003.

9) 田島直也, 久保紳一郎:脊椎のバイオメカニクス研究の現在と展望, 脊椎脊髄ジャーナル, 16(7):795-799,

2003.

10) 田島直也, 帖佐悦男:[必見 腰痛学] 診断 スポーツによる腰痛診断, 骨・関節・靱帯, 16(8):905-913, 2003.

11) 田島直也, 帖佐悦男:[運動器のスポーツ外傷・障害] 腰のスポーツ外傷・障害に対する診療, 日本医師会雑誌, 130(3):425-427, 2003

12)久保紳一郎, 田島直也:[頸髄症神経根症の保存療法のコツと pitfall] ブロック療法, Orthopaedics, 16(8):42-49, 2003.

13) 田島直也:巻頭言, 日本義肢協会誌, 56:1, 2003.

◆学会報告

1) 柳園賜一郎, 船元太郎, 山口和正:脳性麻痺患者における下肢手術評価 脳性麻痺手術のための臨床評価法を用いて, 第19回九州小児整形外科集談会, 2003, 1, 福岡.

2) 井上 篤, 黒木龍二, 園田典生, 矢野浩明, 山本恵太郎, 田島直也, 河野雅行:手の外科における Acutrak screw の使用経験, 第24回九州手の外科学研究会, 2003, 2, 宮崎.

3) Hiroshi Kuroki, Vijay Goel, Setti Rengachary, Scott Holekamp, Ville Pitkanen, Nabil Ebraheim:Biomechanical Comparison of Two Stabilization Techniques of the Atlantoaxial Joints -Transarticular Screw Fixation vs Screw and Rod Fixation-, 49th Orthopaedic Research Society, 2003, 2, New Orleans.

4) 岡田麻里, 樋口潤一, 河原勝博, 井上 篤:両上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の新体操選手の治療経験, 第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.

5) 上通一師, 田島直也, 帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎:円板状半月術後の関節症性変化について, 第28回宮崎県スポーツ医学研究会, 2003, 2, 宮崎.

6) 迫田勇一郎, 黒木場博幸, 小牧一鷹, 濱田浩朗, 岡村直樹, 栗山生代, 大瀧幸哉:施設入所者における転倒危険性の予測 Timed Up & Go test を用いて, 第25回宮崎リハビリテーション研究会, 2003, 3, 宮崎.

7) 小牧 亘, 本部浩一, 税所幸一郎:Geode のみられた RA 膝に対する TKA の経験, 第25回九州リウマチ学会, 2003, 3, 那覇.

8) 山下良三, 大倉俊之, 河原勝博, 野辺達郎, 篠原典夫, 木村千仞:関節リウマチに対するメトトレキサート療法の問題点, 第18回宮崎県リウマチ研究会/第11回宮崎リウマチのケア研究会, 2003, 3, 宮崎.

9) 桐谷 力, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 内田秀穂, 前田和徳, 黒木修司, 田島直也:RA の臼底突出に対する Reinforcement ring の使用経験, 第18回宮崎県リウマチ研究会/第11回宮崎リウマチのケア研究会, 2003, 3, 宮崎.

10) 後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 鳥取部光司, 黒木浩史, 新井 隆:腰椎固定による椎間板変性を伴う上位隣接椎間への影響-三次元有限要素法を用いて-, 第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

11) 久保紳一郎, V.K.Goel, 田島直也, 黒木浩史, 後藤

啓輔, 栗原典近: 胸椎解離術における前方法・後方法の生体力学的検討, 第 32 回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

12) 黒木浩史, Goel Vijay, Rengachary Setti, Ebraheim Nabil, 久保紳一郎, 田島直也: 環軸椎固定術に関する生体力学的検討 Transarticular screw fixation 法と Screw and rod fixation 法との比較, 第 32 回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

13) 黒木浩史, Goel Vijay, Ebraheim Nabil, 久保紳一郎, 田島直也: 腰椎椎間板摘出術が脊椎機能単位に及ぼす慢性的影響に関する生体力学的研究, 第 32 回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

14) Hiroshi Kuroki, Vijay Goel, Scott Holekamp, Nabil Ebraheim, Shinichiro Kubo, Naoya Tajima : Effect of flexion-extension cyclic loads on the lumbar spinal segment with different discectomies, ISSLS 30th ANNUAL MEETING, 2003, 5, Vancouver.

15) 渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 黒沢 治, 田島直也, 是松信俊: コンピューター上で画像データの汎用計測やファイリング可能なソフトの使用経験, 第 76 回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

16) 坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 黒沢 治, 田島直也: 大腿骨頭壊死に対するセメント充填補強術, 第 76 回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

17) 帖佐悦男, 田島直也, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治: 股関節の手術的脱臼法の経験, 第 76 回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

18) 忽那龍雄, 大久保康一, 谷口良康, 帖佐悦男, 前田謙而, 古市 格: 3 本スパイクセメントレス人工股関節 (JOHP) の臨床成績, 第 76 回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

19) 黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 田島直也, 安田舜一, 是松信俊: MX-1 人工股関節における UHMWPE 磨耗の検討, 第 76 回日本整形外科学会学術集会, 2003, 5, 金沢.

20) 仙波 圭, 王 鳳山, 李 正哲, 関本朝久, 鈴木 操, 阿部訓也, 荒木正健, 荒木喜美, 山村研一: ジョイントラップにより得られた脊索特異的に発現する新規遺伝子 sickle tail の解析, 第 36 回日本発生生物学会, 2003, 6, 札幌.

21) 黒木修司, 田島直也, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 黒沢 治, 内田秀穂, 前田和徳, 桐谷 力: 四肢に多発した Schwannomatosis の症例報告, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

22) 増田 寛, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 栗原典近, 田島直也: 鉤椎関節進入による頸椎前方除圧術, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

23) 桐谷 力, 田島直也, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 内田秀穂, 前田和徳, 黒木修司: RA の臼底突出に対する Acetabular reinforcement ring with hook 使用例の成績, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

24) 小牧 亘, 濱田浩朗, 佐藤隆三, 小牧一磨: 稀な環

指ロッキングの一例, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

25) 山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 田島直也: 整形外科手術における ACUTRAK screw (ACUMED) の使用経験 成績不良例の検討, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

26) 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 前田和徳, 田島直也: 股関節の手術的脱臼法について, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

27) 小藺敬洋, 田邊龍樹, 松元征徳, 森 治樹, 田爪陽一朗, 増田 寛: 膝蓋腱断裂に人工靱帯を使用した治療経験, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

28) 後藤英一, 久保紳一郎, 黒木浩史, 後藤啓輔, 田島直也: 脊椎手術後に発症した冠動脈狭窄の 2 例, 第 105 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 6, 福岡.

29) 鳥取部光司, 帖佐悦男, 黒木浩史, 後藤啓輔, 渡部正一, 田島直也: 脊髄損傷患者に対するアンケート調査による社会的不利の検討, 第 40 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2003, 6, 札幌.

30) 甲斐糸乃, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 濱田浩朗, 黒沢 治, 前田和徳, 福嶋秀一郎, 小松奈美, 小島岳史, 三橋龍馬: 3 本スパイクセメントレス人工股関節 (JOHP) の経験, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

31) 安藤 徹, 神藺 豊, 益山松三, 帖佐悦男: 外傷性股関節脱臼に合併した大腿骨骨頭骨折の治療経験, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

32) 大宮博史, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 公文崇詞, 山田正寿: 大腿骨頸部外側骨折の術後に大腿骨頭壊死を生じた 2 例, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

33) 塩月康弘, 河野 立: ガンマナイール術後にラグスクリュー挿入部で外側皮質骨折を生じた 1 例～遠位ロッキングスクリューについての検討～, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

34) 吉田尚紀, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 増田 寛, 桐谷 力: 頸椎椎弓根スクリューの安全性・有用性について, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

35) 公文崇詞, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 西里徳重, 大宮博史, 山田正寿, 薬師寺俊剛, 高木克公: 大腿骨遠位端骨巨細胞腫の治療経験, 第 46 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 6, 宮崎.

36) 園田典生, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 山本恵太郎, 田島直也: 腓骨疲労骨折に関する 3D-FEM を用いた生体力学的検討, 第 29 回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 2003, 7, 軽井沢.

37) 岡田麻里, 樋口潤一, 井上 篤, 田島直也, 河原勝博: 両上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の新体操選手の治療経験, 第 29 回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 2003, 7, 軽井沢.

38) 西里徳重, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本 徹, 公文崇

詞, 大宮博史, 山田正寿: 当科におけるセメントレス AML 型 THA の 5 年以上の臨床成績, 第 12 回 MX 人工股関節研究会, 2003, 7, 熊本.

39) 小松奈美, 福嶋秀一郎, 榎 英俊, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎真弓: 化学療法施行中の敗血症性ショックに対しエンドトキシン吸着療法を行い救命した一例, 第 22 回宮崎救急医学会, 2003, 8, 小林.

40) 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 前田和徳, 濱田浩朗: 大腿骨頭壊死に対するセメント充填補強術, 第 30 回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.

41) 黒沢 治, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳: 年長児ペルテス病に対する大腿骨骨切り術と Salter 骨盤骨切り術併用の検討, 第 30 回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.

42) 前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 黒沢 治, 濱田浩朗: 急速破壊型股関節症の病因検討, 第 30 回日本股関節学会学術集会, 2003, 10, 東京.

43) 甲斐糸乃, 帖佐悦男, 渡邊信二, 坂本武郎, 福元洋一, 濱田浩朗, 黒沢 治, 前田和徳: 3 本スパイクセメントレス人工股関節(JOHP)の経験, 第 106 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.

44) 吉田尚紀, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 増田 寛: 頸椎ペディクルスクリューの有用性, 第 106 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.

45) 浪平辰州, 猪俣尚規, 勝寫葉子: 膝窩動脈瘤の 1 手術例, 第 106 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.

46) 吉川教恵, 河野 立, 矢野浩明, 黒木龍二, 園田典生, 山本恵太郎, 帖佐悦男: 当科における Watson 法の短期成績, 第 106 回西日本整形・災害外科学会, 2003, 11, 福岡.

47) 黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 吉田尚紀, 後藤英一, 増田 寛, 後藤啓輔, 田島直也: 腰椎すべり症に対する腰椎後側方固定術の長期遠隔成績- Pedicle screw system の有用性について -, 第 60 回西日本脊椎研究会, 2003, 11, 福岡.

48) 黒木浩史, 久保紳一郎, 吉田尚紀, 後藤英一, 後藤啓輔, 田島直也: 側弯症学校検診におけるモアレ判定法の実績, 第 37 回日本側弯症学会, 2003, 11, 千葉.

49) 谷脇琢也, 関本朝久, 中村 浩, 副島由美, 中務胞, 牟田真由美, 作村由美, 春名享子, 今泉隆志, 尾池雄一, 中瀧直巳, 荒木正健, 荒木喜美, 山村研一: 可変型遺伝子トラップによるトラップラインの樹立と解析, 第 26 回日本分子生物学会, 2003, 12, 神戸.

50) 福島克彦, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 黒沢 治, 前田和徳, 崎濱智美, 帖佐悦男: HATCP コーティング人工骨頭の術後 7 年以上の X 線学的検討, 第 47 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

51) 三橋龍馬, 柳園賜一郎, 山口和正: 脳性麻痺亜脱臼股に対する術前動態 X 線検査評価, 第 47 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

52) 猪俣尚規, 浪平辰州, 勝寫葉子: 当科における大腿骨頸部骨折死亡退院例の検討, 第 47 回宮崎整形外科懇

話会, 2003, 12, 宮崎.

53) 黒木浩史, 久保紳一郎, 濱中秀昭, 吉田尚紀, 後藤英一, 増田 寛, 吉川教恵, 小島岳史, 後藤啓輔, 田島直也: 脊柱側弯症に対する後方矯正固定術- CD 法と ISOLA 法との比較 -, 第 47 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

54) 山本恵太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 黒木龍二, 矢野浩明, 河野 立, 船元太郎, 吉川大輔: 距骨滑車骨軟骨損傷に対し Mosaicplasty による骨軟骨移植術を施行した一例, 第 47 回宮崎整形外科懇話会, 2003, 12, 宮崎.

皮膚科学講座 (Dermatology)

◆著 書

- 1) 瀬戸山 充: 成人 T 細胞白血病・リンパ腫、最新皮膚科学大系第 15 巻ウイルス性疾患 性感染症、126-136、2003.
- 2) 瀬戸山 充: 悪性リンパ腫、成人 T 細胞白血病・リンパ腫(ATLL)、皮膚疾患最新の治療 2003-2004、185-187、2003.
- 3) 緒方克己: Langerhans 細胞組織球症、皮膚疾患最新の治療 2003-2004、188、2003.
- 4) 緒方克己: creeping disease、最新皮膚科学大系第 16 巻動物性皮膚症 環境因子による皮膚障害、116-124、2003.
- 5) 黒川基樹: 塗布薬の使い方、実践内科臨床指針—沖縄県立中部病院—、312-314、2003.

◆原 著

- 1) Motoki Kurokawa, Kazuki Nabeshima, Yutaka Akiyama, Shunichi Maeda, Takaaki Nishida, Fumiko Nakayama, Masahiro Amano, Katsumi Ogata, Mitsuru Setoyama: CD56 a useful marker for diagnosing Merkel cell carcinoma, Journal of Dermatological Science 31, 219-224, 2003.
- 2) Motoki Kurokawa, Tomonori Hidaka, Hidenori Sasaki, Ichiro Nishikata, Kazuhiro Morishita, Mitsuru Setoyama: Analysis of hepatitis C virus (HCV) RNA in the lesions of lichen planus in patients with chronic hepatitis C: detection of anti-genomic- as well as genomic-strand HCV RNAs in lichen planus lesions, Journal of Dermatological Science 32, 65-70, 2003.
- 3) Hidezumi Kikuchi, Takaaki Nishida, Motoki Kurokawa, Mitsuru Setoyama and Atsushi Kisanuki: Three Cases of Malignant Melanoma Arising on Burn Scars, The Journal of Dermatology 30, 617-624, 2003.
- 4) Noguchi M, Kikuchi H, Ishibashi M, Noda S : Percentage of the positive area of bone metastasis is an independent predictor of disease death in advanced prostate cancer, Br J Cancer 88, 195-201, 2003.
- 5) Kikuchi H, Noguchi M, Akashi H, Noda S : Spontaneous shunt between the superior mesenteric vein and the right renal vein caused by portal hypertension, Juro, 165, 1615-6, 2001.
- 6) 天野正宏、黒川基樹、緒方克己、瀬戸山 充: 皮膚からみた成人 T 細胞白血病、日本皮膚科学会雑誌 113、1391-1398、2003.
- 7) 菊池英維、天野正宏、黒川基樹、緒方克己、瀬戸山 充: 宮崎医科大学皮膚科学教室開講以来 25 年間の熱傷癰瘍の統計的観察、西日本皮膚科 65、479-482、2003.

◆症例報告

- 1) Kenjiro Terasaki, M. D., Takuro Kanekura, M.D., Mitsuru Setoyama, M. D., and Tamotsu Kanzaki, M. D. : A

Pediatric Case of Sclerodermatous Chronic Graft-Versus-Host Disease, Pediatric Dermatology 20, 327-331, 2003.

- 2) 緒方克己、帖佐宣昭、井上勝平、瀬戸山 充: イトラコナゾール内服が奏効した重症型マラセチアさ瘡、皮膚病診療 25、979-982、2003.
- 3) 菊池英維、黒川基樹、瀬戸山 充、黒木正臣、清水哲哉、浅田祐士郎: 悪性黒色腫に合併した肺扁平上皮癌の 1 例、西日本皮膚科 65、142-145、2003.
- 4) 帖佐宣昭、緒方克己、瀬戸山 充、山下 篤、丸塚浩助: 右臀部巨大隆起性皮下腫瘍の 1 例、日本皮膚病理組織学会会誌 19、34-35、2003.
- 5) 宮国 均、黒川基樹、瀬戸山 充: 痒疹結節と思われたプロトテコーシス、皮膚病診療 25、65-69、2003.
- 6) 濱田 洋、神崎 保、瀬戸山 充、内田裕一、納 光弘: 腫瘍随伴性小脳変性症を認めた皮膚 T 細胞リンパ腫の 1 例、西日本皮膚科 65、138-141、2003.
- 7) 中山文子、小田裕次郎、瀬戸山 充、尾上康弘: 低亜鉛母乳による腸性肢端皮膚炎、皮膚病診療 25、303-306、2003.

◆総 説

- 1) 瀬戸山 充: 皮膚のリンパ腫—分類と治療—、宮崎県医師会医学会誌 27、1-8、2003.
- 2) 瀬戸山 充: 皮膚のリンパ腫について: 診断と治療 (後編)、西日本皮膚科 64、747-753、2003.
- 3) 西田隆昭、瀬戸山 充: 疥癬とケジラミ症、臨床と研究 80、54-57、2003.
- 4) 立山 直、松岡博史、大西 真、林 哲也、瀬戸山 充: Aeromonas 壊死性軟部組織感染症、臨床皮膚科 56、20-25、2003.
- 5) 天野正宏、瀬戸山 充: 成人 T 細胞白血病、Visual Dermatology 2、1028-1029、2003.
- 6) 天野正宏、黒川基樹、緒方克己、瀬戸山 充: 皮膚からみた成人 T 細胞白血病、MB Derma 80、49-57、2003.

◆その他

- 1) 緒方克己: 診療メモ「あざ」への対応、日州医事 643、85-86、2003.
- 2) 天野正宏、緒方克己、瀬戸山 充、出盛允啓: Retiform ATL (仮称) の 1 例、Skin Cancer 18、240、2003.
- 3) 天野正宏、津守伸一郎、瀬戸山 充、東 謙一郎、山下 篤: Junctional CD8⁺ cutaneous lymphoma の 1 例、Skin Cancer 18、375、2003.

◆学会報告

- 1) 小田裕次郎、上野史朗、長嶺英宏、瀬戸山 充: Eosinophilic vasculitis の一例、第 26 回皮膚脈管・膠原病研究会、2003、1、千葉.
- 2) 黒川基樹、西田隆昭、前田俊一、中山文子、天野正宏、緒方克己、瀬戸山 充: メルケル細胞癌の腫瘍マーカーとしての CD56 の有用性について、日本皮膚科学会東北六県合同地方会学術大会第 321 回例会、2003、2、仙台.

- 3) 鈴木理央、西田隆昭、中山文子、小田裕次郎、帖佐宣昭、緒方克己、瀬戸山充:皮膚ムコール症一診断に HE 標本の観察が有用であった 1 例一、第 61 回九州真菌懇話会、2003、2、熊本。
- 4) 菊池英維、天野正宏、黒川基樹、緒方克己、瀬戸山充:開講以来 25 年間に経験した熱傷瘢痕癌の治療経験、第 13 回日本熱傷学会九州地方会、2003、2、宮崎。
- 5) 小田裕次郎:平成 14 年度の宮崎医大皮膚科外来患者統計、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 6) 長嶺英宏:宮崎医大皮膚科における平成 14 年度外来紹介患者について、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 7) 中山文子:平成 14 年度の宮崎医大皮膚科の入院患者統計、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 8) 西田隆昭:平成 14 年度宮崎医大皮膚科入院死亡患者について、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 9) 宮国 均、帖佐宣昭、古結英樹、成田博実:帯状疱疹の 1 例ーバルトレックス投与量の反省ー、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 10) 帖佐宣昭、中山文子、小田裕次郎、立山 直、緒方克己、瀬戸山充:筋肉内多発膿瘍を認めた B 群溶連菌による敗血症の 1 例、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 11) 田崎高伸、緒方克己:スライド供覧、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 12) 石井千寸、前田俊一:ステロイド治療に抵抗した成人 Still 病の 1 例、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 13) 田島誠也、坂本忠秀、天野正宏:多種の腫瘍の続発をみた頸部 organoid nevus の 1 例、日本皮膚科学会第 98 回宮崎地方会、2003、3、宮崎。
- 14) 天野正宏、瀬戸山充、緒方克己:新生児の大腿前面の皮下腫瘍、第 102 回日本皮膚科学会総会、2003、5、浦安。
- 15) 津守伸一郎、緒方克己、瀬戸山充、田尻明彦、田崎高伸、上田 章:relapsing polychondritis の 2 例、第 102 回日本皮膚科学会総会、2003、5、浦安。
- 16) 西田隆昭、帖佐宣昭、緒方克己、瀬戸山充、桑原淑子:頭部に広範囲潰瘍を生じたサルコイドーシスの 1 例、第 102 回日本皮膚科学会総会、2003、5、浦安。
- 17) 菊池英維、津守伸一郎、黒川基樹、瀬戸山充:血管肉腫の 8 例、第 102 回日本皮膚科学会総会、2003、5、浦安。
- 18) 満木ひとみ、上村幸代、盛武 浩、布井博幸、緒方克己:術前化学療法にて患肢を温存しえた左大腿部原発新生児線維肉腫の 1 例、第 9 回九州山口小児血液・腫瘍研究会、2003、5、熊本。
- 19) 菊池英維、前田俊一、黒川基樹、瀬戸山充、伊藤浩史:顔面原発の血管肉腫の 2 例、第 19 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2003、6、札幌。
- 20) 天野正宏、津守伸一郎、瀬戸山充、東謙一郎: junctional CD8⁺ cutaneous lymphoma の 1 例、第 19 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2003、6、札幌。
- 21) 中山文子、緒方克己、瀬戸山充、帖佐宣昭:脂肪芽細胞腫の 1 例、第 27 回日本小児皮膚科学会、2003、6、浦安。
- 22) 中山文子、小田裕次郎、緒方克己、瀬戸山充、上野史朗:頭部 clear cell hidradenocarcinoma の一例、第 1 回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。
- 23) 坂本忠秀、天野正宏、瀬戸山充:Accessory scrotum の 1 例、第 1 回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。
- 24) 西田隆昭、緒方克己、瀬戸山充:爪下外骨腫の一例、第 1 回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。
- 25) 小田裕次郎、土田若葉、菊池正雄、山下 篤:コレステロール塞栓症の一例、第 1 回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。
- 26) 丸尾亜紀、西田隆昭、緒方克己、瀬戸山充:外陰部熱傷の一例、第 1 回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。
- 27) 帖佐宣昭、中山文子、小田裕次郎、緒方克己、瀬戸山充、山下 篤、丸塚浩助:右臀部巨大隆起性皮下腫瘍の 1 例、第 19 回日本皮膚病理組織学会、2003、7、東京。
- 28) 緒方克己、菊池英維、持田耕介、西田隆昭、瀬戸山充:広範囲に口腔内白板症を伴い再発を繰り返した口唇高分化型有棘細胞癌の 1 例、第 18 回日本皮膚外科学会総会・学術集会、2003、8、岐阜。
- 29) 中山文子、小田裕次郎、緒方克己、瀬戸山充、持富勇次:右顔面の malignant peripheral nerve sheath tumor (MPNST) の 1 例、第 18 回日本皮膚外科学会総会・学術集会、2003、8、岐阜。
- 30) 坂本忠秀、緒方克己、瀬戸山充:トリアムシロン局注で治療した稽留性肢端皮膚炎の一例、第 18 回日本乾癬学会学術大会、2003、9、高山。
- 31) 緒方克己、古結英樹、中山文子、瀬戸山充:ケロイド治療でみられるマラセチア発症発端の一因としての可能性について一、第 62 回九州真菌懇話会、2003、9、福岡。
- 32) 立山 直、瀬戸山充、松岡博史、林 哲也: Aeromonas 壊死性軟部組織感染症の病原因子の検討、日本皮膚科学会第 326 回福岡地方会、2003、9、北九州。
- 33) 古結英樹、緒方克己、瀬戸山充、鈴木理央:皮膚および皮下結節を形成したムーコール症の 2 例、第 55 回日本皮膚科学会西部支部学術大会、2003、10、松山。
- 34) 菊池英維、西田隆昭、津守伸一郎、瀬戸山充: Malignant eccrine spiradenoma の 1 例、第 55 回日本皮膚科学会西部支部学術大会、2003、10、松山。
- 35) 帖佐宣昭、中山文子、緒方克己、瀬戸山充、古賀治幸、宋 建文、山下 篤、丸塚浩助:右臀部巨大隆起性皮下腫瘍の 1 例、第 9 回宮崎腫瘍治療研究会、2003、10、宮崎。
- 36) 満木ひとみ、上村幸代、盛武 浩、布井博幸、天野

正宏、緒方克己、瀬戸山充、山下 篤、佐藤勇一郎、浅田祐士郎：患肢温存に術前化学療法が有効であった左大腿部原発新生児線維肉腫の1例、第9回宮崎腫瘍治療研究会、2003、10、宮崎。

37) 菊池英維、長嶺英宏：水銀中毒の1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

38) 宮国 均、帖佐宣昭、古結英樹：赴任して経験した自己免疫水疱症のいろいろ、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

39) 長嶺英宏、菊池英維：Wells 症候群の1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

40) 石井千寸、田島誠也、山本恵三、坂本忠秀：頭部外傷後二次感染から皮膚壊死、多臓器不全をきたした1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

41) 帖佐宣昭、宮国 均、牧原真治：Patch graft on punched holes (仮称)を行なった褥瘡の1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

42) 小牧利恵子、西田隆昭、緒方克己、瀬戸山充：色素血管母斑症の1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

43) 緒方克己、古結英樹、中山文子、瀬戸山充：ケロイド治療でみられるマラセチア発症発端の一因としての可能性について、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

44) 持田耕介、古結英樹、西田隆昭、緒方克己、瀬戸山充：Multiple primary melanoma の1例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

45) 田島誠也、石井千寸、大宮博史：糖尿病性壊疽の3例、日本皮膚科学会第100回宮崎地方会、2003、12、宮崎。

46) 緒方克己、坂本忠秀、西田隆昭、瀬戸山充：NF-1左腕神経叢に生じた神経線維腫の手術治療経験一術後、一過性に運動麻痺を来した例一、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する研究班 平成15年度総会、2003、12、福岡。

◆特別講演等

1) 瀬戸山充：皮膚リンフォーマと新WHO分類(ランチョンセミナー)、第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2003、6、札幌。

2) 津守伸一郎：皮膚リンパ腫に対する化学療法(CHOPを中心に)と支持療法の実践 病室環境、治療前・後のケア、合併症対策、感染症対策を含めて(シンポジウム)、第19回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2003、6、札幌。

3) 緒方克己：日常診療における顕微鏡検査の有用性—マクロとミクロの対比—(臨床ミニ・レビュー)、第1回南九州地区合同皮膚科地方会、2003、7、熊本。

4) 瀬戸山充：成人 T 細胞白血病・リンパ腫の臨床、日本皮膚科学会愛媛地方会第38回学術大会、2003、10、松山。

◆講演会等

1) 瀬戸山充：放置してはいけない皮膚病について、皮

膚病に関する講演会、2003、7、日向。

2) 瀬戸山充：アトピー性皮膚炎、平成15年度宮崎県医師会園医部会総会・研修会、2003、12、宮崎。

3) 天野正宏：皮膚炎について、NHKいっちょがスタジオ健康ランド、2003、1、宮崎。

◆著 書

1) 長田幸夫:膀胱憩室, 膀胱瘤. 「今日の治療指針 2003 年版」:752-753, 医学書院, 2003.

2) 濱砂良一, 南嶋洋一:STD とその周辺. 「現代感染症事情 下」 中山宏明, 多田功, 南嶋洋一 編:59-86, 医歯薬出版, 2003.

◆原 著

1) H. Tukino, Y. Kuroda, H. Nakao, H. Imai, H. Inatomi, K. Kohshi, Y. Osada, T. Katoh: E-cadherin gene polymorphism and risk of urothelial cancer. Cancer Letters 195:53-58, 2003.

2) 児玉裕文, 林 克裕, 林 要人, 山口昌俊, 山下康洋, 小野浩重, 八木優子, 堀真由美, 奥村 学, 川崎由美子, 黒木恵美, 鈴 智子, 田口なるみ, 荒武八起, 梅木一美, 鈴木千代子, 工藤正直, 長田幸夫, 有森和彦:治療における事前審査の有用性と今後の展望. 臨床薬理 34 (1): 181S-182S, 2003.

3) 山口孝則, 鯉川弥須宏, 妹尾康平, 長野正史, 長田幸夫, 内藤誠二:高度尿道下裂に対する修復術の変遷. 西日本泌尿器科 65 (7):402-407, 2003.

4) 梶原 充, 井上勝己, 薄井昭博, 栗原 誠, 碓井 亜:特集:夜尿症(おねしょ)の病態と治療. 夜尿症-昼間の排尿症状の有無と夜尿症-. 泌尿器外科 16 (3): 199-203, 2003.

5) 梶原 充, 井上勝己, 薄井昭博, 加藤昌生, 栗原 誠, 碓井 亜:第 9 回学会賞臨床編受賞論文 本邦学童児における昼間尿失禁の疫学調査. 日本排尿機能学会誌 14 (2):228-232, 2003.

6) 野瀬清孝, 長田幸夫:振動波碎石装置を用いた膀胱碎石術における膀胱鏡用外筒と腎盂鏡の接続法. 臨床泌尿器科 57 (13):1111, 2003.

◆症例報告

1) 野瀬清孝, 山下康洋, 石原 明:陰嚢内平滑筋腫の 1 例. 臨床泌尿器科 57 (6):443-445, 2003.

◆総 説

1) 濱砂良一, 長田幸夫:前立腺の開放手術をめぐる controversy. 臨床泌尿器科 57 (4):140-143, 2003.

◆その他

1) 野瀬清孝:おしえて!ドクター 健康耳寄り相談-中高年女性の尿もれ-. 日州医事 648:77, 2003.

2) 野瀬清孝:病を知る「腎尿管結石の予防と治療」. らぴあ 104:26-27, 2003.

3) 野瀬清孝:おしえて!ドクター健康耳寄り相談室「中高年女性の尿もれ」. 宮崎県医師会ホームページ: <http://www.miyazaki.med.or.jp/ken-ishikai/kenko/mrt/osiete26.htm>, 2003.

4) 長野正史:子供の包茎. 暮らしと健康 11 月号:2003.

◆学会報告

1) 木田和貴, 末吉哲也, 前田幸志郎, 長野正史, 竹原俊幸, 糸井達典, 小林隆彦, 山下康洋, 野瀬清孝, 濱砂良一, 蓮井良浩, 長田幸夫:宮崎医科大学泌尿器科教室における 2002 年の臨床統計. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

2) 分田裕順, 鬼塚千衣:藤元早鈴病院泌尿器科における 2002 年の臨床統計. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

3) 向井尚一郎, 名嘉栄勝, 安次富勝博, 前田博之, 島袋浩一, 嘉川春生, 大城吉則, 新村研二, 島元裕一, 迫田晃郎:腹部腫瘍と診断した水腎尿管の 1 例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

4) 野瀬清孝, 木田和貴, 小林隆彦, 蓮井良浩, 長田幸夫, 下村貴宏:多発性尿管憩室の一例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

5) 濱砂良一, 長田幸夫, 野田俊一:クラミジア感染症女性の partner に対する検査と治療. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

6) 向井尚一郎, 名嘉栄勝, 安次富勝博, 前田博之, 島袋浩一, 嘉川春生, 大城吉則, 新村研二:前立腺部尿道結石の 1 例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

7) 小林隆彦, 蓮井良浩, 長野正史, 山下康洋, 野瀬清孝, 長田幸夫, 加治木邦彦, 横山 巖:嚢胞状前立腺癌の 1 例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

8) 上村敏雄, 木宮公一, 蓑田 優:精索平滑筋肉腫の 1 例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

9) 下村貴宏, 柴田憲彦, 石原 明:精索原発と思われる脂肪肉腫の 1 例. 日本泌尿器科学会第 74 回宮崎地方会, 2003.1.11, 宮崎.

10) 小林隆彦, 蓮井良浩, 別納弘法, 柴田憲彦, 長野正史, 竹原俊幸, 山下康洋, 長田幸夫:嚢胞状前立腺癌の臨床的検討. 日本泌尿器科学会福岡地方会第 271 回例会, 2003.2.8, 北九州.

11) 濱砂良一:膀胱鏡に対するフタール製剤による消毒法の試み. 第 18 回日本環境感染症学会総会, 2003.2.14, 横浜.

12) 蓮井良浩, 前田幸志郎, 長野正史, 小林隆彦, 山下康洋, 濱砂良一, 長田幸夫:腎癌における鏡視下手術の検討. 泌尿器がん治療フォーラム 2003, 2003.2.15, 東京.

13) 長田幸夫:宮崎県における STD. 学術講演会, 2003.3.29, 神戸.

14) 蓮井良浩:前立腺癌と PSA について. 児湯医師会講演会, 2003.3.29, 川南.

15) 小林隆彦, 蓮井良浩, 前田幸志郎, 竹原俊幸, 長野正史, 山下康洋, 長田幸夫, 斉藤 康:膀胱 Plasmacytoid TCC の 1 例. 第 91 回日本泌尿器科学会総会,

2003.4.2, 徳島.

16) 濱砂良一, 長野正史, 山下康洋, 長田幸夫: 泌尿器科内視鏡に対するフタール製剤による消毒法の試み. 第 91 回日本泌尿器科学会総会, 2003.4.2, 徳島.

17) 梶原 充, 井上勝己, 栗原 誠, 薄井昭博, 碓井 亜: 本邦学童児における monosymptomatic nocturnal enuresis. 第 91 回日本泌尿器科学会総会, 2003.4.2, 徳島.

18) 山下康洋, 小林隆彦, 蓮井良浩, 長田幸夫, 長池 涼子, 山口秀樹, 片上秀喜: 腹腔鏡下副腎生検により確定診断を得た副腎結核の 1 例. 第 15 回日本内分泌外科学会総会, 2003.4.11, 京都.

19) 前田幸志郎: 診断上興味ある症例 腎. 第 83 回九州泌尿器科懇話会, 2003.4.19, 大分.

20) 蓮井良浩: 一般医が知るべき PSA 検査について. 延岡医師会講演会, 2003.5.23, 延岡.

21) 長野正史, 上村敏雄, 前田幸志郎, 柴田憲彦, 小林隆彦, 山下康洋, 長田幸夫: 非触知精巣の局在部位診断の検討. 第 40 回日本小児外科学会総会, 2003.5.28, 京都.

22) K. Nose, M. Nagano, Y. Yamashita, R. Hamasuna, Y. Osada: URINARY TRACT INFECTION IN PATIENTS WITH CLEAN INTERMITTENT CATHETERIZATION. 23rd International Congress of Chemotherapy (第 23 回国際化学療法学会), 2003.6.7, Durban (ダーバン).

23) 蓮井良浩: 排尿症状を持つ症例の見方について. 西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会, 2003.6.13, 小林.

24) 梶原 充, 井上勝己, 栗原 誠, 薄井昭博, 碓井 亜: 本邦学童児における夜尿症ならびに昼間尿失禁の疫学調査. 第 14 回日本夜尿症学会学術集会, 2003.6.27, 愛知.

25) 小林隆彦, 末吉哲也, 長野正史, 山下康洋, 蓮井良浩, 長田幸夫: 空気が逆流し気腫性腎盂腎炎が疑われた VUR の 1 例. 第 12 回日本小児泌尿器科学会総会, 2003.7.2, 神戸.

26) 長野正史, 小林隆彦, 山下康洋, 蓮井良浩, 長田幸夫, 棚田敏文: 停留精巣術後に発生した精巣腫瘍の 1 例. 第 12 回日本小児泌尿器科学会総会, 2003.7.2, 神戸.

27) 野瀬清孝, 木田和貴, 山下康洋, 長田幸夫, 大藤 哲郎: 先天性中部尿管狭窄の 1 例. 第 12 回日本小児泌尿器科学会総会, 2003.7.2, 神戸.

28) 梶原 充, 井上勝己, 栗原 誠, 薄井昭博, 碓井 亜: 本邦中学生児の排尿習慣について. 第 12 回日本小児泌尿器科学会総会, 2003.7.2, 神戸.

29) 分田裕順, 野瀬清孝, 蓮井良浩, 濱砂良一: 精巣原発性リンパ腫の 1 例. 日本泌尿器科学会福岡地方会第 272 回例会, 2003.7.5, 福岡.

30) 川合志奈, 末吉哲也, 安次嶺聡, 知念善昭, 新村 研二: フルニエ塊疽の 1 例. 第 106 回日本泌尿器科学会鹿児島地方会, 2003.7.5, 鹿児島.

31) 安次嶺聡, 末吉哲也, 川合志奈, 知念善昭, 新村

研二: 観血的処置を行った精巣上体垂回転の 2 例, 精巣回転の 1 例. 第 106 回日本泌尿器科学会鹿児島地方会, 2003.7.5, 鹿児島.

32) 末吉哲也, 川合志奈, 安次嶺聡, 知念善昭, 新村 研二: 尿管異物の 1 例. 第 106 回日本泌尿器科学会鹿児島地方会, 2003.7.5, 鹿児島.

33) 山口孝則, 鯉川弥須宏, 長野正史, 長田幸夫: 小児におけるマイクロペニスの診断と治療. 日本アンドロロジー学会総会第 22 回学術大会, 2003.7.19, 広島.

34) 蓮井良浩: 内科医が知るべき前立腺癌と PSA について. 宮崎市郡内科医会総会・学術講演会, 2003.7.25, 宮崎.

35) 杉江 悟, 山下康洋, 長田幸夫: 後腹膜鏡下副腎摘出後に後腹膜血腫を来した一例. 日本泌尿器科学会第 68 回佐賀地方会, 2003.9.6, 佐賀.

36) 井上勝己, 長田幸夫, 梶原 充, 栗原 誠, 碓井 亜, 薄井昭博: 二次性 VUR に対する GAX コラーゲンをを用いた内視鏡的逆流防止術の検討. 第 10 回日本排尿機能学会, 2003.9.12, 千葉.

37) 梶原 充, 井上勝己, 加藤昌生, 薄井昭博, 碓井 亜: 昼間尿失禁に合併した器質的下部尿路通過障害に対する手術効果と下部尿路機能. 第 2 報. 第 10 回日本排尿機能学会, 2003.9.12, 千葉.

38) M. Kajiura, K. Inoue, M. Kato, M. Kurihara, A. Usui, T. Usui: Timed voiding therapy for children with daytime urinary incontinence attributable to overactive bladder. International continence society 33rd Annual meeting (第 33 回国際自製会議), 2003.10.5, Firenze, Italy.

39) 高森大樹: 診断上興味ある症例 尿管. 第 84 回九州泌尿器科懇話会, 2003.11.1, 北九州.

40) 長野正史, 向井尚一郎, 井上知宏, 小林隆彦, 山下康洋, 濱砂良一, 蓮井良浩, 長田幸夫: 膀胱血管腫の 1 例. 第 55 回日本泌尿器科学会西日本総会, 2003.11.13, 島根.

41) 山下康洋, 濱砂良一, 蓮井良浩, 長田幸夫: 腹腔鏡下に摘出した lipomatous hemangiopericytoma の 1 例. 第 55 回日本泌尿器科学会西日本総会, 2003.11.13, 島根.

42) 山内正倫, 別納弘法, 瀬口智子, 秋山 裕, 伊藤浩史, 片岡寛章, 長田幸夫: 正常腎及び腎細胞癌 (RCC) におけるヒト Hepatocyte growth factor (HGF) 活性化関連蛋白質の遺伝子発現の比較. 第 55 回日本泌尿器科学会西日本総会, 2003.11.13, 島根.

43) 小林隆彦, 蓮井良浩, 竹原俊幸, 長野正史, 山下康洋, 長田幸夫: 宮崎大学医学部泌尿器科における精巣腫瘍の臨床的検討. 第 55 回日本泌尿器科学会西日本総会, 2003.11.13, 島根.

44) 小林隆彦, 蓮井良浩, 向井尚一郎, 前田幸志郎, 長野正史, 山下康洋, 長田幸夫: 後腹膜鏡下手術に Port site recurrence を認めた尿路上皮腫瘍の 2 例. 第 17 回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 2003.11.19, 福岡.

45) 濱砂良一, 長田幸夫, 保科真二, 今井博久: 口腔うがい液の PCR 法による Chlamydia trachomatis の検出. 日本性感染症学会第 16 回学術大会, 2003.12.6, 長野.

46) 井上勝己, 長田幸夫: 二分脊椎症例におけるビデオウロダイナミックス(VUDS)による評価. 日本泌尿器科学会第 126 回広島地方会学術集会, 2003.12.13, 広島.

47) 安次嶺聡, 知念善昭, 末吉哲也, 新村研二: TUR-P 後の肺血栓塞栓症の 1 例. 第 107 回日本泌尿器科学会鹿児島地方会, 2003.12.14, 鹿児島.

48) 安次富勝博, 知念善昭, 末吉哲也, 新村研二: ミニマム創内視鏡腎摘除術の経験. 第 107 回日本泌尿器科学会鹿児島地方会, 2003.12.14, 鹿児島.

◆その他

1) 野瀬清孝: 排尿管理と尿路感染症. 三股木曜会学術講演会, 2003.3.13, 都城.

2) 蓮井良浩: PSA 検査でわかること. 前立腺がんのすべてを学ぶ市民公開講座, 2003.6.21, 宮崎.

3) 野瀬清孝: MRT ラジオ: 中高年女性の尿もれ. 第 26 回おしえて! ドクター健康耳寄り相談室, 2003.6.28, 宮崎.

4) 野瀬清孝: 「前立腺肥大症診療に関するアンケート」宮崎・全国の集計比較. 第 6 回宮崎尿路機能研究会, 2003.10.11, 宮崎.

5) 野瀬清孝: 当科における女性の尿失禁手術の検討. 宮崎頻尿尿失禁講演会, 2003.11.27, 宮崎.

◆原 著

1) 河野尚子, 直井信久, 中崎秀二: 外傷性黄斑円孔の手術成績. 眼科臨床医報, 97 (11) : 939-942, 2003

◆症例報告

1) Tetuji TAKESHITA, Mineo OZAKI: Central Retinal Artery Occlusion In a Patient with Pseudoxanthoma Elasticum, Hiroshima. J. Med. Sci., vol.52 No.2, 33-34, 2003

◆総 説

1) 中馬秀樹, 池田福美, 遠藤寛子: 視野って何だろう?, 眼科ケア, 5 (8) : 678-684, 2003

◆学会報告

<特別講演>

1) 直井信久: 最近の網膜硝子体の話題から, 第 50 回宮崎医科大学眼科研究会, (2003.6.21)

2) 直井信久: 最近の点眼薬の話題たかが目薬と思うな! ばかにできない副作用, 宮崎県薬剤師会講中会 (2003.6.27)

3) 中馬秀樹: 眼科医としての頭痛 眼痛のみかた, 第 105 回宮崎県眼科医会講習会, (2003.10.18)

4) 中馬秀樹: 緑内障 (あおそこひ) のはなし, 宮崎県眼科医会目の健康講座 (2003.10.19)

<一般講演>

1) 平根昌宜, 直井信久: 網膜静脈内 t-PA 注入を施行した網膜中心静脈閉塞症の 1 例第 26 回日本眼科手術学会総会 (2003.1.31)

2) 高倉玄太, 藤本恵美, 原田勇一郎, 齋藤真美, 直井信久: 網膜中心静脈閉塞症に放射状視神経乳頭切開術を施行した三症例の早期経過, 第 26 回日本眼科手術学会総会 (2003.1.31)

3) 原田勇一郎, 直井信久, 森山重人, 高倉玄太, 齋藤真美, 中馬秀樹, 田中史郎, 平根昌宜: 高速硝子体カッターの限界について, 第 26 回日本眼科手術学会総会 (2003.1.31)

4) 中馬秀樹: 糖尿病の神経眼科的合併症, 第 9 回宮崎県糖尿病・内科・眼科共同懇話会, 日本医師会生涯教育講座 (2003.3.29)

5) Naoi, N., Uchida, A., Liu, X., Jin, Z., Yokoyama, A., Hayakawa, M. and Murakami, A.: ELECTROPHYSIOLOGICAL FINDINGS IN X-LINKED RP PATIENTS WITH MUTATIONS OF RPGR GENE XXXXI Symposium of the International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (第 41 回国際臨床視覚電気生理学学会) (2003.4.2)

6) 直井信久, 田中史郎, 藤本恵美, 杉本貴子: 黄斑浮腫に対する硝子体手術後の動態の特徴, 第 57 回日本臨床眼科学会 黄斑研究会 (2003.4.20)

7) 森山重人, 小澤摩記, 中馬秀樹, 直井信久: 側頭動

脈炎による動脈炎性虚血性視神経症の1例、第73回九州眼科学会 第4回日本ロービジョン学会学術総会 (2003.5.30)

8) 森山忍、中馬秀樹、直井信久:両側性滑車神経麻痺の1例、第73回九州眼科学会 第4回日本ロービジョン学会学術総会 (2003.5.30)

9) 齋藤真美、中馬秀樹、直井信久:ハムスターから感染したレプトスピラ菌により発症したと思われるぶどう膜炎の1例、第73回九州眼科学会 第4回日本ロービジョン学会学術総会 (2003.5.31)

10) 小澤摩記、河野尚子、直井信久:ABCA4 遺伝子の異常がみられた中心型網膜色素変性症第73回九州眼科学会 第4回日本ロービジョン学会学術総会 (2003.5.31)

11) 原田勇一郎、中馬秀樹、直井信久:ブドウ膜炎を合併した再発性多発軟骨膜炎の一例、第50回宮崎医科大学眼科研究会 (2003.6.21)

12) 中馬秀樹:A Devil in the Dark、第50回宮崎医科大学眼科研究会 (2003.6.21)

13) 原田勇一郎、齋藤真美、森山重人、直井信久、大里和弘、金子正時、池田智明、鮫島浩、池ノ上 克:宮崎医科大学における未熟児網膜症の現状及び発症因子について 第28回日本小児眼科学会総会 (2003.6.28)

14) 直井信久、福島慶美、森山重人:トリアムシノロンテノン 下注射は安全な手技か:Japan Macula Club (2003.8.22)

15) 池田福美、遠藤寛子、中馬秀樹:Maddox rod が診断に有用であった単独脳神経麻痺の二例、第44回日本視能矯正学会 (2003.11.16)

16) 遠藤寛子、池田福美、中馬秀樹:ハンフリー10-2 プログラムが診断に有用であった同名性孤立暗点を生じた二例、第44回日本視能矯正学会 (2003.11.15)

17) 小澤摩記、原田勇一郎、西田智美、森山重人、中馬秀樹、直井信久:側頭動脈生検にて診断された動脈炎性虚血性視神経症の2例、第57回日本臨床眼科学会 (2003.11.2)

18) 大井長和、高嶋伸幹、小玉隆男、中馬秀樹:緩徐進行性の側性動眼神経麻痺について、第41回日本神経眼科学会総会 第17回神経眼科講習会、(2003.12.13)

19) 竹下哲二、中馬秀樹、直井信久、山下篤:動脈炎性虚血性視神経症の側頭動脈組織所見、第41回日本神経眼科学会総会 第17回神経眼科講習会 (2003.12.12)

20) 齋藤真美、中馬秀樹、直井信久、宮原大作:Duraal AVFによるPseudotumor cerebri syndromeの一例、第41回日本神経眼科学会総会 第17回神経眼科講習会 (2003.12.12)

◆その他

1) 直井信久:白内障治療薬、宮崎日日新聞、10月7日、2003

耳鼻咽喉科学講座 (Otorhinolaryngology)

◆著 書

1) 東野哲也:後天性外耳道閉鎖症の手術-medical meatal fibrosis を中心に-、耳鼻咽喉科診療プラクティス 11, 加我君孝編集, 文光堂, 東京, pp82-85, 2003

2) 小宗静男:耳硬化症-stapedectomy と stapedotomy-、耳鼻咽喉科診療プラクティス 11, 加我君孝編集, 文光堂, 東京, pp110-113, 2003

3) 小宗静男:医学書院医学大事典, 伊藤正男他編集, 医学書院, 東京, 2003

4) 小宗静男:錐体部病変の手術. イラスト手術手技のコツ-耳鼻咽喉科・頭頸部外科-, 飯沼壽孝他編集, 東京医学社, 東京, 2003

5) 春田 厚:外耳・中耳良性腫瘍. 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針, 森山 寛他編集, 医学書院, 東京, pp408-411, 2003

◆原 著

1) Nabekura T, Morishima S, Timothy L Cover, Mori S, Kannan H, Komune S, Okada Y: Recovery from lacticidosis-induced glial cell swelling with the aid of exogenous anion channels. GLIA 41:247-259, 2003

2) De-Lai Qiu, Chun-Ping Chu, Shirasaka T, Nabekura T, Kunitake T, Kato K, Nakazato M, Katoh T, Kannan H: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing IH channel activity. J Neurophysiol 90:843-850, 2003

3) Kimitsuki T, Nakashima T, Kawano H, Komune S: Neurotrophin-3 modifies potassium currents in isolated inner hair cells from guinea-pig cochlea. Auris Nasus Larynx 30:141-145, 2003

4) Kimitsuki T, Ohashi M, Wada Y, Okuda T, Komune S: Glutamate induced currents in isolated inner hair cells from guinea-pig cochlea. Brain Res 976:135-138, 2003

5) Kimitsuki T, Kawano H, Matsuda K, Haruta A, Nakashima T, Komune S: Potassium current properties in apical and basal inner hair cells from guinea-pig cochlea. Hear Res 180:85-90, 2003

6) Jizhen Lin, Tsuboi Y, Frank Rimell, George Liu, Toyama K, Kawano H, M M Paparella, Samuel B Ho: Expression of mucins in mucoid otitis media. JARO 4:384-393, 2003

7) Kawano H, Tono T, Kadomastu K, Muramastu T, Komune S: Expression of nasigin, a member of the immunoglobulin superfamily, in the mouse cochlea. ORL 65:327-331, 2003

8) Zheng J, Long KB, Matsuda K, Madison LD, Ryan A, Dallos P: Genomic characterization and expression of mouse prestin, the motor protein of outer hair cells. Mamm Genome 14(2):87-96, 2003

9) Yokoo H, Saitoh T, Shiraishi S, Yanagita T, Sugano T, Minami S, Kobayashi H, Wada A: Distinct effect of ketone bodies on down-regulation of cell surface insulin receptor and insulin receptor substrate-1 phosphorylation in adrenal chromaffin cells. J Pharmacology and Experimental Therapeutics 304:994-1002, 2003

10) Yanagita T, Kobayashi H, Uezono T, Yokoo H, Sugano T, Saitoh T, Minami S, Shiraishi S, Wada A: Destabilization of Nav 1.7 sodium channel α -subunit mRNA by constitutive phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase; negative regulation of steady-state level of cell surface functional sodium channels in adrenal chromaffin cells. Molecular Pharmacology 63:1125-1136, 2003

11) Shiraishi S, Yokoo H, Yanagita T, Kobayashi H, Minami S, Saitoh T, Takasaki M, Wada A. Differential effects of bupivacaine enantiomers, ropivacaine and lidocaine on up-sodium channels in adrenal chromaffin cells. Brain Res. 966:175-184, 2003

12) 和田由起, 清水謙祐, 春田 厚, 君付 隆, 小宗静男: 内耳道奇形2症例の検討. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 75 (2): 121-126, 2003

13) 須田佳人, 花牟礼豊, 笠野藤彦, 鹿島直子: 鼻腔から発生した疣状癌 (Verrucous carcinoma) の1例. 日本耳鼻咽喉科学会会報 106:156-159, 2003

14) 花牟礼豊, 須田佳人, 笠野藤彦, 鹿島直子: 鼻副鼻腔領域における内視鏡手術-慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術を中心に-. 鹿児島医報 42 (2): 20-26, 2003

15) 堀之内謙一, 小宗静男, 河野浩万, 君付 隆: ドレナージと意図的浅在鼓膜形成が奏功した頭蓋内巨大コレステリン嚢胞症例. 日耳鼻 106:1135-1138, 2003

16) 清水謙祐, 君付 隆, 堀之内謙一, 松田圭二, 春田厚, 河野浩万, 奥田 匠, 小宗静男: 経迷路的聴神経腫瘍手術症例における蝸牛神経機能の検討. Otol Jpn 13(5): 633-636, 2003

17) 清水謙祐, 君付 隆, 福留真二, 小宗静男: めまい, 難聴を発症した one-and-a-half 症候群の1例. Equilibrium Res 62(6):563-568, 2003

18) 松浦宏司, 福留真二: 外来にて緊急気管切開を行った急性喉頭蓋炎の1例ならびに同30例の検討. 耳鼻と臨床 49(1), 2003

◆総 説

1) 小宗静男: 高齢者難聴. 臨床と研究 80 (10): 67-72, 2003

2) 鳥原康治, 小宗静男: 非ステロイド消炎・鎮痛剤の正しい使い方. MB ENT 23:43-46, 2003

◆その他

1) 河野浩万: 「アレルギー性鼻炎」正しい予防と治療. 宮崎日日新聞らびあ 100:22-23, 2003

2) 春田 厚: 健康相談室・耳鼻咽喉科. すこやかファミ

リー6:30, 2003

3) 春田 厚: 健康相談室・耳鼻咽喉科. すこやかファミリー6:31, 2003

◆特別講演

<全国シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ>

1) 小宗静男: 人工内耳医療の現状. 第103回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会臨床セミナー, 2002年5月, 東京

2) 小宗静男: 逆行性顔面神経剥離による浅葉摘出術. 耳下腺手術セミナー, 2003年3月, 京都

3) 小宗静男: 伝音再建困難例に対する手術・・・アブミ骨固着症. 第104回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会教育セミナー, 2003年5月, 東京

4) 春田 厚, 中島崇博, 外山勝浩, 小宗静男: 気管形成におけるチタンメッシュの利用. 第55回日本気管食道科学会総会学術講演会ワークショップ, 2003年10月, 福岡

<研究会その他>

1) 小宗静男: 錐端尖端疾患の病態と治療. 環中海耳鼻咽喉科セミナー, 2003年5月, 米子

2) 春田 厚: 嚥下機能から見た下咽頭癌の外科手術. 第11回九州耳鼻咽喉科臨床懇話会, 2003年6月, 福岡

3) 小宗静男: 中耳伝音再建における諸問題. 第10回近畿耳鼻咽喉科集談会, 2003年1月, 堺

4) 小宗静男: 人工内耳による聞こえの回復. 高度難聴治療の最前線, 2003年, 2月, 宮崎

5) 東野哲也: 人工中耳による聞こえの回復. 高度難聴治療の最前線, 2003年, 2月, 宮崎

6) 牛迫泰明: 難聴のリハビリテーション. 高度難聴治療の最前線, 2003年, 2月, 宮崎

7) 小宗静男: アブミ骨手術における諸問題. 耳の日講演会, 2003年3月, 佐賀

8) 小宗静男: 錐体先端疾患への耳科的アプローチ. 平成14年度奈良県耳鼻咽喉科三部会合同総会および第56回奈良県耳鼻咽喉科研修会, 2003年3月, 橿原

9) 河野浩万: 高齢者の耳の健康について. 耳・鼻・のどの無料相談会, 2003年3月, 宮崎

10) 堀之内謙一: 子供に多い耳・鼻・のどの病気. 耳・鼻・のどの無料相談会, 2003年3月, 宮崎

11) 東野哲也: 難聴医療の現状. 市民難聴フォーラム, 2003年3月, 福岡

12) 小宗静男: 人工内耳の現況. 西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会, 2003年7月, 小林

13) 君付 隆: 蝸牛内有毛細胞の生理. 第18回九州連合地方部会学術講演会・教育講演, 2003年7月, 鹿児島

14) 春田 厚: 新しい代用音声と気管孔ケア. 平成15年度日喉連九州ブロック指導者養成研修会, 2003年9月, 宮崎

15) 河野浩万: 耳の構造と難聴. 第14回補聴器販売講習会, 2003年11月, 鹿児島

16) 中島崇博: 好酸球性中耳炎の臨床. 第1回宮崎頭

◆学会, 研究会報告

<国際学会>

1) Kimitsuki T, Nakashima T, Kawano H, Komune S: Potassium current properties in apical basal inner hair cells from guinea-pig cochlea. Association for Research in Otolaryngology, 2003 年 2 月, Florida

2) Kawano H, Kimitsuki T, Tono T, Komune S: Upregulation of glial cell line-derived neurotrophic factor in the rat cochlea following kainic acid. Association for Research in Otolaryngology, 2003 年 2 月, Florida

3) Matsuda K, Jing Zheng, Guo-Gang Du, Levent Deak, Enrique G Navarrete, Peter Dallos: Protein kinase C and Voltage-dependent capacitance in prestin-transfected TSA calls. Association for Research in Otolaryngology, 2003 年 2 月, Florida

4) Levent Deak, Jing Zheng, Matsuda K, Guo-Gang Du, Peter Dallos: Effect of cGMP on prestin-transfected HEK calls. Association for Research in Otolaryngology, 2003 年 2 月, Florida

5) Toyama K, M M Paparella, J Lin, Komune S: Temperature-sensitive SV40 immortalized rat middle ear epithelial calls. 3rd Symposium on middle ear mechanism in research and otology, 2003 年 7 月, Matsuyama

6) Kawano H, Nakanishi H, Tsuboi Y, Kimitsuki T, Tono T, Komune S: Surgery for tympanosclerotic stapes fixation. A report of 6 cases. 3rd Symposium on middle ear mechanism in research and otology, 2003 年 7 月, Matsuyama

7) Wada Y, Kawano H, Fukudome S, Komatsubara S, Komune S: Cochlear implantation results in postmeningitic deafness. 4th congress of Asia Pacific symposium on cochlear implant and related sciences(APSCI), 2003 年 12 月, 台北

8) Fukudome S, Kawano H, Wada Y, Takaiwa K, Tsuboi Y, Komune S: Analysis of mutations in the GJB2 and mitochondrial 12S RNA genes in Japanese cochlear implant recipients. 4th congress of Asia Pacific symposium on cochlear implant and related sciences(APSCI), 2003 年 12 月, 台北

<全国学会>

1) 君付 隆, 原由起代, 小宗静男: 先天性アブミ骨底板欠損の成人例-聴力を保存し得た外リンパ嚢症例-. 第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月, 仙台

2) 須田佳人, 花牟礼豊, 笠野藤彦, 鹿島直子: 当院で経験した鼻副鼻腔疣状癌 (Verrucous carcinoma) の 1 例. 第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月, 仙台

3) 佐藤伸矢, 春田 厚, 南 慎一, 小宗静男: 咽頭, 下咽頭血管腫に対して KTP レーザー手術お行った 2 症例.

第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月, 仙台

4) 中島崇博, 君付 隆, 春田 厚, 南 慎一, 小宗静男: 中耳結核の臨床像について. 第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月, 仙台

5) 南 慎一, 春田 厚, 堀之内謙一, 中島崇博, 小宗静男: 頸部腫瘍で受診した扁桃悪性腫瘍症例. 第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月,

6) 花牟礼豊, 須田佳人, 笠野藤彦, 鹿島直子: 若年性鼻咽腔血管線維腫 2 症例の検討. 第 13 回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2003 年 1 月, 仙台

7) 鍋倉 隆, 佐藤伸矢, 春田 厚, 小宗静男: 術後 pneumolabyrinth をきたした耳硬化症症例. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

8) 君付 隆, 中島崇博, 松田圭二, 小宗静男: Neurotrophin-3 が蝸牛内有毛細胞の K 電流に与える影響. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

9) 河野浩万, 岩永英憲, 南 慎一, 大橋 充, 小宗静男: ツチ骨前方およびアブミ骨固着鼓室硬化症症例に対する聴力改善手術. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

10) 花牟礼豊, 須田佳人, 笠野藤彦, 鹿島直子: 慢性副鼻腔炎手術症例の検討-組織学的検索を含めて-. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

11) 小松原幸子, 和田由起, 春田 厚, 小宗静男: 先天性感音難聴における蝸牛神経の画像評価. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

12) 外山勝浩, 南 慎一, 坪井康浩, 小宗静男: 肺炎球菌ペプチドグリカン-ポリサッカライドの中耳および上気道粘膜上皮細胞の増殖に及ぼす影響について. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

13) 長井慎成, 川畑隆之, 堀之内謙一, 春田 厚, 小宗静男: IgA 腎症治療としての口蓋扁桃摘出術. 第 104 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2003 年 5 月, 東京

14) 大橋 充, 小宗静男, 菅沼龍夫: ラットアブミ骨前庭関節の超微構造と電顕組織化学. 第 59 回日本顕微鏡学会学術講演会, 2003 年 6 月, 札幌

15) 川畑隆之, 南 慎一, 君付 隆, 河野浩万, 小宗静男: 錐体突起癒着に伴うアブミ骨固着の 1 症例. 第 65 回耳鼻咽喉科臨床学会, 2003 年 7 月, 京都

16) 南 慎一, 春田 厚, 小宗静男, 鳥原康治, 牧野浩二: 不幸な転帰を辿った副鼻腔真菌症の経験. 第 65 回耳鼻咽喉科臨床学会, 2003 年 7 月, 京都

17) 佐藤伸矢, 河野浩万, 春田 厚, 小宗静男: 耳下腺転移をきたした眼瞼皮脂腺癌の 2 症例. 第 65 回耳鼻咽喉科臨床学会, 2003 年 7 月, 京都

18) 堀之内謙一, 君付 隆, 清水謙祐, 小宗静男: 突発性難聴治療初期における聴力予後の検討. 第 48 回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 2003 年 9 月, 東京

19) 小松原幸子, 和田由起, 春田 厚, 小宗静男: 蝸牛

神経形成不全症例における DPOAE の検討. 第 48 回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 2003 年 9 月, 東京

20) 福留真二, 河野浩万, 鳥原康治, 小宗静男: 難聴を伴った肥厚性硬膜炎の 1 例. 第 48 回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 2003 年 9 月, 東京

21) 和田由起, 牛迫泰明, 河野浩万, 坪井康浩, 小宗静男: 当科における人工内耳症例の難聴遺伝子の検索. 第 48 回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 2003 年 9 月, 東京

22) 牛迫泰明, 竹中美香, 東野哲也, 和田由起, 小宗静男: 成人人工内耳 129 例の予後. 第 48 回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 2003 年 9 月, 東京

23) 坪井康浩, 和田由起, 南 慎一, 佐藤伸矢, 大橋 充, 春田 厚, 小宗静男: 低酸素状態におけるムチン遺伝子発現の半定量的検討—ラット中耳粘膜の初代培養細胞を用いて—. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

24) 大橋 充, 菅沼龍夫, 小宗静男: ラットアブミ骨前庭関節の超微構造と組織化学. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

25) 鍋倉 隆, 中島崇博, 松田圭二, 君付 隆, 春田 厚, 小宗静男, 竹内俊二: 内耳における乳酸の役割. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

26) 中島崇博, 和田由起, 須田佳人, 坪井康浩, 河野浩万, 小宗静男: 中耳奇形の術後長期成績. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

27) 中西 悠, 河野浩万, 須田佳人, 坪井康浩, 小宗静男: 中心穿孔性真珠腫の検討. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

28) 清水謙祐, 堀之内謙一, 須田佳人, 加藤榮司, 春田 厚, 小宗静男: 宮崎県における耳硬化症疫学調査. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

29) 小宗静男, 鍋倉 隆, 福留真二, 中島崇博, 君付隆: 瘻孔部位同定に苦慮した側頭骨髄膜脳瘤症例. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

30) 河野浩万, 中西 悠, 清水謙祐, 外山勝浩, 小宗静男: 鼓室硬化症によるアブミ骨固着に対するアブミ骨手術後の聴力の推移. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

31) 外山勝浩, 小関昌嗣, 小宗静男: ラット耳囊におけるインテグリンの発現とその役割について. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

32) 君付 隆, 大橋 充, 福留真二, 小宗静男: モルモット蝸牛内耳有毛細胞カリウム電流の不活性化過程. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

33) 松田圭二, ダロス・ピーター, 小宗静男: モーター蛋白 prestin の糖鎖が電気生理機能に与える影響. 第 13 回日本耳科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 千葉

34) 中島崇博, 外山勝浩, 春田 厚, 小宗静男: 慢性関節リウマチの喉頭病変とその臨床経過. 第 55 回日本気管食道科学会総会学術講演会, 2003 年 10 月, 福岡

35) 清水謙祐, 君付 隆, 福留真二, 小宗静男: アブミ骨手術における術後前庭機能. 第 62 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会, 2003 年 11 月, 横浜

36) 福留真二, 清水謙祐, 君付 隆, 小宗静男: 事故から 15 年の経過で発症した外リンパ瘻の 1 例. 第 62 回日本めまい平衡医学会総会学術講演会, 2003 年 11 月, 横浜

37) 佐藤伸矢, 柳田俊彦, 白石成二, 横尾宏毅, 小林英幸, 菅野 孝, 岩切智美, 和田明彦: イムノフィリンリガンドによるインスリンシグナリングへの影響. 日本薬理学会西南部会, 2003 年 11 月, 大分

<研究会>

1) 佐藤伸矢, 春田 厚, 福留真二, 植木義裕, 松浦宏司, 小宗静男: 頸部膿瘍で発症した食道癌の一例. 第 10 回宮崎感染症研究会, 2003 年 2 月, 宮崎

2) 南 慎一: 当科における侵襲型副鼻腔アスペルギルス症例の経験. 第 7 回宮崎鼻・副鼻腔研究会, 2003 年 2 月, 宮崎

3) 山崎正幸: 眼窩尖端症候群を伴った蝶形骨洞癌の一例. 第 7 回宮崎鼻・副鼻腔研究会, 2003 年 2 月, 宮崎

4) 清水謙祐, 君付 隆, 堀之内謙一, 春田 厚, 小宗静男, 塩見一剛, 大井長和: めまい・難聴を発症した one-and-a-half 症候群の一例. 第 9 回宮崎県めまい研究会, 2003 年 3 月, 宮崎

5) 大橋 充: アブミ骨前庭関節の微細形態学的研究. 第 2 回 香川医大・高知医大・宮崎医大合同研究会, 2003 年 3 月, 香川

6) 外山勝浩: 転写因子 Id-1 のラット中耳粘膜上皮細胞に及ぼす影響について. 第 2 回 香川医大・高知医大・宮崎医大合同研究会, 2003 年 3 月, 香川

7) 大迫廣人, 南 慎一: 他科からの紹介による緊急処置を要した頸部疾患 (咽後膿瘍の 2 症例). 第 4 回県北耳鼻咽喉科臨床会, 2003 年 6 月, 延岡

8) 牧元 宏, 鳥原康治: 慢性型放線菌の一例. 第 4 回県北耳鼻咽喉科臨床会, 2003 年 6 月, 延岡

9) 中西 悠, 河野浩万, 小松原幸子, 外山勝浩, 小宗静男: 睡眠時無呼吸症候群に対する手術的治療. 第 1 回宮崎県睡眠呼吸障害研究会, 2003 年 7 月, 宮崎

10) 松田圭二, Jing Zheng, Gue-gang Du, Peter Dallos, 小宗静男: Prestin の機能における糖鎖の役割. 第 21 回頭頸部自律神経研究会, 2003 年 8 月, 大阪

11) 和田由起, 河野浩万, 坪井康浩, 小宗静男: 当科における人工内耳症例の難聴遺伝子の検索. 第 6 回宮崎県頭頸部手術手技および感染防御研究会, 2003 年 9 月, 宮崎

12) 牧元 宏, 鳥原康治: 食道穿孔および気腫・膿瘍をきたした食道異物の 1 例. 第 6 回宮崎県頭頸部手術手技および感染防御研究会, 2003 年 9 月, 宮崎

<地方部会>

1) 鳥原康治, 牧元 宏: 感音難聴を呈した椎体動脈異常走行症例. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎

- 2) 植木義裕, 山崎正幸, 中島崇博, 福留真二: 当院における突発性難聴の治療成績. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎
- 3) 長井慎成, 川畑隆之, 堀之内謙一, 春田 厚, 小宗静男: IgA 腎症と口蓋扁桃摘出術. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎
- 4) 竹中美香, 奥田 匠: 当科で使用しているクリニカルパスの紹介. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎
- 5) 鍋倉 隆, 佐藤伸矢, 君付 隆, 春田 厚, 小宗静男: 術後 pneumolabyrinth をきたした耳硬化症症例. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎
- 6) 笠野藤彦, 須田佳人, 花牟礼豊, 鹿島直子: 中耳根治術後症に対する鼓室形成術. 第 30 回日耳鼻南九州合同地方部会学術講演会, 2003 年 4 月, 宮崎
- 7) 鹿島直子, 笠野藤彦, 花牟礼豊, 奥田 匠, 永野広海, 久米浩太: 鹿児島県における高度難聴をとりまく背景と新生児聴覚スクリーニングの現状について. 第 18 回九州連合地方部会学術講演会, 2003 年 7 月, 牧園
- 8) 松田圭二, Jing Zheng, Guo-Guang Du, Peter Dallos, 小宗静男: Prestin 分子の糖鎖の役割. 第 18 回九州連合地方部会学術講演会, 2003 年 7 月, 鹿児島
- 9) 清水謙祐, 堀之内謙一, 君付 隆, 小宗静男: 輻輳誘発性振子眼振の 1 症例. 第 18 回九州連合地方部会学術講演会, 2003 年 7 月, 鹿児島
- 10) 須田佳人, 花牟礼豊, 笠野藤彦, 鹿島直子: 頤下部異所性甲状腺癌の一例. 第 18 回九州連合地方部会学術講演会, 2003 年 7 月, 鹿児島
- 11) 直野秀和, 清水順一, 高岩一貴, 堀之内謙一, 外山勝浩, 小宗静男: 宮崎大学外来・入院統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 12) 長井慎成, 鍋倉 隆, 山崎正幸, 福留真二, 中島崇博, 植木義裕: 県立宮崎病院手術統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 13) 原由起代: 古賀総合病院入院・手術統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 14) 下蘭政巳, 永井知幸: 国立都城病院手術統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 15) 松浦宏司: 中部病院 入院・手術統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 16) 竹中美香, 川畑隆之: 県立日南病院入院患者統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 17) 牧元 宏, 鳥原康治: 県立延岡病院入院統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 18) 大迫廣人, 南 慎一, 井藤 健: 日向済生会病院平成 15 年度入院・手術統計. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 19) 高岩一貴, 君付 隆, 堀之内謙一, 小宗静男: 耳鳴に対する TRT 療法—当科での経験—. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 20) 山崎正幸, 長井慎成, 鍋倉 隆, 植木義裕, 寺原朋裕, 上園繁広: 難聴を初発症状とした ANCA 関連腎炎の一例. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 21) 南 慎一, 大迫廣人, 井藤 健: 最近経験した鼻腫症例. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 22) 川畑隆之, 竹中美香: 破裂軟骨脱臼の 2 症例. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 23) 須田佳人, 小松原幸子, 外山勝浩, 春田 厚, 山崎正幸: 当科におけるヴォイスプロテシス(PROVOX2)を用いた音声再建手術の使用経験. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 24) 鳥原康治, 牧元 宏: 輪状軟骨原発 chondrosarcoma の一症例. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 25) 永井知幸, 下蘭政巳: 色素の浸潤性を指標とする癌切除. 第 95 回日耳鼻宮崎県地方部会学術講演会, 2003 年 12 月, 宮崎
- 26) 佐藤伸矢, 柳田俊彦, 白石成二, 横尾宏毅, 小林英幸, 菅野孝, 岩切智美, 和田明彦: イムノフィリン・リガンドのインスリン・シグナリングへの影響. 第 56 回日本薬理学会西南部会. 2003 年 12 月. 大分
- 27) 岩切智美, 柳田俊彦, 菅野孝, 佐藤伸矢, 横尾宏毅, 小林英幸, 和田明彦: Insulin-like growth factor-I による電位依存性 Na⁺チャネルの up-regulation. 第 56 回日本薬理学会西南部会. 2003 年 12 月. 大分
- 28) 横尾宏毅, 柳田俊彦, 菅野孝, 佐藤伸矢, 岩切智美, 小林英幸, 和田明彦: Glycogen synthase kinase-3 によるインスリン受容体細胞膜発現調節. 第 56 回日本薬理学会西南部会. 2003 年 12 月. 大分
- 29) 菅野孝, 柳田俊彦, 佐藤伸矢, 横尾宏毅, 小林英幸, 和田明彦: ニコチン受容体によるインスリン受容体シグナリングの調節. 第 56 回日本薬理学会西南部会. 2003 年 12 月. 大分

産婦人科学講座 (Obstetrics and Gynecology)

◆著 書

- 1) 池ノ上 克: 前期破水, 今日の治療指針 2003 年版, p858, 2003.1.1, 医学書院
- 2) 山口昌俊, 池ノ上 克: 妊娠反応テスト, 内科診療 Q & A, p1108-1111, 2003, 六法出版
- 3) 吉山登志子, 池ノ上 克: 腎・泌尿器疾患, 改訂合併症妊娠, 179-187, 2003, 金原出版
- 4) 高橋典子, 池ノ上 克: 周産期の胎児管理, 未熟児看護の知識と実際, 改訂 3 版: 172-190, 2003

◆原 著

- 1) Nagato Natsume, Tsuyoshi Kawai, Waka Yoshida, Yutaka Tomoda, Eiko Sakai, Yoshio Sumiyoshi, Fumiki Hirahara, Geniku Kohama, Makoto Noguchi, Toshiaki Endo, Yoshiki Sugiyama, Akimune Fukushima, Seishi Echigo, Chikara Saito, Takeshi Uchiyama, Kiyoo Tanabe, Hidemi Yoshimasu, Shouji Enomoto, Ken Omura, Toshiro Kubota, Tsuyoshi Takato, Shiro Kozuma, Kenichi Kurita, Kaoru Suzumori, Tokuzo Matsuya, Mikihiro Kogo, Masayoshi Sakuda, Yoshihide Mori, Yuji Murata, Yasuro Yoshimura, Kohji Miyazaki, Masamichi Ohishi, Kiyomi Tsukimori, Takeshi Katsuki, Shigetaka Yanagisawa, Isao Miyakawa, Ryosuke Shiba, Tsuyomu Ikenoue, Kazumasa Sugihara, Tamotsu Mimura, Yukio Ikuta, Hajime Sunakawa, Koji Kanazawa and Kazuo Shimozato: Attempt for Prevention of Cleft Lip and Palate in Japan, Dentistry in Japan, 39:194-198, 2003
- 2) 児玉裕文, 林 克裕, 林 要人, 山口昌俊, 山下康洋, 小野浩重, 八木優子, 堀 真由美, 奥村 学, 川崎由美子, 黒木恵美, 鈴 智子, 田口なるみ, 荒武八起, 梅木一美, 鈴木千代子, 工藤正直, 長田幸夫, 有森和彦: 治験における事前審査の有用性と今後の展望, Jpn J Clin Pharmacol Ther, 34(1):181-182, 2003
- 3) 山口昌俊, 丸山り子, 池ノ上 克, 中島清子: 妊婦血中可溶性シンデカン 1 とヘパリン硫酸濃度の変化, 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 13 (1) : 7-8, 2003
- 4) Ken-ichi Fujita, Muneaki Hidaka, Norito Takamura, Keishi Yamasaki, Tomomi Iwakiri, Manabu Okumura, Hirofumi Kodama, Masatoshi Yamaguchi, Tsuyomu Ikenoue and Kazuhiko Arimori: Inhibitory Effects of Citrus Furits on Cytochrome P450 3A(CYP3A) Activity in Humans, Biol. Pharm. Bull. 26(9):1371-1373, 2003
- 5) Junji Onishi, Masato Kamitomo, Virginia M. Stiffel and Raymond D. Gilbert: Effects of Long-Term High-Altitude Hypoxia on Myocardial Protein Kinase A Activity and Troponin I Isoforms in Fetal and Nonpregnant Sheep, J Soc Gynecol Investig, 10(4): 189-193, 2003
- 6) Eriko Y. Fujii, Noriko Takahashi, Yuki Kodama, Christine Romanm, Donna M. Ferriero, Julian T. Parer: Hemodynamic changes during complete umbilical cord

occlusion in fetal sheep related to hippocampal neuronal damage, Am J Obstet Gynecol, 188(2): 413-418, 2003

7) 田中博明, 川口日出樹, 寺尾公成: 当科で行っている周術期 DVT・PE の対応策 -平成 14 年・449 例の検討-, 日本産科婦人科学会九州連合地方部会雑誌, 54: 39-40, 2003

◆症例報告

- 1) 米田由香里, 永井公洋, 松影昭一, 福島和子, 楠元和美, 上森照代, 池ノ上 克: 子宮体部神経内分腫瘍 2 症例の臨床病理学的検討, 日本産科婦人科学会九州連合地方部会雑誌, 54: 19~20, 2003
- 2) 堀切千賀子, 土井宏太郎, 白倉幸宏, 他: 複合型グリセロールキシナーゼ欠損症の一症例, 日本小児科学会雑誌, 107 (7) : 1207, 2003

◆総 説

- 1) 稲森美香, 池田智明, 桂木真司, 岡田俊則, 本山妙子, 池ノ上 克: 超低出生体重児の重症度スコアリング, 産婦人科の世界, 55 (1) : 23-30, 2003
- 2) 米田由香里, 池ノ上 克: 妊娠中の血液学的特徴の変化, 周産期医学, 33 (2) : 155-158, 2003
- 3) 古川誠志, 鮫島 浩: 吸引遂娩術, 産科と婦人科, 70 (増刊号) : 45-50, 2003
- 4) 吉山登志子, 池ノ上 克: 腎疾患合併妊産婦の管理, 産婦人科治療, 86 (増刊号) : 517-520, 2003
- 5) 徳永修一, 池ノ上 克: 母体年齢と難産, 産科と婦人科, 70 (7) : 860-864, 2003
- 6) 古川誠志, 鮫島 浩: 糖尿病母体から生まれた児は巨大児? 周産期医学, 33 (6) : 755-757, 2003
- 7) 西村美帆子, 池ノ上 克: 正常新生児の取り扱い方出生から退院まで, 産婦人科治療, 87 (2) : 141-147, 2003
- 8) 古川誠志, 池ノ上 克: 妊産婦と抗菌薬-感染症治療の考え方-「絨毛膜羊膜炎」, 感染と抗菌薬, 6 (3) , 264-268, 2003
- 9) 川越靖之, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 産婦人科診療症候から診断・治療へ, 胎児発育異常, 産科と婦人科, 70 (11) : 1717-1721, 2003
- 10) T. Kobayashi, T. Terao, T. Ikenoue, Y. Kajiwarra, M. Maki: Antithrombin Therapy for Preeclampsia, Biomedical Progress, 16: 72-77, 2003
- 11) 池ノ上 克: 産科医療における問題点, 日本新生児学会雑誌, 39 (4) : 766-767, 2003
- 12) 川越靖之, 鮫島 浩, 池ノ上 克: これからの分娩管理, 産婦人科治療, 86 (1) : 1-6, 2003
- 13) 和田俊朗: 診療メモ (婦人科における腹腔鏡手術), 日州医事, 第 652 号: 65-66, 2003
- 14) 徳永修一, 土井宏太郎, 山内憲之, 池ノ上 克: 母体搬送とそのあり方, 産婦人科治療, 87 (4) : 415-419, 2003

◆その他

- 1) 池ノ上 克: 新臨床研修医制度のスタートに向けて, 日医事, 第 644 号: 11-12, 2003

◆学会発表

<国際学会>

1) Akihiko Kato, Malgorzata Mlynarczyk, Kanchan M Kaushal, Raymond D Gilbert, Lawrence D Longo, Charles A Ducsay : Endocrine Responses to Umbilical Cord Occlusion Following Sino-Aortic Denervation in the Long-Term Hypoxemic Ovine Fetus, Society for Gynecologic Investigation 50th Annual, 2003, 3, USA

2) Akihiko Kato, Malgorzata Mlynarczyk, Kanchan M Kaushal, Raymond D Gilbert, Lawrence D Longo, Charles A Ducsay : Endocrine Responses to a superimposed Hypoxia Following Sino-Aortic Denervation in the Long-Term Hypoxemic Ovine Fetus, Society for Gynecologic Investigation 50th Annual, 2003, 3, USA

3) Brain J Koos, Yoshikazu Kawasaki, Fanor Bohorquez, Ashwinii Hari Calvin Jan, Jason Roostaeianm, Charles L Wilson, Lawrence Kruger : Electrical Stimulation of Thalamic Loci Inhibit Breathing in Fetal Sheep, Society for Gynecologic Investigation 50th Annual, 2004, 3, USA

4) Tsuyomu Ikenoue : Fetal infection and cerebral palsy, The 8th Japan-Korea Joint Conference of Obstetrics and Gynecology, 2003, 4, 福岡

5) Masatoshi Yamaguchi, Ruriko Maruyama, Tsuyomu Ikenoue, Norimasa Mori : SULT2A1 Gene(DHEA Sulfortransferase) Variation in the Women with androgen Excess Symptom, THE ENDOCRINE SOCIETY'S 85TH ANNUAL MEETING, 2003, 6, USA

6) M. Yamaguchi : Human Soluble Syndecan1 and Heparan Sulfate Level During Pregnancy(Poster), The 6th World Congress of Perinatal Medicine, 2003, 9, 大阪

7) Tsuyomu Ikenoue : New aspect of fetal heart rate pattern analysis, The 13th Taiwan-Japan Symposium in Obstetrical and Gynecological Ultrasound and Perinatology, 2003, 10, Vietnam

8) Yasuyuki Kawagoe : Preterm birth after cessation of long-term tocolysis, The 13th Taiwan-Japan Symposium in Obstetrical and Gynecological Ultrasound and Perinatology, 2003, 10, Vietnam

9) Tsuyomu Ikenoue : Fetal heart Rate Pattern and Fetal Outcome, 2003 POGS ANNUAL CONVENTION and 57th ANNIVERSARY CELEBRATION, 2003, 11, Philippine

10) Tsuyomu Ikenoue : Perinatal Infection and Brain Damage, 2003 POGS ANNUAL CONVENTION and 57th ANNIVERSARY CELEBRATION, 2003, 11, Philippine

<シンポジウム>

1) 池ノ上 克 : 産科医療における問題点, 第 39 回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山

2) 加藤英二 : PVL の発生予測, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

<ワークショップ>

1) Tsuyomu Ikenoue : Perinatal Infection and Brain

Damage, TAIWAN SOCIETY OF PERINATOLOGY, 2003, 12, 台湾

<セミナー>

1) 池ノ上 克 : 子宮内感染症と胎児脳障害, SS セミナー, 2003, 1, 東京

<スライドカンファレンス>

1) 永井公洋 : 産婦人科 2 第 19 回日本臨床細胞学会九州連合地方学会, 2003, 7, 宮崎

<公開講座>

1) 山口昌俊 : 更年期障害の東洋医学的治療平成 15 年度公開講義, 2003, 10, 宮崎

<共演>

1) 池ノ上 克 : 胎児超音波スクリーニングの基本 - いくつかのすべきか -, 第 6 回なにわ周産期セミナー, 2003, 11, 大阪

<講話>

1) 池ノ上 克 : 周産期医療における最近の動向, 地域周産期医療体制づくり連絡会, 2003, 3, 宮崎

<招請講演>

1) 池ノ上 克 : 新しい胎児心拍数パターン解読のポイント, 奈良県産婦人科医会第 54 回臨床カンファレンス, 2003, 3, 奈良

<記念講演>

1) 池ノ上 克 : 宮崎県における周産期医療のあゆみ, 善通寺周産期医療フォーラム, 2003, 5, 香川

<ラジオ講演>

1) 山口昌俊 : 更年期障害について, おしえて! ドクター健康耳寄り相談室, 2003, 12, 宮崎

<特別講演>

1) 池ノ上 克 : 産婦人科の心身症, 第 42 回日本心身医学会九州地方会, 2003, 1, 宮崎

2) 池ノ上 克 : 子宮内感染と脳障害, 第 1 回道後周産期カンファレンス, 2003, 2, 愛媛

3) 池ノ上 克 : 新しい胎児心拍数パターン解読のポイント, 平成 14 年度日本産科婦人科学会島根地方部会総会・日本産婦人科島根県支部総会, 2003, 4, 島根

4) 池ノ上 克 : 新しい胎児心拍数パターン解読のポイント, 横浜市立大学医学部産婦人科学教室同門会, 2003, 6, 横浜

5) 池ノ上 克 : 周産期脳障害の基礎と臨床, 第 3 回愛知 2 大学合同研究会, 2003, 10, 名古屋

<講演>

1) 池ノ上 克 : 正しく読もう胎児心拍数パターン, K-ネッ

トカンファレンス, 2003, 5, 香川

2) 池ノ上 克: 果たして CP (脳性麻痺) の予防策はあるのか -理論と実際のギャップ (その2)-, 第11回産科中小施設研究会, 2003, 6, 東京

3) 池ノ上 克: 宮崎医科大学における新医師臨床研修制度の現状と問題点, 宮崎県医師会勤務医部会, 2003, 7, 宮崎

4) 山口昌俊: 女性と心身症について, 宮崎医科大学公開講座, 2003, 7, 宮崎

5) 山口昌俊: いきいき更年期, 平成15年度宮崎市学校給食調理員夏季研修会, 2003, 8, 宮崎

6) 山口昌俊: 産婦人科領域におけるDICについて, アベンティスベーリングジャパン社内研修会, 2003, 9, 福岡

7) 池ノ上 克: 胎児心拍数モニタリング解析の新しいポイント, TOG 創立51周年総会, 2003, 9, 東京

8) 山口昌俊: 知っておこう。女性のからだの変化, 平成15年度「いきいき女性セミナー」, 2003, 12, 宮崎

9) 池ノ上 克: 鑑定の経験談, 医療訴訟ガイダンス, 2003, 12, 宮崎

<一般講演>

1) 丸山るり子, 山口昌俊: 遅発思春期の1例, 第115回内分泌同好会, 2003, 2, 宮崎

2) 古川誠志, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 妊娠中毒症の胎児, 新生児予後, 第13回腎と妊娠研究会, 2003, 3, 横浜

3) 大西淳仁: 羊胎仔の心筋における長期高地低酸素の影響, PARM(Perinatal Animal Research Meeting), 2003, 3, 鹿児島

4) 川越靖之: 羊胎仔急性実験モデルでのElectromechanical delay timeと収縮期血圧の相関について, PARM(Perinatal Animal Research Meeting), 2003, 3, 鹿児島

5) 加藤英二: PMX 療法を施行した新生児、乳児における血中 anandamide、2-arachidonylglycerol 濃度の変化の検討, PARM(Perinatal Animal Research Meeting), 2003, 3, 鹿児島

6) 野田俊一, 池田智明, 池ノ上 克: 妊娠中期におけるクラミジアの産道感染と配偶者の感染状況の検討, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

7) 古川誠志, 桂木真司, 楠元和美, 岩砂智丈, 土谷雅紀, 池田智明, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 妊娠中毒症の重症度と分娩時胎児心拍数パターン, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

8) NOOR Jesmin I., IKEDA Tomoaki, SAMESHIMA Hiroshi, IKENOUE Tsuyomu: The free radical scavenger MCI-186, reduces lipid peroxidation in hypoxic-ischemic brain damage of the neonatal rat, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

9) YANG Li, SAMESHIMA Hiroshi, IKEDA Tomoaki, IKENOUE Tsuyomu: Lipopolysaccharide administration induces brain after intermittent hypoxia in the newborn rat, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

10) 丸山英樹, 茨 聡, 加藤英二, 丸山有子, 前出

喜信, 丸古慶子, 楠元雅寛, 後藤俊二, 小池浩文, 立石洋子, 加藤博美, 池ノ上 克: 脳室周囲白質軟化症 (PVL) 症例における臍帯血中内因性 cannabinoid 濃度の検討, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

11) 小室真祐子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 前出喜信, 滝澤 基, 星 和彦: 帽状腱膜下出血18症例の生命予後に影響する周産期因子の検討, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

12) 楠元雅寛, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 前出喜信, 丸古慶子, 谷口博子, 後藤俊二, 吉田瑞穂, 池ノ上 克: Fetal Brain Death Syndrome と考えた一症例, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

13) 大里和広, 池田智明, 金子政時, 稲森美香, 木佐貫 隆, 西村美帆子, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 在胎週数22週から24週の超低出生体重児の生命予後に関する因子の検討, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

14) 後藤俊二, 茨 聡, 丸山英樹, 加藤英二, 丸山有子, 楠元雅寛, 谷口博子, 吉田瑞穂: ECMO による脳低温療法施行時の乳酸産生と持続血液濾過透析併用の効果, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

15) 下野隆一, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 加藤博美, 石山昭彦: 新生児消化性潰瘍の2症例, 第19回鹿児島小児科外科研究会, 2003, 4, 鹿児島

16) 徳久琢也, 茨 聡, 小林康祐, 丸山英樹, 加藤英二, 丸山有子, 下野隆一, 熊澤一真, 楠元雅寛, 松井貴子: HIE 症例における新生児脳低温療法施行時における脳内の酸素摂取率の検討, 第19回鹿児島小児科外科研究会, 2003, 4, 鹿児島

17) 丸山英樹, 茨 聡, 加藤英二, 丸山有子, 下野隆一, 前出喜信, 徳久琢也, 熊澤一真, 楠元雅寛, 松井貴子, 加藤博美, 石山昭彦, 築詰伸太郎, 松村真紀, 池ノ上 克, 丸山征郎, 橋口照人: PMX 療法を施行した新生児、乳児における、血中 anandamide、2-arachidonylglycerol 濃度の変化の検討, 第19回鹿児島小児科外科研究会, 2003, 4, 鹿児島

18) 土井宏太郎, 松影昭一, 徳永修: 一妊娠中期に胸閉症を発症した一症例: 第19回宮崎市郡医師会産婦人科医会症例検討会, 2003, 4, 宮崎

19) 山口昌俊, 丸山るり子, 三部正人, 池ノ上 克: 高アンドロゲン血症を伴う月経異常女性 DHEA sulfotransferase, 第76回内分泌学会, 2003, 5, 横浜

20) 田中博明, 川口日出樹, 寺尾公成: 当科で行っている周術期 DVT・PE の対応策 -平成14年・449例の検討-, 第60回日本産科婦人科学会九州連合地方部会, 2003, 5, 鹿児島

21) 米田由香里, 永井公洋, 松影昭一, 福島和子, 楠元和美, 上森照代, 池ノ上 克: 子宮体部神経内分腫瘍2症例の臨床病理学的検討, 第60回日本産科婦人科学会九州連合地方部会, 2003, 5, 鹿児島

- 22) 山口昌俊, 丸山るり子, 三部正人, 肥後貴史, 池ノ上 克: LH β サブユニット遺伝子領域の1塩基変異, 第27回日本遺伝カウンセリング学会, 2003, 6, 東京
- 23) 山口昌俊, 丸山るり子, 池ノ上 克, 中島清子: 妊婦血中可溶性シンデカン 1 とヘパラン硫酸濃度の変化, 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 24) 熊澤一真, 茨 聡, 加藤英二, 丸山有子, 丸山英樹, 下野隆一, 前出喜信, 徳久琢也, 楠元雅寛, 松井貴子: 胎外生活適応過程における酸化ストレスマーカー (8hydroxy-2' deoxyguanosine) の変化の検討, 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 25) 徳久琢也, 茨 聡, 丸山有子, 丸山茂樹, 加藤英二, 下野隆一, 前出喜信, 熊澤一真, 楠元雅寛, 松井貴子: 新生児脳低温療法施行時における脳酸素摂取率の検討, 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 26) 加藤博美, 岡田俊則, 加藤英二, 茨 聡, 丸古慶子, 前田隆嗣, 上塘正人, 丸山有子, 丸山英樹: Malignant lymphoma 合併母体からの経胎盤転移が考えられた一症例, 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 27) 谷口博子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 米田 哲, 下野隆一, 熊澤一真, 徳久琢也, 池ノ上 克: NICU における血液凝固・血小板機能分析装置の有用性 (Bernard-Soulier syndrome の経験から), 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 28) 松井貴子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 楠元雅寛, 谷口博子, 丸古慶子, 上塘正人, 池ノ上 克: TTTS における羊水過多発症のメカニズムと hANP との関連について, 第13回日本産婦人科・新生児血液学会, 2003, 6, 宮崎
- 29) 土井宏太郎, 山内憲之, 徳永修一: 常位胎盤早期剥離の一症例, 第20回宮崎市郡医師会産婦人科医会症例検討会, 2003, 6, 宮崎
- 30) 古川誠志, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 糖尿病妊婦の分娩時心拍数モニタリングと新生児予後, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 31) Noor Jesmin Ishrat, 池田智明, 池ノ上 克: エダラボンの新生仔ラット低酸素性虚血性脳障害に対する神経保護効果-投与法の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 32) 川越靖之, 鮫島 浩, 古川誠志, 池ノ上 克: 妊娠35週で tocolysis を中止した切迫早産症例の妊娠経過についての検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 33) 山下理絵, 池田智明, 岩砂智丈, 大里和広, 卜部浩俊, 金子政時, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 急性期離脱後の超低出生体重児に生じた尿量低下に、ステロイドが著効した9症例の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 34) 卜部浩俊, 池田智明, 大里和広, 山下理絵, 岩砂智丈, 金子政時, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 早産症例における子宮内感染の頻度-診断基準による違い-, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 35) 大里和広, 池田智明, 山本朱里, 岩砂智丈, 雀ヶ野理絵, 卜部浩俊, 金子政時, 鮫島 浩, 池ノ上 克: 妊娠22-25週で出生した児の胎児心拍数パターン, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 36) 加藤英二, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 下野隆一, 前出喜信, 熊澤一真, 徳久琢也, 加藤博美, 池ノ上 克: 低出生体重児における尿中 8OH-2'dG の経時的変化 (吸入酸素濃度の影響), 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 37) 徳久琢也, 茨 聡, 小林康祐, 丸山英樹, 丸山有子, 加藤英二, 下野隆一, 前出喜信, 熊澤一真, 楠元雅寛, 松井貴子: HIE 症例に対する新生児脳低温療法施行時における脳酸素摂取率の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 38) 松井貴子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 上塘正人, 熊澤一真, 徳久琢也, 楠元雅寛, 前出喜信, 池ノ上 克: TTTS における羊水過多発症のメカニズムに関する研究 (hANP の関連について), 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 39) 加藤英二, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 下野隆一, 前出喜信, 熊澤一真, 徳久琢也, 楠元雅寛, 松井貴子, 池ノ上 克: PMX 療法を施行した症例における、血中 anandamide, 2-arachidonylglycerol 濃度の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 40) 丸山有子, 茨 聡, 加藤博美, 丸山英樹, 加藤英二, 前出喜信, 熊澤一真, 上塘正人, 前田隆嗣, 池ノ上 克: 頭囲発育停止を指標にした IUGR 娩出のタイミング, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 41) 石山昭彦, 下野隆一, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 前出喜信, 熊澤一真, 徳久琢也, 加藤博美, 松井貴子: 消化性潰瘍の合併を認めた新生児メレナの一症例, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 42) 熊澤一真, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 下野隆一, 前出喜信, 徳久琢也, 楠元雅寛, 松井貴子, 加藤博美: 出生前後における酸化ストレスマーカー (8 hydroxy-2' deoxyguanosine) の変化の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 43) 小室真祐子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 前出喜信, 星 和彦: 帽状腱膜下出血18症例の生命予後に影響する周産期因子の検討, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 44) 加藤博美, 岡田俊則, 加藤英二, 茨 聡, 丸古慶子, 前田隆嗣, 上塘正人, 丸山有子, 丸山英樹: 母体からの経胎盤転移が考えられ、乳児期に発症した malignant lymphoma の一症例, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山
- 45) 春口光政, 永友啓子, 黒田るい子, 篠原貴子, 尾形孝子, 河内實世, 西村篤乃, 嶋本富博, 林 透, 永井公洋: 集団検診で発見された子宮頸部上皮内腺癌6例の検討, 第19回日本臨床細胞学会九州連合学会, 2003, 7, 宮崎
- 46) 永井公洋, 米田由香里, 道方香織, 楠元和美, 蓮田 淳, 池ノ上 克, 佐藤勇一郎: 腹膜原発の腺癌が疑

われた症例, 第 19 回日本臨床細胞学会九州連合学会, 2003, 7, 宮崎

47) 大西淳仁:ローマリンダ留学紀行Ⅰ, 第 4 回宮崎医科大学産婦人科学教室同窓会, 2003, 7, 宮崎

48) 加藤明彦:ローマリンダ留学紀行Ⅱ, 第 4 回宮崎医科大学産婦人科学教室同窓会, 2003, 7, 宮崎

49) 山口昌俊:原発無月経の 1 例, 第 118 回内分泌同好会, 2003, 8, 宮崎

50) 築山尚史, 卜部浩俊, 古川誠志, 高橋典子, 河村直子, 古田 賢, 川越靖之, 鮫島 浩, 池ノ上 克:妊娠に合併した自然気胸の 1 例, 日本産科婦人科学会宮崎地方部会夏期学会, 2003, 8, 宮崎

51) 大塚晃生, 川口日出樹, 寺尾公成, 児玉由紀, 瀬戸雄飛, 石原 明:臨床経過, 血清学的検査結果, 病理所見が合致したパルボウイルス B19 感染による胎児水腫, 子宮内胎児死亡の 1 例, 日本産科婦人科学会宮崎地方部会夏期学会, 2003, 8, 宮崎

52) 徳永修一, 土井宏太郎, 山内憲之:当病院の救急母体搬送の検討, 日本産科婦人科学会宮崎地方部会夏期学会, 2003, 8, 宮崎

53) 甲斐克秀, 桂木真司, 今村登志子, 春山康久, 木佐貫 篤, 松 敬文:乳癌術後に発症した子宮体癌の 1 症例, 日本産科婦人科学会宮崎地方部会夏期学会, 2003, 8, 宮崎

54) 児玉由紀, 瀬戸雄飛, 西村卓朗, 大西淳仁, 大里和広, 山下理絵, 田中博明, 大橋昌尚, 中野ゆうき, 金子政時, 池田智明, 鮫島 浩, 池ノ上 克:新生児領域におけるカリウム吸着フィルターの使用経験, 第 8 回九州小児体外循環研究会, 2003, 8, 佐賀

55) 川越靖之, 鮫島 浩, 山本朱里, 土井宏太郎, 西村卓朗, 古川誠志, 池ノ上 克:妊娠 35 週で tocolysis を中止した切迫早産症例の妊娠経過についての検討, 第 21 回周産期医療研究会, 2003, 9, 鹿児島

56) 蓮田 淳, 道方香織, 米田由香里, 永井公洋, 池ノ上 克, 川口日出樹, 徳永修一, 和田俊朗産婦人科領域における急性腹症, 第 21 回周産期医療研究会, 2003, 9, 鹿児島

57) 茨 聡, 熊澤一真, 徳久琢也, 丸山英樹, 丸山有子, 下野隆一, 小幡新太郎, 一ノ橋祐子, 谷口博子, 加藤博美, 池畑奈美, 渡邊弘道, 小塚良哲, 戸上真一, 永井義雄:新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法, 第 21 回周産期医療研究会, 2003, 9, 鹿児島

58) 熊澤一真, 茨 聡, 加藤英二, 丸山有子, 下野隆一, 丸山英樹, 徳久琢也, 小幡新太郎, 一ノ橋祐子, 谷口博子, 加藤博美, 池畑奈美, 渡邊弘道, 小塚良哲, 戸上真一, 永井義雄:出生前後における酸化ストレスマーカー (8OHG) の変化の検討, 第 21 回周産期医療研究会, 2003, 9, 鹿児島

59) 卜部浩俊, 池田智明, 大里和広, 鮫島 浩, 池ノ上 克:子宮内感染所見と慢性肺疾患, 脳室周囲白室脳症の関連について, 第 16 回新生児慢性肺疾患研究会, 2003, 9, 鹿児島

60) 一ノ橋祐子, 茨 聡, 丸山英樹, 丸山有子, 徳久

琢也, 熊澤一真, 下野隆一, 小塚良哲, 渡辺弘道, 小幡新太郎, 戸上真一, 池畑奈美, 谷口博子, 加藤博美: Lung Protective Strategy 導入前後における CLD 発症率の検討, 2003, 9, 鹿児島

61) 徳永修一, 土井宏太郎, 山内憲之:塩酸リトリン使用療法中に血中クレアチンキナーゼの上昇を呈した一例, 第 21 回宮崎市医師会産婦人科医会症例検討会, 2003, 9, 宮崎

62) 甲斐克秀, 桂木真司, 今村登志子, 春山康久:在胎 38 週 2 日で選択的帝王切開施行術後, 新生児に人工呼吸管理を要した 1 症例, 第 88 回南那珂産婦人科医会, 2003, 9, 宮崎

63) 道方香織, 楠元和美, 米田由香里, 永井公洋, 川口日出樹, 徳永修一, 和田俊朗, 池ノ上 克:産婦人科領域の急性腹症における画像診断, 第 26 回日本産科婦人科 ME 学会, 2003, 10, ベトナム

64) 古田 賢, 古川誠志, 河村直子, 山口昌俊, 鮫島浩, 池ノ上 克:当科で経験した妊産婦の肺塞栓症例 8 例の臨床検討, 第 26 回日本産科婦人科 ME 学会, 2003, 10, ベトナム

65) 谷口博子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 下野隆一, 熊澤一真, 徳久琢也, 松井貴子, 池ノ上 克:超出生体重児に対する hANP の使用経験, 第 26 回日本産科婦人科 ME 学会, 2003, 10, ベトナム

66) 松井貴子, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 上塘正人, 池ノ上 克:TTTS における羊水過多発症のメカニズムと hANP の関連について, 第 26 回日本産科婦人科 ME 学会, 2003, 10, ベトナム

67) 高橋真悠子, 木佐貫 隆, 河野慶一郎, 西口俊裕, 濱田恵亮:chondrodysplasia punctata の 1 例, 日本小児科学会宮崎地方部会第 54 回例会, 2003, 10, 宮崎

68) 濱田恵亮, 齋藤祐介, 高橋真悠子, 寺原朋裕, 木佐貫 隆, 西尾壽乗, 河野慶一郎, 清 保博, 西口俊裕:脳波異常を有する注意欠陥/多動性障害 (AD/HD), 日本小児科学会宮崎地方部会第 54 回例会, 2003, 10, 宮崎

69) 川口日出樹, 大塚晃生, 寺尾公成:特異な形態を示した子宮体部腫瘍の一例, 第 36 回宮崎婦人科症例カンファランス, 2003, 10, 宮崎

70) 和田俊朗:良性卵巣腫瘍+単径ヘルニアと診断された〇〇〇の一例, 第 36 回宮崎婦人科症例カンファランス, 2003, 10, 宮崎

71) 山口昌俊, 丸山るり子, 池ノ上 克:アンチトロンビンの絨毛組織トロンボキサン産生刺激機序 (第 3 報) -絨毛組織におけるシンデカンとシンテニンの免疫組織学的検討, 第 24 回日本妊娠中毒症学会, 2003, 10, 名古屋

72) 古川誠志, 鮫島 浩, 池ノ上 克:妊娠中毒症で分娩後も蛋白尿が遷延する症例の臨床的経緯, 第 24 回日本妊娠中毒症学会, 2003, 10, 名古屋

73) 楠元 和美:初回治療から 13 年目に再発した卵巣癌症例, 第 36 回宮崎婦人科症例カンファランス, 2003, 10, 宮崎

74) 山口昌俊, 丸山るり子, 三部正人, 肥後貴史, 池

ノ上 克:早発閉経と LHB 遺伝子領域の 1 塩基変異, 日本人類遺伝学会 第 48 回大会, 2003, 10, 長崎

75) 永井公洋, 池ノ上 克, 日高宗明, 有森和彦:塩酸イリノテカン活性代謝物質 SN-38 の血中濃度と腸管滞留性時の有害反応増悪との関連, 第 41 回日本癌治療学会総会, 2003, 10, 札幌

76) 河崎良和, 金子政時, 池田智明, 大里和広, 西村卓朗, 山下理絵, 大橋昌尚, 中野ゆうき, 鮫島 浩, 池ノ上 克, 高木純一, 小泉博彦, 布井博幸:重度心不全を認めた MD 双胎の large twin の一例, 第 1 回周産期循環管理研究会, 2003, 10, 横浜

77) 切原奈美, 上塘正人, 伊藤正信, 波多江正紀, 加治屋昌子, 鮫島 浩, 池ノ上 克:当科における糖尿病合併妊娠の検討, 第 19 回日本糖尿病・妊娠学会, 2003, 10, 新潟

78) 上塘正人, 切原奈美, 伊藤正信, 波多江正紀, 加治屋昌子, 鮫島 浩, 池ノ上 克:1 型および 2 型糖尿病合併妊婦より出生した HFD, LFD 児に関する検討, 第 19 回日本糖尿病・妊娠学会, 2003, 10, 新潟

79) 川越靖之, 鮫島 浩, 池ノ上 克:妊娠糖尿病 (GDM) と糖尿病合併妊娠 (preGDM) の分娩様式の比較検討, 第 19 回日本糖尿病・妊娠学会, 2003, 10, 新潟

80) 古田 賢, 川越靖之, 鮫島 浩, 池ノ上 克:IDM (infant of diabetic mother) の心筋肥厚に関する臨床検討, 第 19 回日本糖尿病・妊娠学会, 2003, 10, 新潟

81) 小杉伊三夫, 河崎秀陽, 新井義文, 土田 孝, 石渡瑞穂, 松影昭一, 筒井祥博:神経幹細胞を用いたウイルス性脳障害モデル -マウスサイトメガロウイルス前初期遺伝子導入幹細胞を喪失した解析-, 第 51 回日本ウイルス学会学術集会・総会, 2003, 10, 京都

82) 河崎秀陽, 小杉伊三夫, 新井義文, 土田 孝, 石渡瑞穂, 松影昭一, 筒井祥博:神経前駆細胞におけるサイクロスポリン A のサイトメガロウイルス感染抑制効果-, 第 51 回日本ウイルス学会学術集会・総会, 2003, 10, 京都

83) 道方香織, 楠元和美, 米田由香里, 永井公洋, 池ノ上 克, 徳永修一, 和田俊朗, 川口日出樹:産婦人科領域における急性腹症の画像診断, 平成 15 年度宮崎県母性衛生学会総会・学術集会, 2003, 11, 宮崎

84) 古田 賢, 古川誠志, 河村直子, 山口昌俊, 鮫島 浩, 池ノ上 克:当科で経験した妊産婦の肺塞栓症例 6 例の臨床検討, 平成 15 年度宮崎県母性衛生学会総会・学術集会, 2003, 11, 宮崎

85) Jesmin I Noor, 池田智明, 池ノ上 克:ラジカスカルベンジャー, エダラボンの新生仔ラット低酸素性虚血性脳障害に対する神経保護効果 -最適投与方法の検討-, 平成 15 年度宮崎県母性衛生学会総会・学術集会, 2003, 11, 宮崎

86) 瀬戸雄飛, 児玉由紀, 中田絵美, 米田香織, 鶴崎薫子, 宅本哲也, 柳邊安秀, 山尾裕道, 井上 博:先天性代謝異常により高アンモニウム血症を来した一例, 2003, 11, 宮崎

87) 徳久琢也, 茨 聡, 小林康祐, 熊澤一真, 丸山有子, 丸山英樹, 小幡新太郎, 加藤博美, 一ノ橋祐子:

脳低温療法施行時の脳内酸素摂取率の予後に関する検討, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

88) 熊澤一真, 茨 聡, 小林康祐, 徳久琢也, 丸山有子, 丸山英樹, 小幡新太郎, 加藤博美, 一ノ橋祐子:低酸素性虚血性 (HIE) 症例における血中グルタミン酸濃度の変化の検討, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

89) 河崎良和, 金子政時, 池田智明, 大里和広, 西村卓朗, 山下理絵, 高木純一, 鮫島 浩, 池ノ上 克:重度心不全を認めた MD 双胎の large twin の一例, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

90) 大橋昌尚, 金子政時, 池田智明, 中野ゆうき, 河崎良和, 鮫島 浩, 池ノ上 克:Salmonella Agona による髄膜炎脳腫瘍の一例, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

91) 大里和広, 金子政時, 池田智明, 卜部浩俊, 河崎良和, 大里朱里, 中野ゆうき, 鮫島 浩, 池ノ上 克:妊娠 22 週から 25 週で出生した児の分娩時の胎児心拍数パターンと退院時の頭部 MRI 所見, 第 43 回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

92) 山口昌俊, 丸山有子, 池ノ上 克:アンドロゲン不応症候群の保因者診断の問題点, 第 10 回遺伝性疾患に関する出生前診断研究会, 2003, 11, 福岡

93) Noor Jesmin, 池田智明, 池ノ上 克:脳内微小透析法によるラット新生仔の低酸素性脳症モデルにおける海馬内フリーラジカル発生の研究 -エダラボンの効果, 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

94) 西村卓朗, 金子政時, 池田智明, 池ノ上 克:妊娠 22 週と妊娠 24 週で分娩となった 2 絨毛膜 2 羊膜性双胎妊娠の 1 例, 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

95) 一ノ橋祐子, 茨 聡, 丸山英樹, 丸山有子, 徳久琢也, 熊澤一真, 渡邊弘道, 谷口博子, 加藤博美:Lung Protective Strategy 導入前後における呼吸管理日数と CLD 発症率の変化の検討, 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

96) 熊澤一真, 茨 聡, 小林康祐, 徳久琢也, 丸山英樹, 丸山有子, 加藤英二, 谷口博子:低酸素性虚血性脳症 (HIE) 症例における脳低温療法 (BHT) 施行時の血中グルタミン酸濃度の変化の検討, 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

97) 徳久琢也, 茨 聡, 小林康祐, 熊澤一真, 丸山英樹, 丸山有子, 加藤英二, 谷口博子:重症 HIE 患児の脳低温療法施行時における脳内の酸素摂取率の検討 (第 2 報:予後別の検討), 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

98) 渡邊弘道, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤博美, 徳久琢也, 熊澤一真, 谷口博子, 一ノ橋祐子:出生前診断で小脳虫部低形成を認めた Trisomy9 の 1 症例, 第 48 回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

99) 古川誠志:妊娠と糖尿病, 第 2 回宮崎県糖尿病スタッフ研究会, 2003, 11, 宮崎

100) 甲斐克秀, 桂木真司, 今村登志子, 春山康久:

当科で経験した常位胎盤早期剥離症例の検討, 第 90 回
南那珂産婦人科医会, 2003, 11, 宮崎

101) 古田 賢: 当科で経験した妊産婦の肺塞栓症 6 例
の臨床検討, 第 17 回血液と血管を考える会, 2003, 12, 宮
崎

102) 古田 賢: 当科で経験した妊産婦の肺塞栓症 6 例
の臨床検討, 大隅地区産婦人科医会, 2003, 12, 鹿児島

放射線医学講座 (Radiology)

◆原 著

1) 松尾剛志, 増山浩幸, 辰元信, 今村卓郎, 江藤胤尚,
長町茂樹, 田村正三: 当院での^{99m}Tc-tetrofosmin負荷心筋
シンチグラフィによる虚血性心疾患の診断能の検討, 宮
崎県医師会医学会誌, 27 (1) : 20-23, 2003

2) Wakamatsu H, Noguchi S, Yamashita H, Yamashita H,
Tamura S, Jinnouchi S, Nagamachi S, Futami S: Parathyroid
scintigraphy with ^{99m}Tc-MIBI and ¹²³I subtraction: a
comparison with magnetic resonance imaging and
ultrasonography, Nuclear Medicine Communications, 24:
755-762, 2003

3) 長町茂樹, 陣之内正史, 西井龍一, 藤田晴吾, 二見
繁美, 田村正三, 川井恵一: Autoradiography法を応用し
た¹²³I-IMP分割投与によるアセタゾラミド負荷脳循環予備
能定量一日法の考案, 核医学, 40 (2) : 155-162, 2003

4) Yamashita A, Asada Y, Sugimura H, Yamamoto H,
Marutsuka K, Hatakeyama K, Tamura S, Ikeda Y, Sumiyoshi
A: Contribution of von Willebrand Factor to Thrombus
Formation on Neointima of Rabbit Stenotic Iliac Artery
Under High Blood-Flow Velocity, Arterioscler Thromb
Vasc Biol, 23: 1105-1110, 2003

5) Nishii R, Kawai K, Flores II L G, Kataoka H, Jinnouchi
S, Nagamachi S, Arano Y, Tamura S: A Novel
Radiopharmaceutical for Detection of Malignant
Melanoma, Based on Melanin Formation:
3-Iodo-4-Hydroxyphenyl-L-Cysteine, Nucl Med Commun,
24: 575-582, 2003

6) Nishii R, Kawai K, Kobayashi M, Yoshimoto M,
Nishimura K, Kinuya S, Uehara T, Nagamachi S, Arano
Y, Tonami N, Tamura S: 3-Iodo-4-Hydroxyphenyl-
Cysteamine as a Tumor-Seeking Agent for the High-Affinity
to the Melanin Formation, J Labelled Cpd Radiopharm, 46:
S137, 2003

7) Kawai K, Kamei S, Yoshimoto M, Kobayashi M, Kinuya
S, Nishii R, Takamura N, Nagamachi S, Arimori K, Tamura
S, Tonami N, Amano R, Fujibayashi Y: Improvement of
^{99m}Tc-Pertechnate Thyroid Accumulation by Means of
Displacement of Serum Protein Binding, J Labelled Cpd
Radiopharm, 46: S343, 2003

8) Nakahara H, Namba K, Watanabe R, Furusawa H, Matsu
T, Akiyama F, Sakamoto G, Tamura S: A comparison of MR
Imaging, Galactography and Ultrasonography in Patients with
Nipple Discharge, Breast Cancer, 10 (4) : 320-329, 2003

◆症例報告

1) 石田康, 鈴木康義, 長町茂樹, 三山吉夫: クエチアピ
ンが有用であった薬剤性精神病を伴うパーキンソン病の
1例, 精神医学, 45 (4) : 421-424, 2003

2) Nabeshima K, Marutsuka K, Shimao Y, Uehara H,
Kodama T: Osteoma of the frontal sinus complicated by

intracranial mucocele, Pathology International, 53:227-230, 2003

3) 菊池英維, 黒川基樹, 瀬戸山充, 黒木正臣, 清水哲哉, 浅田祐士郎:悪性黒色腫に合併した肺扁平上皮癌の1例, 西日本皮膚科, 65 (2):142-145, 2003

4) 植田勇人, 山下直子, 長町茂樹:発作時SPECTの3D SRT解析によっててんかん焦点の同定に至った1症例, 脳と神経, 55 (7):637-640, 2003

5) 黒木正臣, 中田博, 田村正三, 近藤千博, 竹内三郎:Right paratracheal air cysts in the thoracic inletの2例, 臨床放射線, 48 (9):1118-1121, 2003

6) 藤田晴吾, 長町茂樹, 陣之内正史, 橋口典久, 落合礼次, 朝戸幹雄, 田村正三, 近藤千博, 畠山金太:肝シンチグラフィ、アシアロシンチグラフィが診断に有用であった肝腫瘍の一例, 核医学症例検討会第100回記念症例集-臓器別合本-:396-397, 2003

7) 長友慶子, 長町茂樹, 石田康:C型慢性肝炎のインターフェロン療法中止後に出現したせん妄の治療経験, Pharma Medica, 21 (11):133-137, 2003

8) 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 石田康:Tc-99m-HMPAO 及び3D-SSPで経過観察した脳血管障害に伴う鬱状態の1例, 臨床核医学, 36 (6):89-91, 2003

◆総説

1) 小玉隆男:III. MSCTの落とし穴:能力の覚醒-3. 聴器 診断の進め方, INNERVISION, 18 (1):44-49, 2003

2) 小玉隆男:MRIにおける安全性-MRI装置、撮像とその周辺並びに患者に関わるリスクと対応, CLINICIAN, 51 (518):114-120, 2003

3) 杉村宏, 矢野貴徳, 山口健一郎, 古賀治幸, 榮建文, 川崎裕平, 古小路英二, 小玉隆男, 田村正三:MRI vs. CT (当院における現状), DIGITAL MEDICINE, 4(1):27, 2003

4) 小玉隆男:脳、脊椎、頭頸部, 臨床放射線, 48 (3):333-341, 2003

5) 西井龍一, 内野眞也, 山下裕人, 津野亜希子, 野口志郎, 野口靖志, 戸田雅克, 山下弘幸, 村上司, 渡辺純, 田村正三:内分泌疾患における遺伝子診断と画像診断, 臨床放射線, 48 (4):501-509, 2003

◆その他

1) 田原義弘, 川井恵一, 西井龍一, 後藤稔男, 田村正三:温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (I)-フィルムバッジ-, RADIOISOTOPES, 52 (4):10-15, 2003

2) 落合竜三, 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 小野誠治, 田村正三:^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィ, ²⁰¹Tlシンチグラフィが経過観察に有用であった孤立性形質細胞腫の1例, 核医学症例検討会症例集, 25 (1):27-28, 2003

3) 藤田晴吾, 西井龍一, 長町茂樹, 楠原和朗, 宮崎貴浩, 落合竜三, 小野誠治, 田村正三:¹⁸F-FDG PETが再発

の診断に有用であった食道癌の1例, 核医学症例検討会症例集, 25 (1):29-30, 2003

4) 田原義弘, 川井恵一, 中村貴, 後藤稔男, 田村正三:温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (II)-OSL線量計・ガラス線量計-, RADIOISOTOPES, 52 (5):19-22, 2003

5) 田村正三:Generalist ノススメ, 日本医学放射線学会雑誌, 63 (5):1-2, 2003

6) 小野誠治:ペースメーカー植え込み癌患者への放射線照射-装置本体を照射野から外す-, Medical Tribune, 36 (20):18, 2003

7) 田村正三:放射線医学の将来, 映像情報 Medical, 35 (9):623, 2003

8) 田原義弘, 川井恵一, 中村貴, 後藤稔男, 田村正三:温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (II)-OSL線量計・ガラス線量計-, 平成15年度主任者部会年次大会 (第44回放射線管理研修会) 要旨集, 171-174, 2003

9) 黒木正臣, 幡生寛人:¹Hラベリング法を用いたヒト肺の定量的パーフェュージョン画像 (サマリー&コメント), Selected Articles of MRI (株)グレイ・ヘルスケア・ジャパン, 6 (3):2003

10) 黒木正臣, 幡生寛人:True FISP法によるリアルタイム画像の急性肺塞栓症検出能に関する検討-初期臨床経験について-(サマリー&コメント), -Selected Articles of MRI (株)グレイ・ヘルスケア・ジャパン, 7 (1), 2003

11) 黒木正臣, 幡生寛人:造影3D MR angiographyによる肺循環評価における造影剤至適量の検討 (サマリー&コメント), Selected Articles of MRI (株)グレイ・ヘルスケア・ジャパン, 7 (2), 2003

◆特別講演

1) 小玉隆男:放射線科から見ためまいの画像診断, 第5回めまい懇話会, 2003. 3, 松山

2) 中田博:小型肺癌の画像診断, 第47回宮崎胸部疾患検討会, 2003. 5, 宮崎

3) 杉村宏:胎児のMRI, 第34回九州MRI研究会, 2003. 9, 福岡

4) 杉村宏:胎児のMRI:basics, The 4th Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging, 2003. 9, 兵庫

◆一般講演

1) 杉村宏, 山口健一郎, 茂野あずさ, 川崎裕平, 榮建文, 古賀治幸, 古小路英二, 田村正三, 町田好男, 喜種慎一:True SSFP (steady-state free precession)を用いた胎児MRI, 第156回日本医学放射線学会九州地方会・第38回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

2) 立野利衣, 中田博, 黒木正臣, 田村正三, 近藤千博, 竹内三郎:Right paratracheal air cysts in the thoracic inletの2例, 第156回日本医学放射線学会九州地方会・第38回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

3) 落合竜三, 山口健一郎, 立野太郎, 川崎裕平, 古賀

治幸, 古小路英二, 榮建文, 杉村宏, 田村正三, 関谷亮, 鬼塚敏男: 臍部子宮内膜症の1例, 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会・第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

4) 楠原和朗, 柴徹, 小野誠治, 田村正三, 久家教幸, 川村慎二: 肝・胆管細胞癌の骨転移, 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会・第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

5) 茂野あずさ, 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 石田康: ^{99m}Tc -HMPAO SPECT 及び 3D-SSP を用いた鬱病の脳血流評価, 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会・第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

6) 藤田晴吾, 長町茂樹, 黒木正臣, 中田博, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 松崎泰憲, 鬼塚敏男, 山下篤, 浅田祐士郎, 秋山裕, 片岡寛章: 原発性肺癌における TI-201 SPECT 24 時間後像の有用性の検討, 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会・第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

7) 谷淳至, 西井龍一, 若松秀行, 梅村好郎, 萩田幹夫, 中條政敬, 田村正三: 皮膚・皮下組織に FDG の集積を認めた2例, 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会・第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003. 1, 北九州

8) 植田勇人, 長友慶子, 河野次郎, 山下直子, 長町茂樹: 精神科治療・診断時における SPECT 解析の有用性, 21 世紀カンファレンス, 2003. 2, 福岡

9) 小玉隆男, 矢野貴徳, 田村正三, 木村徳典: 3D ASTAR 法を用いた multislice 脳灌流画像, 第 32 回日本神経放射線学会, 2003. 2, つくば

10) 藤田晴吾: 食道癌の転移巣診断及び治療効果判定における ^{18}F -FDG-PET の有用性の検討, 第 22 回日本画像医学会, 2003. 2, 東京

11) 茂野あずさ, 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 石田康: Tc-99m -HMPAO 及び 3D-SSP を用いた鬱状態の脳血流評価, 第 14 回宮崎脳循環代謝研究会, 2003. 3, 宮崎

12) 西井龍一, 谷淳至, 梅村好郎, 若松秀行, 萩田幹夫, 松田一典, 藤元登四郎, 長町茂樹, 藤田晴吾, 二見繁美, 田村正三: MCI とアルツハイマー型痴呆における FDG-PET および脳血流シンチグラフィー所見, 第 14 回宮崎脳循環代謝研究会, 2003. 3, 宮崎

13) 高山佳士, 川村慎二, 久家教幸, 廣瀬哲雄, 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗: 小照射野の線量測定における検出器の特性, 第3回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 3, 宮崎

14) 井上由希, 楠原和朗, 柴徹, 小野誠治, 田村正三: 膀胱癌に対する Hyperthermia の効果について, 第3回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 3, 宮崎

15) 楠原和朗, 小野誠治, 柴徹, 田村正三: 肝癌骨転移に対する放射線治療の有用性について, 第3回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 3, 宮崎

16) 西井龍一, 谷淳至, 梅村好郎, 若松秀行, 萩田幹夫, 藤元登四郎, 長町茂樹, 藤田晴吾, 田村正三:

FDG-PET および MET-PET 検査をし得た Groove Pancreatitis, 福岡 RI カンファレンス, 2003. 3, 福岡

17) 藤田晴吾, 長町茂樹, 田村正三, 陣之内正史, 西井龍一: 食道癌における ^{18}F -FDG PET の有用性の検討, 第 35 回宮崎県核医学研究会, 2003. 4, 宮崎

18) 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三, 下川歩, 菅涼子, 宇野武司, 高崎眞弓: 統計学的画像解析を用いた慢性難治性疼痛患者の硬膜外脊髄通電治療前後における局所脳血流評価, 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003. 4, 横浜

19) 中原浩, 難波清, 伊福浩水, 中原真由美, 田村正三: 非浸潤性乳管癌 (DCIS) の MRI 造影パターン, 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003. 4, 横浜

20) 藤田晴吾, 陣之内正史, 田邊博昭, 長町茂樹, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三: FDG-PET による腹腔内播種病巣の診断, 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003. 4, 横浜

21) 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗, 田村正三, 川村慎二: 放射線治療に伴う心臓ペースメーカーの機能障害, 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003. 4, 横浜

22) 矢野貴徳, 小玉隆男, 田村正三: 拡散強調画像における髄膜腫の悪性度の評価, 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003. 4, 横浜

23) Yano T, Kodama T, Tamura S: Diffusion-Weighted MR imaging of Meningioma: Correlation between APPARENT DIFFUSION Coefficient Values and Histopathologic Findings, American Society of Neuroradiology 41st Annual Meeting, 2003. 4, Washington

24) 木田和貴, 濱砂亮一, 蓮井良浩, 長田幸夫, 杉村宏, 山口健一郎, 榮建文, 古賀治幸, 立野太郎, 古小路英二, 田村正三: 前立腺粘液腺癌の1例, 第27回宮崎CT研究会, 2003. 5, 宮崎

25) 内野典子, 中田博, 黒木正臣, 田村正三, 松崎泰憲, 鬼塚敏男: ゲフィニチブによると思われる間質性肺炎の1例, 第27回宮崎CT研究会, 2003. 5, 宮崎

26) 立野太郎, 矢野貴徳, 小玉隆男, 田村正三, 米山匠, 中野真一, 佐藤勇一郎: 術前診断が困難であった胸椎腫瘍の1例, 第27回宮崎CT研究会, 2003. 5, 宮崎

27) 西井龍一, 谷淳至, 梅村好郎, 若松秀行, 萩田幹夫, 竹内康三, 井上輝彦, 長町茂樹, 植田勇人, 藤田晴吾, 二見繁美, 藤元登四郎, 田村正三: 精神疾患の脳血流 SPECT と FDG-PET, 第9回脳循環 SPECT カンファレンス, 2003. 5, 福岡

28) 古賀治幸, 榮建文, 立野太郎, 川崎裕平, 古小路英二, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 矢野義和, 矢野光洋, 中村都英, 鬼塚敏男, 落合礼次: 術後 Fallot 四徴症の体肺側副血行路に塞栓術を行った1例, 第32回日本血管造影・IVR 学会総会, 2003. 5, 神戸

29) 立野利衣: ^{18}F -FDG-PET が診断に有用であった気管支カルチノイドの1例, 第 99 回核医学症例検討会, 2003. 5, 大阪

30) 山口健一郎, 落合竜三, 立野太郎, 古賀治幸, 古小路英二, 榮建文, 杉村宏, 田村正三, 関屋亮, 鬼塚敏

男, 山下篤, 丸塚浩助: 臍部子宮内膜症の1例, 第 17 回腹部放射線研究会, 2003. 5, 東京

31) 小玉隆男, 矢野貴徳, 田村正三: 3D arterial spin labeling (ASL)法を用いたマルチスライス脳灌流画像, 第 7回宮崎 Neuroscience 研究会, 2003. 6, 宮崎

32) Nagamachi S, Fujita S, Nishii R, Futami S, Tamura S, Uno T, Takasaki M, Suga R, Shimokawa A: Alteration of Regional Cerebral Blood Flow (RCBF) in Patients with Chronic Pain Before and After Therapy with Trans Cutaneous Electrical Nerve Stimulation (TENS)-Evaluation by Tc-99m-HMPAO SPECT with SPM Analysis, 50th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting, 2003. 6, New Orleans

33) Nagamachi S, Fujita S, Nishii R, Futami S, Tamura S, Itokazu N: An Usefulness of Using Tc-99m -HMPAO SPECT with Three-Dimensional Stereo Tactic Surface Projections (3D-SSP) Analysis in Monitoring Pediatric Encephalitis, 50th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting, 2003. 6, New Orleans

34) Nagamachi S, Fujita S, Nishii R, Futami S, Tamura S, Nakano S, Wakisaka S, Yokogami S: Prognostic Value of Brain SPECT with Tc-99m-MIBI in Supratentorial Astrocytoma-Multi-Variate Analysis. 50th Society of Nuclear Medicine Annual Meeting, 2003. 6, New Orleans

35) 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗, 川村慎二, 田村正三: 多発性、再発性転移性脳腫瘍に対する複数回定位手術的照射, 第 12 回日本定位放射線治療学会, 2003. 6, 京都

36) 川村慎二, 小野誠治, 柴徹: リニアック STI ビームのモンテカルロシミュレーションによる解析, 第 12 回日本定位放射線治療学会, 2003. 6, 京都

37) 落合竜三, 榮建文, 立野太郎, 古賀治幸, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 岩田鉦司, 千々岩一男, 片岡寛章: 脾インスリノーマに選択的動脈内カルシウム注入刺激試験 (ASVS) を施行した一例, 第 157 回日本医学放射線学会九州地方会, 2003. 7, 佐賀

38) 藤田晴吾, 長町茂樹, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三: SPECT/CT (MR) 融合画像の使用経験, 第 157 回日本医学放射線学会九州地方会, 2003. 7, 佐賀

39) 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 小玉隆男, 田村正三: 脳血流 SPECT 及び 3D-SSP を用いた脳炎, 脳症患者の経過観察, 第 157 回日本医学放射線学会九州地方会, 2003. 7, 佐賀

40) 若松秀行, 西井龍一, 谷淳至, 梅村好郎, 荻田幹夫, 長町茂樹, 藤田晴吾, 田村正三: FDG-PET が再発診断および治療後評価に有用であった大腸がん症例, 第 157 回日本医学放射線学会九州地方会, 2003. 7, 佐賀

41) 矢野達彦, 小野誠治, 柴徹, 田村正三: Thermo-chemotherapy の臨床的有用性について, 第 16 回九州・山口地区ハイパーサーミア研究会, 2003. 7, 佐世保

42) 小野誠治, 柴徹, 矢野達彦, 田村正三, 佐藤勇一郎, 浅田祐士郎: Thermo-radio-chemotherapy で経過を追った脾癌の例, 第 16 回九州・山口地区ハイパーサーミア

研究会, 2003. 7, 佐世保

43) 小野誠治, 柴徹, 田村正三, 川村慎二: 放射線治療が可能であったペースメーカー植込み食道癌患者の1例, 第 31 回九州食道癌合併症療法談話会, 2003. 7, 福岡

44) 宮崎貴浩, 藤田晴吾, 桑原一郎, 渡邊祐子, 小野誠治, 柴徹, 田村正三: 放射線単独療法後の再燃に対して放射線化学療法および化学療法が著効し長期生存が得られた食道癌術後再発の1例, 第 31 回九州食道癌合併症療法談話会, 2003. 7, 福岡

45) Nishii R, Kawai K, Kobayashi M, Yoshimoto M, Nishimura K, Kinuya S, Uehara T, Nagamachi S, Arano Y, Tonami N, Tamura S: 3-iodo-4-Hydroxyphenyl-Cysteamine as a Tumor-Seeking Agent for The High -Affinity to The Melanin Formation, 15th International Symposium on Radiopharmaceutical Chemistry, 2003. 8, Sydney

46) Fujita S, Nagamachi S, Nishii R, Tamura S: Usefulness of Tl-201 SPECT in the Prediction of Lymph Nodes Metastasis in Patients with Lung Cancer, EANM03-Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, 2003. 8, Amsterdam

47) 小野誠治: ペースメーカー植え込み癌患者への放射線治療, 第 15 回九州放射線治療セミナー, 2003. 8, 福岡

48) 矢野達彦, 小野誠治, 柴徹, 田村正三: 200 門も電子線照射を行った菌状息肉症の1例, 第 15 回九州放射線治療セミナー, 2003. 8, 福岡

49) 小野誠治, 矢野達彦, 柴徹, 田村正三: 悪性腫瘍の治療法としての Thermo-chemotherapy の経験, 日本ハイパーサーミア学会第 20 回大会, 2003. 9, 福岡

50) 渡邊祐子, 中田博, 田村正三, 長池涼子, 山口秀樹, 片上秀喜, 松崎泰憲, 鬼塚敏男, 今釜逸美, 樋口茂輝, 上田祐滋, 豊田清一, 押方慎弥, 島尾義也, 西井龍一: 18F-FDG PET 検査が有用であった気管支カルチノイドの2例, 第 14 回宮崎県肺癌研究会, 2003. 9, 宮崎

51) 清水勅君, 清原省吾, 落合栄志, 篠原立大, 峯一彦, 柴田紘一郎, 宮崎貴浩: 化学放射線療法が奏功した肛門管癌の1例, 第 4 回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 9, 宮崎

52) 矢野達彦, 小野誠治, 柴徹, 田村正三, 川村慎二: 菌状息肉症に対する電子線治療-長期生存例を例にとつて-, 第 4 回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 9, 宮崎

53) 榮建文, 古賀治幸, 小野誠治, 柴徹, 田村正三: 転移性骨腫瘍に対する放射線治療と経皮的骨形成術の併用, 第 4 回宮崎県放射線治療研究会, 2003. 9, 宮崎

54) 小玉隆男, 矢野貴徳, 宮田裕子, 田村正三, 木村徳典: Pulsed ASL 法を用いた脳腫瘍性病変の血流評価, 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会, 2003. 9, 山梨

55) 杉村宏, 山口健一郎, 茂野あずさ, 古賀治幸, 榮建文, 田村正三, 町田好男, 喜種慎一: True SSFP (steady-state free precession) を用いた胎児 MRI, 第 31 回日本磁気共鳴医学会大会, 2003. 9, 山梨

56) 杉村宏: Rendu-Osler-Weber 病に伴う内臓病変検

索に3次元再構築画像が有用であった1例, 第39回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2003. 10, 神戸

57) 榮建文, 古賀治幸, 立野太郎, 川崎裕平, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 藤本千夏, 山口秀樹, 大井長和:術後肺動脈塞栓症の原因となったCVPライン周囲の血栓を除去した1例, 第39回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2003. 10, 神戸

58) 江藤忠明, 自見政一郎, 島雅保, 田邊麗子, 春山幸洋, 千々岩一男, 榮建文, 小野誠治, 田村正三:乳癌術後骨転移による背部痛に対して骨セメント注入療法が著効した1例, 第39回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2003. 10, 神戸

59) 古賀治幸, 榮建文, 立野太郎, 古小路英二, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 前田幸志郎, 山下康洋:外腸骨動脈偽動脈瘤に対して、IVRにて治療した一例, 第11回宮崎血管内治療IVR研究会, 2003. 10, 宮崎

60) 榮建文, 小野誠治, 立野太郎, 古賀治幸, 古小路英二, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三:経皮的骨セメント注入の初期経験, 第11回宮崎血管内治療IVR研究会, 2003. 10, 宮崎

61) 長町茂樹, 藤田晴吾, 西井龍一, 二見繁美, 小玉隆男, 田村正三:脳血流SPECT及び3D-SSPを用いた脳炎, 脳症患者の経過観察, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

62) 藤田晴吾, 長町茂樹, 西井龍一, 二見繁美, 田村正三:TI-201 SPECT 24時間後像とMIB-1indexの関連, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

63) 西井龍一, 谷淳至, 星井安, 若松秀行, 梅村好郎, 荻田幹夫, 藤元登四郎, 長町茂樹, 藤田晴吾, 二見繁美, 田村正三:塵肺患者におけるMET-PET及びFDG-PETの肺描出検討, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

64) 小林正和, 吉本光喜, 川井恵一, 絹谷清剛, 横山邦彦, 西井龍一, 長町茂樹, 田村正三:腫瘍の診断・治療に用いる放射性医薬品(11)一級アミンを有する偽伝達物質誘導体の腫瘍集積性, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

65) 谷淳至, 西井龍一, 若松秀行, 中條政敬, 田村正三:全身FDG-PETにおいて褐色脂肪組織の描出が疑われた症例の検討, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

66) 谷淳至, 西井龍一, 若松秀行, 中條政敬, 田村正三:頭頸部原発不明がんの全身FDG-PETによる評価, 第43回日本核医学会総会, 2003. 10, 東京

67) 帖佐宣昭, 中山文子, 緒方克己, 瀬戸山充, 古賀治幸, 榮建文, 山下篤, 丸塚浩助:右臀部巨大隆起性皮下腫瘍の1例, 第9回宮崎腫瘍治療研究会, 2003. 10, 宮崎

68) 藤田晴吾, 長町茂樹, 二見繁美, 田村正三, 西井龍一, 若松秀行:肺癌における²⁰¹Tl-SPECT, ¹⁸F-FDG-PETとMIB-1indexの関連の検討, 第9回宮崎腫瘍治療研究会, 2003. 10, 宮崎

69) 春山幸洋, 江藤忠明, 大内田次郎, 自見政一郎,

牧野一郎, 甲斐真弘, 近藤千博, 千々岩一男, 榮建文, 古賀治幸, 小野誠治, 田村正三:肝細胞癌術後の骨転移に対してRFAと骨セメント注入療法が著効した1例, 第9回宮崎腫瘍治療研究会, 2003. 10, 宮崎

70) 小野誠治, 柴徹, 榮建文, 田村正三:切除不能脾癌に対する集学的治療, 日本放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003. 11, 東京

71) 川村慎二, 小野誠治, 柴徹:リニアックSTIビームシミュレーションデータの検証, 日本放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003. 11, 東京

72) 楠原和朗, 永田靖, 荒木則雄, 柴田徹, 溝脇尚志, 大屋夏生, 光森通英, 平岡真寛:悪性腫瘍からの椎体骨転移に対する手術併用放射線治療の成績の検討, 日本放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003. 11, 東京

73) 立野利衣, 宮田裕子, 矢野貴徳, 小玉隆男, 田村正三:重複内耳道の2症例, 第18回宮崎MRI研究会, 2003. 11, 宮崎

74) 立野太郎, 杉村宏, 山口健一郎, 榮建文, 古賀治幸, 古小路英二, 田村正三:肝細胞癌播腫の画像所見の検討, 第18回宮崎MRI研究会, 2003. 11, 宮崎

75) 東敏也, 立元一輝, 上田正美, 紫垣誠哉, 杉村宏, 鈴木正行:T2 plusを用いた3D-MRCPの描出能の検討, 第18回宮崎MRI研究会, 2003. 11, 宮崎

76) Nishii R, Uchino S, Noguchi Y, Noguchi S, Nagamachi S, Tamura S:HR-CT Evaluation of Enlarged Vestibular Aqueduct in Patients with Pendred Syndrome: Relationship to PDS Gene Analysis, Radiological Society of North America (RSNA) 89th Scientific Assembly and Annual Meeting, 2003. 11, Chicago

77) 榮建文, 古賀治幸, 立野太郎, 川崎裕平, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 藤本千夏, 山口秀樹, 大井長和:術後肺動脈塞栓症の原因となったCVPライン周囲の血栓を除去した1例, 第17回血液と血管を考える会, 2003. 12, 宮崎

78) 榮建文, 古賀治幸, 古小路英二, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三:当院における経皮的骨セメント注入の初期経験, 第26回九州血管造影IVR研究会, 2003. 12, 福岡

79) 古賀治幸, 榮建文, 古小路英二, 山口健一郎, 杉村宏, 田村正三, 前田幸志郎, 山下康洋:外腸骨動脈偽動脈瘤に対して、IVRによる治療を行った1例, 第26回九州血管造影IVR研究会, 2003. 12, 福岡

◆教育講演

1) 小玉隆男:MR angiography, 第16回日本医学放射線学会冬季セミナー, 2003. 2, 福岡

2) 杉村宏:腎腫瘍の画像診断, 第27回宮崎CT研究会, 2003. 5, 宮崎

3) 田原義弘:放射線の人体に与える影響, 厚地記念クリニックPET画像診断センター教育訓練, 2003. 5, 鹿児島

4) 矢野貴徳:MRIの基礎, 第22回九重セミナー, 2003. 8, 福岡

5) 田原義弘:放射線業務従事者教育訓練, 宮崎鶴田記念クリニック PET 画像診断センター教育訓練, 2003. 9, 宮崎

6) 小玉隆男:PC presentation 作成のコツ-Power Point 2002-, 宮崎県放射線科医会, 2003. 10, 宮崎

7) 矢野貴徳:MR spectroscopy の臨床応用, NICM, 2003. 12, 宮崎

8) 小玉隆男:急性期脳梗塞の画像診断, 宮崎県脳卒中フォーラム, 2003. 12, 宮崎

9) 中田博:小型肺癌の画像診断と肺癌検診, 平成 15 年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会, 2003. 12, 延岡, 宮崎, 都城

10) 宮崎貴浩:胃癌;最近の話題, 平成 15 年度宮崎県医師会成人病検診従事者研修会, 2003. 12, 延岡, 宮崎, 都城

◆その他の発表

1) 田村正三:子宮筋腫の血管内治療など, おしえて! ドクター健康耳寄り相談室 (MRT ラジオ), 2003. 6, 宮崎

2) 宮崎貴浩:切らずに治す食道がんの治療-放射線化学療法, おしえて! ドクター健康耳寄り相談室 (MRT ラジオ), 2003. 10, 宮崎

◆著 書

1) 高崎眞弓:鎮痛・解熱薬. 治療薬 UP-TO-DATE 2003, pp1-6, メディカルレビュー社, 大阪, 2003.

2) 高崎眞弓:麻酔薬. 治療薬 UP-TO-DATE 2003, pp7-15, メディカルレビュー社, 大阪, 2003.

3) 高崎眞弓:硬膜外麻酔. 麻酔科学レビュー2003-最新主要文献集, pp124-130, 総合医学社, 東京, 2003.

4) 高崎眞弓, 笠羽敏治:硬膜外麻酔法. 麻酔科学スタンダード, I 臨床総論, pp211-226, 真誠堂, 東京, 2003.

5) 高崎眞弓:薬物の投与ルート. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp2-4, 文光堂, 東京, 2003.

6) 高崎眞弓:薬物の作用部位と効果. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp5-9, 文光堂, 東京, 2003.

7) 高崎眞弓:脊髄くも膜下麻酔のときの局所麻酔薬の使い方. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp30-31, 文光堂, 東京, 2003.

8) 高崎眞弓:硬膜外麻酔のときの局所麻酔薬の選択. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp32-33, 文光堂, 東京, 2003.

9) 鈴木宣彰:洞性頻脈, 徐脈に対する薬物の選択. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp72-73, 文光堂, 東京, 2003.

10) 竹下美智代, 高崎眞弓:電解質 (ナトリウム, カリウム, 炭酸水素イオン) の補正. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp80-83, 文光堂, 東京, 2003.

11) 高崎眞弓:局所麻酔薬の作用機序. 麻酔科診療プラクティス9, 周術期治療薬ガイド, pp128-129, 文光堂, 東京, 2003.

12) 高崎眞弓:イラスト麻酔科, 第2版. 文光堂, 東京, 2003.

13) 笠羽敏治:喉頭鏡. 麻酔科診療プラクティス 11, 気道確保のすべて, pp28-34, 文光堂, 東京, 2003.

14) 香月 博, 高崎眞弓:局所麻酔薬-リドカイン, メピバカイン-. 高齢者の病態生理と麻酔の臨床, pp144-154, 真興交易医書出版部, 東京, 2003.

15) 高崎眞弓:麻酔科診療プラクティス 12, ペインクリニックに必要な局所解剖. 文光堂, 東京, 2003.

16) 宇野武司:腰部交感神経ブロック. 麻酔科診療プラクティス 12, ペインクリニックに必要な局所解剖, pp206-209, 文光堂, 東京, 2003.

◆原 著

1) Tetsuro Shirasaka, Mayumi Takasaki, Hiroshi Kannan: Cardiovascular effects of leprins and orexins. American Journal of Physiology - Regulatory, Integrative and Comparative Physiology 284: R639-R651, 2003.

2) Seiji Shiraishi, Hiroki Yokoo, Toshihiko Yanagita, Hideyuki Kobayashi, Shin-ichi Minami, Tomokazu Saitoh, Mayumi Takasaki, Akihiko Wada: Differential effects of

bupivacaine enantiomers, ropivacaine and lidocaine on up-regulation of cell surface voltage-dependent sodium channels in adrenal chromaffin cells. Brain Research 966: 175-184, 2003.

3) Toshiharu Kasaba, Shin Onizuka, Mayumi Takasaki: Procaine and mepivacaine have less toxicity in vitro than other clinically used local anesthetics. Anesthesia and Analgesia 97: 85-90, 2003.

4) Tadashi Nakamura, Frederique Popitz-Bergez, John Birknes, Gary R. Strichartz: The critical role of concentration for lidocaine block of peripheral nerve in vivo. Studies of function and drug uptake in the rat. Anesthesiology 99: 1189-1197, 2003.

5) De-Lai Qiu, Chun-Ping Chu, Tetsuro Shirasaka, Takashi Nabekura, Takato Kunitake, Kazuo Kato, Masamitsu Nakazato, Takahiko Katoh, Hiroshi Kannan: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing IH channel activity. Journal of Neurophysiology 90: 843-850, 2003.

6) Alyson J. Woodall, Hiroaki Naruo, David J. Prince, Zhong Ping Feng, William Winlow, Mayumi Takasaki, Naweed I. Syed: Anesthetic treatment blocks synaptogenesis but not neuronal regeneration of cultured lymnaea neurons. Journal of Neurophysiology 90: 2232-2239, 2003.

7) 笠羽敏治, 矢野武志, 谷口正彦, 岩崎竜馬, 高崎眞弓: 肺切除術時, 硬膜外麻酔併用における麻酔経費の比較検討. 臨床麻酔 27: 873-876, 2003.

8) 香月 博, 立山真吾, 日高奈巳, 高崎眞弓: イオン強度が塩酸ジブカイン臨界ミセル濃度と赤血球膜破壊作用に及ぼす影響. 麻酔 52: 1174-1180, 2003.

9) 吉村安広, 岩崎竜馬, 清水幸雄, 高崎眞弓: ニコランジルはプロポフォル静注時の血管痛を軽減する. 麻酔 52: 1204-1206, 2003.

10) 立山真吾, 香月 博, 日高奈巳, 高崎眞弓: ブドウ糖混和によるプロポフォル注入時血管痛の軽減効果. 臨床麻酔 27: 1973-1975, 2003.

◆症例報告

1) 日高奈巳, 立山真吾, 香月 博, 高崎眞弓: Off-pump Coronary Artery Bypass 術後に急性副腎不全を起した1症例. 臨床麻酔 27: 1283-1286, 2003.

2) 山賀昌治, 井上卓也, 前田有紀, 長田直人, 高崎眞弓: 糖原病I型患者の麻酔経験. 臨床麻酔 27: 1745-1748, 2003.

3) 矢野武志, 柏田政利, 鈴木宣彰, 笠羽敏治, 高崎眞弓: カフスボタン型気管切開チューブ装着患者に発生した術後気管閉塞の1症例. 麻酔 52: 1211-1213, 2003.

◆総 説

1) 宇野武司: 神経因性疼痛に対する脊髄電気刺激療法効果は一様でない: 試験刺激で確かめながら施行. LiSA 10: 52-54, 2003.

2) 宇野武司: 難治性疼痛における神経ブロックの役割.

日本ペインクリニック学会誌 10, 13-18, 2003.

3) 中村禎志: 痛み研究のための動物実験の進め方ー免疫組織化学的手法ー. 日本ペインクリニック学会誌 10: 481-489, 2003.

4) 高崎眞弓, 矢野武志: こだわりの局所麻酔ーあなたならどうする? Part 2, 第1回, 心筋梗塞でアスピリンを服用している妊婦の無痛分娩を頼まれたら, どうするか? LiSA 10: 1004-1009, 2003.

5) 高崎眞弓, 矢野武志, 山下幸貴: こだわりの局所麻酔ーあなたならどうする? Part 2, 第2回, 硬膜外血腫は, どんなときにできるか? LiSA 10: 1110-1113, 2003.

6) 高崎眞弓, 矢野武志: こだわりの局所麻酔ーあなたならどうする? Part 2, 第3回, ヘパリンを使う人工血管置換術の麻酔を, 硬膜外麻酔で行ってよいか? LiSA 10: 1214-1218, 2003.

◆学会発表

1) 高倉久則, 宇野武司, 高崎眞弓, 神尊範子: 滅菌装置の保守管理について. 第12回宮崎医療材料滅菌・管理研究会, 2003, 1, 宮崎.

2) 白阪哲朗, 松岡博史, 谷口正彦, 指宿昌一郎, 柏田政利, 濱川俊朗, 高崎眞弓: エンドトキシンの血小板機能に及ぼす影響ーソノクロットを用いた評価ー. 日本集中治療医学会第30回大会, 2003, 2, 札幌.

3) 山賀昌治, 長田直人, 立山真吾, 矢野武志, 大久保重明, 高崎眞弓: 入室時ガウン・帽子と履き替えなしのICUと手術室間の人の出入りの検討ーアンケート結果よりー. 日本集中治療医学会第30回大会, 2003, 2, 札幌.

4) 松岡博史, 柏田政利, 白阪哲朗, 谷口正彦, 濱川俊朗, 高崎眞弓: Aeromonas 属細菌のヒアルロニダーゼ産生の有無について. 日本集中治療医学会第30回大会, 2003, 2, 札幌.

5) 矢野都子, 菅 涼子, 宇野武司, 高崎眞弓, 米山 匠, 脇坂信一郎: 硬膜外脊髄刺激が奏効した神経因性筋筋膜疼痛症候群の2症例. 第21回九州疼痛学会, 2003, 2, 福岡.

6) 矢野都子, 菅 涼子, 高崎眞弓, 宇野武司: アミトリプチリンが奏効した神経障害性疼痛の2症例. 第17回宮崎痛みの研究会, 2003, 2, 宮崎.

7) 米山 匠, 上原久生, 中野真一, 脇坂信一郎, 宇野武司: 椎弓切除下に植込んだ硬膜外脊髄刺激電極でうまくペインコントロールできている頸椎症術後難治性疼痛の1症例. 第17回宮崎痛みの研究会, 2003, 2, 宮崎.

8) 松岡博史, 立山 直, 大西 真, 林 哲也: Aeromonas 属細菌の産生するヒアルロニダーゼの精製. 第76回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本.

9) 槇 英俊, 小松奈美, 福岡秀一郎, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 卵巣癌の化学療法中に敗血症性ショックとなった患者にエンドトキシン吸着療法5回行い救命した1症例. 第3回宮崎急性血液浄化研究会, 2003, 5, 宮崎.

10) 白阪哲朗: オレキシンの交感神経活動に及ぼす影響 (指名講演). 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003,

5, 横浜.

11) 高崎眞弓: 周術期における呼吸機能の温存 (パネルディスカッション: 硬膜外麻酔をめぐる諸問題). 日本麻酔科学会第 50 回学術集会, 2003, 5, 横浜.

12) 鈴木宣彰, 指宿昌一郎, 田村隆二, 高崎眞弓: 気管挿管施行者の呼気で気管チューブのカフを膨らませる方法. 日本麻酔科学会第 50 回学術集会, 2003, 5, 横浜.

13) 笠羽敏治, 鬼塚 信, 高崎眞弓: 成長円錐におよぼす, プロカイン, メピバカイン, ロピバカイン, プピバカイン, リドカイン, テトラカイン, ジブカインの抑制効果の比較. 日本麻酔科学会第 50 回学術集会, 2003, 5, 横浜.

14) 成尾浩明, 笠羽敏治, 濱川俊朗, 高崎眞弓: プロポフォールのシナプス再生およびシナプス生成への影響. 日本麻酔科学会第 50 回学術集会, 2003, 5, 横浜.

15) 佐々木文郷, 丸田豊明, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: たこつぼ型心筋症を合併した横紋筋融解症の一例. 第 13 回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡.

16) 福嶋秀一郎, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: メソトレキセート内服で reversible posterior leukoencephalopathy syndrome となった関節リウマチ患者の 1 症例. 第 13 回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡.

17) 丸田豊明, 佐々木文郷, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 血漿交換療法施行後に出血傾向が増悪した血球貪食症候群の小児患者の一例. 第 13 回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡.

18) 白阪哲朗, 丸田豊明, 佐々木文郷, 松岡博史, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 非侵襲的人工呼吸 (BiPAP) で在宅呼吸管理可能となった先天性ミオパチーの一例. 第 13 回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡.

19) 菅 涼子, 宇野武司, 高崎眞弓: 仙骨ブロック (ビデオワークショップ: 神経ブロック). 日本ペインクリニック学会第 37 回大会, 2003, 7, 仙台.

20) 白阪哲朗, 丸田豊明, 松岡博史, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 心臓血管手術後の人工呼吸管理時間に影響する要因. 第 25 回日本呼吸療法医学会 / 第 13 回日本呼吸管理学会合同学術集会, 2003, 8, 千葉.

21) 小松奈美, 福嶋秀一郎, 榎 英俊, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 化学療法施行中の敗血症性ショックに対しエンドトキシン吸着療法を行い救命した一例. 第 22 回宮崎救急医学会, 2003, 8, 小林.

22) 岩崎竜馬, 田中信彦, 宇野武司, 高崎眞弓: 当科における带状疱疹急性期の治療. 第 2 回宮崎難治性疼痛研究会, 2003, 9, 宮崎.

23) 河野太郎, 小山彰平, 丸田豊明, 笠羽敏治, 高崎眞弓: 高度な気管狭窄患者に喉頭微細手術用気管チューブが有用であった一症例. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

24) 丸田豊明, 丸田 望, 三浦弘樹, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: B-T shunt 術後の小児患者の人工呼吸管理期間に影響を与える因子の検討. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

25) 細川信子, 丸田 望, 山賀昌治, 江川久子, 長田直人, 高崎眞弓: 帝王切開術および婦人科手術におけるロピバカイン低用量持続注入の有効性の検討. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

26) 笠羽敏治, 田村隆二, 岩崎竜馬, 丸田豊明, 與那覇 哲, 高崎眞弓: 帝王切開手術時の脊硬麻: 高比重プピバカインの用量と低血圧. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

27) 與那覇 哲, 矢野武志, 指宿昌一郎, 笠羽敏治, 高崎眞弓: コイル式血液加温器による麻酔科医の熱傷. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

28) 成尾浩明, 岩崎竜馬, 三浦弘樹, 笠羽敏治, 高崎眞弓: 麻酔覚醒時に心室頻拍を起こした 1 症例. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

29) 田村隆二, 丸田豊明, 指宿昌一郎, 岩崎竜馬, 笠羽敏治, 高崎眞弓: 紛失した歯は胃内にあることが多い. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

30) 岩崎竜馬, 田中信彦, 宇野武司, 高崎眞弓: 下肢循環障害患者に脊髄刺激療法を施行した一症例. 九州麻酔科学会第 41 回大会, 2003, 9, 北九州.

31) Tetsuro Shirasaka, Hiroshi Matsuoka, Taro Kawano, Toshiro Hamakawa, Mayumi Takasaki: The effects of propofol on the rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons. 2003 Annual Meeting, American Society of Anesthesiologists, 2003, 10, San Francisco.

32) 宇野武司: 硬膜外脊髄刺激療法の適応を考える (パネルディスカッション: 痛みの侵襲的治療の適応を考える). 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

33) 高崎眞弓: 予防的抗凝固療法と局所麻酔 (パネルディスカッション: 深部静脈血栓症・肺血栓梗塞症の予防・治療戦略). 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

34) 丸田豊明, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 丸田望, 高崎眞弓: 血球貪食症候群の治療中に posterior reversible encephalopathy syndrome を発症した小児の一症例. 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

35) 谷口正彦, 柏田政利, 笠羽敏治, 高崎眞弓: 気道閉塞により気管切開を行った小児の 2 症例. 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

36) 吉村安広, 岩崎竜馬, 高崎眞弓, 清水幸雄: ニコラシールの低酸素性肺血管収縮への影響. 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

37) 河野太郎, 柏田政利, 矢野武志, 谷口正彦, 高崎眞弓: 先天性無痛無汗症患者の虫垂切除術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

38) 丸田 望, 前田有紀, 辛島 謙, 高崎眞弓: もやもや病合併妊娠患者の帝王切開術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第 23 回大会, 2003, 10, 下関.

39) 高崎眞弓: 麻酔と関連する傷害・死亡の扱い (基調講演). 第 10 回日本麻酔・医事法制 (リスクマネジメント) 研究会, 2003, 10, 下関.

40) 松岡博史, 丸田豊明, 三浦弘樹, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 悪性腫瘍術後の化学療法により重症敗血症になった

2症例. 日本蘇生学会第22回大会, 2003, 11, 長野.

41) 三浦弘樹, 丸田豊明, 丸田 望, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 低体温療法中の小児溺水患者のARDSにサーファクタントが有効であった一症例. 日本蘇生学会第22回大会, 2003, 11, 長野.

42) 立山真吾, 香月 博, 日高奈巳, 高崎眞弓: 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔後に一過性神経症状が1カ月以上持続した1症例. 第16回日本局所麻酔学会, 2003, 12, 大阪.

脳神経外科学講座 (Neurosurgery)

◆著 書

1) 脇坂信一郎: 脳腫瘍, J.神経・精神・運動器疾患、イヤーノート2004 内科・外科等編第13版, pp. J168-185, メディックメディア (東京), 2003

2) 脇坂信一郎: 頭部外傷, J.神経・精神・運動器疾患、イヤーノート2004 内科・外科等編第13版, pp. J186-195, メディックメディア (東京), 2003

3) 脇坂信一郎: 奇形, J.神経・精神・運動器疾患、イヤーノート2004 内科・外科等編第13版, pp. J196-199, メディックメディア (東京), 2003

4) 伊勢田努力: 脳・脊髄損傷の再生的治療法の開発. 脳科学研究推進事業研究報告書, pp234-236, 長寿科学振興財団, 2003

◆原 著

1) Sameshima T, Nabeshima K, Bryan P. Toole, Inoue T, Yokogami K, Nakano S, Ohi T, Wakisaka S: Correlation of emmprin expression in vascular endothelial cells with blood-brain-barrier function: a study using magnetic resonance imaging enhanced by Gd-DTPA and immunohistochemistry in brain tumors. *Virchows Arch*, 442: 577-584, 2003

2) Nakano S, Yoneyama T, Sugimoto T, Wakisaka S: Paramedian transmuscular access to C-3 dumbbell-type neurofibroma without paravertebral muscle dissection from the spinous process or facetectomy. *J Neurosurg*, 99(Spine 1): 121-124, 2003

3) Nakano S, Wakisaka S, Kawano H, Yoneyama T: Correlation between haemorrhagic complications and CT findings before and after intra-arterial reperfusion therapy for acute middle cerebral artery occlusion. *Intervent Neuroradiol*, 9(1):125-128, 2003

4) Iseda T, Nishio T, Kawaguchi S, Kawasaki T, Wakisaka S: Spontaneous regeneration of the corticospinal tract after transection in young rats: Collagen type IV deposition and astrocytic scar in the lesion site are not the cause but the effect of failure of regeneration. *J Comparative Neurol*, 464:343-355, 2003

5) Inoue K, Ozaki S, Ito K, Iseda T, Kawaguchi S, Ogawa M, Bae SC, Yamashita N, Itoyama S, Kudo N, Ito Y: Runx3 is essential for the target-specific axon pathfinding of trkC-expressing dorsal root ganglion neurons. *Blood Cells, Molecules, and Diseases*, 30:157-160, 2003

6) Ochiai H, Ikeda T, Mishima K, Aoo N, Iwasaki K, Fujiwara M, Nakano S, Ikenoue T, Wakisaka S: Local administration of glial cell line-derived neurotrophic factor improves behavioral and histological defect of neonatal Erb's palsy in rats. *Neurosurgery*, 53(4): 973-978, 2003

7) Kawaguchi S, Iseda T, Nishio T: Effects of an embryonic repair graft on recovery from spinal cord injury.

Progress in Brain Research, 143: 155-162, 2003

8) Nishio T, Kawaguchi S, Iseda T, Kawasaki T, Hase T: Section of tenascin-C by cultured astrocytes: regulation of cell proliferation and process elongation. Brain Research, 990: 129-140, 2003

9) Nabeshima K, Inoue T, Shimao Y, Sameshima T.: Extracellular matrix and the liver academic press. An imprint of Elsevier Science, 2003

10) Naganuma S, Itoh H, Uchiyama S, Nagaike K, Miyata S, Uchinokura S, Nuki Y, Akiyama Y, Chijiwa K, Kataoka H: Characterization of transcripts generated from mouse hepatocyte growth factor activator inhibitor type2 (HAI-2) and HAI-2-related small peptide(H2RSP) genes: chimeric mRNA transcribed from both HAI-2 and H2RSP genes is detected in human but not in mouse. Biochem Biophys Res Comm, 302:345-353, 2003

11) 伊勢田努力: 脊髄再生一損傷部局所の検討. Spine Frontier, 9(1): 14-18, 2003

12) 伊勢田努力, 西尾健資: 脊髄の修復. 脊椎脊髄ジャーナル, 16(2): 107-112, 2003

13) 東保 肇, 伊勢田努力: 小児もやもや病手術時における栄養管理. 脳神経外科, 31(6): 621-626, 2003

14) 浅見尚規: Bicortical Plate System を用いた頸椎前方固定の有用性—TFC threaded cage との比較—. 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会誌, 5(1): 49-51, 2003

15) 片上秀喜, 橋田誠一, 山口秀樹, 矢澤省吾, 中野真一, 脇坂信一郎: CNS 胚細胞腫の診断と治療経過: 超高感度 HCG- β 測定法の開発と臨床応用. 日本内分泌学会雑誌, 79: 58-63, 2003

16) 米山 匠, 中野真一: 血栓溶解療法, 血管内治療, 外科治療. 救急・集中治療, 15 (12) :1323-1330, 2003

◆症例報告

1) Nabeshima K, Marutsuka K, Shimao Y, Uehara H, Kodama T: Osteoma of the frontal sinus complicated by intracranial mucocoele. Pathology International. 53: 227-230, 2003

2) 東保 肇, 伊勢田努力: 脳萎縮を伴う小児モヤモヤ病手術における術中流速測定の有効性の可能性, 脳動脈同定の補助. 脳神経外科ジャーナル, 12 (9) : 632-636, 2003

3) 東保 肇, 伊勢田努力: 間接吻合術後症状の改善が得られず, 直接吻合を加え軽快した成人モヤモヤ病の1例. 脳神経外科, 31(9): 997-1001, 2003

◆総 説

1) 中野真一: 脳塞栓症における治療適応と治療方針. 脳神経外科速報, 13(2): 160-166, 2003

◆Proceeding

1) 片上秀喜, 橋田誠一, 山口秀樹, 矢澤省吾, 中野真一, 脇坂信一郎: CNS 胚細胞腫の診断と治療経過: 超高感度 HCG- β 測定法の開発と臨床応用 (Proceeding) .

日本内分泌学会雑誌, 79(Suppl): 58-60, 2003

◆その他

1) 脇坂信一郎: 大学医局も冬の時代—地域医療貢献と生き残りの狭間にて. 日州医事, 646: 12, 2003

2) 脇坂信一郎: 新入生に望む. 学園だより, 89: 3, 2003

3) 浅見尚規: 卒業生に卒業後、本学に残ってもらうには—卒業生から—. 学園だより 89: 46, 2003

◆学会報告

<国際学会>

1) Asami N: PLIF surgery (cages and pedicle screwing) for over 75 are too aggressive? The 7th International Argos Symposium, 2003, 1, Paris, France

2) Sameshima T, Wanibuchi M, Apostolos Mintelis, John T McElveen, David M Barrs, Allan Friedman, Fukushima T.: Critical Assessment of Operative Approaches for Hearing Preservation in Acoustic Neuroma Surgery; Retrosigmoid vs. Middle Fossa Approach-. Neurology Grand Rounds Doctor's Discussion in Carolina Ear Research Institute and Carolina Neuroscience Institute. 2003, 2, North Carolina(USA)

3) Sameshima T, Wanibuchi M, Apostolos Mintelis, Allan Friedman, Fukushima T.: Middle Fossa Approach. Temporal Bone Course in Carolina Neuroscience Institute and Carolina Ear Research Institute, 2003, 5, North Carolina (USA)

4) Sameshima T, Wanibuchi M, Apostolos Mintelis, Fukushima T.: Orbital & Cavernous Sinus Anatomy. Advance Skull Base Microanatomy & Hands-On Dissection Workshop, 2003, 5, Florida (USA)

5) Sameshima T, Wanibuchi M, Apostolos Mintelis, John T McElveen, David M Barrs, Fukushima T.: Glomus Jugulare Tumor. Neurology Grand Rounds Doctor's Discussion in Carolina Ear Research Institute and Carolina Neuroscience Institute, 2003, 6, North Carolina (USA)

6) Sameshima T, Wanibuchi M, Fukushima T.: Orbital Anatomy. Advance Skull Base Microanatomy & Hands-On Dissection Workshop, 2003, 6, Florida (USA)

7) Nuki Y, Nakano S, Asami N, Moriyama T, Uehara H, Kawano H, Goya T, Wakisaka S: Results of clinical management with fasudil hydrochloride for cerebral vasospasm following early clipping surgery in subarachnoid hemorrhage patients of Ad Hoc committee grade 1-3. The 8th International Conference on Cerebral Vasospasm, 2003, 7, Chicago(USA)

8) Asami N, Wakisaka S, Nakano S.: TLIF technique with PLIF surgery. The 8th Young -Honam and Kyushu Neurosurgical Joint Meeting, 2003.11, Fukuoka

9) Sameshima T, Wanibuchi M, Fukushima T.: Transoral Approach. Advance Skull Base Microanatomy & Hands-On Dissection Workshop, 2003, 11, Florida (USA)

<全国学会・研究会>

1) 片上秀喜, 山口秀樹, 中野真一, 脇坂信一郎: CNS 胚細胞腫の診断と治療経過: 超高感度 HCG- β 測定法の

開発と臨床応用. 第 13 回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2003, 2, 松江

2) 中野真一: 脳梗塞治療における脳血流 SPECT から得られた Time-threshold curve の有用性. 第 32 回日本医学放射線学会, 2003, 2, つくば

3) 上原久生、川添琢磨、宮田史朗、藤目憲一、大田元、有川章治、中野真一、脇坂信一郎: 3D-CTA による破裂脳動脈瘤の検出. 第 32 回日本脳卒中の外科学会, 2003, 3, 東京

4) 上原久生、川添琢磨、宮田史朗、藤目憲一、大田元、有川章治、中野真一、脇坂信一郎: 75 歳以上の高齢者のくも膜下出血の治療適用. 第 32 回日本脳卒中の外科学会, 2003, 3, 東京

5) 浅見尚規、脇坂信一郎、上原久生、貫 慶嗣: PLIF 100 例の review. 一正中後方構造を温存する除圧と固定を同時に行う手術の成績の考察一. 第 18 回日本脊髄外科学会, 2003, 6, 東京

6) 呉屋朝和、濱砂亮一、奥 隆充、下高一徳、河野寛一、米山 匠、倉津純一: 脊髄腹側正中部の perimedullary AVF に対する後方アプローチ (脊髄回旋法). 第 18 回日本脊髄外科学会, 2003, 6, 東京

7) 浅見尚規、脇坂信一郎、中野真一: 脊椎固定術における術中 C-arm の有用性. 第 2 回日本脳神経外科術中画像研究会, 2003, 8, 札幌

8) 貫 慶嗣: Establishment of a new human glioblastoma cell line, NYGM. 第 21 回日本ヒト細胞学会, 2003, 8, 埼玉

9) 浅見尚規: 変性すべりを伴う変性側湾症の外科的治療. 第 10 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会, 2003, 10, 東京

10) 浅見尚規、脇坂信一郎、中野真一、貫 慶嗣: 75 歳以上の高齢者に対する腰椎後方固定術. 第 16 回日本老年脳神経外科学会, 2003, 9, 仙台

11) 浅見尚規: 2 種類の腰椎後方到達固定術—PLIF と TLIF の実際. 第 62 回日本脳神経外科学会総会, 2003, 10, 仙台

12) 貫 慶嗣: Establishment of a new human glioblastoma cell line, NYGM. 第 62 回日本脳神経外科学会総会, 2003, 10, 仙台

13) 脇坂信一郎: 宮崎医科大学における脳神経外科学教育の現状と展望. 第 62 回日本脳神経外科学会総会, 2003, 10, 仙台

14) 森田能弘: 無数の固形滲出物を伴う脳室炎後水頭症におけるセラペプターゼの有用性. 第 62 回日本脳神経外科学会総会, 2003, 10, 仙台

15) 小濱祐博: 血腫量の多いくも膜下出血の場合の脳動脈瘤に対する一工夫. 第 62 回日本脳神経外科学会総会, 2003, 10, 仙台

16) 浅見尚規、脇坂信一郎: PLIF における隣接椎間のトラブル経験—その予防へのテクニカルな工夫. 第 12 回日本脊椎インスツルメンテーション学会, 2003, 10, 静岡

17) 浅見尚規、脇坂信一郎、中野真一、貫 慶嗣、米山匠: Biopep 挿入で苦労した点、疑問点. 第 4 回バイオアク

ティブースト研究会, 2003, 11, 東京

18) 貫 慶嗣、浅見尚規、横内哲博、吉本 浩、伊藤浩史、内之倉俊朗、中野真一、脇坂信一郎: Plastic surgical treatment for the patient of malignant meningioma with severe pain due to exophytic extracranial growth. 第 8 回日本脳腫瘍の外科学会, 2003, 11, 沖縄

19) 大田 元、宮原 大作、森山拓造、生嶋 一郎、前田 陽夫、中野 真一、脇坂信一郎: 著明な脊髄圧迫症状にて発症した外傷性椎骨動脈動静脈瘻の 1 症例. 第 19 回日本脳神経外科血管内治療学会, 2003, 11

< 地方会 >

1) 浅見尚規、貫 慶嗣: C1C2 後方固定術の新しい試み (Magerl 法にチタン性ケージとポリエチレンバンドを併用). 第 83 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 3, 佐賀

2) 浅見尚規: 腰椎変性疾患の PLIF, TILF について、私の考え. 第 2 回京田辺脊椎手術研究会, 2003, 5, 京都

3) 浅見尚規、脇坂信一郎、中野真一、貫 慶嗣: TLIF (Trans foraminal lumbar interbody fusion) の有用性. 第 84 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 6, 沖縄

4) 池田俊勝、米山 匠、中野真一、脇坂信一郎、小玉隆男、佐藤勇一郎、加地泰広: 胸椎椎体に発症した plasmacytoma の一例. 第 84 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 6, 沖縄

5) 杉本哲明、中野真一、米山 匠、脇坂信一郎: C2/3 ダンベル型神経鞘腫に対する paramedian Transmuscular approach の経験. 第 84 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 6, 沖縄

6) 山下真治、小濱祐博、野口英郎: くも膜下出血後に Tersons syndrome を呈した 1 例. 第 84 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 6, 沖縄

7) 長池涼子、片上秀喜、山口秀樹、中野真一、脇坂信一郎、池田英敏: 若年者における下垂体偶発腫の診断と治療. 第 3 回日本内分泌学会九州地方会, 2003, 9, 清武

8) 浅見尚規、脇坂信一郎、中野真一、米山 匠、上原久生、川添琢磨、杉本哲朗、貫 慶嗣、武石 剛、両側腸骨にロッドを挿入し、腰椎仙骨を固定する新しい手術方法 (特に revision fixation に対して). 第 85 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 9, 清武町

9) 大田 元、宮原大作、森山拓造、生嶋 一郎、前田陽夫: 脊髄圧迫症状にて発症した外傷性椎骨動脈動静脈瘻の 1 例. 第 85 回日本脳神経外科学会九州地方会, 2003, 9, 清武町

< 県内研究会 >

1) 上原久生、川添琢磨、宮田史朗、藤目憲一、大田元、有川章治、中野真一、脇坂信一郎: 75 歳以上の高齢者のくも膜下出血の治療適応. 第 8 回宮崎老年病研究会, 2003, 2, 宮崎

2) 河野寛一、吉山一浩、櫛橋弘喜、日高鈴美、落合伊都子: 高齢者の脳卒中後嚥下障害に対する胃瘻と嚥下訓練による栄養管理. 第 8 回宮崎老年病研究会, 2003, 2, 宮崎

- 3) 川添琢磨、森山拓造、大田 元: Lightning injury の一例. 第 21 回宮崎救急医学会, 2003.2, 西都
- 4) 米山 匠、上原久生、中野真一、脇坂信一郎、宇野武司: 椎弓切除去に植え込んだ硬膜外脊髄刺激電極でうまくペインコントロールできている頸椎症術後難治性疼痛の一例. 第 17 回宮崎痛みの研究会, 2003.2, 宮崎
- 5) 森山拓造、川添琢磨、大田 元: 眼球運動障害にて発症した海綿静脈洞部巨大脳動脈瘤に対する治療. 第 17 回都城神経放射線カンファレンス, 2003, 3, 都城
- 6) 山下真治、小濱祐博: 血腫を伴ったくも膜下出血で発症時期の同定に苦慮した 1 例. 第 21 回宮崎救急医学会, 2003.2, 西都
- 7) 濱砂亮一、有川章治、奥 隆充、河野寛一、呉屋朝和、米山 匠、中野真一、脇坂信一郎: 急性脳血管閉塞に対する局所再開通療法の治療成績. 第 5 回宮崎 Brain Attack 研究会, 2003.4, 宮崎
- 8) 奥 隆充、濱砂亮一、有川章治、阿部英治、河野寛一、呉屋朝和、島内正樹、宮原郷士: 左内頸動脈分岐部高度狭窄から閉塞に進行したため急性期にバルーン PTA を行った 1 例. 第 1 回宮崎脳卒中研究会, 2003.6, 宮崎
- 9) 大田 元、森山拓造、宮原大作: 頸動脈狭窄症に対するステント留置術. 第 1 回宮崎脳卒中研究会, 2003, 6, 宮崎
- 10) 中野真一、米山 匠、杉本哲明、脇坂信一郎: Paramedian transmuscular access to C3 dumbbell type neurofibroma with neither paravertebral muscles dissection from the spinous process nor facetectomy. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.7, 宮崎
- 11) 吉本 浩、横内哲博、大安剛祐、浅見尚規、貫 慶嗣、上田 孝: 皮膚軟部組織・頭蓋骨欠損に対する遊離腹直筋皮弁の経験. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.7, 宮崎
- 12) 牧原真治、宮原郷士: 嗅球部髄膜腫の一手術例. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.7, 宮崎
- 13) 奥 隆充、阿部英治、濱砂亮一、有川章治、河野寛一、呉屋朝和: 当院における instability を伴った頸椎症に対する手術例の検討. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.7, 宮崎
- 14) 森山拓造、大田 元、宮原大作: Olfactory groove meningioma に対する Transcranial transbasal approach. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 7, 宮崎
- 15) 大田 元、宮原大作、森山拓造、生嶋一朗、前田陽夫: 脊髄障害発症の椎骨動脈静脈瘤に対して経動脈的塞栓術が有効であった 1 症例. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 7, 宮崎
- 16) 池田徳郎、池田俊勝: 内頸動脈腹側型動脈瘤～術中の判断～. 第 25 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.7, 宮崎
- 17) 牧原真治、森田能弘、是枝麻子: 側頭葉てんかんの 1 手術例. 第 24 回宮崎てんかん懇話会, 2003.7, 宮崎
- 18) 大田 元: 都城地区の脳血管障害の実態～第一報. 第 7 回都城脳卒中研究会, 2003, 7, 都城
- 19) 山下真治、小濱祐博: 明らかな皮質症状を認めなかった中大脳動脈閉塞症の 1 例. 第 22 回宮崎救急医学会, 2003.8, 小林
- 20) 池田徳郎、池田俊勝: 西諸救急医療の実情～救急指定病院脳神経外科医の立場から～. 第 22 回宮崎救急医学会, 2003.8, 小林
- 21) 池田俊勝、池田徳郎: 当院における脳塞栓症の治療成績. 第 22 回宮崎救急医学会, 2003.8, 小林
- 22) 貫 慶嗣、浅見尚規、横内哲博、吉本 浩、伊藤浩史、内之倉俊朗、中野真一、脇坂信一郎: 皮下浸潤にて激痛を伴う超高齢者頭蓋外急速進展型巨大悪性髄膜腫の治療戦略. 第 17 回宮崎脳腫瘍研究会, 2003.10, 宮崎
- 23) 宮田史朗、内之倉俊朗、福島 剛、貫 慶嗣、上原久生、脇坂信一郎、伊藤浩史、片岡寛章: HAI-1、HAI-2 強制発現による脳腫瘍細胞株への影響. 第 17 回宮崎脳腫瘍研究会, 2003, 10, 宮崎
- 24) 内之倉俊朗、宮田史朗、福島 剛、貫 慶嗣、上原久生、脇坂信一郎、伊藤浩史、片岡寛章: Hepatocyte growth factor activator(HGFA)のヒト多形膠芽種細胞に於ける意義: 強制発現系を用いた解析. 第 17 回宮崎脳腫瘍研究会, 2003.10, 宮崎
- 25) 米山 匠、杉本哲明、中野真一、脇坂信一郎: 海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻に対して経頸静脈的塞栓術を行った 1 例. 第 11 回宮崎血管内治療 IVR 研究会, 2003.10, 宮崎
- 26) 濱砂亮一、奥 隆充、有川章治、阿部英治、河野寛一、呉屋朝和、米山 匠、中野真一、脇坂信一郎: 過去 3 年間の当院における脳動脈瘤コイル塞栓術の治療成績. 第 6 回宮崎 Brain Attack 研究会, 2003.10, 宮崎
- 27) 池田俊勝、池田徳郎、米山匠: 椎骨動脈解離性動脈瘤に対して GDC 塞栓術を行った一例. 第 6 回 Brain attack 研究会, 2003.10, 宮崎
- 28) 奥 隆充、有川章治、濱砂亮一、阿部英治、河野寛一、呉屋朝和: クモ膜下出血発症 6 日目に入院しスパズム期にコイル塞栓を行なった症例. 第 26 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003.12, 宮崎
- 29) 森山拓造、大田 元、宮原大作: 松果体部腫瘍に対する occipital transtentorial approach. 第 26 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 12, 宮崎
- 30) 池田徳郎、池田俊勝: Spasm による神経脱落症状を呈したクモ膜下出血の手術時期について苦慮した 1 例. 第 26 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 12, 宮崎
- 31) 加地泰広、池田徳郎、池田俊勝、森山拓造: 術前塞栓術と焼き鳥テクニックにより全摘しえた eloquent area convexity meningioma の 1 例. 第 26 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 12, 宮崎
- 32) 横上聖貴、池田俊勝: 和田病院の手術 video 保存システムの紹介. 第 26 回宮崎脳神経外科手術研究会, 2003, 12, 宮崎
- 33) 大田 元、宮原 大作、森山拓造、生嶋 一朗、前田 陽夫: 初回血管撮影上診断困難であった髄膜腫の一例. 第 18 回都城神経放射線カンファレンス, 2003, 12, 都城

34) 森山拓造、大田 元、宮原大作:松果体部腫瘍に対する occipital transtentorial approach. 第18回都城神経放射線カンファレンス, 2003, 12, 都城

◆その他講演

- 1) 脇坂信一郎:神経外傷診断をめぐる諸問題 宮崎県医師会自賠責保険講習会, 2003, 1, 宮崎
- 2) 中野真一:血栓溶解療法の基本(教育講演) 第19回九州山口脳神経血管内治療研究会, 2003, 2, 福岡
- 3) 浅見尚規:後縦靱帯骨化症をもっと知ろう. 平成15年度難病医療講演会・相談会, 2003, 5, 宮崎
- 4) 中野真一:高齢者に多い病気と対応 宮崎県社会福祉事業団土曜介護教室, 2003, 6, 宮崎
- 5) 脇坂信一郎:高齢者脳血管障害患者の諸問題と周術期管理. 第8回広島老年脳神経外科学研究会, 2003, 9, 広島
- 6) 大田 元:脳血管障害と観察法<講演>. 都城・北諸県地区看護協会主催勉強会, 2003, 12, 都城

歯科口腔外科学講座 (Department of Oral and Maxillofacial Surgery)

◆原 著

- 1) R.Shiba, R.Kawamata, Omar Ibna Faizur Rahman, K.Kashima, S.Sakoda: Prophylaxis of tumour recurrence and metastasis with a mixture of tegafur and uracil in head and neck cancers. Asian J Oral Maxillofac Surg 15:38-43, 2003.
- 2) K.Igawa, K.Kashima, S.Maeda, R.Shiba: Measurement of muscle hardness using a hardness meter: application to the masseter and temporal muscles and reproducibility of measurement. Cranio 21:185-189, 2003.

◆症例報告

- 1) 伊藤雅樹、林 升、末原佐枝、大森桂二、相澤 隆、林 透、迫田隅男、升井一朗:再生不良性貧血患者にみられた上顎正中部含歯性嚢胞の1例 Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery 15:147-150, 2003.
- 2) 末原佐枝、林 升、伊藤雅樹、大森桂二、相澤隆、升井一朗、迫田隅男:左側唇顎口蓋裂と両側横顔裂を合併した Treacher-Collins Syndrome の1例 Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery 15:143-146, 2003.

◆学会報告

- 1) 高森晃一、芝 良祐、大田原典子、鹿嶋光司、迫田隅男:動注化学療法と放射線治療による術前補助療法のみで原発巣から生きた腫瘍細胞が消失した口腔領域扁平上皮癌症例について 第21回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 2003. 1. 宜野湾市.
- 2) S.Maeda, K.Kashima, R.Shiba: A case of cat cry syndrome associated with cleft lip. The 4th Congress of Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons 2003. 4. Korea.
- 3) K.Kashima, S.Maeda, M.Ogihara, R.Shiba: A short-term oral splint wearing inhibits nociceptive and sensory inputs from the trigeminal region and upper extremities. The 4th Congress of Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons 2003. 4. Korea.
- 4) M.Ogihara, K.Kashima, S.Maeda, S.Sakoda, R.Shiba: Five cases of cat scratch disease and the usefulness of the serologic tests. The 4th Congress of Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. 2003. 4. Korea.
- 5) 鹿嶋光司、前田 祥、芝 良祐:頸神経領域に加えた対向刺激が三叉神経領域の各種侵害刺激及び感覚刺激受容に与える影響 第57回日本口腔科学会総会 2003. 5. 福岡市.
- 6) 井川加織、鹿嶋光司、前田 祥、芝 良祐:簡易筋硬度計を用いた筋硬度の測定 咀嚼筋への応用と信頼性の検討 第57回日本口腔科学会総会 2003. 5. 福岡市.
- 7) 前田 祥、鹿嶋光司、迫田隅男、芝 良祐:上顎に生じた扁平上皮癌の臨床統計 上顎洞扁平上皮癌と上顎歯

肉扁平上皮癌の比較 第 57 回日本口腔科学会総会 2003. 5. 福岡市.

8) S.Sakoda: The correlation of micro CT image and histological image by morphological analysis 16th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery 2003. 5. Athens.

9) 井川加織、迫田隅男、芝 良祐: 口腔扁平苔癬に対するセファランチンの効果 第 29 回アルカイド研究会 2003. 6. 大阪市.

10) 飯野祥一郎、迫田隅男、芝 良祐: コルチコトミー及びアンカープレートを併用してマルチブラケット治療の期間短縮を図った3症例 第 13 回日本顎変形症学会総会 2003. 6. 札幌市.

11) 迫田隅男、飯野美紀子、芝 良祐: 片側習慣性顎関節脱臼に対して関節結節形成術を施行した1例 第 16 回日本顎関節学会総会・学術大会 2003. 7. 鹿児島市.

12) 鹿嶋光司、東中修一、渡邊直志、前田 祥、迫田隅男、芝 良祐: 顎運動トレーニングは顎関節症患者の感覚/疼痛受容閾値を変化させる 第 16 回日本顎関節学会総会・学術大会 2003. 7. 鹿児島市.

13) 芝 良祐: 宮崎医科大学歯科口腔外科でのがん治療 第 71 回日本口腔外科学会九州地方部会特別講演 2003. 7. 鹿児島市.

14) 東中修一、渡邊直志、鹿嶋光司、迫田隅男、芝 良祐: 心肺合併症を伴った高齢者の耳下腺ワルシ腫瘍を局所麻酔で手術した経験 第 71 回日本口腔外科学会九州地方部会 2003. 7. 鹿児島市.

15) 渡邊直志、東中修一、大田原典子、鹿嶋光司、芝 良祐: 口・顔・指症候群(Oral-facial-digital -Syndrome) I 型の3症例 第 71 回日本口腔外科学会九州地方部会 2003. 7. 鹿児島市.

16) 伊藤雅樹、末原佐枝、大森桂二、相澤 隆、江藤ゆかり、東 健太郎、林 升、林 透、迫田隅男: 有茎性腫瘍を呈した白後部腺房細胞癌の1例 第 71 回日本口腔外科学会九州地方部会 2003. 7. 鹿児島市.

17) 飯野祥一郎、伊藤学而、迫田隅男: 歯槽部皮質骨切り術は矯正歯牙移動を加速する 第 62 回日本矯正歯科学会 2003. 10. 新潟市.

18) 迫田隅男、瀬戸上康子、芝 良祐: 小下顎症に対して仮骨延長法を適用した症例の臨床的検討 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

19) 渡邊直志、鹿嶋光司、東中修一、前田 祥、芝 良祐: スーパーライザーTMを用いた咬筋部直線偏光赤外線外線照射が、各種感覚・侵害刺激受容閾値に与える影響 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

20) 東中修一、鹿嶋光司、渡邊直志、前田 祥、芝 良祐: 反復筋活動前後の咬筋の筋硬度特性 上腕二頭筋との比較 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

21) 前田 祥、鹿嶋光司、東中修一、渡邊直志、芝 良祐: 頭位の変化による咬筋および僧帽筋の筋硬度の変化 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

22) 鹿嶋光司、井川加織、前田 祥、東中修一、渡邊直

志、芝 良祐: ヒト咬筋における筋硬度と表面筋電パラメーターの相関について 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

23) 高森晃一、前田 祥、東中修一、渡邊直志、大田原典子、鹿嶋光司、迫田隅男、芝 良祐: 当科における歯源性角化嚢胞の臨床的検討 第 48 回日本口腔外科学会総会 2003. 10. 富山市.

24) 迫田隅男、高森晃一: 口角部頬粘膜下に生じた海綿状血管腫の1例 第 15 回日本小児口腔外科学会総会・学術大会 2003. 11. 広島市.

25) 渡司レイウきみえ、鹿嶋光司、前田 祥、東中修一、渡邊直志、芝 良祐: ブラジルにおける歯科教育事情 第 36 回日本口腔科学会九州地方部会 2003. 12. 福岡市.

26) 前田 祥、東中修一、渡邊直志、芝 良祐: Robin sequence の2例 ハイリスク児に対する口腔外科医の役割 第 36 回日本口腔科学会九州地方部会 2003. 12. 福岡市

臨床検査医学講座 (Department of Laboratory Medicine)

◆原 著

1) Yamaguchi T, Nomura H, Matsunaga K, Ito S, Takata J, Karube Y.: The behavior of dihydropyrazine with DNA strand-breakage activity in vivo. Biol Pharm Bull. 26:1523-1527, 2003

2) Kotani T, Umeki K, Kawano J, Suganuma T, Hishinuma A, Ieiri T, Harada S.: Partial iodide organification defect caused by a novel mutation of the thyroid peroxidase gene in three siblings. Clin Endocrinol 59:198-206, 2003

◆学術論文

1) 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 武知進士: 糖由来の変化生成物: dihydropyrazine 類の生体への影響. 日本衛生学雑誌, 58 巻, p146 (2003 年)

2) 小谷富男, 梅木一美, 菱沼昭, 原田昭平: 甲状腺ペルオキシダーゼ遺伝子変異による部分的ヨード有機化障害を示した3兄妹. ホルモンと臨床 51 巻 p72-p79 (2003 年)

◆学会報告

1) 武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: 糖由来の変化生成物: dihydropyrazine 類の大腸菌への影響. 日本薬学会第 123 年会, 2003 年 3 月 (長崎)

2) 野村創, 山口忠敏, 武知進士, 峰松俊夫: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響-培養細胞における基本的機能の分子生物学的解析-. 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメディカル」、2003 年 5 月 (宮崎)

3) 武知進士, 山口忠敏, 野村創, 峰松俊夫, 中山建男: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響-大腸菌を用いた細胞毒性および遺伝毒性の検討-. 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメディカル」、2003 年 5 月 (宮崎)

4) 山口忠敏, 鹿志毛信広, 原野一誠, 伊藤茂, 松本茂信, 野村創, 加留部善晴: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響-DNA 鎖切断作用およびその他の諸性質-. 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメディカル」、2003 年 5 月 (宮崎)

5) 峰松俊夫, 山口忠敏, 野村創, 武知進士: 糖由来の変化生成物 (dihydropyrazine 類) の生体への影響-細胞内寄生体, 特にヘルペスウイルスの感染に対する影響-. 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメディカル」、2003 年 5 月 (宮崎)

6) 荒武八起, 守田政宣, 緒方陽一, 井上武志, 奥野めぐみ, 小谷富男: リンパ系腫瘍の病型診断における CD26 の有用性. 第 4 回日本検査血液学会, 2003 年 7 月 (京都)

7) 守田政宣, 荒武八起, 緒方陽一, 井上武志, 奥野めぐみ, 小谷富男: FCM 測定後の残存検体を用いた免疫染色の診断的意義. 第 4 回日本検査血液学会, 2003 年 7 月 (京都)

8) Yamaguchi T, Ito S, Kashige N, Nomura H, Takechi S.: The characteristics of dihydropyrazines having DNA strand-breakage activity. 19th ICHC Conference in Fort Collins, 2003 年 8 月 (Colorado).

9) 小谷 富男, 梅木 一美, 市場 洋三, 古城 真秀子: 新規甲状腺ペルオキシダーゼ変異 G614A (R175Q) を有した先天性甲状腺機能低下症の兄妹. 第 37 回日本小児内分泌学会, 2003 年 10 月 (旭川)

10) 梅木一美, 荒武八起, 山本成郎, 小谷富男: 遺伝子変異を伴う甲状腺ペルオキシダーゼの発現と消失の動態. 第 50 回日本臨床検査医学会総会, 2003 年 10 月 (広島)

11) 佐藤啓司, 荒武八起, 佐藤信也, 大野招伸, 日野浦雄之, 丸塚浩助, 小谷富男: 体腔液細胞診における Napsin A の有用性. 第 42 回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003 年 10 月 (横浜)

12) 梅木一美, 山本成郎, 荒武八起, 小谷富男: 甲状腺乳頭癌にみられる BRAF 変異の高感度測定法の開発. 第 43 回宮崎県医学検査学会, 2003 年 11 月 (宮崎)

13) 山口忠敏, 野村 創, 武知進士, 峰松俊夫: 糖由来の変化生成物: dihydropyrazine 類の生体への影響 (I). 第 3 回分子予防環境医学研究会, 2003 年 12 月 (東京)

14) 野村 創, 山口忠敏, 武知進士, 峰松俊夫: 細胞周期機構に及ぼす糖由来 dihydropyrazine 類の作用メカニズムについての解析. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003 年 12 月 (神戸)

15) 武知進士, 山口忠敏, 野村 創, 峰松俊夫, 中山建男: DNA 切断活性を有するジヒドロピラジン類は大腸菌の増殖を阻害し突然変異を誘導する. 第 26 回日本分子生物学会年会, 2003 年 12 月 (神戸)

救急医学講座
(Dept.of Traumatology and Acute
CriticalMedicine)

◆著 書

1) 寺井親則:損傷の診断と治療方針 ゴールドスタンダード整形外科 外傷・救急 p21-45、南江堂、東京、2003

◆原 著

1) 松島俊介, 寺井親則, 岡本 健:赤外線無線を使った電子カルテ音声入力システムの開発 インナービジョン 18(8):32, 2003.

◆学会報告

1) 松島俊介, 寺井親則, 岡本 健:赤外線無線を使った電子カルテ音声入力システムの開発. 第 31 回日本救急医学会総会(東京), 11, 2003.

◆総 説

1) 寺井親則:宮崎医科大学の卒後臨床研修プログラム. 救急・集中治療 15:1097-1101,2003.

2) 寺井親則:尿閉・乏尿・無尿.救急医学 27:1406-1409,2003.

3) 寺井親則:鑑別診断のための画像診断 急性胆嚢炎を疑う.Medicina 40:701-703,2003.

4) 寺井親則:発熱.救急医学 27:309-312,2003.

看護学科

基礎看護学講座 (Basic Nursing)

◆著 書

- 1) 岩本テルヨ:第12章 在宅医療と倫理的問題,西三郎監修:倫理, 223-232,エルゼビアサイエンス,東京, 2003
- 2) 前田ひとみ:第2章 看護事故予防のための基礎教育カリキュラム 基礎看護技術教育における展開, 土屋八千代, 鈴木俊夫編集:看護事故予防学, 26-37, 中山書店, 東京, 2003
- 3) 土屋八千代, 前田ひとみ:第4章 事例から学ぶ看護事故の予防看護職(学生含む)の受傷, 土屋八千代, 鈴木俊夫編集:看護事故予防学, 187-192, 中山書店, 東京, 2003
- 4) 前田ひとみ:慢性骨髄性白血病, 菱沼典子編集:ケーススタディ看護形態機能学, 184-190, 南江堂, 東京, 2003
- 5) 前田ひとみ:後天性免疫不全症候群, 菱沼典子編集:ケーススタディ看護形態機能学, 191-198, 南江堂, 東京, 2003

◆原 著

- 1) 田中愛子,市村孝雄,岩本テルヨ:笑いが女子大学生の免疫機能に与える影響,山口県立大学看護学部紀要, 7, 121-125,2003
- 2) 佐藤美幸,堤雅恵,中村仁志,岩本テルヨ:身体拘束に対する看護者の意識と経験,山口県立大学看護学部紀要, 7, 127-131,2003
- 3) 佐藤美幸,堤雅恵,中村仁志,岩本テルヨ:痴呆性高齢者を抱える家族の医療・福祉に関する満足度に関する研究,山口県立大学社会福祉学部紀要,9, 9-16,2003
- 4) 岩本テルヨ:在宅医療における患者の病態変化時の対応に関する研究—訪問看護師の対応に関する医師の意向—,日本プライマリ・ケア学会誌, 26 (2), 118-127,2003
- 5) 岩本テルヨ:在宅医療における患者の病態変化時の対応に関する研究2—訪問看護師の対応の実態—,日本プライマリ・ケア学会誌,26(4), 272-283,2003
- 6) 佐々木吉子, 二宮彩子, 小泉仁子, 増田敦子, 小林敏生, 根本清次:同一体位の保持と生体反応—生理反応, 苦痛, および諸要因の関連—, 日本看護研究学会雑誌, 26 (5), 123-132, 2003
- 7) 前田ひとみ, 南家貴美代, 渡辺恵:HIV/AIDS 医療におけるコーディネーター・ナース介入による影響, 南九州看護研究誌, 1 (1), 37-45, 2003
- 8) 大川百合子:ICU 看護の機能と構造に関する研究, 南九州看護研究誌, 1 (1), 1-9, 2003

◆研究報告

- 1) 田中愛子,市村孝雄,岩本テルヨ:笑いや楽しい体験が療養中の高齢者の免疫機能とQOLに与える影響,平成13-14年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 2003

2) 渡辺恵, 数間恵子, 加藤尚子, 柴山大賀, 前田ひとみ他:エイズ拠点病院の看護実践上の課題, 厚生労働科学研究補助金「HIV 感染症の医療体制に関する研究」平成14年度研究報告書, 229-241, 2003

3) 高村寿子, 宮崎榮, 牧野浩一, 木添茂子, 前田ひとみ他:ピアカウンセリング指導者養成マニュアル作成に関する研究, 厚生労働科学研究補助金「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究」平成14年度研究報告書, 147-192, 2003

4) 堀内成子, 高村寿子, 竹内千恵子, 渡邊純一, 片桐麻州美, 前田ひとみ他:ピアカウンセラー養成マニュアル作成に関する研究, 厚生労働科学研究補助金「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究」平成14年度研究報告書, 193-206, 2003

5) 草場とふみ, 金丸幸子, 西原みどり, 鶴田来美, 山田美幸, 村方多鶴子, 中富利香:宮崎における小児の入院環境と家族のための体制整備への方策, 宮崎県政策セミナー報告書, 55, 1-35, 2003

◆総 説

- 1) 前田ひとみ:評価技術のエビデンス心理面の評価:描画の看護への応用, 臨床看護, 29 (13), 2082-2090, 2003

◆学会報告

1) Aiko Tanaka, Teruyo Iwamoto:How do in-patients with advanced terminal cancer think and feel?, Hospice Conference, 2003.3, Osaka.

2) 山田美幸, 岩本テルヨ:特別養護老人ホームにおけるターミナルケア—全国調査による看護師の業務の実態—, 第7回日本看護研究学会九州地方会, 2003.3, 福岡.

3) 岩本テルヨ, 山田美幸:特別養護老人ホームのターミナルケアにおける医療的処置の現況と看護職の関わり—特別養護老人ホームの全国調査から—, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003.7, 大阪.

4) 前田ひとみ, 鶴田来美:針刺し事故によるストレスと事故報告の意思決定に関する研究Ⅰ, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003.7, 大阪.

5) 前田ひとみ, 鶴田来美, 若森京子, 長内さゆり:在宅医療廃棄物の取り扱いに関する研究(1)—訪問看護ステーションにおける取り扱いの現状—, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003.7, 大阪.

6) 鶴田来美, 前田ひとみ, 若森京子, 長内さゆり:在宅医療廃棄物の取り扱いに関する研究(2)—使用済み注射針の廃棄—, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003.7, 大阪.

7) 村方多鶴子, 鶴田来美, 前田ひとみ:レジオネラ症集団感染が身体的・精神的健康並びに日常生活の及ぼした影響, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003.7, 大阪.

8) 山田美幸, 鶴田来美, 村方多鶴子, 中富利香, 西原

みどり, 草場とフミ: 病児に付き添う家族への健康支援—
自覚症状と血圧から見た効果の検討—, 日本家族看護学
会第 10 回学術集会, 2003.9, 高知.

9) 村方多鶴子, 草場とフミ, 鶴田来美, 中富利香, 山田
美幸, 内村章子, 野間口千香穂: こどもの入院に付き添う
「家族」が求める援助, 日本家族看護学会第 10 回学術集
会, 2003.9, 高知.

10) 内村章子, 草場とフミ, 鶴田来美, 中富利香, 村方
多鶴子, 山田美幸, 野間口千香穂: 入院中の子供に付き
添う家族の生活満足度とその要因, 日本家族看護学会第
10 回学術集会, 2003.9, 高知.

11) 岩本テルヨ, 山田美幸: 特別養護老人ホームのターミ
ナルケアの現況—全国調査による死亡を巡る状況—, 第
62 回日本公衆衛生学会総会, 2003.10, 京都.

12) 長友みゆき, 草刈淳子: 国公立大学病院看護管
理者にみるキャリア発達, 1990 年度調査との比較と 10 年
間の変化, 第 41 回日本病院管理学会学術総会, 2003.10,
東京.

13) 高比良祥子, 草刈淳子, 長友みゆき: 米国のナース
プラクティショナーにみる法的権限の動向, 1993 年から
2003 年における処方権に焦点をあてて, 第 23 回日本科
学学会学術集会, 2003.12, 三重.

◆その他

1) 岩本テルヨ: 平成 15 年度認定看護管理者教育ファ
ーストレベラー看護論—, 宮崎県看護協会, 2003.5, 宮崎.

2) 長友みゆき: 平成 15 年度認定看護管理者教育ファ
ーストレベラー看護サービス提供論—, 宮崎県看護協会,
2003, 7, 宮崎.

3) 前田ひとみ: 先端医療の倫理と決断, 第 29 回日本看
護研究学会学術集会 ヤングナースフォーラム 新しい看
護領域を担うナース達, 2003.7, 大阪.

4) 岩本テルヨ: 平成 15 年度看護師研修—看護診断—,
社会保険人吉総合病院看護部, 2003.10, 熊本.

臨床看護学講座 成人・老年看護学

(Clinical Nursing Science,
Adult・Geriatric Nursing)

◆著 書

1) 土屋八千代: 看護事故予防学, 編集代表 土屋八千
代, 中山書店, 東京 2003

2) 土屋八千代: 看護事故を予防する その視点とアセ
スメント事例集, 編集代表者 医歯薬出版株式会社, 東京,
2003

◆原 書

1) 土屋八千代, 根本清次: 代謝栄養学と成人・老年看
護学との連携による失敗体験を導入した安全教育—攪乱
因子を配置した実験と学習—, 看護展望 28(2), p.256-261,
2003

2) 土屋八千代, 福永ひとみ, 野澤由美, 古家明子: 精
神看護学実習で治療の人間関係を学ぶ—プロセスレコ
ード記載傾向と分析検討会の評価—, 南九州看護研究誌,
1(1), p.11-21, 2003

3) 赤星成子: 障害のある人を子どもに持つ母親の健康
の構造—母親たちが辿る認識のプロセスを分析して—南
九州看護研究誌, 1(1), p.23-35, 2003

◆学会報告

1) 土屋八千代: 看護短期大学生の職業同一性地位とス
トレス対処行動の経年的変化, 第 29 回日本看護研究学会,
2003.7, 大阪

2) 赤星成子, 土屋八千代, 内田倫子: 事例を用いた授
業展開の試み, 第 29 回日本看護研究学会, 2003.7, 大阪

3) 土屋八千代: 介護職希望動機と蓄積的疲労の関係,
第 34 回日本看護学会, 老年看護, 2003.9, 宮崎

4) 岩切ひとみ, 濱田由美, 清水志希子, 中村小夜子,
土屋八千代: 精神科病棟における継続した患者参加型カ
ンファレンスの導入とその効果, 平成 15 年度九州地区看
護研究学会, 2003.11, 佐賀

5) 村田節子, 平野(小原)裕子, 平田伸子, 熊谷秋三
立石和子: 模擬弱者体験の成績からみたトイレ弱者の特
徴と街の排泄環境, 第 4 回日本健康支援学会, 2003.2, 福岡

6) 村田節子, 平野(小原)裕子, 平田伸子, 熊谷秋三,
立石和子: 模擬弱者体験からみた便房への出入りに関す
る研究—自由記載の記録内容を中心に—, 第 7 回看護研
究学会九州地方会, 2003.3, 福岡

7) 平野(小原)裕子, 村田節子, 熊谷秋三, 平田伸子:
模擬弱者体験からみた便房への出入りに関する研究—
統計的分析を中心に—, 第 7 回看護研究学会九州地方
会抄録集, 2003.3, 福岡

8) 上杉美保, 村田節子, 濱砂陽子, 前畑裕子, 水永豊
子, 古家明子: 診断過程における推論の傾向とその妥当
性について, 第 9 回日本看護診断学会, 日本看護診断学
会誌 8(2), 2003.6, 大阪

9) 森みずえ, 村上美華, 村田節子: 学生の推論過程

における手がかりからの診断への導きと目標連携について 一身体損傷リスク状態に焦点を当てて一第 9 回日本看護診断学会, 日本看護診断学会抄録集 (2), 2003.6, 大阪

10) 村田節子, 平田伸子, 平野 (小原) 裕子, 熊谷秋三: 模擬トイレ弱者の便房内での排泄準備に関する行動の検討, 第 29 回日本看護研究学会抄録集 vol.26, NO.3, 2003.7, 大阪

11) 村田節子, 平田伸子, 根本清次: 模擬トイレ弱者体験の結果から見た排泄後の保清に関する行動の検討, 第 23 回日本看護科学学会学術集会講演集, 2003.12, 三重

12) 野村美千江, 井上尚美, 竹山ゆみ子, 及川朋実, 瀬口チホ, 大名門裕子: 家族アセスメント情報の整理による看護師の認識の変化とその評価, 日本家族看護学会第 10 回学術集会, 2003.9, 高知

◆講演・その他

1) 土屋八千代: 「看護業務とリスクマネジメント」宮崎県立延岡病院看護職員研修会, 2003.2

2) 土屋八千代: 「看護業務と法的責任」宮崎社会保険病院リスクマネジメント研修会, 2003.2

3) 土屋八千代: 「看護の法的責任」宮崎医科大学医学部附属病院看護部現任教育 2003.4

4) 土屋八千代: 「訪問看護に関する法律」宮崎県看護協会 訪問看護師養成講習会 2003.5

5) 土屋八千代: 「臨床での看護研究」, 県立宮崎病院看護職員研修, 2003, 4

6) 土屋八千代: 「看護専門職論—看護と法律」日本看護協会認定看護管理者ファストレベル研修, 2003.6

7) 土屋八千代: 「医療安全教育を盛り込んだ看護基礎教育」2003.3 (福岡), 8 (東京), 9 (大阪), 10 (広島)

8) 土屋八千代: 「看護教育における安全教育」, 沖縄県看護教員再教育研修会, 2003.8, 11 (沖縄)

9) 土屋八千代: 「臨地実習における看護事故防止」, 東海北陸地区保険師看護師等実習指導者講習会, 2003.9 (名古屋)

10) 土屋八千代: 看護研究, 水戸赤十字病院看護部研修会, 2003, 8 (茨城)

11) 土屋八千代: 「臨床での看護研究」, 宮崎県福祉保健部県立病院看護職員研修 (看護管理コース), 2003.9

12) 土屋八千代: 「ヒューマンエラーとセフティマネジメント」宮崎社会保険病院医療安全管理研修, 2003.9

13) 土屋八千代: 第 34 回日本看護学会—老年看護—ミニセッション座長「高齢者の転倒・転落」, 2003.9 (宮崎)

14) 土屋八千代: 「基礎教育における安全教育」厚生労働省看護研究研修センター同窓会特別講演, 2003.8 (鹿児島)

15) 土屋八千代: 「医療安全を確保する臨地実習指導のあり方」, 鹿児島県立保健看護学科臨地実習指導者研修会, 2003.10 (鹿児島)

16) 古家明子: 第 34 回日本看護学会—老年看護—口演座長「早期回復に関するもの」, 2003.9 (宮崎)

17) 赤星成子: 第 34 回日本看護学会—老年看護—口

演座長「摂食・嚥下障害に関するもの」, 2003.9 (宮崎)

◆研究報告

1) 前田ひとみ, 鶴田来美, 村方多鶴子: レジオネラ症集団感染事例によるメンタルヘルスに与える影響, 平成14年度厚生労働科学研究費補助金 レジオネラ集団感染事例の疫学調査部会報告書, 71-87, 2003

2) 草場とふみ, 金丸幸子, 西原みどり, 内村章子, 鶴田来美, 山田美幸, 村方多鶴子, 中富利香: 宮崎における小児の入院環境と家族のための体制整備への方策, 宮崎政策研究第55号, 1-35, 2003

◆学会報告

1) 村方多鶴子, 鶴田来美, 前田ひとみ: レジオネラ症集団感染が身体的・精神的健康並びに日常生活に及ぼした影響, 第29回日本看護研究学会学術集会(大阪), 7, 2003

2) 内村章子, 草場とふみ, 鶴田来美, 中富利香, 村方多鶴子, 山田美幸, 野間口千香穂: 入院中の子どもに付き添う家族の生活満足度とその関連要因, 第10回日本家族看護学会学術集会(高知), 9, 2003

3) 村方多鶴子, 草場とふみ, 鶴田来美, 中富利香, 山田美幸, 内村章子, 野間口千香穂: 子どもの入院に付き添う「家族」が求める援助, 第10回日本家族看護学会学術集会(高知), 9, 2003

4) 山田美幸, 鶴田来美, 村方多鶴子, 中富利香, 西原みどり, 草場とふみ: 病児に付き添う家族への健康支援—自覚症状と血圧から見た効果の検討—, 第10回日本家族看護学会学術集会(高知), 9, 2003

◆原 著

1) 大石時子, 斉藤益子, 柴田文子: 日本の麻酔分娩の実態と問題点, 母性衛生, 44(4): P409-414, 2003

◆総 説

1) 大石時子: アメリカにおける助産活動と教育, 助産学大系1助産学概論第10章, P286-295, 日本看護協会出版会, 2003

2) 大石時子: 中絶: さまざまな視点から, 助産学講座3 母性の心理・社会学, P145, 医学書院, 2003

3) 山崎鯉子, 大石時子: コンドーム準備携帯とその意識—実態調査から—, 南九州看護研究誌, 2(1): P45-51, 2003

◆研究報告書

1) 田邊美智子, 大石時子他3名, 小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究班: 臨床と地域の連携を支える助産師の働き方と実践能力の開発平成14年度研究報告書, 厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業, 2003, 3

2) 近藤直司, 大石時子他10名, 乳幼児を虐待する養育者への支援技術の普及に関する検討会報告書, 日本公衆衛生協会, 2003, 9

◆学会報告

1) 中尾久子, 森田秀子, 中村仁志, 藤村孝枝, 堤雅恵, 小林敏生, 長川トミエ, 大林雅之: 看護職が認識する倫理問題の特性と実態, 第50回山口県公衆衛生学会, 2003, 7, 山口

2) 中尾久子, 森田秀子, 中村仁志, 藤村孝枝, 堤雅恵, 長川トミエ, 小林敏生, 大林雅之: 倫理的問題に対する看護職の認識, 第29回日本看護研究学会学術集会, 2003, 7, 大阪

3) 中尾久子, 藤村孝枝, 森田秀子, 中村仁志, 堤雅恵, 長川トミエ, 小林敏生, 大林雅之: 倫理問題に関する看護職(看護師と保健師)の認識の比較, 日本生命倫理学会第15回年次大会, 2003, 11, 東京

4) 山崎鯉子, 大石時子: コンドームを準備し形態することについての若者の実態調査, 第44回日本母性衛生学会, 2003, 10, 栃木

◆講 演

<講演>

1) 大石時子: 「助産師業務の専門性を高めよう!」, 平成14年度宮崎県看護協会助産師職能委員集会, 宮崎県看護協会助産師職能委員会主催, 2003, 2, 宮崎

2) 大石時子: エビデンスに基づいた助産師らしい仕事とは—アメリカでの経験から—, 日本助産師会宮崎県平成15年支部総会, 2003, 5, 宮崎

3)大石時子:Respect for women's Sexuality and mother-friendly child birth, The 6th World Congress of Perinatal Medicine, 2003, 9, 大阪

<シンポジスト>

1)大石時子:Reproductive Health/ Right for Korean and Japanese women, 日韓合同学術フォーラム, 2003, 7, 東京

<講師>

1)大石時子:性教育研修, 公立小・中学校及び県立学校教職経験10年経過研修課題研修1並びに第5回公立学校養護教諭教職経験10年経過研修, 2003, 8, 宮崎

2)大石時子:平成14年度構成労働科学研究費補助による“子ども課程総合研究事業”としての研究課題「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究班」:「助産師外来モデル研修プログラム」研修会, 2003, 12, 東京

◆その他

<社会活動>

1)大石時子, 山崎鯉子:性教育フォーラム分科会担当「性 YES!!～てれないで大人・考えよう若者～」, 国際ロータリークラブ主催, 宮崎市教育委員会共催, 宮崎県教育委員会後援, 2003, 2, 宮崎

臨床看護学講座 小児看護学
(Clinical Nursing, Child Health Nursing)

◆原 著

1)村田恵子, 草場ヒフミ, 小野智美, 大久保功子:慢性病児を養育する家庭の家族機能レベルへの関連要因—Hymovich's Model の応用による家族長期ケアモデルに基づく検討—, 家族看護学研究, 9(1), 18-25, 2003.

2)中富利香・草場ヒフミ:小児看護ケアにおけるコミュニケーションについての教育方法—「触れる」ことを通して—, 九州小児看護教育研究会誌, 3, 26-28, 2003.

◆総 説

1)草場ヒフミ, 中富利香, 西原みどり, 田端博子:入院児のストレスコーピングとケア環境, 小児看護26(8), 997-1000, 2003.

◆研究報告

1)金丸幸子, 草場ヒフミ, 西原みどり, 鶴田来美, 山田美幸, 村方多鶴子, 中富利香, 内村章子:宮崎における小児の入院環境と家族のための体制整備への方策, 宮崎政策研究第55号, 宮崎21世紀政略推進財団 宮崎政策推進事業, 1-35, 2003.

◆学会報告

1)内村章子, 草場ヒフミ, 鶴田来美, 中富利香, 村方多鶴子, 山田美幸, 野間口千香穂:入院中の子供に付き添う家族の生活満足度とその要因, 家族看護学研究, 9(2), 52, 2003.

2)村方多鶴子, 草場ヒフミ, 鶴田来美, 中富利香, 山田美幸, 内村章子, 野間口千香穂:子どもの入院に付き添う「家族」が求める援助, 家族看護学研究, 9(2), 53, 2003.

3)山田美幸, 鶴田来美, 村方多鶴子, 中富利香, 西原みどり, 草場ヒフミ:病児に付き添う家族への健康支援—自覚症状と血圧から見た効果の検討—, 家族看護学研究, 9(2), 87, 2003.

4)梶山祥子, 蜂谷百合子, 石川みち子, 八木沼れい子, 野間口千香穂, 他4名:極低出生体重児の幼児期の運動能力, 第50回日本小児保健学会, 438-439, 2003.

5)草場ヒフミ, 佐藤京子, 中富利香, 野間口千香穂, 長谷川珠代, 鶴田来美:地域との連携を通しての教育活動の試み—子育て支援活動への参加—, 第4回九州小児看護教育研究会, 4, 2003.

地域看護学講座 (Community Nursing)

◆著 書

1) 鶴田来美:看護事故予防のための基礎教育カリキュラム地域看護学における展開, 38-51, 土屋八千代, 山田静子, 鈴木俊夫編, 看護事故予防学, 中山書店, 東京, 2003.

◆原 著

1) 佐藤京子:子育てサークル参加者における参加の意味の検討, 南九州看護研究誌, 1(1):47-56, 2003. 3

2) 鶴田来美:壮年期労働者の運動行動と運動の有効性に対する認識, 日本健康医学会雑誌, 12(1):22-28, 2003.

◆研究報告

1) 草場とフミ, 金丸幸子, 西原みどり, 内村章子, 鶴田来美, 山田美幸, 村方多鶴子, 中富利香:宮崎における小児の入院環境と家族のための体制整備への方策, 宮崎政策研究, 55, 1-35, 2003.

◆学会報告

1) 尾上佳代子, 草野健, 石崎由美子, 青山公治, 山中隆夫, 松下敏夫, :茶宮農団地住民の生活健康実態, 第13回九州農村医学会, 2003. 7, 佐世保市.

2) 石崎由美子, 山中隆夫, 草野健, 尾上佳代子, 青山公治, 松下敏夫, :一農村地域における疾病別食品摂取頻度状況, 第13回九州農村医学会, 2003. 7, 佐世保市

3) 尾上佳代子, 草野健, 石崎由美子, 青山公治, 松下敏夫, その他4名:茶宮農団地住民の健康実態, 鹿児島農村医学研究会第35回中央研究集会, 2003, 8, 鹿児島市.

4) 石崎由美子, 山中隆夫, 草野健, 尾上佳代子, 青山公治, 松下敏夫:一農村地域における疾病別食品摂取頻度状況, 鹿児島農村医学研究会第35回中央研究集会, 2003, 8, 鹿児島市.

5) 前田ひとみ, 鶴田来美, 若森京子, 長内さゆり:在宅医療廃棄物の取り扱いに関する研究(1)ー訪問看護ステーションにおける取り扱いの現状ー, 第29回日本看護研究学会, 2003, 7, 大阪.

6) 鶴田来美, 前田ひとみ, 若森京子, 長内さゆり:在宅医療廃棄物の取り扱いに関する研究(2)ー使用済み注射針の廃棄ー, 第29回日本看護研究学会, 2003.7, 大阪.

7) 村方多鶴子, 鶴田来美, 前田ひとみ:レジオネラ症集団感染が身体的・精神的健康並びに日常生活に及ぼした影響, 第29回日本看護研究学会, 2003, 7, 大阪.

8) 内村章子, 草場とフミ, 鶴田来美, 中富利香, 村方多鶴子, 山田美幸, 野間口千香穂:入院中の子どもに付き添う家族の生活満足度とその関連要因, 第10回日本家族看護学会, 2003, 9, 高知.

9) 村方多鶴子, 草場とフミ, 鶴田来美, 中富利香, 山田美幸, 内村章子, 野間口千香穂:子どもの入院に付き添う

「家族」が求める援助, 第10回日本家族看護学会, 2003, 9, 高知.

10) 山田美幸, 鶴田来美, 村方多鶴子, 中富利香, 西原みどり, 草場とフミ:病児に付き添う家族への健康支援ー自覚症状と血圧からみた効果の検討ー, 第10回日本家族看護学会, 2003, 9, 高知.

11) 佐藤京子, 鶴田来美, 長谷川珠代:子育てサークル参加者の参加後の変化と生活感, 第62回日本公衆衛生学会, 2003, 10, 京都.

12) 五十嵐久人, 藤田幸司, 巴山玉連, 星旦二:長野市における脳卒中発症の生活背景要因の分析, 第62回日本公衆衛生学会, 2003, 10, 京都.

13) 前田ひとみ, 鶴田来美:針刺し事故によるストレスと事故報告の意思決定に関する研究(1), 日本看護科学学会, 2003, 12, 東京.

◆研修報告

1) 鶴田来美:オーストラリアの高齢者ケア訪問看護に焦点をあててー, 南九州看護研究誌, 1(1):77-80, 2003.

◆研究報告書

1) 前田ひとみ, 鶴田来美, 村方多鶴子:レジオネラ症集団感染事例によるメンタルヘルスに与える影響, 平成14年度厚生労働科学研究費補助金レジオネラ集団感染事例の疫学調査部会報告書, 71-87, 2003.

附 属 病 院

◆原 著

1) Kotani T, Umeki K, Kawano J, Suganuma T, Hishinuma A, Ieiri T, Harada S.: Partial iodide organification defect caused by a novel mutation of the thyroid peroxidase gene in three siblings. Clin Endocrinol 59:198-206, 2003

2) Yamaguchi T, Nomura H, Matsunaga K, Ito S, Takata J, Karube Y.: The behavior of dihydropyrazine with DNA strand-breakage activity in vivo. Biol Pharm Bull. 26:1523-1527, 2003

3) 小谷富男, 梅木一美, 菱沼昭, 原田昭平: 甲状腺ペルオキシダーゼ遺伝子変異による部分的ヨード有機化障害を示した3兄妹. ホルモンと臨床 51:72-79, 2003

4) 宮西節子, 梅木一美, 林孝昌, 福塚勝弘, 奥村敦子, 岸森千幸: イマチニブ投与を受けた慢性骨髄性白血病の残存病変モニタリングと BCR/ABL 遺伝子 ATP 結合部位 T315I の変異解析. 臨床病理 51:1023-1029, 2003

◆総 説

1) 長浜純二, 佐藤啓司, 加島健司: 技術講座 頭頸部腫瘍の細胞診 第4回鼻腔, 副鼻腔. Medical Technology 31:1211-1218, 2003

◆学会報告

1) 荒武八起, 守田政宣, 緒方陽一, 井上武志, 奥野めぐみ, 小谷富男: リンパ系腫瘍の病型診断における CD26 の有用性. 第4回日本検査血液学会, 2003年7月(京都)

2) 守田政宣, 荒武八起, 緒方陽一, 井上武志, 奥野めぐみ, 小谷富男: FCM 測定後の残存検体を用いた免疫染色の診断的意義. 第4回日本検査血液学会, 2003年7月(京都)

3) 井上武志, 佐藤啓司, 守田政宣, 梅木一美, 荒武八起: HCV 抗原検査の臨床的検討. 第38回九州医学検査学会, 2003年10月(熊本)

4) 小谷 富男, 梅木 一美, 市場 洋三, 古城 真秀子: 新規甲状腺ペルオキシダーゼ変異 G614A (R175Q) を有した先天性甲状腺機能低下症の兄妹. 第37回日本小児内分泌学会, 2003年10月(旭川)

5) 梅木一美, 荒武八起, 山本成郎, 小谷富男: 遺伝子変異を伴う甲状腺ペルオキシダーゼの発現と消失の動態. 第50回日本臨床検査医学会総会, 2003年10月(広島)

6) 佐藤啓司, 荒武八起, 佐藤信也, 大野招伸, 日野浦雄之, 丸塚浩助, 小谷富男: 体腔液細胞診における Napsin A の有用性. 第42回日本臨床細胞学会秋期大会, 2003年10月(横浜)

7) 梅木一美, 山本成郎, 荒武八起, 小谷富男: 甲状腺乳頭癌にみられる BRAF 変異の高感度測定法の開発. 第43回宮崎県医学検査学会, 2003年11月(宮崎)

8) 猪崎みさき, 奥野めぐみ, 尾方美幸, 石川哲憲: トレッドミル負荷心電図により冠攣縮が誘発され, ST 上昇を認めた1例. 第43回宮崎県医学検査学会, 2003年11月(宮

手術部
(Surgical Division)

文部科学教官の研究業績は麻酔学講座を参照

放射線部
(Radiological Division)

◆原 著

1) Shinji Kawamura, Seiji Ono, Noriyuki Kuga, Tooru Shiba, Hiroshi Fujimoto, Takeshi Toyoshima, Kenji Hyodo, Tetsuo Hirose and Masaru Matoba : Effects of Irradiation on the Components of Implantable Pacemakers. Jpn. J. Med. Phys. 23(1), 73-80, 2003

2) 田原義弘, 川井恵一, 中村貴, 後藤稔男, 田村正三: 温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (II) -OSL 線量計・ガラス線量計-. RADIOISOTOPES, 52 (5), 19-22, 2003

◆学会報告

<シンポジウム>

1) 川村慎二, 廣瀬哲雄, 小野誠治, 柴徹: Auto set-up stereotactic radiosurgery の開発と展開. 第 26 回日本医学学会総会, 2003.4.4 福岡

<一般講演>

1) 楠原和朗, 柴徹, 小野誠治, 田村正三, 久家教幸, 川村慎二: 肝・胆管細胞癌の骨転移に対する放射線治療. 第 156 回日本医学放射線学会九州地方会, 第 38 回日本核医学会九州地方会, 2003.1 北九州

2) 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗, 田村正三, 川村慎二: 放射線治療に伴う心臓ペースメーカーの機能障害. 第 62 回日本医学放射線学会総会, 2003.4 横浜

3) 矢野達彦, 小野誠治, 柴徹, 田村正三, 川村慎二: 菌状息肉症に対する電子線治療-長期生存例を例にとって-. 第 4 回宮崎県放射線治療研究会, 2003.9 宮崎

4) 川原浩, 中村貴, 長瀬一輝: MRSにおける関心領域がスペクトルに及ぼす影響について. 第 48 回宮崎放射線技術研究会, 2003.2.22 宮崎

5) 諏訪暢: 表計算ソフトを使ったエックス線診療室のしゃへい計算. 第 48 回宮崎放射線技術研究会, 2003.2.22 宮崎

6) 山神昭彦, 川原浩: 入射表面線量計算プログラムソフト<SDEC>を用いた線量算出. 第 48 回宮崎放射線技術研究会, 2003.2.22 宮崎

7) 川崎慎也, 工藤正喜, 押川美和, 吉村浩子, 下新原茂: CRにおける周波数処理とマルチ周波数処理のROC評価. 第 48 回宮崎放射線技術研究会, 2003.2.22 宮崎

8) 高山佳士, 川村慎二, 久家教幸, 廣瀬哲雄, 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗: 小照射野の線量測定における検出器の特性. 第 3 回宮崎県放射線治療研究会, 2003.3.8 宮崎

9) 押川美和, 田之畑憲右, 川崎慎也, 吉村浩子, 川村慎二, 上田正美: 採点ワークシートを用いた胸部X線写真の評価. 第 41 回宮崎県放射線技師会総会, 2003.3.15 宮崎

10) 山神昭彦, 白石実, 諏訪暢, 田之畑憲右: GE 製 LightSpeed Ultra16 の紹介. 第 27 回宮崎CT研究会, 2003.5.10 宮崎

11) 田之畑憲右, 白石実, 山神昭彦: マルチディテクターCT(MDCT)の物理的比較-Aquilion 4ch と LightSpeed Ultra16-. 第 27 回宮崎CT研究会, 2003.5.10 宮崎

12) 川村慎二, 小野誠治, 柴徹: リニアック STI ビームのモンテカルロシミュレーションによる解析. 第 12 回日本定

位放射線治療学会, 2003.6.21 京都

13) 小野誠治, 柴徹, 楠原和朗, 川村慎二, 田村正三: 多発性, 再発性転移性脳腫瘍に対する複数回定位手術的照射. 第12回日本定位放射線治療学会, 2003.6.21 京都

14) 小野誠治, 柴徹, 田村正三, 川村慎二: 放射線治療が可能であったペースメーカー植え込み食道癌患者の1例. 第31回食道癌合併療法談話会, 2003.7.26 福岡

15) 川原浩, 白石実, 諏訪暢, 長瀬一輝, 田之畑憲右: Real ECによる被曝低減の基礎的検討. 第52回日本放射線技術学会九州部会学術大会, 2003.9.14 沖縄

16) 山神昭彦, 白石実, 諏訪暢, 田之畑憲右, 紫垣誠哉: MDCTの物理的特性に関する比較検討. 日本放射線技術学会第53回九州部会学術大会, 2003.9.20 熊本

17) 高山佳土, 川村慎二, 久家教幸, 紫垣誠哉: 高密度物質周囲のビームスペクトルシミュレーション. 日本放射線技術学会第53回九州部会学術大会, 2003.9.20 熊本

18) 押川美和, 工藤正喜, 下新原茂, 牛鼻健二, 紫垣誠哉: 骨盤斜位による寛骨臼蓋部像の研究'フォープロ撮影法'. 日本放射線技術学会第53回九州部会学術大会, 2003.9.20 熊本

19) 牛鼻健二, 有田英男, 紫垣誠哉: ECD-RVR 時における3D-SRTを用いたデータリカバリーについて. 日本放射線技術学会第53回九州部会学術大会, 2003.9.20 熊本

20) 長瀬一輝, 上田正美, 紫垣誠哉, 黒岩靖淳: SPEEDER法を用いたTrue SSFPシーケンスの特性. 第31回秋季学術大会日本放射線技術学会, 2003.10.10 秋田

21) 高山佳土, 川村慎二, 久家教幸, 紫垣誠哉: 外照射における高密度物質が周囲組織吸収線量におよぼす影響-シミュレーションデータと実測データの比較検討-. 第31回秋季学術大会日本放射線技術学会, 2003.10.10 秋田

22) 黒岩靖淳, 立元一輝, 紫垣誠哉, 田上直文, 沼口健治: パラレルイメージング(SPEEDER)の使用経験. 第18回宮崎MRI研究会, 2003.11.15 宮崎

23) 東敏也, 立元一輝, 上田正美, 紫垣誠哉, 杉村宏, 鈴木正行: T2plusを用いた3D-MRCPの描出能の検討. 第18回宮崎MRI研究会, 2003.11.15 宮崎

24) 川村慎二, 小野誠治, 柴徹: リニアックSTIビームシミュレーションデータの検証. 日本放射線腫瘍学会第16回学術大会, 2003.11.21 東京

輸血部

(Blood Transfusion Division)

◆著 書

1) 児玉 建: VI. 血液型の検査. MNSs, Lewis, その他の血液型. Medical Technology臨時増刊号「輸血検査のすべて」Vol31, No13: 1491-1502. 2003. 医歯薬出版株式会社

◆原 著

1) 菊池 博, 末廣和久, 宮子 博, 竹ノ内博之, 児玉建, 犀川哲典: 大分医科大学, 宮崎医科大学附属病院における血液製剤使用適正化への取り組み. 日本輸血学会雑誌49(1): 57-62. 2003

2) 竹ノ内博之, 児玉 建: ID-GelStationによるMicro Typing Systemの検討. 宮臨技会誌 第83号 16-19. 2003.

◆学会報告

1) 児玉 建, 竹ノ内博之, 野邊順子, 末廣和久: 卒前医学教育における臨床実習の重要性-輸血検査医学実習の当院での取り組み-. 日本輸血学会九州支部会(第50回総会・71回例会), 2003.12月, 沖縄

◆特別講演

1) 児玉 建: 細菌感染症におけるPolyagglutinationの病態. 四国地区輸血検査研修会, 11月, 徳島

集中治療部 (Intensive Care Unit)

◆原 著

1) Tetsuro Shirasaka, Mayumi Takasaki, Hiroshi Kannan: Cardiovascular effects of leprins and orexins. *American Journal of Physiology - Regulatory, Integrative and Comparative Physiology* 284: R639-R651, 2003.

2) De-Lai Qiu, Chun-Ping Chu, Tetsuro Shirasaka, Takashi Nabekura, Takato Kunitake, Kazuo Kato, Masamitsu Nakazato, Takahiko Katoh, Hiroshi Kannan: Neuromedin U depolarizes rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons in vitro by enhancing IH channel activity. *Journal of Neurophysiology* 90: 843-850, 2003.

◆学会発表

1) 白阪哲朗, 松岡博史, 谷口正彦, 指宿昌一郎, 柏田政利, 濱川俊朗, 高崎眞弓: エンドトキシンの血小板機能に及ぼす影響—ソノクロットを用いた評価—. 日本集中治療医学会第30回大会, 2003, 2, 札幌

2) 松岡博史, 柏田政利, 白阪哲朗, 谷口正彦, 濱川俊朗, 高崎眞弓: *Aeromonas* 属細菌のヒアルロニダーゼ産生の有無について. 日本集中治療医学会第30回大会, 2003, 2, 札幌

3) 松岡博史, 立山 直, 大西 真, 林 哲也: *Aeromonas* 属細菌の産生するヒアルロニダーゼの精製. 第76回日本細菌学会総会, 2003, 4, 熊本

4) 榎 英俊, 小松奈美, 福嶋秀一郎, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 卵巣癌の化学療法中に敗血症性ショックとなった患者にエンドトキシン吸着療法5回行い救命した一症例. 第3回宮崎急性血液浄化研究会, 2003, 5, 宮崎

5) 白阪哲朗: オレキシンの交感神経活動に及ぼす影響 (指名講演). 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003, 5, 横浜

6) 成尾浩明, 笠羽敏治, 濱川俊朗, 高崎眞弓: プロポフォルのシナプス再生およびシナプス生成への影響. 日本麻酔科学会第50回学術集会, 2003, 5, 横浜

7) 佐々木文郷, 丸田豊明, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: たこつば型心筋症を合併した横紋筋融解症の一例. 第13回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡

8) 福嶋秀一郎, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: メソトレキセート内服で reversible posterior leukoencephalopathy syndrome となった関節リウマチ患者の1症例. 第13回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡

9) 丸田豊明, 佐々木文郷, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 血漿交換療法施行後に出血傾向が増悪した血球貪食症候群の小児患者の一例. 第13回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡

10) 白阪哲朗, 丸田豊明, 佐々木文郷, 松岡博史, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 非侵襲的人工呼吸 (BiPAP) で在宅呼吸管理可能となった先天性ミオパチーの一症例. 第13回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡

11) 浜崎加奈子, 武田千穂, 土居早苗: 持続的血液濾過透析を行う患者の褥瘡発生要因とその予防のケアの考察—ブレイデンスケールを用いて. 第13回日本集中治療医学会九州地方会, 2003, 7, 福岡

12) 白阪哲朗, 丸田豊明, 松岡博史, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 心臓血管手術後の人工呼吸管理時間に影響する要因. 第25回日本呼吸療法医学会/第13回日本呼吸管理学会合同学術集会, 2003, 8, 千葉

13) 小松奈美, 福嶋秀一郎, 榎 英俊, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 化学療法施行中の敗血症性ショックに対しエンドトキシン吸着療法を行い救命した一例. 第22回宮崎救急医学会, 2003, 8, 小林

14) 丸田豊明, 丸田 望, 三浦弘樹, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: B-T shunt 術後の小児患者の人工呼吸管理期間に影響を与える因子の検討. 九州麻酔科学会第41回大会, 2003, 9, 北九州

15) Tetsuro Shirasaka, Hiroshi Matsuoka, Taro Kawano, Toshiro Hamakawa, Mayumi Takasaki: The effects of propofol on the rat hypothalamic paraventricular nucleus neurons. 2003 Annual Meeting, American Society of Anesthesiologists, 2003, 10, San Francisco

16) 丸田豊明, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 丸田望, 高崎眞弓: 血球貪食症候群の治療中に posterior reversible encephalopathy syndrome を発症した小児の一症例. 日本臨床麻酔学会第23回大会, 2003, 10, 下関

17) 松岡博史, 丸田豊明, 三浦弘樹, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 悪性腫瘍術後の化学療法により重症敗血症になった2症例. 日本蘇生学会第22回大会, 2003, 11, 長野

18) 三浦弘樹, 丸田豊明, 丸田 望, 松岡博史, 白阪哲朗, 濱川俊朗, 高崎眞弓: 低温温療法中の小児溺水患者のARDSにサーファクタントが有効であった一症例. 日本蘇生学会第22回大会, 2003, 11, 長野

周産母子センター (Perinatal Center)

◆著 書

1) 鮫島 浩: 妊娠中の薬物・嗜好物, 改訂合併症妊娠, 455-468, 2003, 金原出版

◆原 著

1) Masatoki Kaneko, Susan White, Jack Homan and Bryan Richardson: Cerebral blood flow and metabolism in relation to electrocortical activity with severe umbilical cord occlusion in the near-term ovine fetus, Am J Obstet Gynecol, 188 (4): 961-972, 2003

2) Hiroshi Sameshima, Yasuyuki Kawagoe, Tsuyomu Ikenoue, Hiroshi Sakamoto: Continuous Systolic Blood Pressure Monitoring By the Difference in Electrocardiogram and Pluse Oximetry in Near-term, Exteriorized Goat Fetuses, J Soc Gynecol Investig, 10:200-204, 2003

3) 池田智明, 池ノ上 克, 鮫島 浩, 寺尾公成, 児玉由紀, 嶋本富博, 西口俊裕, 春山康久, 徳永修一, 三輪勝洋, 高崎 泰, 和田俊朗, 川口日出樹, 川越靖之, 稲森美香, 米田由香里: 「周産期症例検討会」と人的ネットワークの重要性, 周産期医学シンポジウム, 21: 61-65, 2003.

4) Hidenobu Ochiai, Tomoaki Ikeda, Kenichi Mishima, Naoya Aoo, Katsunori Iwasaki, Michihiro Fujiwara, Shinichi Nakano, Tsuyomu Ikenoue, Shinichiro Wakisaka: Local Administration of Glial Cell Line-Derived Neurotrophic Factor Improves Behavioral and Histological Deficit of Neonatal ELB's Palsy in Rats, Neurosurgery, 53(4): 973-978, 2003

5) 池田智明, 池ノ上 克, 鮫島 浩, 金子政時, 川越靖之, 古川誠志, 米田由香里, 大西淳仁, 卜部浩俊, 大里和広, 山下理絵, 田中博明, 福島和子, 村田雄二, Edward J. Quiligan, Ben H. Choi, Soung-Day Park, 土井茂治, Julian T. Parer, 児玉由紀, 寺尾公成, 西口俊裕, 河野慶一郎, 嶋本富博, 春山康久, 今村登志子, 桂木真司, 高崎 泰, 三輪勝洋, 徳永修一, 山内憲之, 園田 徹, 布井 博幸: Asphyxia 性脳障害の診断に関する臨床的および基礎的研究, 日本新生児学会雑誌, 39 (4): 724-732, 2003

◆総 説

1) 鮫島 浩: VBAC の胎児・新生児救命, 産婦人科の実際, 52 (2): 219-222, 2003

2) 池田智明: 小児脳神経疾患と胎児低酸素症, Nervous System in Children (小児の脳神経), 28(1): 1-7, 2003

3) 鮫島 浩, 川越靖之: FHR 異常と新生児予後, 産婦人科の実際, 52(4): 463-469, 2003

4) 鮫島 浩: 妊娠糖尿病と多胎妊娠, 周産期医学, 33(4): 493-496, 2003

5) 鮫島 浩, 肥後貴史: 周産期医療との関連からみた不妊症治療 -耐糖能異常を中心に-, 産婦人科の実際, 52(5): 625-629, 2003

6) 鮫島 浩, 大西淳仁, 池ノ上 克: 胎児 well-being の評価と娩出のタイミング 胎児 well-being の評価法, ペリネイタルケア, 22(8): 8-14, 2003

7) 鮫島 浩: 多胎妊娠の管理 -最近の知見- 2) 分娩管理, 日本産科婦人科学会専門医制度 研修コーナー,

55(9): 2111-215, 2003

8) 鮫島 浩: 予防と対策・母体搬送のタイミング 常位胎盤早期剥離, 産婦人科の実際, 52 (11): 1551-1557, 2003

9) 金子政時: 母子感染の現況と治療的戦略 -サイトメガロウイルス感染症-, 産婦人科の実際, 52 (12): 2069-2074

10) 金子政時, 鮫島 浩, 池ノ上 克, 峰松俊夫: 先天性サイトメガロウイルス (CMV) 感染症と抗原血症, 産婦人科の実際, 52 (13): 2383-2386, 2003

11) 岡村州博, 池田智明, 茨 聡, 瓦林達比古, 神崎徹, 上妻志郎, 佐川 正, 西島正博, 藤森敬也, 山本樹生, 佐藤 章: 胎児心拍数図の用語及び定義とその解説, 日本新生児学会雑誌, 39 (4): 584-595, 2003

◆その他

1) 上妻志郎, 鮫島 浩: 討論とまとめ, 日本新生児学会雑誌, 39 (4): 753-754, 2003

◆学会報告

<国際学会>

1) Tomoaki Ikeda, Jesmin Noor, Tsuyomu Ikenoue, Kenichi Mishima, Katsunori Iwasaki Michihiro Fujiwara: Effect of the Free Radical Scavenger, Edaravone, on histological and Learning Behavioral Difficilt in hypoxic-Ischemiac Brain Damage Model of neonatal Rat. Society for Maternal-Fetal Medicine 23rd Annual Meeting, 2003, 2, サンフランシスコ

2) Tomoaki Ikeda, Tsuyomu Ikenoue, Kenichi Mishima, Katsunori Iwasaki, Michihiro Fujiwara: Adverse Effect of Perinatal Corticosteroid Treatment on Memory and learning Process Associated with Hippocampal Damage in Neonatal Rats. Society for Gynecologic Investigation 50th Annual, 2003, 3, ワシントン

3) Masatoki Kaneko, Hiroshi Sameshima, Tomoaki Ikeda, Tsuyomu Ikenoue, Toshio Minematsu: Evaluation of Intrapartum Fetal Heart Rate Monitoring in Intrauterine Cytomegalovirus Infected Fetus. Society for Gynecologic Investigation 50th Annual, 2003, 3, ワシントン

4) Hiroshi Sameshima, Takafumi Higo, Masato Mibe, Tsuyomu Ikenoue: Prospective study on GDM occurance in infertility patients. International Association of Diabetes and Pregnancy Study Groups(IADPSG), 2003, 8, スペイン

5) Hiroshi Sameshima: Intrapartum FHR Monitoring and Cerebral Palsy in Intrauterine Bacterial Infection. The 6th World Congress of Perinatal Medicine, 2003, 9, 大阪

6) Tomoaki Ikeda: New Approaches to the Treatment of Perinatal Hypoxic-Ischemic Brain Damage. The 6th World Congress of Perinatal Medicine, 2003, 9, 大阪

7) Tomoaki Ikeda: Miyazaki perinatal case conference study on perinatal contributing factors to poor neurological outcome in children. The 13th Taiwan-Japan Symposium in Obstetrical and Gynecological Ultrasound and Perinatology, 2003, 10, ベトナム

<セミナー>

1) 鮫島 浩: どうして必要なの? 妊娠中の血糖管理, 宮崎県産婦人科病医院従事者研修会第 7 回ひむかセミナー, 2003, 3, 宮崎

2) 池田智明: めざせ宮崎県の周産期医療の向上 -常位胎盤早期剥離の管理-, 宮崎県産婦人科病医院従事者

研修会第7回ひむかセミナー, 2003, 3, 宮崎

3) Hiroshi Sameshima: Intrapartum FHR monitoring in unselected and consecutive low risk pregnancy, Seminar on Fetal Heart Rate Monitoring in Miyazaki, 2003, 9, 宮崎

<シンポジウム>

1) 池田智明, 池ノ上 克, 鮫島 浩, 寺尾公成, 児玉由紀, 嶋本富博, 西口俊裕, 春山康久, 徳永修一, 三輪勝洋, 高崎 泰, 和田俊朗, 川口日出樹, 川越靖之, 稲森美香, 米田由香里: 「周産期症例検討会」と人的ネットワークの重要性, 第21回日本周産期学会総会および学術集会, 2003, 1, 東京

2) 池田智明: 今、九州の地域化を考える 「宮崎県」, 第24回九州新生児研究会, 2003, 5, 福岡

3) 池田智明: Asphyxia 性脳障害の診断に関する臨床的および基礎的研究, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山

4) 鮫島 浩: 糖尿病を持つ妊婦の計画妊娠 産婦人科の立場から, 第19回日本糖尿病・妊娠学会, 2003, 10, 新潟

5) 池田智明: PVL の診断, 第43回九州新生児研究会, 2003, 11, 福岡

6) 池田智明: 成長期とスポーツの功罪 産婦人科の立場から, 日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2003, 11, 千葉

<クリニカルカンファレンス>

1) 鮫島 浩: 分娩管理, 第55回日本産科婦人科学会, 2003, 1, 福岡

<特別講演>

1) 鮫島 浩: 新生児のプライマリケア, 日本産婦人科医学会研修会, 2003, 2, 三重

2) 鮫島 浩: ハイリスク妊娠の管理と神経学的予後, 第4回宮崎小児神経セミナー, 2003, 8, 宮崎

<講演>

1) 鮫島 浩: 分娩時胎児モニタリングの再評価, 総合母子保健センター講演会, 2003, 1, 東京

<一般講演>

1) 池田智明, 野田俊一, 夏 義欣, 池ノ上 克: マタニティーブルースと血中神経成長因子濃度, 第42回日本心身医学会九州地方会, 2003, 1, 宮崎

2) 佐藤潤一郎, 大塚珠美, 久保尚美, 高木純一, 園田 徹, 布井博幸, 池ノ上 克: 治療を要した新生児期頻脈性不整脈の6症例についての検討, 日本小児科学会宮崎地方会第53回例会, 2003, 3, 宮崎

3) 池田智明: 神経予後不良例における胎児心拍数モニタリングパターンの後方視的検討 - 分娩時急性 asphyxia 群と non-asphyxia 群との相違 -, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

4) 金子政時, 鮫島 浩, 池田智明, 吉山登志子, 楠元和美, 卜部浩俊, 蓮田 淳, 古田 賢, 児玉由紀, 池ノ上 克, 峰松俊夫: 胎内サイトメガロウイルス感染症児における分娩時胎児心拍数モニタリングの評価, 第55回日本産科婦人科学会学術集会, 2003, 4, 福岡

5) 原田勇一郎, 齋藤真美, 森山重人, 直井信久, 大里和広, 金子政時, 池田智明, 池ノ上 克: 宮崎医科大

学における未熟児網膜症の現状および発症因子について, 第59回日本弱視斜視学会総会・第28回日本小児眼科学会総会合同学会, 2003, 6, 神戸

6) 金子政時, 鮫島 浩, 峰松俊夫, 吉山登志子, 池田智明, 池ノ上 克: 胎内サイトメガロウイルス感染が分娩時胎児心拍数モニタリングに与える影響, 第39回日本新生児学会, 2003, 7, 郡山

7) 杉村 宏, 池田智明, 池ノ上 克: 胎児の MRI: basics, The 4th Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging, 2003, 9, 兵庫

8) 金子政時, 池ノ上 克, 峰松俊夫: 胎内サイトメガロウイルス感染児における分娩時胎児心拍数モニタリングの検討, 第51回日本ウイルス学会学術集会・総会, 2003, 10, 京都

9) 池田智明: 低酸素による周産期死亡と脳障害発生の現状と対策, 厚生労働省・神経疾患研究委託費 15 指4 発達期に発症する外因性脳障害の診断・治療ガイドラインに関する臨床的実証研究発表会, 2003, 11, 東京

10) 金子政時, 池田智明, 児玉由紀, 池ノ上 克: 21例の胎内サイトメガロウイルス感染症の臨床学的検討, 第48回日本未熟児新生児学会, 2003, 11, 前橋

11) 金子政時: 一絨毛膜二羊膜性双児 (MD 双児) の出生前評価: MD-twin' score の有用性に関する前方視的研究, 大隅地区産婦人科医会, 2003, 12, 鹿児島

◆原 著

- 1) 荒木賢二: 地域医療支援と MedXML のこれから ,
Proceedings of NORTH Internet Symposium 2003 ,9: 152-156, 2003
- 2) 荒木賢二: 戦略としての地域を含む連携 , アイティ
ービジョン , 15 (6) : 18-19, 2003
- 3) 荒木賢二: レセプト処理と電子カルテ , アイティ
ービジョン , 15 (10) : 12-13, 2003
- 4) 荒木賢二: 経営情報分析システムの概要 , 第 30 回
日本 M テクノロジー学会大会: 19-20, 2003
- 5) 荒木賢二: 電子カルテとレセプトデータの標準化 ,
月刊新医療 , 30 (4) : 162-165, 2003
- 6) 荒木賢二: 電子カルテについて , しのめ , 113: 2
-17, 2003
- 7) 鈴木斎王 荒木賢二 脇元直彦 富田雄二: 宮崎地
域における医療情報連携システムの構築と運用ーはにわ
ネット(宮崎健康福祉ネットワーク) , 医療情報学 , 23
(1) : , 2003

◆シンポジウム

- 1) 荒木賢二: 地域医療情報の共有・活用を目的とした
宮崎健康福祉ネットワーク , 第 26 回日本医学会総会シ
ンポジウム , 福岡 , 2003.4.4
- 2) 鈴木斎王 荒木賢二: 宮崎医科大学診療情報シス
テム , シーガイアミーティング 2003 , 宮崎 , 2003.5.9
- 3) 鈴木斎王 荒木賢二 富田雄二: ドルフィンプロジェ
クト宮崎地域における医療情報連携システムの構築と運
用 , 地域から発信する科学技術シンポジウム「バイオメ
ディカル」, 宮崎 , 2003.5.12
- 4) 鈴木斎王: 医療マネジメントと医療情報 , 日本医療
情報学会第7回春期学術大会(シンポジウム 2003) , 福
岡 , 2003.6.13
- 5) 荒木賢二: 経営情報分析システムの概要 , 第 30 回
日本 M テクノロジー学会大会シンポジウム , 2003 , 長
崎 , 2003.9.6

◆著 書

- 1) 日野浦雄之, 片岡寛章: 組織内酵素の染色・ペルオ
キシダーゼ染色 Medical Technology 別冊(3) 新染色法
のすべて pp70-72 (2003), 医歯薬出版

◆原 著

- 1) Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Yamashita, A., Sato, Y.,
Sumiyoshi, A. and Asada, Y.: Adrenomedullin augments the
release and production of tissue factor pathway inhibitor in
human aortic endothelial cells. Cardiovasc. Res. 57(1):
232-237 (2003)
- 2) Yamashita, A., Asada, Y., Sugimura, H., Yamamoto, H.,
Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Tamura, S., Ikeda, Y., and
Sumiyoshi, A.: Contribution of von Willebrand factor to
thrombus formation on neointima of rabbit stenotic iliac
artery under high blood-flow velocity. Arterioscler Thromb
Vasc Biol. 23(6): 1105-1110 (2003)

◆症例報告

- 1) Nabeshima, K., Marutsuka, K., Shimao, Y., Uehara, H.,
and Kodama, T.: Osteoma of the frontal sinus complicated by
intracranial mucocele. Pathol Int. 53(4): 227-30 (2003)
- 2) 佐藤信也, 鍋島一樹, 大野招伸, 日野浦雄之, 横上
聖貴, 宮原大作: Xanthogranulomatous meningioma の1例
〜術中迅速診断における細胞診の有用性〜 日本臨床
細胞学会誌 42(2): 107-111 (2003)
- 3) 野口裕史, 花牟礼富美雄, 末川智子, 横内哲博, 藤
林久輝, 鍋島一樹, 佐藤信也, 伊藤浩史: 大腿部に発生
したメルケル細胞癌の 1 例 日本臨床細胞学会九州連合
会雑誌 34: 85-88 (2003)
- 4) 野口裕史, 花牟礼富美雄, 末川智子, 松永清二, 白
尾一定, 浅田祐士郎, 畠山金太, 佐藤信也: 気管支擦過
細胞診にて組織推定に苦慮した小細胞癌の 1 例 宮崎県
臨床衛生検査技師会雑誌 83: 24-26 (2003)

◆総 説

- 1) Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Sato, Y., Yamashita, A.,
Sumiyoshi, A., and Asada, Y.: Immunohistological
localization and possible functions of adrenomedullin.
Hypertension Res. 26(Suppl): S33-S40 (2003)
- 2) 丸塚浩助, 浅田祐士郎: DIC の病理 医学のあゆみ
〜土曜特集〜 206(1): 23-27 (2003)
- 3) 日野浦雄之: 細胞型からみた細胞診 Medical
Technology 31(6): 601-610 (2003)
- 4) 佐藤信也, 鍋島一樹: 頭頸部腫瘍の細胞診 第 1 回
脳腫瘍一圧挫, 捺印法による標本の見方 Medical
Technology 31: 875-882 (2003)
- 5) 花牟礼富美雄, 野口裕史, 末川智子, 豊山博信, 白
尾一定, 佐藤信也, 日野浦雄之, 佐藤勇一郎: 当院にお
ける胸腔および腹腔洗浄細胞診の現状と問題点 日本臨
床細胞学会九州連合会雑誌 34: 45-47 (2003)

◆学会報告

<シンポジウム>

- 1) 丸塚浩助, 畠山金太, 佐藤勇一郎, 山下篤, 盛口清
香, 浅田祐士郎: 血栓は動脈硬化にどのように関わるのか

血液凝固系と動脈硬化発生・進展 第35回日本動脈硬化学会／日本血栓止血学会ジョイントシンポジウム(京都、2003.9)

2)浅田祐士郎、丸塚浩助、畠山金太、佐藤勇一郎、住吉昭信:動脈硬化発生・進展の分子病理 動脈硬化発生・進展における血小板、凝固系因子の関与 第92回日本病理学会総会(福岡、2003.4)

3)浅田祐士郎、丸塚浩助、畠山金太、石川哲憲、今村卓郎:プラーク破綻の危険因子は何か プラークにおける血栓関連因子とC反応性蛋白 第35回日本動脈硬化学会(京都、2003.9)

<一般演題>

1) Yamashita, A., Marutsuka, K., Furukoji, E., Tamura, S., and Asada, Y.: Combination of increased vascular thrombogenesis and blood flow alteration promote obstructive thrombus formation in rabbit femoral artery. XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (Birmingham, 2003.7)

2) Sato, Y., Marutsuka, K., Hatakeyama, K., Sumiyoshi, A., and Asada, Y.: Coagulation system and inflammation significantly contribute to thrombus formation in ruptured plaques than erosive plaques of acute myocardial infarction. XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (Birmingham, 2003.7)

3) Moriguchi, S., Hatakeyama, K., Marutsuka, K., Matsumoto, M., Yagi, H., Sakurai, Y., Fujimura, Y., and Asada, Y.: Localization and activity of ecto-ATP diphosphohydrolase/ CD39 in human tissues. XIX Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (Birmingham, 2003.7)

4) 山元美保子、松山弘紀、佐々木 隆、甲斐泰文、黒木昌幸、山田琢也、森 祐一朗、田中弦一、村井幸一、岡山昭彦、坪内博仁、天野正宏、丸塚浩助: MRIで病変を確認し得た Rothmann-Makai 症候群の一例 第12回宮崎臨床免疫研究会(宮崎、2003.2)

5) 丸塚浩助、山下 篤、畠山金太、浅田祐士郎: 敗血症に伴う冠状動脈破裂による心筋梗塞の一例 第92回日本病理学会総会(福岡、2003.4)

6) 落合竜三、山口健一郎、立野太郎、川崎裕平、古賀治幸、古小路英二、榮 建文、杉村 宏、田村正三、関屋亮、鬼塚敏男、山下 篤、丸塚浩助: 臍部子宮内膜症の1例 日本医学放射線学会(2003.7)

7) 久富庸子、日高智徳、佐々木秀法、外山孝典、坪内博仁、畠山金太、丸塚浩助: 当科における血液疾患剖検例における感染症の検討 第65回日本血液学会・第45回日本臨床血液学会(大阪、2003.8)

8) 高橋伸育、新名一郎、永野元章、旭吉雅秀、河埜喜久雄、丸塚浩助、島山俊夫: 直腸狭窄を認めた後腹膜黄色肉芽腫性炎症の1例 宮崎県外科医会夏期講演会(宮崎、2003.9)

9) 佐藤信也、佐藤勇一郎、大野招伸、日野浦雄之、丸塚浩助: Chordoid meningioma の2例 第42回日本臨床細胞学会秋季大会(横浜、2003.10)

10) 佐藤啓司、荒竹八起、佐藤信也、大野招伸、日野浦雄之、丸塚浩助、小谷富男: 体腔液細胞診におけるNapsin Aの有用性 第42回日本臨床細胞学会秋季大会(横浜、2003.10)

11) 野口裕史、花牟礼富美雄、佐藤信也、伊藤浩史: 穿

刺吸引細胞診にて多数の花弁様多核細胞を認めた脂肪腫様脂肪肉腫の1例 第42回日本臨床細胞学会秋季大会(横浜、2003.10)

12) 山下 篤、丸塚浩助、浅田祐士郎: 閉塞性動脈血栓の形成における血管壁性状と血流の関与; 家兎大腿動脈再傷害モデルでの検討 第26回日本血栓止血学会学術集会(東京、2003.10)

13) 畠山金太、丸塚浩助、佐藤勇一郎、山下 篤、盛口清香、古小路英二、松本雅則、八木秀男、藤村吉博、浅田祐士郎: 冠動脈硬化巣におけるCD39/ecto-ATPase発現の検討 第26回日本血栓止血学会学術集会(東京、2003.10)

14) 石川直人、稲津東彦、大塚正晃、押川勝太郎、村田静香、山家純一、江藤胤尚、丸塚浩助、畠山金太: H. pylori除菌療法により改善した直腸MALTリンパ腫の一例 第10回日本消化器関連学会(大阪、2003.10)

15) 盛口清香、畠山金太、丸塚浩助、浅田祐士郎、日高秀樹、千々岩一男: 結腸原発 Adult T-cell lymphoma/leukemia の一例 第3回宮崎 ATL 研究会(宮崎、2003.10)

16) 有馬里美、江藤忠明、佛坂正幸、岩村威志、千々岩一男、村原貴史、石川直人、稲津東彦、江藤胤尚、畠山金太、丸塚浩助、浅田祐士郎: 胃上部に発生した迷入腺の一例 第82回日本消化器病学会九州支部例会(長崎、2003.11)

17) 大野招伸、丸塚浩助、佐藤信也、日野浦雄之: 左腋窩腫瘍: Cellular myxoma の術中押しつぶし細胞診 平成15年度日本臨床細胞学会宮崎県支部症例検討会(宮崎、2003.12)

18) 大野招伸、丸塚浩助、佐藤信也、日野浦雄之: 左上眼瞼腫瘍: Sebaceous carcinoma 捺印細胞診 平成15年度日本臨床細胞学会宮崎県支部症例検討会(宮崎、2003.12)

◆その他

1) 日野浦雄之: 第25回九州細胞診研修会を開催して 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 34: 219-221 (2003)

◆原 著

1) Totoribe K, Matsumoto M, Goel VK, Yang SJ, Tajima N, Shikinami Y: Comparative biomechanical analysis of a cervical cage made of an unsintered hydroxyapatite particle and poly-L-lactide composite in a cadaver model, Spine, 28(10):1010-1015, 2003.

2) Sonoda N, Chosa E, Totoribe K, Tajima N: Biomechanical analysis for stress fractures of the anterior middle third of the tibia in athletes: nonlinear analysis using a three-dimensional finite element method, J Orthop Sci, 8(4):505-513, 2003.

3) Goto K, Tajima N, Chosa E, Totoribe K, Kubo S, Kuroki H, Arai T: Effects of lumbar spinal fusion on the other lumbar intervertebral levels (three-dimensional finite element analysis), J Orthop Sci, 8(4):577-584, 2003.

4) 鳥取部光司, 帖佐悦男, 園田典生, 後藤啓輔, 田島直也: TKA における骨移植の脛骨コンポーネントの安定性に及ぼす影響 有限要素法を用いて, 日本臨床バイオメカニクス学会誌, 24:299-303, 2003.

◆学会報告

1) 後藤啓輔, 田島直也, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 鳥取部光司, 黒木浩史, 新井 隆: 腰椎固定による椎間板変性を伴う上位隣接椎間への影響- 三次元有限要素法を用いて -, 第32回日本脊椎脊髄病学会, 2003, 4, 福岡.

2) 鳥取部光司, 帖佐悦男, 黒木浩史, 後藤啓輔, 渡部正一, 田島直也: 脊髄損傷患者に対するアンケート調査による社会的不利の検討, 第40回日本リハビリテーション医学会学集, 2003, 6, 札幌.

3) 園田典生, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 山本恵太郎, 田島直也: 腓骨疲労骨折に関する3D-FEMを用いた生体力学的検討, 第29回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2003, 7, 軽井沢.

◆著 書

1) 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨 総編集: 「医学大辞典」(医学書院 2003). 有森和彦分担執筆

2) 高崎眞弓 編集: 麻酔科診療プラクティス 9. 周術期治療薬ガイド(文光堂 2003). 有森和彦「薬(やく)と剤(ざい)の違いについて」p153

◆原 著

1) 緒方賢次, 高村徳人, 山口長三郎, 日高宗明, 山崎啓之, 奥村学, 児玉裕文, 有森和彦: 市販の速崩壊錠の自動錠剤分包機への適応性 日本病院薬剤師会雑誌 39, 719-722 (2003)

2) 児玉裕文, 林克裕, 林要人, 山口昌俊, 山下康洋, 小野浩重, 八木優子, 堀真由美, 奥村学, 川崎由美子, 黒木恵美, 鈴智子, 田口なるみ, 荒武八起, 梅木一美, 鈴木千代子, 工藤正直, 長田幸夫, 有森和彦: 治験における事前審査の有用性と今後の展望. 臨床薬理. 34, 181S-182S (2003).

3) E. Toorisaka, H. Ono, K. Arimori, N. Kamiya, M. Goto: Hypoglycemic effect of surfactant-coated insulin solubilized in a novel solid-in-oil-in-water (S/O/W) emulsion. Int J Pharm. 252, 271-274 (2003)

4) T. Satoh, H. Munakata, K. Fujita, S. Itoh, T. Kamataki, I. Yoshizawa: Studies on the interactions between drug and estrogen. II. On the inhibitory effect of 29 drugs reported to induce gynecomastia on the oxidation of estradiol at C-2 or C-17. Biol Pharm Bull. 26, 695-700 (2003)

5) K. Fujita, M. Hidaka, N. Takamura, K. Yamasaki, T. Iwakiri, M. Okumura, H. Kodama, M. Yamaguchi, T. Ikenoue, K. Arimori: Inhibitory effects of citrus fruits on CYP3A activity in humans. Biol Pharm Bull. 26, 1371-1373 (2003)

6) K. Arimori, N. Kuroki, M. Hidaka, T. Iwakiri, K. Yamasaki, M. Okumura, H. Ono, N. Takamura: Effect of P-glycoprotein modulator, cyclosporin A, on the gastrointestinal excretion of irinotecan and its metabolite SN-38 in rats. Pharm Res. 20, 910-917 (2003)

◆総 説

1) 有森和彦, 高村徳人: 非ステロイド抗炎症薬(NSAIDs)の蛋白結合と置換現象を利用した投与設計. 九州薬学会会報 57, 19-27 (2003)

2) 伊東健一: 病院内の患者情報の共有化-電子カルテによる患者情報の共有化-. Medical Pharmacy. 37, 7-11(2003)

3) 高村徳人, 有森和彦: 薬学的分布診断法の開発と攻めの薬物投与法の確立 病院薬剤師の技術をかけた挑戦 ファルマシア. 39, 956-960 (2003)

4) 奥村学, 有森和彦: 病院内における感染防止対策. 薬事新報 2271, 664-667 (2003)

5) 高村徳人, 帖佐悦男, 奥村学, 横田崇, 藤田健一, 日高宗明, 緒方賢次, 山崎啓之, 徳永仁, 津田聖一, 川井恵一, 有森和彦: 関節リウマチ(RA)患者に対する鎮痛薬ナブメトンの効果的な投与法. 医薬ジャーナル 39, 1041-1046 (2003)

6) 有森和彦, 伊東健一: 電子カルテを活用した薬剤管

理指導業務, Hospha 5, 13-15 (2003)

7) 小野浩重, 有森和彦: 験の補償・賠償事例と意識調査. 月刊ファームステージ 3, 53-60 (2003)

◆学会報告

1) 有森和彦: 電子カルテの導入と薬剤業務への応用
日本薬学会第123年会 2003, 3. 長崎

2) 古屋弓子, 高村徳人, 平田幸子, 日高宗明, 大野梨絵, 福満香苗, 児玉裕文, 有森和彦: ムコダインドライシロップと各種嗜好品との配合による服用しやすさの検討
日本薬学会第123年会 2003, 3. 長崎

3) 小川数馬, 向高弘, 井上靖之, 川井恵一, 花岡宏史, 石野誠悟, 高村徳人, 橋本和幸, 荒野泰, 佐治英郎: 癌性骨転移疼痛緩和薬剤186Re-MAG3-HBPにおける血清蛋白との結合および体内分布に与える蛋白結合競合阻害剤の影響. 日本薬学会第123年会 2003, 3. 長崎

4) 通阪栄一, 神谷典穂, 後藤雅宏, 小野浩重, 有森和彦: 界面活性剤コーティングインスリンを封入した新規マイクロスフェアの開発. 第19回日本DDS学会 2003, 6. 京都

5) N. Kamiya, E. Toorisaka, H. Ono, K. Arimori, M. Goto: Oral delivery of insulin using a novel solid-in-oil-in-water (S/O/W) emulsion. Asia Pacific Biochemical Engineering Conference, APBioChEC'03. 2003, 7. Brisbane, Australia.

6) 藤田健一: 宮崎医科大学における治験の有害事象
第3回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2003 in 東京 2003, 9. 東京

7) 藤田健一, 日高宗明, 山崎啓之, 高村徳人, 奥村学, 児玉裕文, 有森和彦: 宮崎およびその周辺産の柑橘類の成分はヒトCYP3Aの活性を阻害するか? 第13回日本医療薬学会年会 2003, 9. 神戸

8) 岩切智美, 奥村学, 日高宗明, 藤田健一, 山崎啓之, 熊谷有紀, 佐々木裕美, 大野梨絵, 津田聖一, 佐藤梨恵, 瀬戸口奈央, 小川衣里, 興梠靖之, 甲斐広文, 児玉裕文, 有森和彦: 薬剤師による投与前遺伝子診断の臨床応用に向けて. 第13回日本医療薬学会年会 2003, 9. 神戸

9) 高村徳人, 帖佐悦男, 徳永仁, 奥村学, 藤田健一, 緒方賢次, 日高宗明, 児玉裕文, 川井恵一, 有森和彦: 薬学的分布診断法に基づく攻めの薬物投与設計.
第13回日本医療薬学会年会 2003, 9. 神戸

10) 永井公洋, 三部正人, 池ノ上克, 日高宗明, 有森和彦: 塩酸イリノテカン活性代謝物SN-38の薬物動態の個人差に関する検討. 第39回日本癌治療学会総会 2003, 11. 広島

11) 横尾宏毅, 柳田俊彦, 菅野孝, 佐藤伸矢, 岩切智美, 小林英幸, 和田明彦: Glycogen synthase kinase-3によるインスリン受容体細胞膜発現調節. 第56回日本薬理学会西南部会 2003, 11. 大分

12) 岩切智美, 柳田俊彦, 菅野孝, 佐藤伸矢, 横尾宏毅, 小林英幸, 和田明彦: Insulin-like growth factor-Iによる電位依存性Na⁺チャネルのup-regulation. 第56回日本薬理学会西南部会 2003, 11. 大分

13) 佐藤伸矢, 柳田俊彦, 白石成二, 横尾宏毅, 小林英幸, 菅野孝, 岩切智美, 和田明彦: イムノフィリン・リガンドのインスリン・シグナリングへの影響. 第56回日本薬理学会西南部会 2003, 11. 大分

14) 日高宗明, 山崎啓之, 奥村学, 岩切智美, 藤田健一, 荻窪哲也, 児玉裕文, 永井公洋, 池之上克, 高村徳人, 有森和彦: 塩酸イリノテカン投与患者における便秘の危険

性と副作用防止に関する検討. 第24回日本臨床薬理学会 2003, 12. 横浜

◆その他

1) 有森和彦: 慢性関節リウマチ患者に対するNSAIDの蛋白結合置換を考慮した効果的投与例. 広島県病院薬剤師会学術研修会 2003, 1. 広島

2) 有森和彦: 治験ってなに? ~新しい薬ができるまで~. 全国治験啓発キャンペーン.NPO 法人 ニューイング 2003, 6. 宮崎

3) 伊東健一: 薬剤部における血液製剤の管理と適正使用の推進. 三菱ウェルファーマ(株)学術講演会 2003, 6. 宮崎

4) 有森和彦: ラットにおける塩酸イリノテカンの消化管排泄動態とファーマコダイナミクス. 産学官連携 DDS セミナー 2003, 8. 宮崎

5) 有森和彦: 慢性関節リウマチ患者に対する蛋白結合置換を考慮したNSAIDsの投与設計. 鹿児島県病院薬剤師会研修会 2003, 9. 鹿児島

6) 有森和彦: 薬の専門家・処方監査者としての薬剤師
延岡市薬剤師研修会 2003, 10. 宮崎

7) 小野浩重, 山崎啓之, 有森和彦: 塩酸イリノテカン経口製剤のラットにおける腸管吸収に関する検討. 平成14年度地域新生コンソーシアム研究開発事業成果報告書 p147-150 (2003)

8) 岩切智美: 遺伝子診断における genetic および epigenetic 解析に関する基礎的検討. 学位論文: 2003, 3; 薬学修士 (熊本大学)

看護部 (Department of Nursing)

◆著 書

1) 水永豊子:看護事故予防学, p132-141, 土屋八千代, 山田静子, 鈴木俊夫編集, 中山書店, 2003

◆報 告

1) 中村美保子, 内村章子, 西原みどり:入院中の子どものベッド転落防止についての検討—表示カードを用いた家族、看護師への働きかけ—, 日本小児看護学雑誌, 12(1), 31-35, 2003

2) 草場ヒフミ, 中富利香, 西原みどり, 田端博子:入院児のストレス・コーピングとケア環境, 小児看護, 26(8), 997-1000, 2003

◆症例報告

1) 清水智美, 柚木崎智子:膀胱内留置バルーンカテーテルを留置している患者の行動範囲に差が生じる要因についての一考察, 平成 14 年度院内看護研究発表会

2) 藤浦まなみ, 柚木崎智子:幼児期に腎盂形成術を受けた患児の看護—長期に留置した腎瘻カテーテルの管理を通して—, 平成 14 年度院内看護研究発表会

3) 堂領由香里, 長崎玲子:オリゴ糖による便秘の改善, 平成 14 年度院内看護研究発表会

4) 落合奈美子:転倒・転落防止対策のためのベッドサイドカンファレンスについての患者の意識調査, 平成 14 年度院内看護研究発表会

5) 野中ひとみ, 長崎玲子:患者用クリティカルパスの作成と評価, 平成 14 年度院内看護研究発表会

6) 小野直美, 河野直美, 小田浩美, 土屋八千代:糖尿病患者の知識を行動レベルで点数化したアセスメントスコアシート—その作成と有効性—, 平成 14 年度院内看護研究発表会

7) 倉住洋子:大腸切除後の退院指導パンフレットの検討, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

8) 岡村千春:癌化学療法副作用に伴う悪心・嘔吐の軽減に対する指圧の効果, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

9) 末富夕喜:皮膚の掻痒感に対するラベンダーを利用したアロマバスの効果, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

10) 花倉絵美:冷電法の部位による皮膚温・深部温の変化, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

11) 小野有加里:高圧蒸気滅菌物の有効期限の検討—寒天培地を利用して—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

12) 山下智子:患者の麻薬使用に関する意識調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

13) 柴畑恵恵:看護師の血液透析中の危険予知についての意識調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

14) 原村可奈子:服薬指導の実態と患者の意識, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

15) 諸隈理恵:隔離を必要とする患者・家族の心理, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

16) 橋本佳奈:幼児期にある患者の口腔ケア, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

17) 田原史子:夜間巡視の実態と検証—異常の早期発

見を目指して—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

18) 菅晴香:高齢者で尿路変更術を受けた患者への指導について—尿管皮膚瘻造設術を受け、カテーテルを留置された患者の一事例を通して—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

19) 川野希:下咽頭腫瘍術後に安静を強いられている患者の苦痛を感じる要因の実態調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

20) 竹林悠子:不安・焦燥感が強い患者の自己理解に向けた関わりについての一考察, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

21) 山本朋子:頻回にコールする患者の対応を振り返って—術後長期人工呼吸器装着患者の看護を通して—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

22) 榎田祐志:サマーキャンプでの I 型糖尿病患児への援助—サマーキャンプ中低血糖を起こした患児の事例より—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

23) 山内章代:乳児の人工肛門閉鎖術後のスキンケアについての一考察, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

24) 松山茜:腰部交感神経節ブロック術を受ける患者の術前・術後の疼痛スケール評価へのアプローチ痛みによる日常生活への影響レベルに視点をあてて—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

25) 泥谷美佳:非密封線源治療前オリエンテーションの理解度に影響する因子についての一考察, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

26) 橋元博美:看護師の口腔ケアに関する知識・実態調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

27) 大山富起子:自傷行為を繰り返す思春期の適応障害患児に対する関わりについての一考察, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

28) 西奈緒子:うつ状態で食欲不振のある患者への関わりについての一考察, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

29) 小川智子:ナースコールを押すことに戸惑いを感じている患者の実態調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

30) 工藤真由美:手術後患者における睡眠導入に対する音楽療法の効果, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

31) 鳥羽みさ子:活動制限のある患者の効果的な排泄介助について—ベッドサイドでの排泄を行う患者の心理と減音効果の検討—, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

32) 百武陽子:3階東病棟看護師のインシデントについての意識調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

33) 笹葉江里香:NG—T 自己抜去防止への取り組み, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

34) 坂下優子:高齢者のストーマ造設術後の自立への関わり, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

35) 立山喜美子:早産児の無呼吸発作への早期対処法の検討, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

36) 黒木由美子:看護計画の現状と患者参加型看護計

画に対する看護師の意識調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

37) 吉元香: 入院患者の不快と感じる夜間の音についての調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

38) 今井千穂: 視力障害患者の点眼ケースの工夫, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

39) 山口健一: 転倒転落予防に対する家族の意識変化の調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

40) 長野知子: 患者にとってわかりやすい検査説明の工夫とは一検査内容に対する患者の不安や疑問の実際一, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

41) 西とき子: ポピドンヨード液を使用しての足の洗いづらい部分の調査一糖尿病患者のフットケアの充実に向けて一, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

42) 大園友美: 睡眠導入に対する音楽の効果一術後に 6 日間の絶対安静を強いられた患者の事例を通して一, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

43) 河野さおり: 咽頭痛を増強させる食物の内容・形状の検討一両口蓋扁桃摘出術を受けた患者の二事例を通して一, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

44) 川上裕美: 集中治療部における医療機器が発生させる監視音・警報音の実態調査, 平成 15 年度卒後 2 年目看護師研修看護研究発表会

45) 島原和美, 嶋元和子, 神尊範子: 精神疾患を持つ患者の周手術期看護について一患者の個性を生かした手術部搬入・搬出を試みて一, 平成 15 年度院内看護研究発表会

46) 福添純子, 竹林悠子, 中村小夜子: 拒食を続ける思春期患者への自己開示に向けたアプローチ, 平成 15 年度院内看護研究発表会

47) 尾蘭祐子, 渡邊雅子, 南佳代子, 浜松純子, 柏原いづみ, 森山良子, 上森しのぶ: 当周産母子センターでのカンガルーケアへの取り組み, 平成 15 年度院内看護研究発表会

48) 浜崎加奈子, 武田千穂, 土居早苗: 持続的血液濾過透析を行う患者の褥瘡発生要因の考察とその予防的ケアの取り組み一ブレデンスケールを用いて一, 平成 15 年度院内看護研究発表会

49) 岩切ひとみ, 濱田真美, 清水志希子, 中村小夜子, 土屋八千代: 精神科病棟における継続した患者参加型カンファレンスの導入とその効果, 平成 15 年度院内看護研究発表会

50) 落合奈美子: ベッドサイドカンファレンスによる転倒・転落防止対策一導入前・後の転倒・転落件数の変化について一, 平成 15 年度院内看護研究発表会

◆学会報告

1) 落合奈美子, 小田浩美: 転倒・転落防止対策のためのベッドサイドカンファレンスについての患者の意識調査, 宮崎県看護研究学会, 2003.3.8. 宮崎

2) 清水智美, 柚木崎智子: 膀胱内留置バルーンカテーテルを留置している患者の行動範囲に差が生じる要因についての一考察, 宮崎県看護研究学会, 2003.3.8. 宮崎

3) 堂領由香里, 長崎玲子: オリゴ糖による便秘の改善, 宮崎県看護研究学会, 2003.3.8. 宮崎

4) 平原恵美, 白坂幸子, 嶋元和子, 神尊範子: 手術準備キット導入による看護業務改善, 第 12 回宮崎医療材料滅菌・管理研究会, 2003.1.25. 宮崎

5) 宮原朋子, 清水一優, 鬼束仁, 黒木武成, 中武真理子: 一次洗浄廃止後の問題点と対策, 第 12 回宮崎医療材料滅菌・管理研究会, 2003.1.25. 宮崎

6) 中武真理子, 黒木武成, 清水一優, 鬼束仁, 宮原朋子: 特定化学物質等障害予防規則への対応, 第 12 回宮崎医療材料滅菌・管理研究会, 2003.1.25. 宮崎

7) 兒玉玲子, 奥村智子: 悪心増強因子の分析と考察一癌化学療法と放射線治療を併用した場合一, 第 3 回宮崎県放射線治療研究会, 2003.3.8. 宮崎

8) 島原和美, 嶋元和子, 神尊範子: 精神疾患を持つ患者の周手術期看護について, 第 22 回日本手術看護九州地区, 2003.6.15. 宮崎

9) 落合奈美子, 小田浩美, 井上八千代: ベッドサイドカンファレンスによる転倒・転落防止対策一導入前・後の転倒転落件数の変化について一, 第 34 回日本看護学会老年看護, 2003.9.26. 宮崎

10) 限元菜々, 山家真由美, 小田浩美: 高温の半身浴が循環動態に及ぼす影響, 第 26 回日本高血圧学会, 2003.11.1. 宮崎

11) 浜崎加奈子, 武田千穂, 土居早苗: 持続的血液濾過透析を行う患者の褥瘡発生要因とその予防ケアの考察, 日本集中治療医学会九州地方会, 2003.7.12. 宮崎

12) 岩切ひとみ, 濱田真美, 清水志希子, 中村小夜子, 土屋八千代: 精神科病棟における継続した患者参加型カンファレンスの導入とその効果, 平成 15 年度九州地区看護研究学会, 2003.11.26. 佐賀

13) 尾蘭祐子, 渡邊雅子, 南佳代子, 浜松純子, 柏原いづみ, 森山良子, 上森しのぶ: 当周産母子センターでのカンガルーケアへの取り組み, 平成 15 年度九州地区看護研究学会, 2003.11.26. 佐賀

14) 前畑優子, 上杉美保, 村田節子, 濱砂陽子, 水永豊子, 古家明子: 看護過程における推論の傾向とその妥当性について, 第 9 回日本看護診断学会学術大会, 2003.6.14. 福岡

15) 福添純子, 竹林悠子, 中村小夜子: 拒食を続ける思春期患者の自己開示に向けたアプローチ, 第 49 回九州精神保健学会, 2003.11.6. 福岡

16) 堂領由香里, 小田浩美: オリゴ糖による透析患者の便秘の改善, 第 36 回九州人工透析研究会総会, 2003.11.23. 佐賀

17) 餅原悦子, 福留智美, 岩元真奈美, 向井ふさ子: ATL患者のGVHD皮膚症状における看護の検討, 第 26 回日本造血細胞移植学会, 2003.12.19. 東京

◆その他

1) 竹生まゆみ: 平成 14 年度他職種業務体験研修アンケート結果報告, 平成 14 年度委員会等報告会

2) 松本由美子: 平成 14 年度「外来看護の会」活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会

3) 三輪元子: 看護支援システムの現状とシステム委員の活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会

4) 川崎由美子: 治験コーディネーター (CRC) 活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会

5) 藤浦まなみ, 横山悦子: 平成 14 年度新規採用看護師オリエンテーション「医療事故防止のための基礎技術の評価」, 平成 14 年度委員会等報告会

- 6) 竹生真規:「患者参加型の看護」への取り組み, 平成 14 年度委員会等報告会
- 7) 後山知子:平成 14 年度看護手順委員会「医療事故防止に対する取り組み」, 平成 14 年度委員会等報告会
- 8) 村山佳寿子:平成 14 年度副看護師長会活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会
- 9) 後藤光代:平成 14 年度厚生委員会活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会
- 10) 久保敦子:リーダーシップ研修の評価, 平成 14 年度委員会等報告会
- 11) 春田文香:「がん看護」ーがん性疼痛マニュアルを活用した事例を通してー, 平成 14 年度委員会等報告会
- 12) 北園舞子:強化病棟報告ー抗がん剤の安全な取り扱いへの取り組み, 平成 14 年度委員会等報告会
- 13) 川原智恵子:強化病棟報告ー患者参加型看護の取り組み, 平成 14 年度委員会等報告会
- 14) 関美穂:強化病棟報告ー継続看護の取り組み, 平成 14 年度委員会等報告会
- 15) 西嶋眞里子:強化病棟報告(その 5)ー呼吸体操・呼吸リハビリクリティカルパスの取り組みー, 平成 14 年度委員会等報告会
- 16) 長友久美子:患者参加型看護の試みー看護応援カードを用いた取組と評価, 平成 14 年度委員会等報告会
- 17) 楠見和子:平成 14 年度臨床実践支援ナース養成研修報告, 平成 14 年度委員会等報告会
- 18) 高野弘子:臨床実践支援ナース 1 期生「ナースが行う呼吸理学療法」活動報告, 平成 14 年度委員会等報告会

フロンティア科学実験総合センター

附属動物実験施設
(Experimental Animal Center)
～2003年3月

**フロンティア科学実験総合センター
実験支援部門 生物資源分野**
(Department of Bio-resources,
Division of Biotechnology,
Frontier Science Research Center)
2003年4月～

◆著 書

1) N. Kamezaki, Y. Matsuzawa, O. Abe, H. Asakawa, T. Iwamoto, Y. Nakamura, et al.(29 authors): Loggerhead Turtles Nesting in Japan in Loggerhead Sea Turtles, (A. B. Bolten and B. E. Witherington eds.), 210～217 Smithsonian Books, Washington, 2003

◆原 著

1) Akio Shinohara, Kevin L. Campbell and Hitoshi Suzuki: Molecular Phylogenetic Relationships of Moles, Shrew moles and Desmans from the New and Old Worlds, Molecular phylogenetics and Evolution, 27, 247-258, 2003

2) Shin-ichiro Kawada, Akio Shinohara, Masatoshi Yasuda, Sen-ichi Oda and Lim Boo Liat: The mole of Peninsular Malaysia: notes on its identification and ecology, Mammal study 28:73-77, 2003.

3) 末吉豊文・中村豊・岩切康二: 宮崎県新富町に落鳥したオオノスリの収蔵について, 宮崎県立博物館研究紀要, 24:8-11, 2003.

4) 中村豊・森田純一: 鹿児島県におけるカワネズミの記録, ANIMATE, 4:67-68, 2003

◆総 説

1) 越本知大: 生命を凍らせて保存するー生物学的タイムマシンにどこまで期待できるかー, Boundary, 19(9): 21-25, 2003

◆学会発表

1) 篠原明男・Kevin L・Campbell・鈴木仁: RAG1 遺伝子の塩基配列解析に基づくモグラ科の系統関係, 日本進化学会第5回大会 福岡市 (2003)

2) 篠原明男・川田伸一郎・安田雅俊・Lim Boo Liat: マレーシア国キャメロンハイランドにて捕獲されたチビオモグラ *Euroscaptor micrura* に対する分子系統学的解析, 日本哺乳類学会 2003 年度大会 盛岡市 (2003)

3) 原田正史・篠原明男・川田伸一郎・Liang-Kong Lin: タイワンモグラ *Mogera insularis* における地理的変異に関する遺伝学的解析, 日本哺乳類学会 2003 年度大会 盛岡市 (2003)

4) 芳賀猛・村山丹穂・篠原明男・越本知大・駒瀬勝啓: コットンラット動物モデルにおける P 蛋白変異麻疹ウイルス株の解析, 第 51 回日本ウイルス学会学術集会 京都市

(2003)

5) 正木美佳・越本知大・森田哲夫: 冬季集合時におけるハントウアカネズミ *Apodemus peninsulae* の休眠, 日本生態学会九州地区第 48 回大会 熊本市 (2003)

6) 越本知大・Loralyn Cozy・葛西孫三郎・枝重圭祐・篠原明男・Mary Anne Pultz: キョウソヤドリコバチ (*Nasonia vitripennis*) 受精卵の凍結保存へのアプローチ, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

7) 篠原明男・越本知大・中村豊・堀井順子・末石広美・土屋公幸: 加齢および飼料成分が、自然発症型高脂血症マウスの血中コレステロール値に及ぼす影響, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

8) 村山丹穂・芳賀猛・後藤義孝・篠原明男・越本知大・駒瀬勝啓: コットンラットモデルによる麻疹ウイルス変異株の解析, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

9) 豊福祐史・高橋俊浩・森田哲夫・越本知大・金子たかね・毛利孝之・織田銃一: スンクスにおける繁殖時の日内休眠, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

10) 渡部大介・西村聡子・高橋俊浩・森田哲夫・越本知大・土屋公幸: カイロゲマウスを用いた 浸透圧ストレスによる日内休眠誘導の試み, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

11) 進村美穂・坂井俊之助・土屋公幸・森田哲夫・宮下信泉・米川博通・森脇和郎・FRISMAN Lubov・越本知大・篠原明男: 野生マウスにおける補体系制御蛋白ファクター H の新変異体の発見, 第 21 回九州実験動物研究会総会 大分市 (2003)

12) 泉孝一・中村豊・篠原明男・稲井成恵・甲斐隆志・越本知大: 光触媒酸化チタン膜による実験動物バリア区域への細菌キャリアオーバー防止効果の検討, 第 26 回日本実験動物技術者協議会九州支部研究発表会 大分市 (2003)

13) 伊藤薫・岡安操・越本知大・土屋公幸・伊藤勝昭: 自然発症高コレステロール血症マウスの摘出血管における反応性の変化, 第 56 回日本薬理学会西南部会 大分市 (2003)

14) 中村豊: 渡船や漁船を使った洋上調査のメリット・デメリット, 日本鳥学会 2003 年度大会自由集会 青森県弘前市 (2003)

◆その他

＜シンポジウム＞

1) 越本知大: 生命を凍らせて保存する: 第 5 回 21 世紀の境界領域を考えるシンポジウム, 福岡県春日市 (2003)

2) 中村豊: 宮崎海岸の砂浜の浸食とウミガメ; 公開シンポジウム「日本の砂浜をどうしていくのか」, 日本ウミガメ会議 愛知県豊橋市 (2003)

＜教育講演＞

3) 篠原明男: DNA から見るモグラ科の進化, 名古屋大学農学部動物管理学特別セミナー 名古屋市 (2003)

4) 中村豊: 枇杷島と貴重な鳥 (特にカンムリウミスズメに

ついて)、門川町教育委員会社会教育課 門川町総合文化会館 (2003)

5) 中村豊: 自然公園内での鳥類観察、宮崎県生活環境課自然公園指導員講演 宮崎県企業局県電ホール (2003)

6) 中村豊: 宮崎の野鳥について、宮崎県環境科学協会 宮崎県環境情報センター (2003)

7) 中村豊: 高千穂町の野鳥、西臼杵郡高千穂町農林振興課 高千穂町役場会議室 (2003)

報告書

8) 土屋公幸・篠原明男・船越公威・國崎敏廣: エラブオオコウモリの遺伝的多様性について、エラブオオコウモリ天然記念物緊急調査報告書、12-17、鹿児島県上屋久町教育委員会 (2003)

<執筆協力>

9) 中村豊: 宮崎県総合博物館企画展図録・霧島の自然「火山と生きもののおりなす世界」、宮崎県総合博物館編 (2003)

医学部附属実験実習機器センター (Central Research Laboratories)

～2003 年 3 月

フロンティア科学実験総合センター 実験支援部門 RI分野 清武分室

(Department of RI Laboratory (Kiyotake Branch),
Division of Biotechnology,
Frontier Science Research Center)

2003 年 4 月～

◆著 書

1) Kenmochi N : Ribosomes and Ribosomal Proteins. In: Cooper DN (ed.) Nature Encyclopedia of the Human Genome., vol 5 : pp 77-82, 2003. London: Nature Publishing Group.

◆総 説

1) 剣持直哉 : リボソーム病: 新たな疾患としての可能性を探る. 蛋白質核酸酵素 増刊号, 48: 508-516, 2003.

◆学会報告

1) Kenmochi, N., Yoshihama, M., Uechi, T. and Nakao, A. : The ribosomal protein genes: Comparison of gene structures and evolution of introns. 68th Cold Spring Harbor Symposium on "The Genome of Homo sapiens", 2003, Cold Spring Harbor, New York.

2) Sagara, J., Nakamura, S., Kenmochi, N., and Asai, K. : Prediction of snoRNAs in human genome. International Conference on "Intelligent Systems for Molecular Biology", 2003, Brisbane, Australia.

3) 中尾彰宏, 剣持直哉 : リボソームタンパク質遺伝子データベース(RPG)の構築. 第 27 回九州シンポジウム. 2003, 宮崎.

4) 吉浜麻生, 剣持直哉 : イントロンの起源と進化: リボソームタンパク質遺伝子を用いた解析. 第 27 回九州シンポジウム. 2003, 宮崎.

5) 吉浜麻生, 剣持直哉 : リボソームタンパク質遺伝子を用いた GU-AG イントロンの進化の解析. 第 5 回日本進化学会. 2003, 福岡.

6) Kenmochi, N., Yoshihama, M., Uechi, T. and Nakao, A. : Comparative analysis of ribosomal protein genes and evolution of introns. International Symposium on "New Horizons in Molecular Sciences and Systems: An Integrated Approach". 2003, Okinawa.

7) Kenmochi, N., Yoshihama, M., Uechi, T. and Nakao, A. : Comparative analysis of ribosomal protein genes and evolution of introns. Annual Meeting of American Society of Human Genetics. 2003, Los Angeles.

8) Kenmochi, N., Nakao, A. and Yoshihama, M. : Construction of the Ribosomal Protein Gene (RPG) database. International Symposium on "The New Frontier of RNA Science". 2003, Kyoto.

9) Yoshihama, M., Nakao, A., Kodama, J. and Kenmochi,

N. :Evolution of GU-AG introns: Large-scale comparison of ribosomal protein genes. International Symposium on "The New Frontier of RNA Science". 2003, Kyoto.

10)Uechi, T., Hashimoto, Y., Inoue, K. and Kenmochi, N. :Ribosomal protein gene knockdown using the antisense oligos in zebrafish. International Symposium on "The New Frontier of RNA Science". 2003,Kyoto.

11)石井強太, 柳澤直宏, 鷲尾尊規, 上地珠代, 吉浜麻生, 中尾彰宏, 剣持直哉, 富田勝 :ヒトリボソームタンパク質遺伝子の転写・翻訳機構に関する大規模解析. 第 26 回日本分子生物学会年会. 2003,神戸.

12)上地珠代, 橋本祥子, 井上邦夫, 剣持直哉 :ゼブラフィッシュにおけるリボソームタンパク質遺伝子の発現抑制. 第 26 回日本分子生物学会年会. 2003,神戸.

13)吉浜麻生, 中尾彰宏, 児玉隼一, 剣持直哉 :リボソームタンパク質遺伝子からイントロンの進化を探る. 第 26 回日本分子生物学会年会. 2003,神戸.

◆その他

1) 田原義弘, 川井恵一, 西井龍一, 後藤稔男, 田村正三:温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (I) —フィルムバッジ—. RADIOISOTOPES,VOL.52, 180-185

2) 田原義弘, 川井恵一, 中村貴, 後藤稔男, 田村正三: 温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (II) —OSL 線量計・ガラス線量計—. RADIOISOTOPES,VOL.52, 231-234

3) 田原義弘, 川井恵一, 中村貴, 後藤稔男, 田村正三: 温度による個人被曝線量計の測定値への影響 (II) —OSL 線量計・ガラス線量計—. 平成15年度主任者部会年次大会 (第44回放射線管理研修会) 要旨集, 171-174

保 健 管 理 セ ン タ ー

保健管理センター 清武キャンパス分室
(Center for Student Health, Kiyotake branch)

◆学会報告

1) 宮野秀市 2003 インタラクティブ CG はビデオ映像よりも臨場感が高いか？:コストエフェクティブな仮想環境構築の為の一試行 日本心理学会第 67 回大会発表論文集, 536.

2) 小澤夏紀・宮野秀市・川上祐佳里・小山徹平・富家直明・坂野雄二 2003 女性誌によるメディア被曝と食行動異常 日本健康心理学会第 16 回大会発表論文集, 248-249.

3) 小澤夏紀・富家直明・宮野秀市・小山徹平・川上祐佳里・坂野雄二 2003 女性誌への曝露と食行動異常 第 10 回日本行動医学会学術総会抄録集, 64.

◆その他

1) 宮野秀市 2003 VR を利用した心理療法:VR エクスポージャーによる恐怖症の治療 画像ラボ, 14 巻9号, 39-42.

宮崎医科大学／宮崎大学医学部研究業績目録第 18 号講座等別件数内訳

◇凡例

基礎教育、基礎医学、臨床医学、看護学科、病院・共同利用施設の 5 区分に分け、それぞれの区分における著書、原著、症例報告、総説の和洋合計 5 種類の件数をグラフ化した。

グラフ中、講座・学科目等の右側かっこ内の数字は、当該講座等の業績作成に関与した研究者の数を表す。

著書和＝著書で和文のもの

著書洋＝著書で欧文のもの

原著和＝原著で和文のもの

原著洋＝原著で欧文のもの

症報和＝症例報告で和文のもの

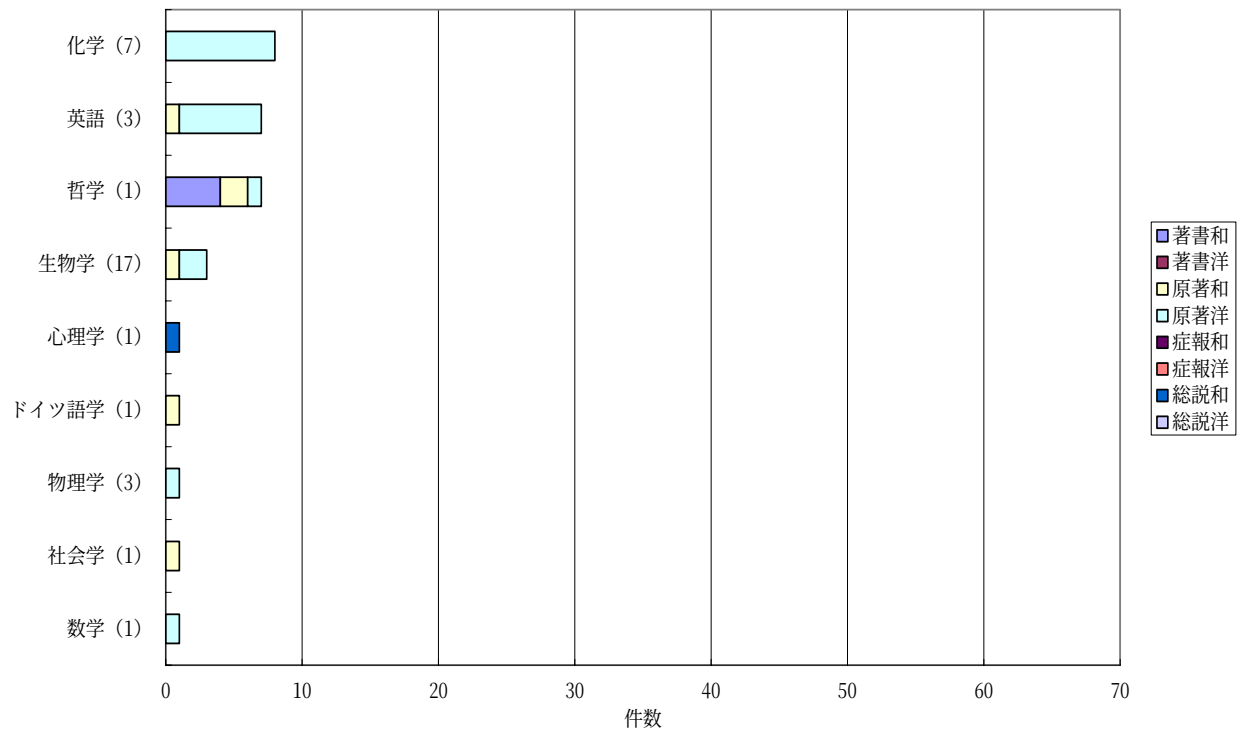
症報洋＝症例報告で欧文のもの

総説和＝総説で和文のもの

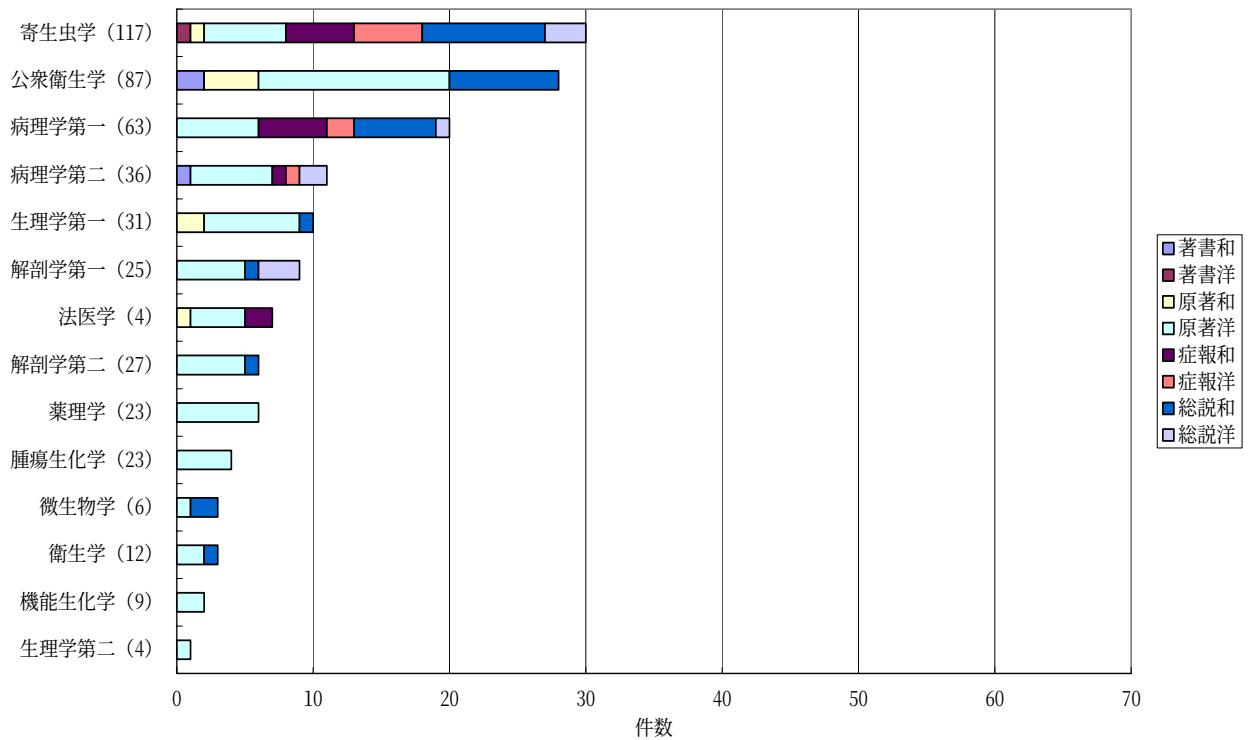
総説洋＝総説で欧文のもの

研究業績目録第18号件数内訳										
区分	講座等名	著書和	著書洋	原著和	原著洋	症報和	症報洋	総説和	総説洋	合計
基礎教育	化学 (7)	0	0	0	8	0	0	0	0	8
基礎教育	哲学 (1)	4	0	2	1	0	0	0	0	7
基礎教育	英語 (3)	0	0	1	6	0	0	0	0	7
基礎教育	生物学 (17)	0	0	1	2	0	0	0	0	3
基礎教育	ドイツ語学 (1)	0	0	1	0	0	0	0	0	1
基礎教育	社会学 (1)	0	0	1	0	0	0	0	0	1
基礎教育	心理学 (1)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
基礎教育	数学 (1)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
基礎教育	物理学 (3)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
基礎医学講座	寄生虫学 (117)	0	1	1	6	5	5	9	3	30
基礎医学講座	公衆衛生学 (87)	2	0	4	14	0	0	8	0	28
基礎医学講座	病理学第一 (63)	0	0	0	6	5	2	6	1	20
基礎医学講座	病理学第二 (36)	1	0	0	6	1	1	0	2	11
基礎医学講座	生理学第一 (31)	0	0	2	7	0	0	1	0	10
基礎医学講座	解剖学第一 (25)	0	0	0	5	0	0	1	3	9
基礎医学講座	法医学 (4)	0	0	1	4	2	0	0	0	7
基礎医学講座	薬理学 (23)	0	0	0	6	0	0	0	0	6
基礎医学講座	解剖学第二 (27)	0	0	0	5	0	0	1	0	6
基礎医学講座	生化学 腫瘍生化学分野 (23)	0	0	0	4	0	0	0	0	4
基礎医学講座	衛生学 (12)	0	0	0	2	0	0	1	0	3
基礎医学講座	微生物学 (6)	0	0	0	1	0	0	2	0	3
基礎医学講座	生化学第二 (9)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
基礎医学講座	生理学第二 (4)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
臨床医学講座	内科学第三 (149)	4	1	1	23	8	4	17	3	61
臨床医学講座	内科学第一 (120)	6	0	5	15	11	3	12	0	52
臨床医学講座	内科学第二 (241)	16	1	4	5	8	0	11	0	45
臨床医学講座	外科学第一 (32)	2	0	1	21	6	3	8	1	42
臨床医学講座	麻酔学 (22)	16	0	4	6	3	0	6	0	35
臨床医学講座	外科学第二 (72)	0	0	7	11	8	4	2	0	32
臨床医学講座	小児科学 (116)	17	0	2	8	1	2	1	0	31
臨床医学講座	整形外科科学 (51)	0	0	7	10	1	0	13	0	31
臨床医学講座	産婦人科学 (60)	4	0	2	4	2	0	13	1	26
臨床医学講座	皮膚科学 (38)	5	0	2	5	6	1	6	0	25
臨床医学講座	耳鼻咽喉科学 (114)	5	0	7	11	0	0	2	0	25
臨床医学講座	脳神経外科学 (15)	4	0	6	10	2	1	1	0	24
臨床医学講座	放射線医学 (22)	0	0	2	5	7	1	5	0	20
臨床医学講座	臨床検査医学 (31)	0	0	2	2	14	1	0	0	19
臨床医学講座	精神医学 (36)	0	0	3	3	9	0	1	0	16
臨床医学講座	泌尿器科学 (32)	2	0	5	1	1	0	1	0	10
臨床医学講座	救急医学 (3)	1	0	1	0	0	0	4	0	6
臨床医学講座	歯科口腔外科学 (24)	0	0	0	2	2	0	0	0	4
臨床医学講座	眼科学 (8)	0	0	1	0	0	1	1	0	3
基礎看護学講座	基礎看護学 (7)	5	0	8	0	5	0	1	0	19
臨床看護学講座	成人・老年看護学 (7)	2	0	3	0	0	0	0	0	5
臨床看護学講座	母性看護学 (4)	0	0	1	0	0	0	3	0	4
地域看護学講座	地域看護学 (5)	1	0	2	0	0	0	0	0	3
臨床看護学講座	小児看護学 (7)	0	0	2	0	0	0	1	0	3
臨床看護学講座	精神看護学 (3)	0	0	0	0	2	0	0	0	2
附属病院	周産母子センター (53)	1	0	2	3	0	0	12	0	18
附属病院	薬剤部 (46)	2	0	2	4	0	0	7	0	15
附属病院	検査部 (36)	0	0	2	2	8	0	1	0	13
附属病院	病理部 (85)	1	0	0	2	3	1	4	1	12
附属病院	医療情報部 (3)	0	0	7	0	0	0	0	0	7
フロンティア科学実験総合センター	実験支援部門生物資源分野 (3)	0	1	2	2	0	0	1	0	6
附属病院	リハビリテーション部 (12)	0	0	1	3	0	0	0	0	4
附属病院	看護部 (6)	1	0	0	0	2	0	0	0	3
附属病院	輸血部 (3)	1	0	2	0	0	0	0	0	3
附属病院	放射線部 (14)	0	0	2	0	0	0	0	0	2
フロンティア科学実験総合センター	実験支援部門RI分野清武分室 (2)	0	1	0	0	0	0	1	0	2
附属病院	集中治療部 (2)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
保健管理センター	保健管理センター (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属病院	手術部 (麻酔学講座参照)									

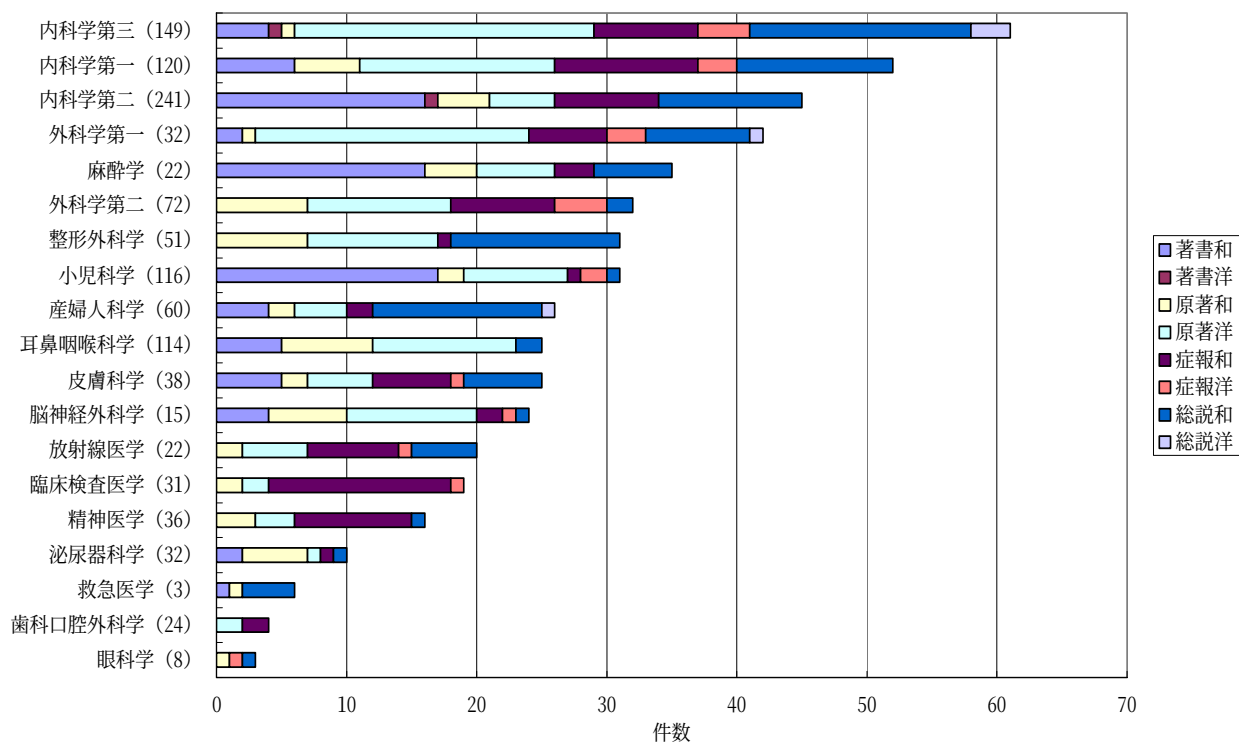
基礎教育



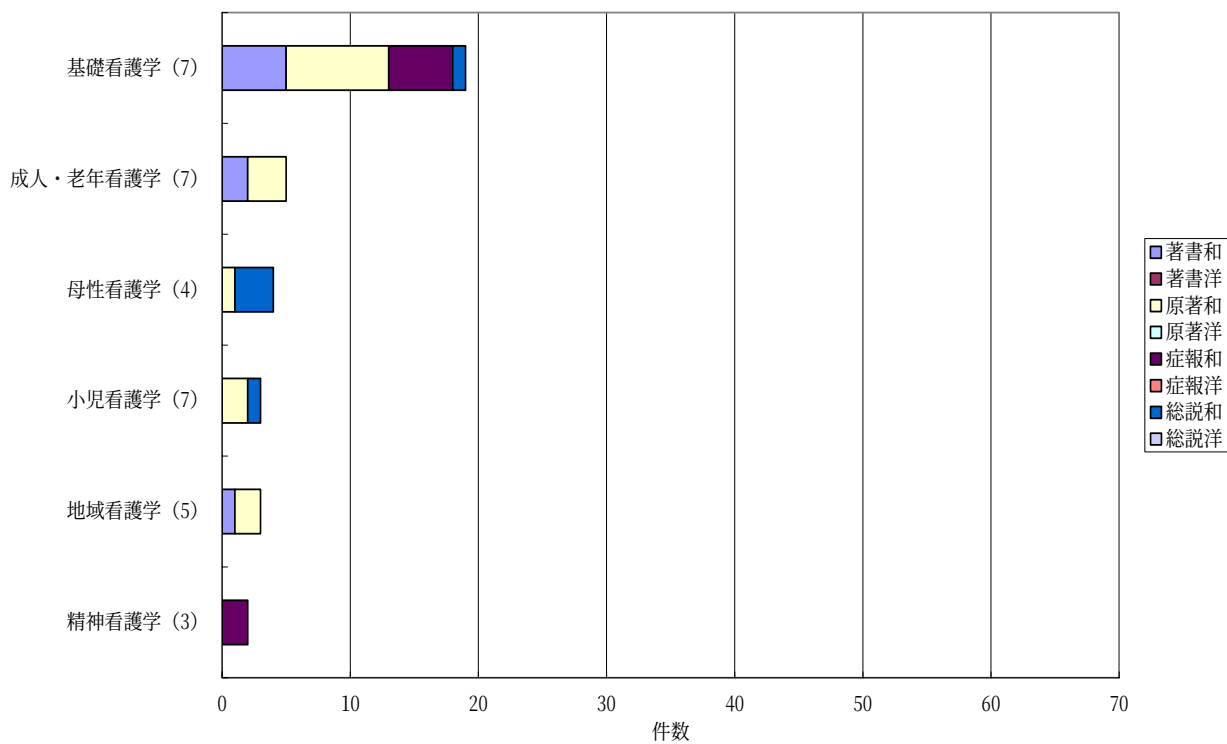
基礎医学



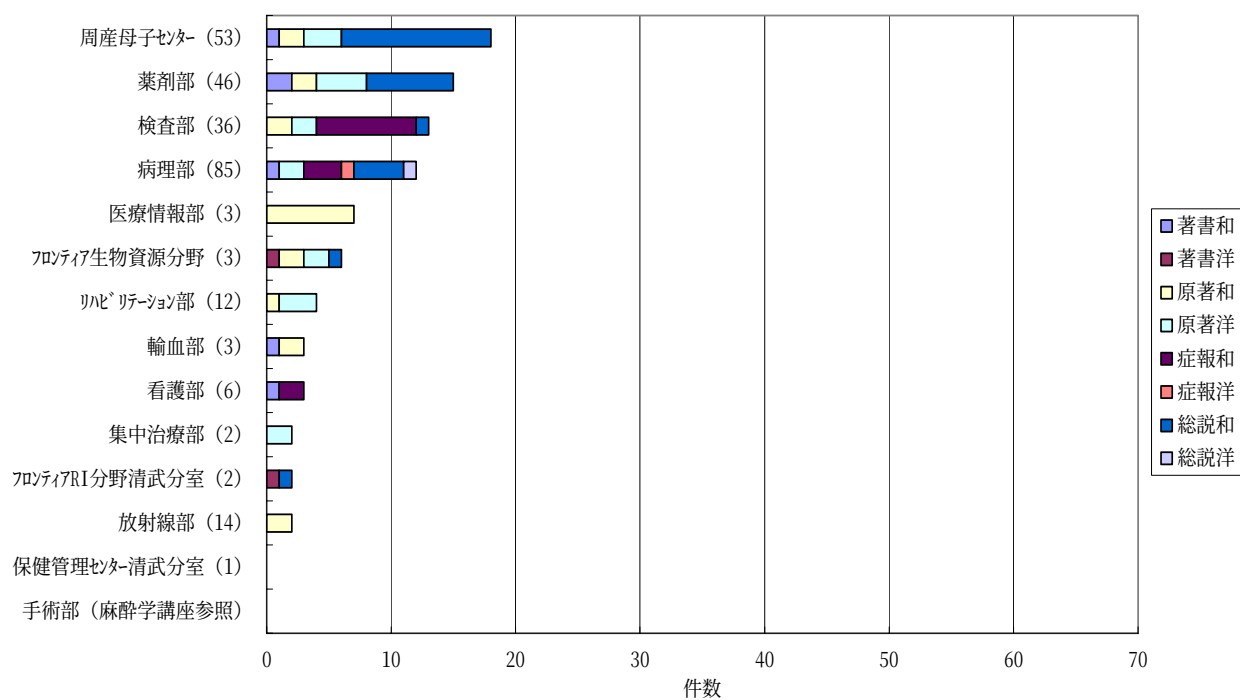
臨床医学



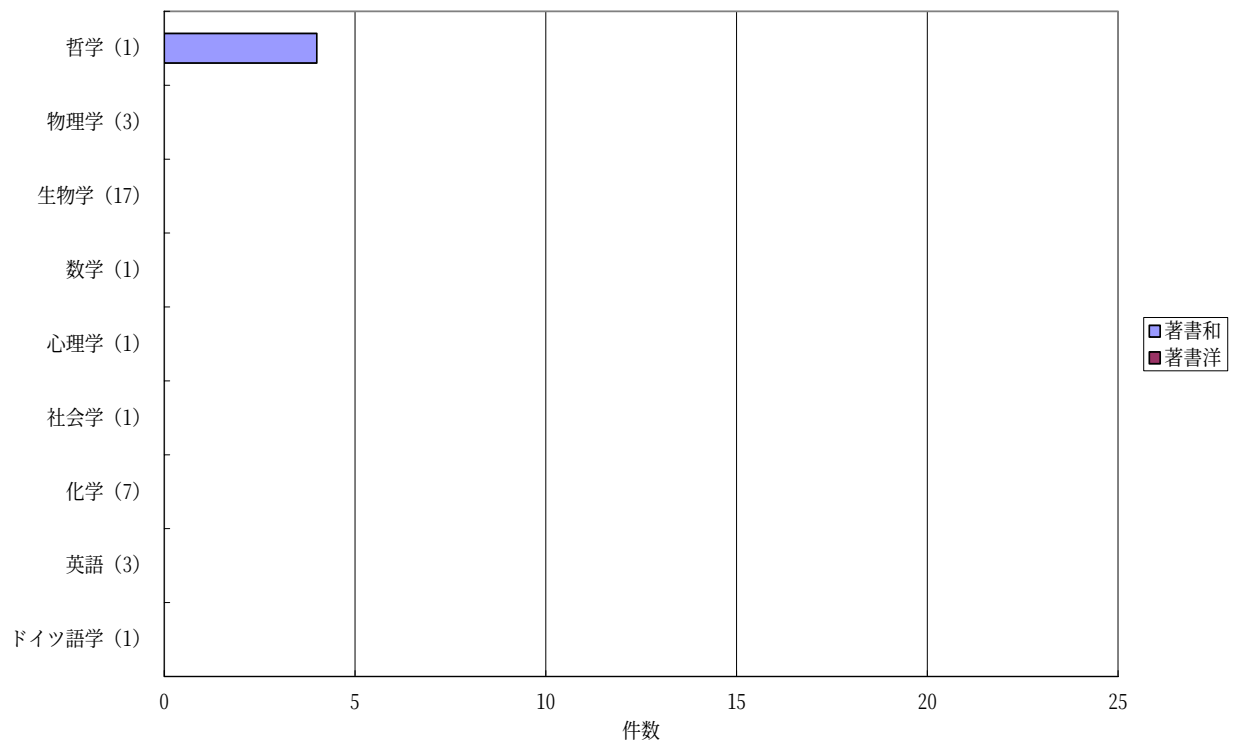
看護学科



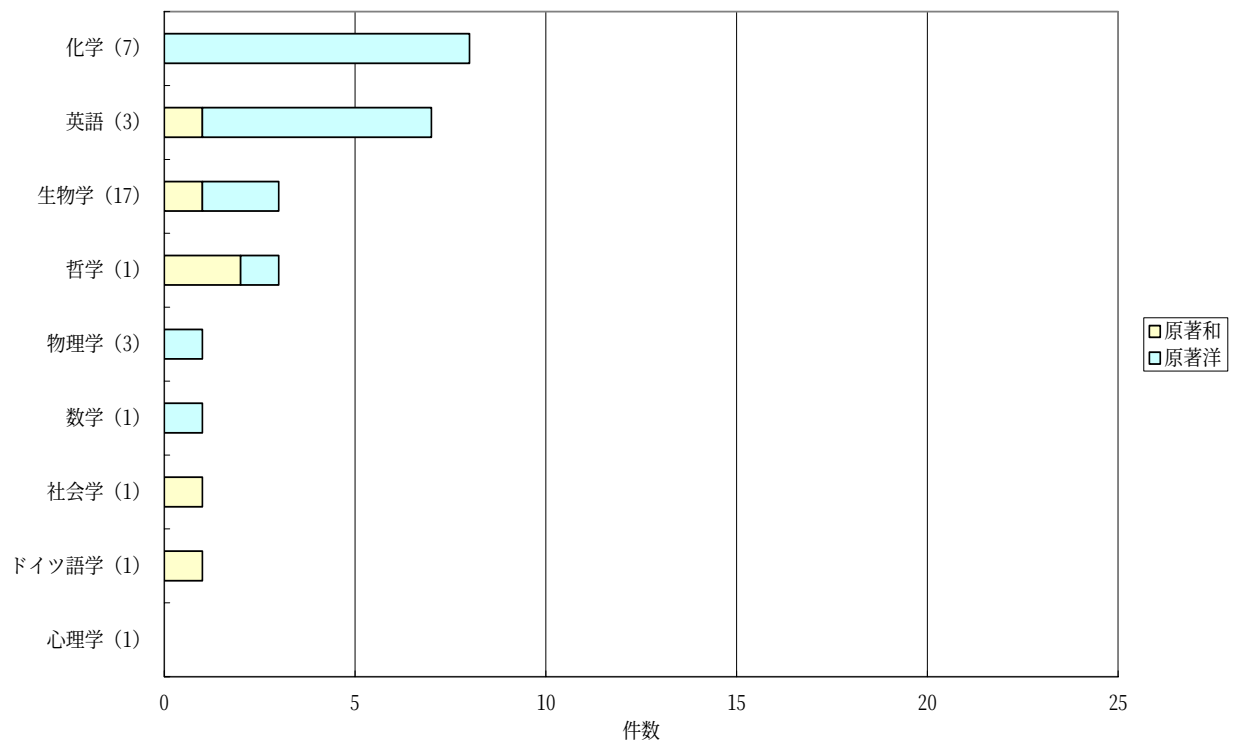
病院・共同利用施設等



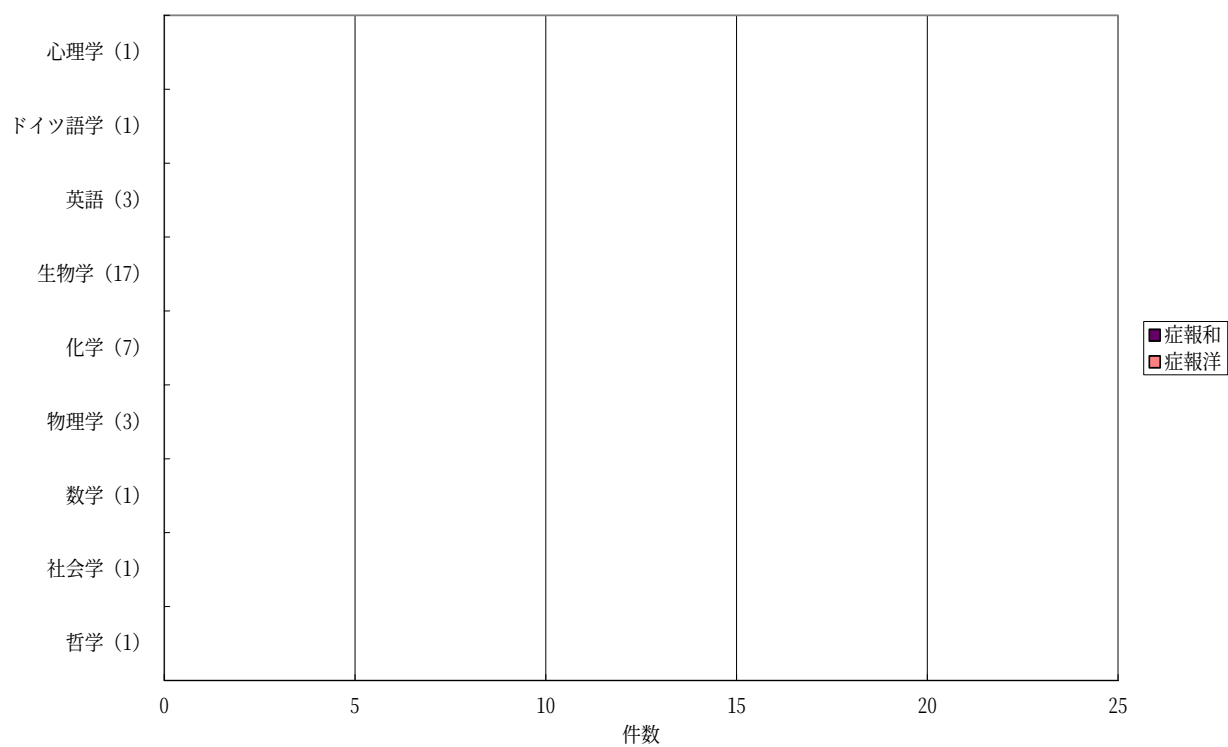
基礎教育（著書）



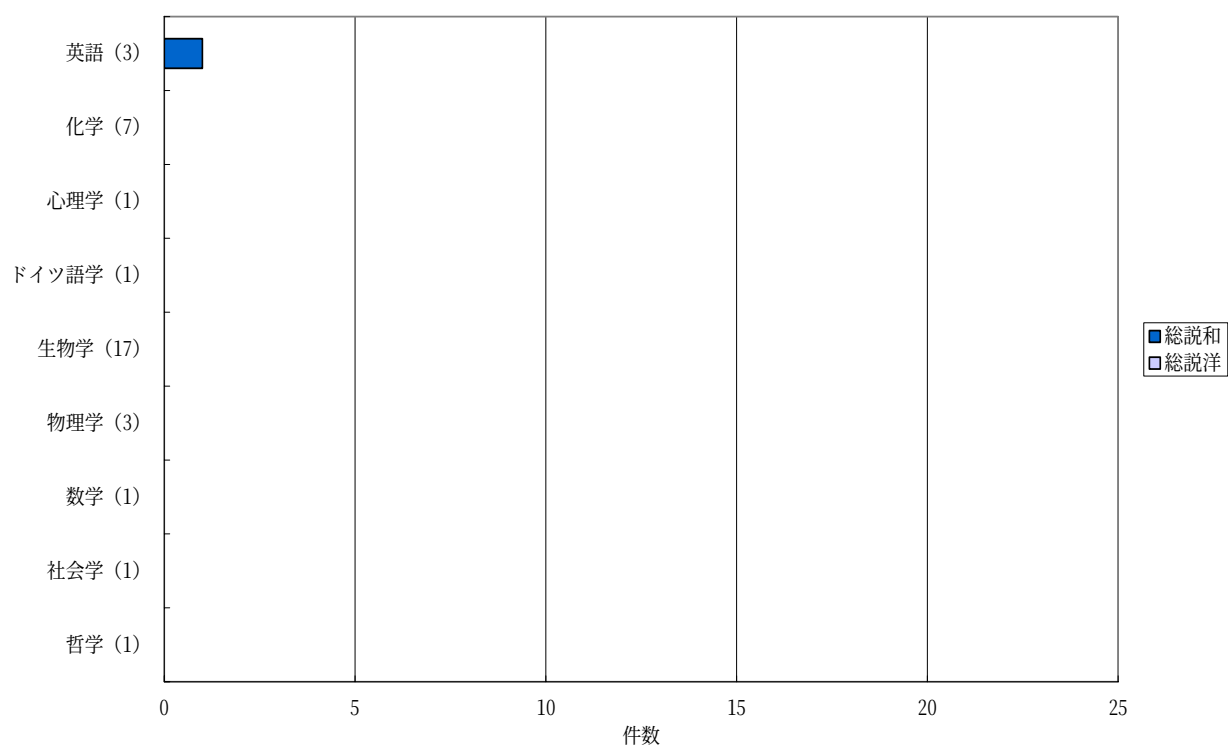
基礎教育（原著）



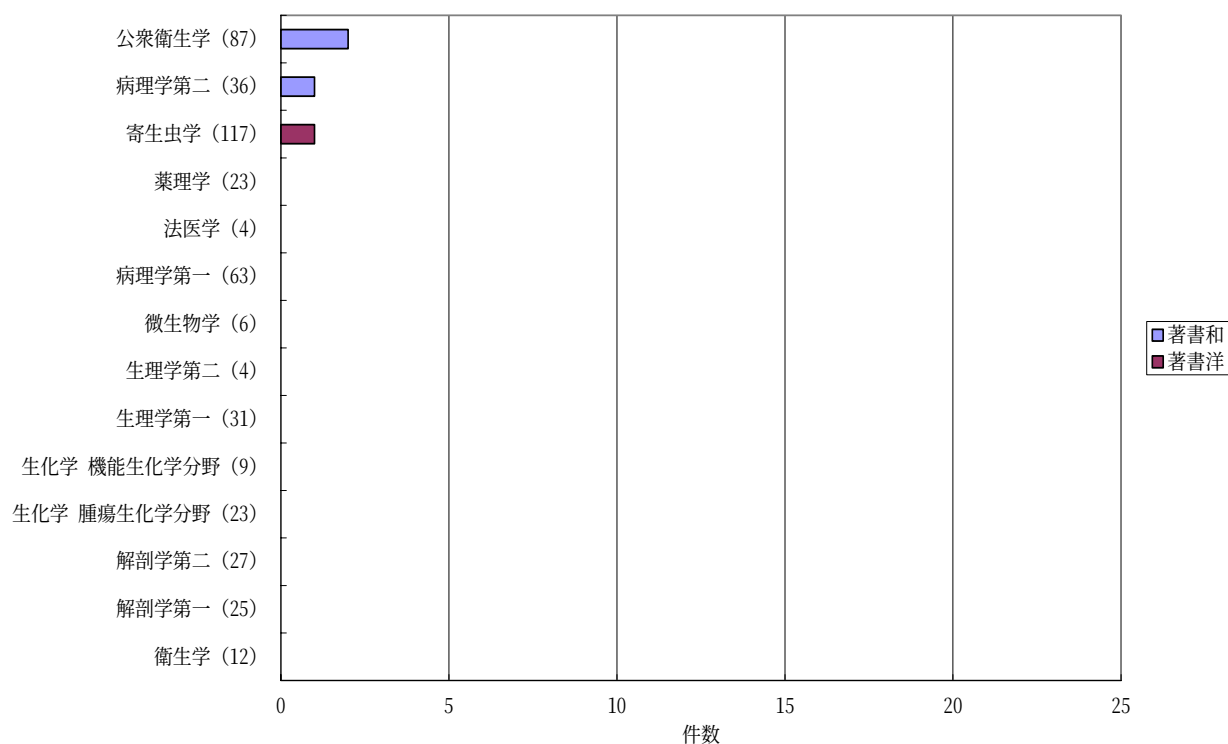
基礎教育（症例報告）



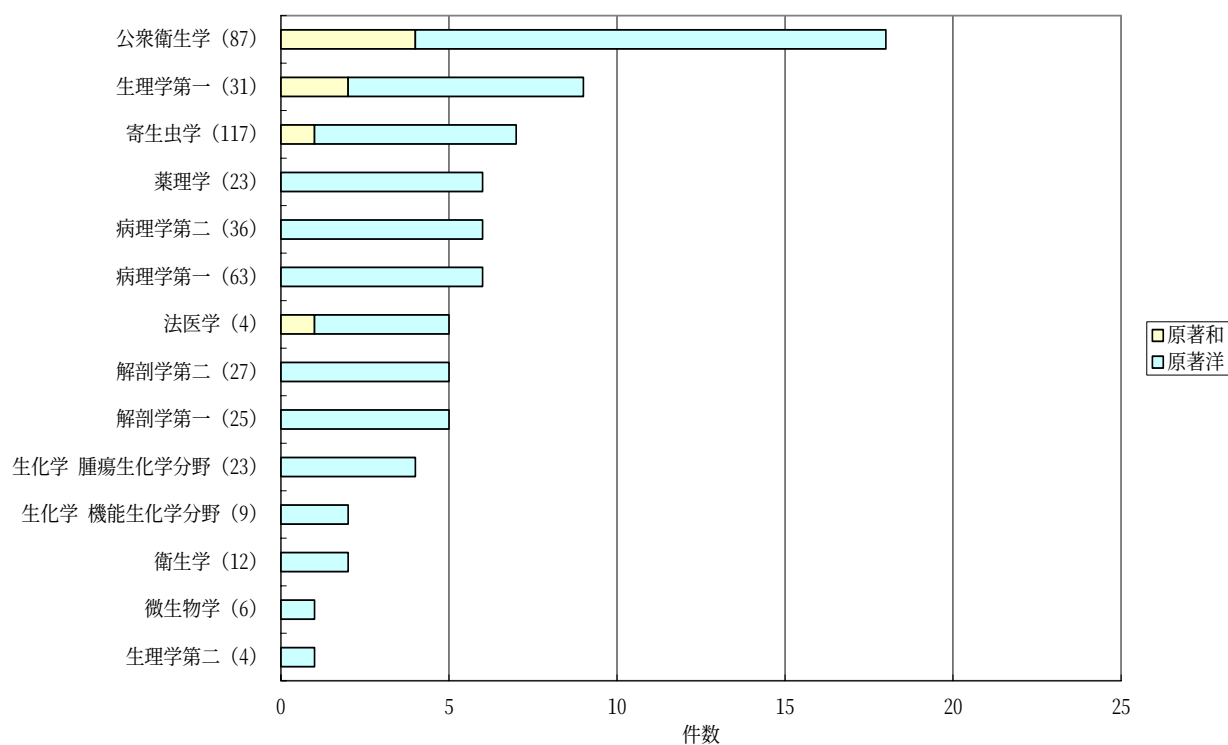
基礎教育（総説）



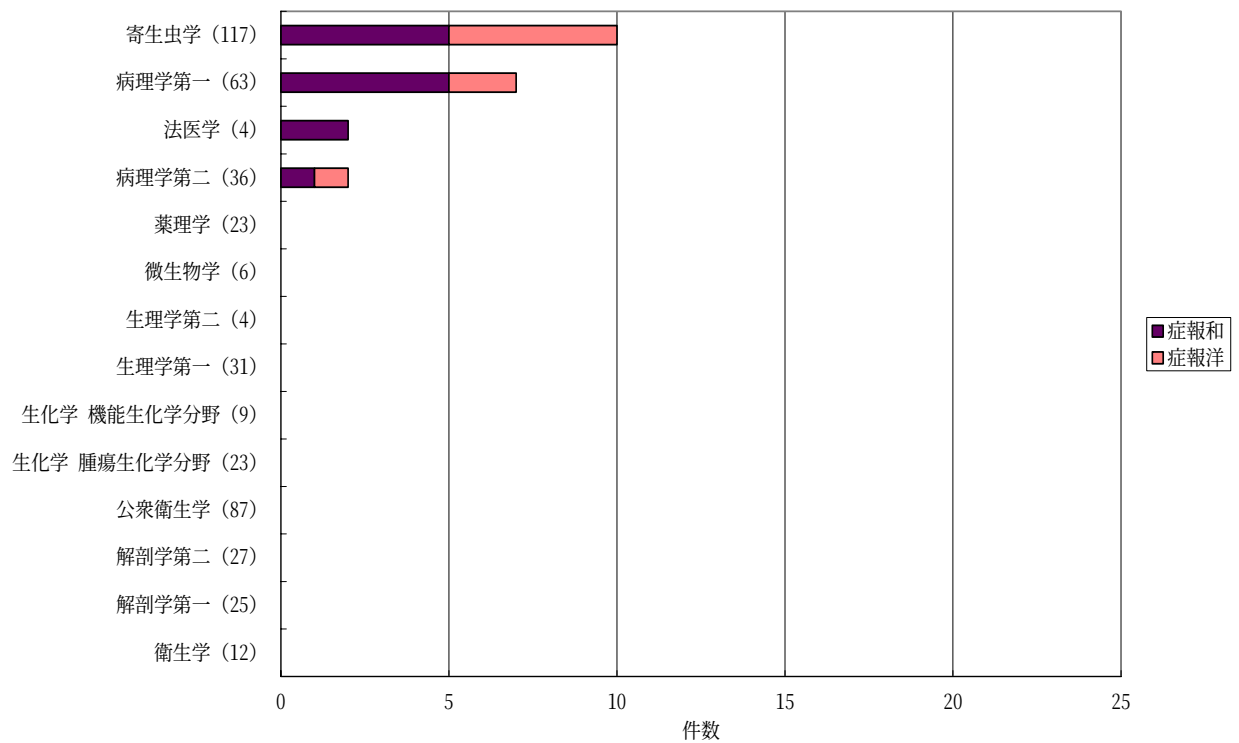
基礎医学（著書）



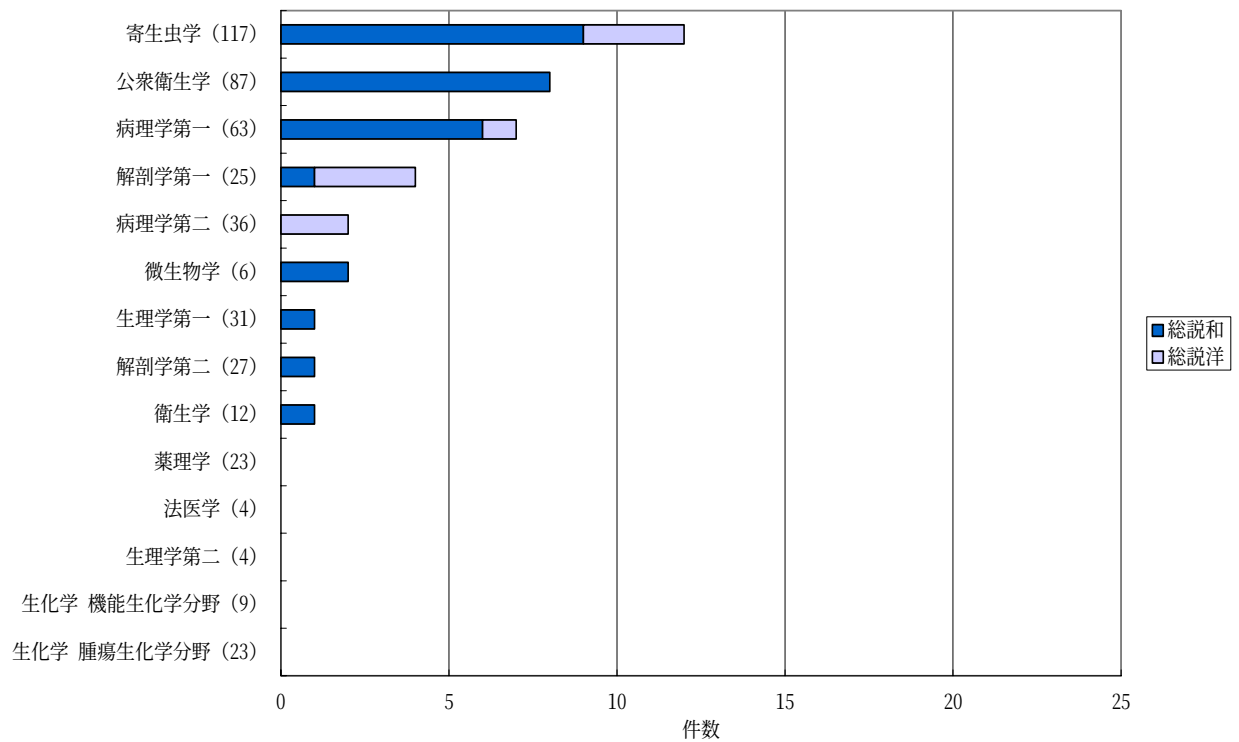
基礎医学（原著）



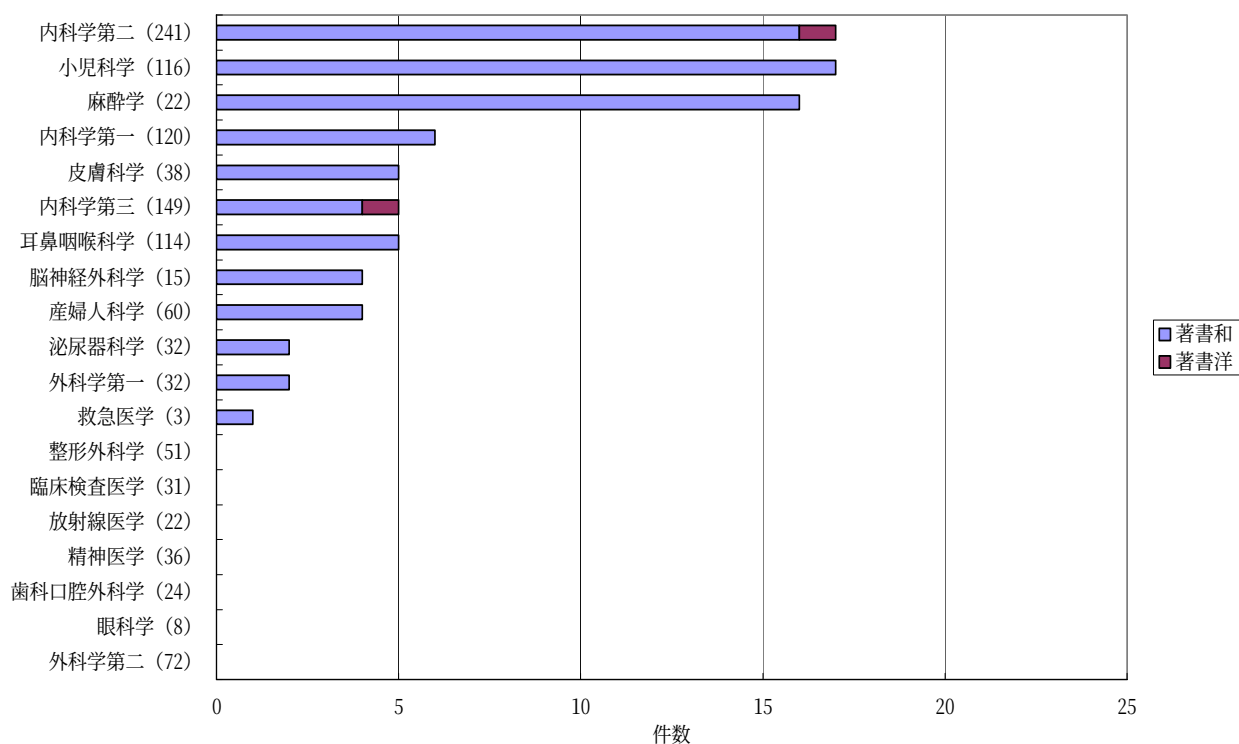
基礎医学（症例報告）



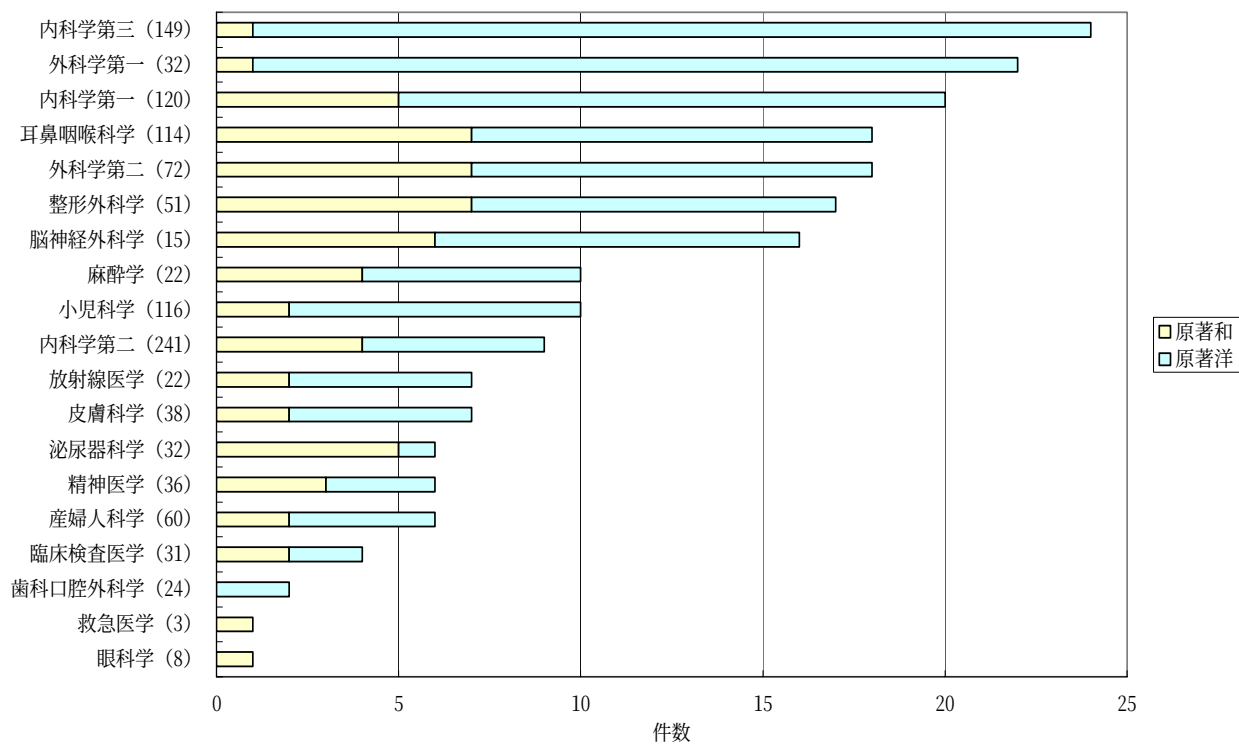
基礎医学（総説）



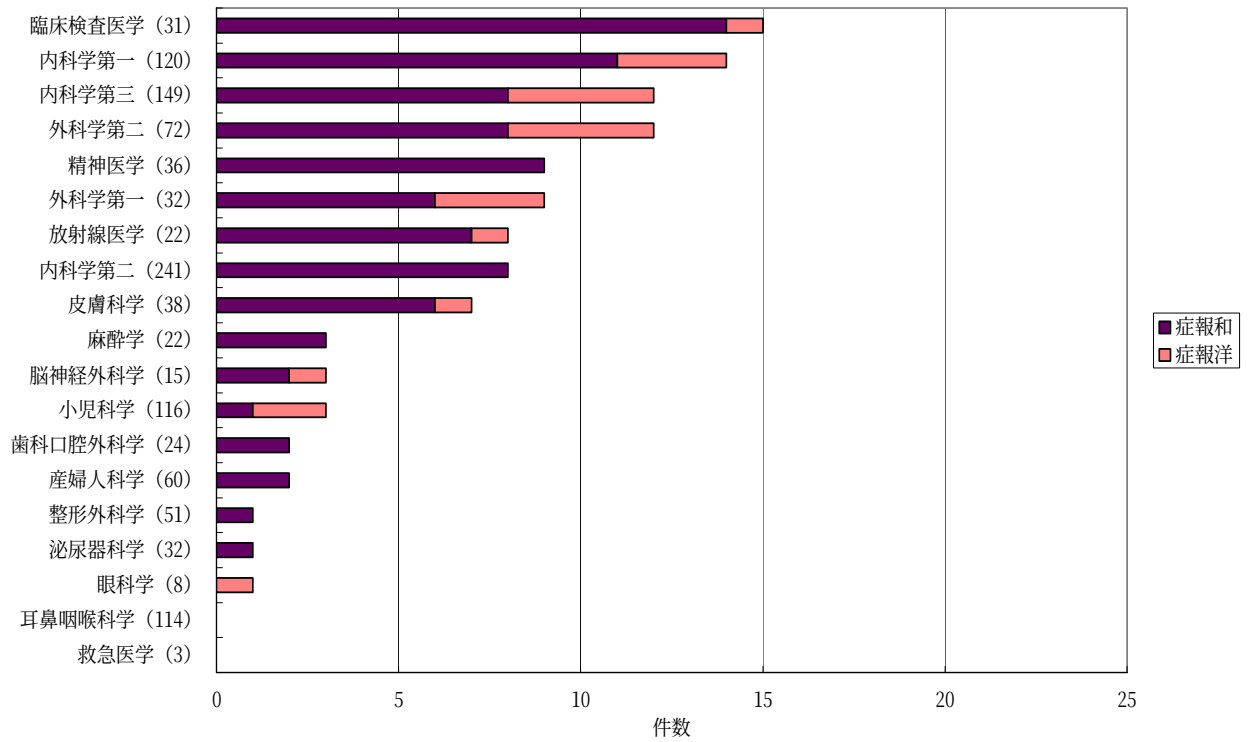
臨床医学（著書）



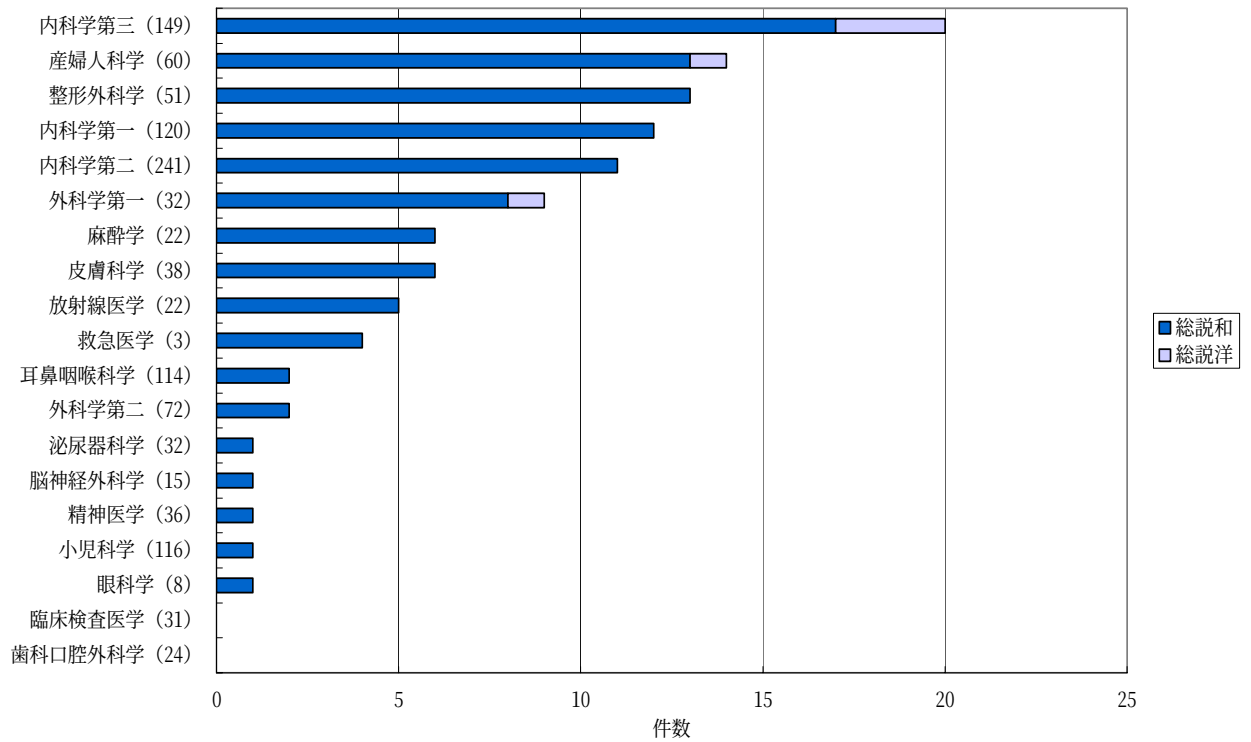
臨床医学（原著）



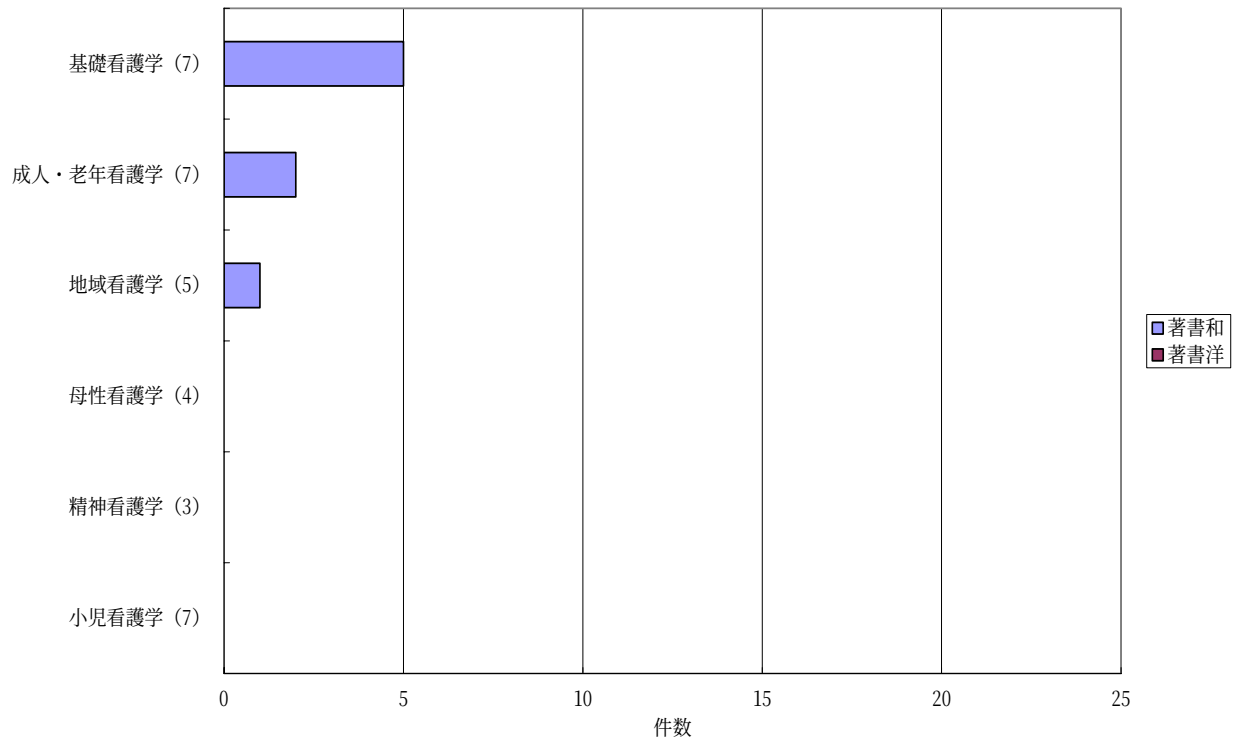
臨床医学（症例報告）



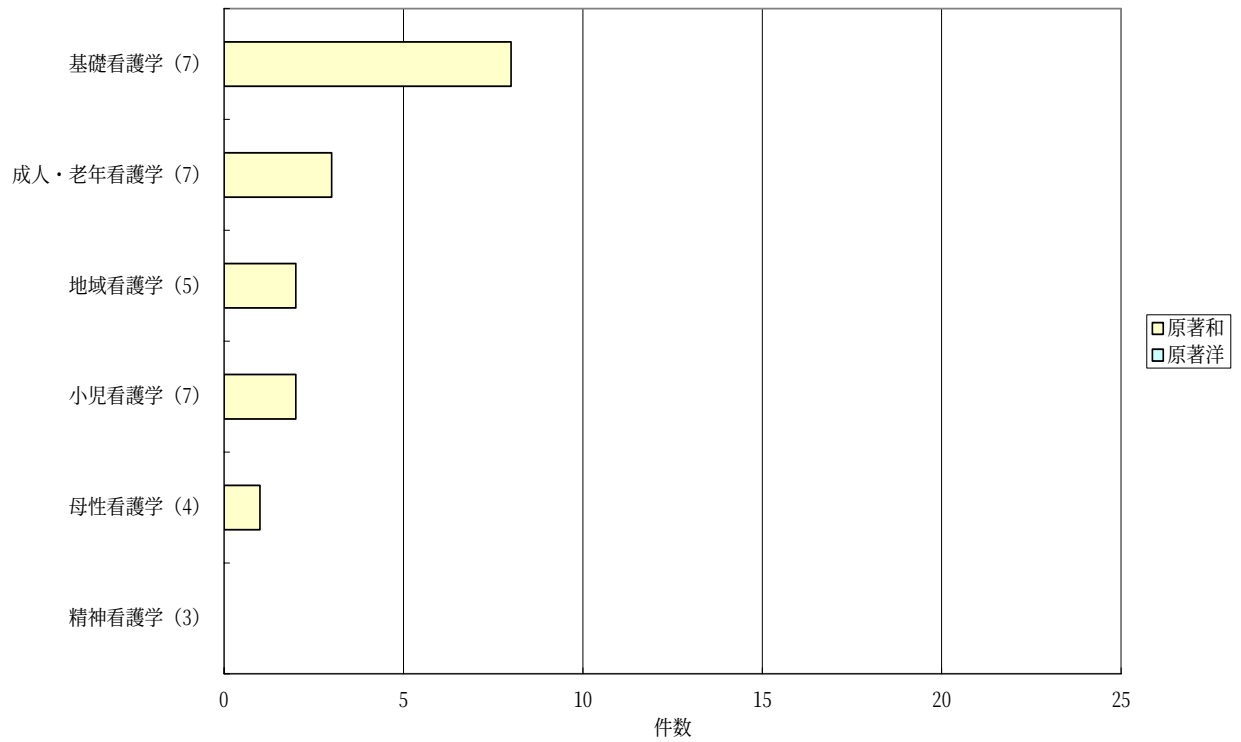
臨床医学（総説）



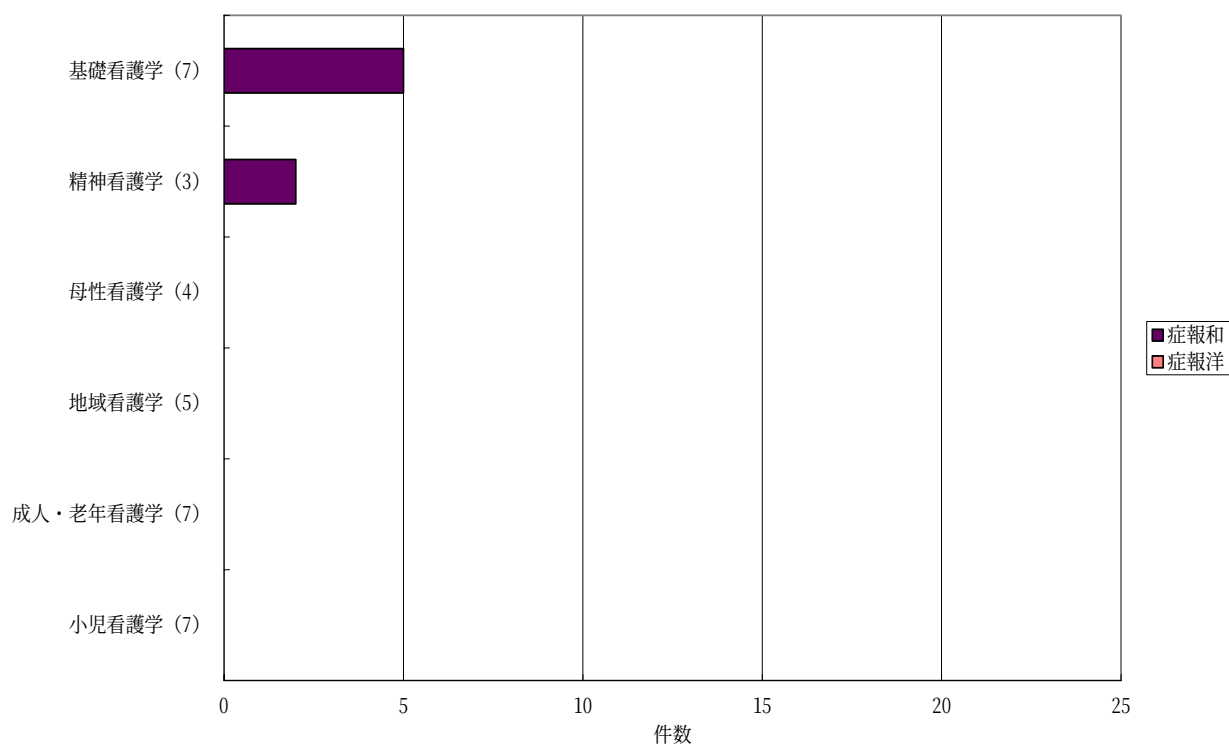
看護学科（著書）



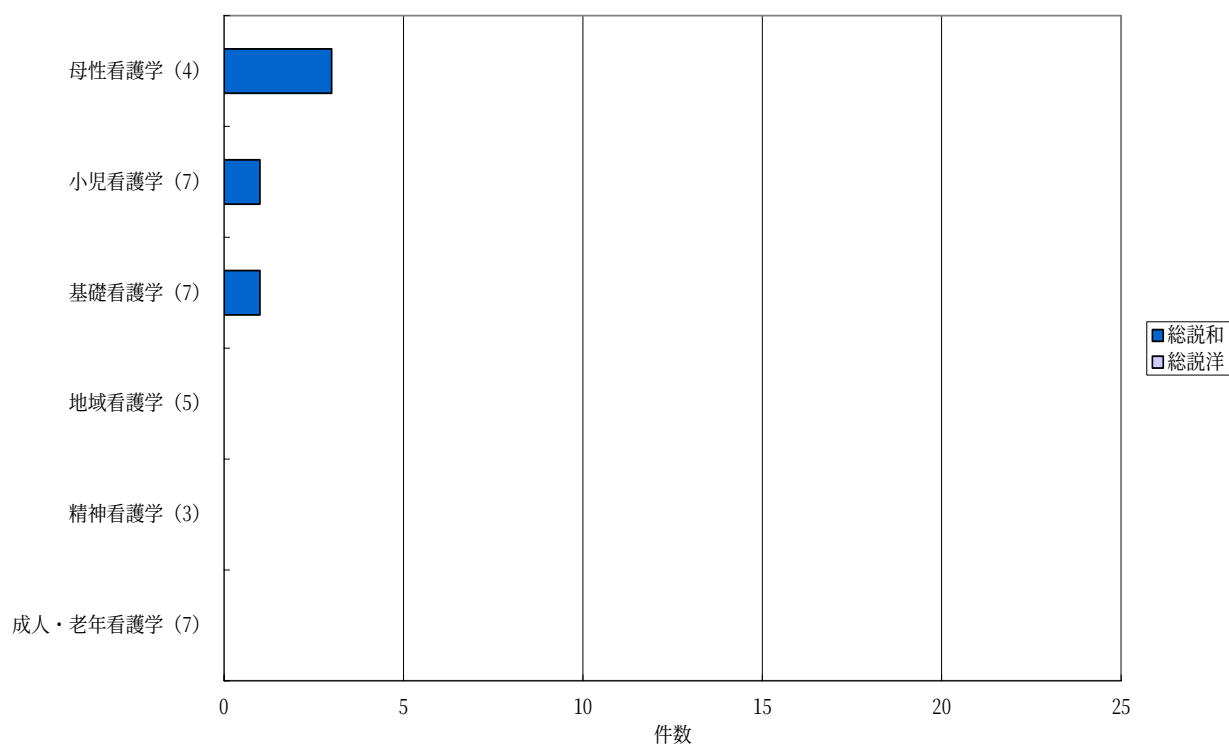
看護学科（原著）



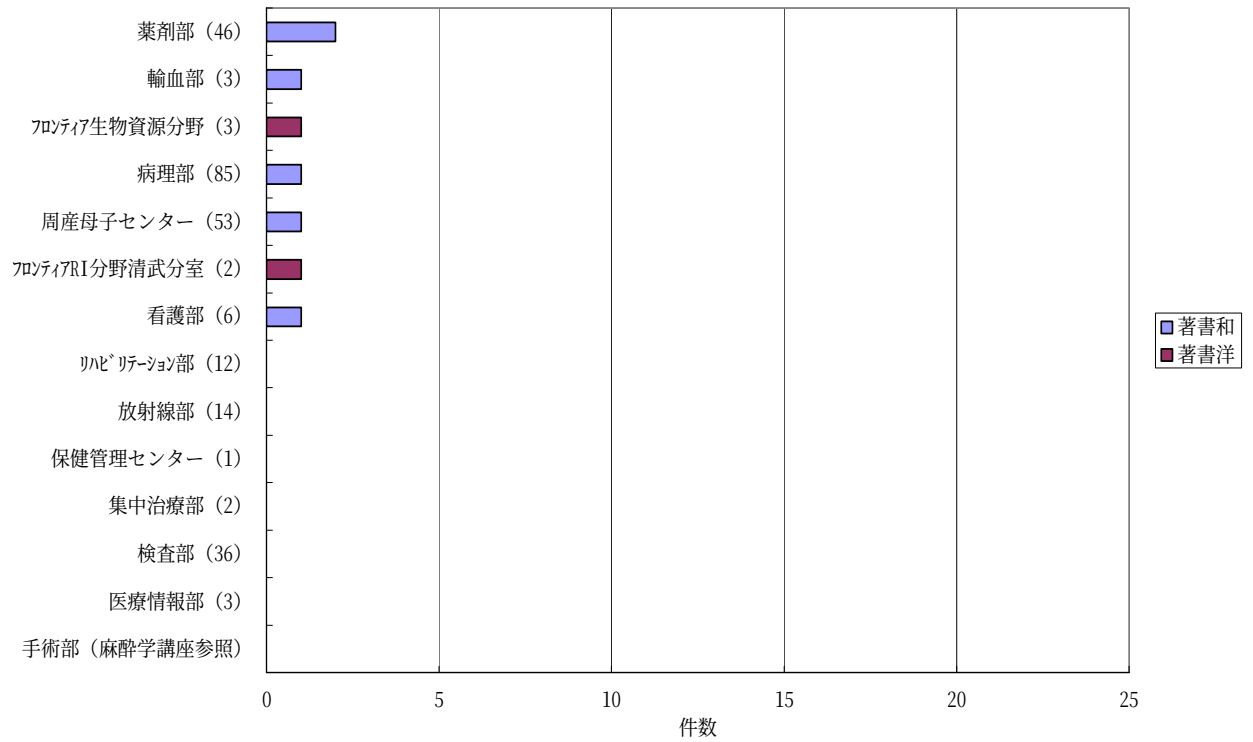
看護学科（症例報告）



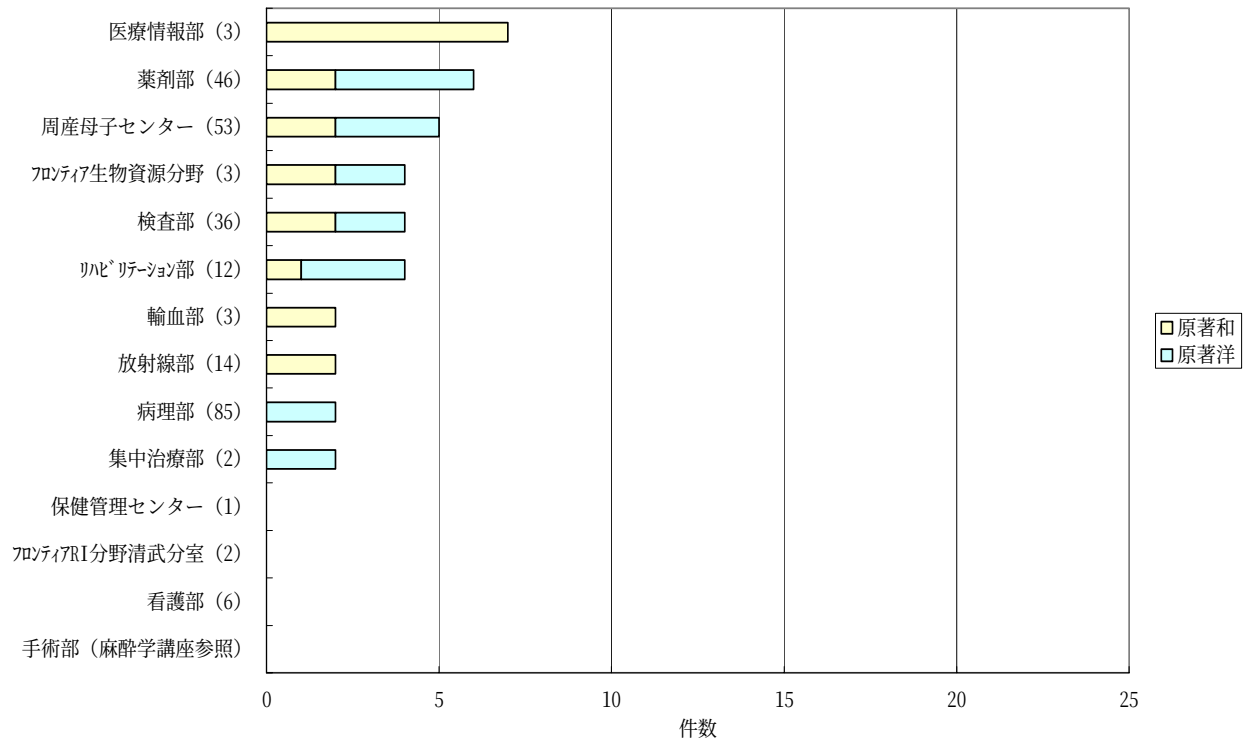
看護学科（総説）



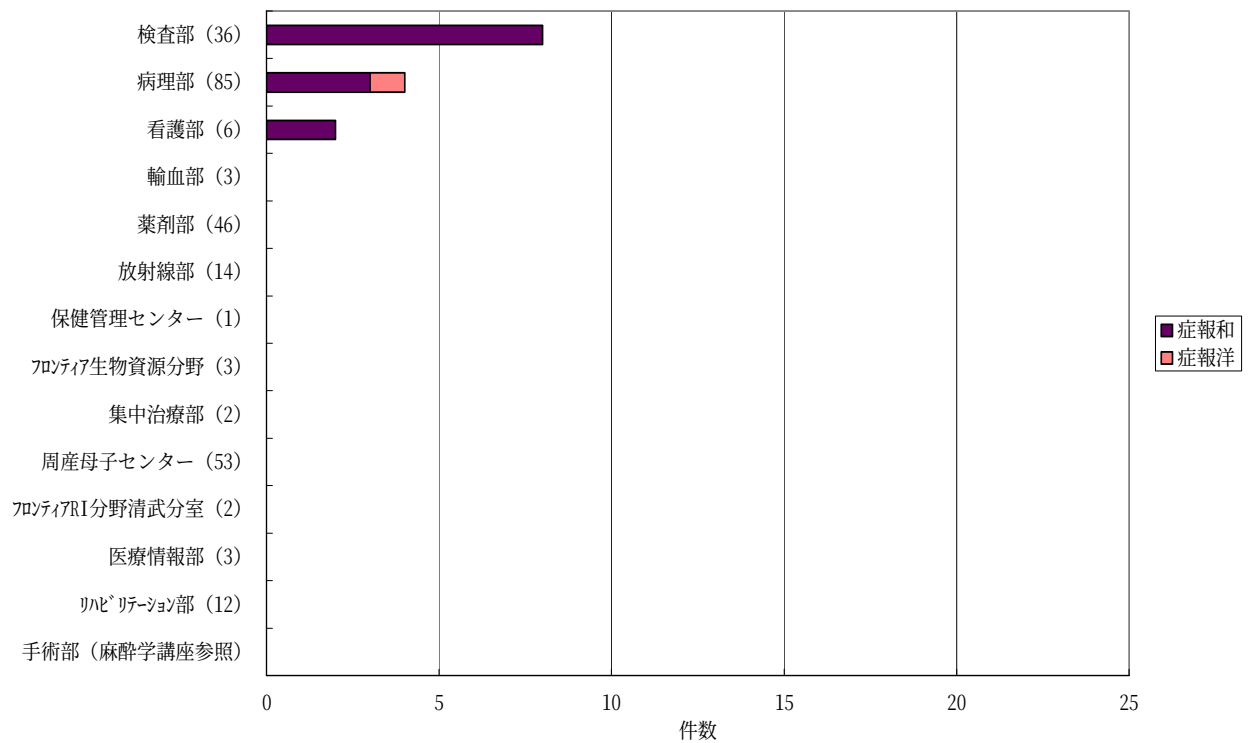
病院・共同利用施設等（著書）



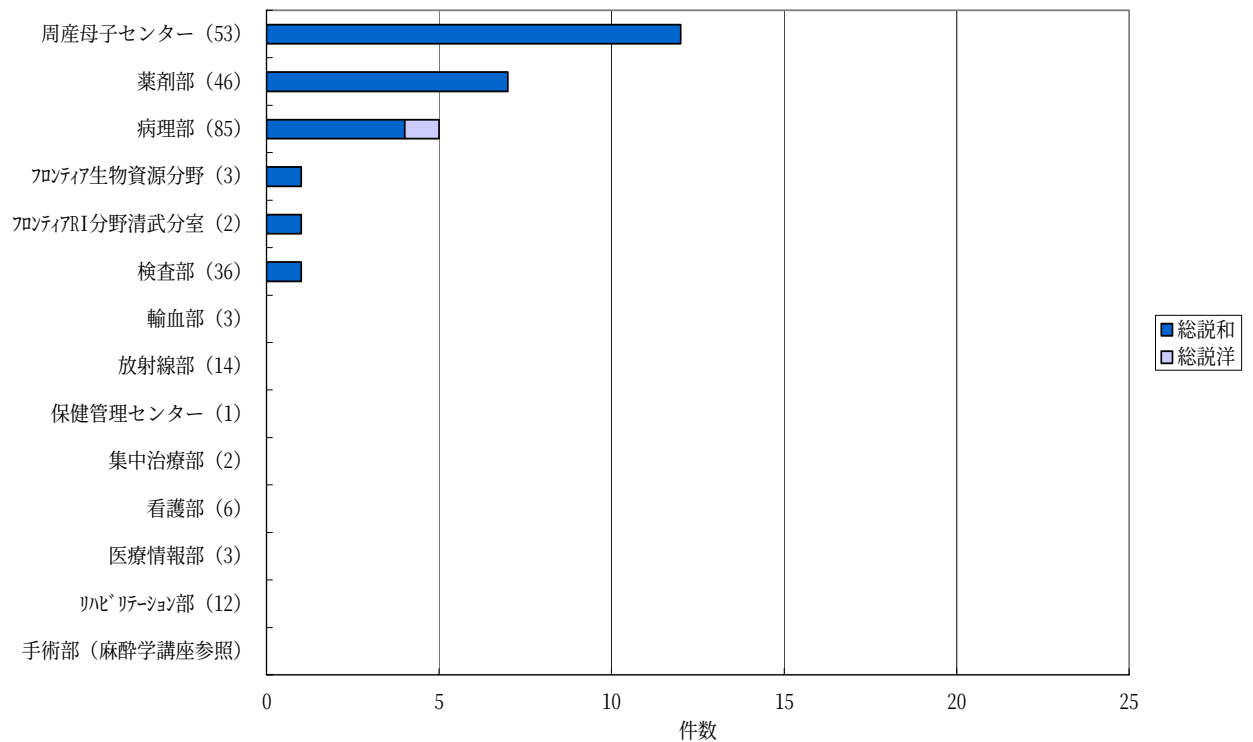
病院・共同利用施設等（原著）



病院・共同利用施設等（症例報告）



病院・共同利用施設等（総説）



研究業績目録個人別件数内訳（平成15年分）

助手以上を掲載

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
基礎教育	心理学	鶴 紀子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	哲学	板井孝壱郎	第 1 著 書	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
			共 著	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会学	菊井高雄	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	数学	大桑良彰	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	物理学	糸永一憲	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	化学	伊藤隆夫	第 1 著 書	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中島 暉	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生物学	西森利数	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		池田哲也	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	英語	玉田吉行	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		横山彰三	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ドイツ語学	Guest, Michael	第 1 著 書	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		大羽 武	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基礎医学講座	解剖学第一	年森清隆	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	2	5
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
		吉永一也	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
		谷井一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
		MANANDHAR Gaurishankar	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	解剖学第二	菅沼龍夫	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			共 著	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
		沖田早苗	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		川野純一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		生沼 勉	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生理学第一	澤口 朗	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		河南 洋	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			共 著	0	0	1	5	0	0	0	0	0	6
			コレスポンドイグ著書	0	0	0	4	0	0	1	0	5	5

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
基礎医学講座	生理学第一	花森隆充	第 1 著 書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンド著書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
		國武孝人	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		加藤和男	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生理学第二	丸山真杉	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンド著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		吉田悦男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		杉木雅彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学 腫瘍生化学分野	森下和広	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コレスポンド著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		橋田誠一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		西片一朗	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学 機能生化学分野	中山建男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コレスポンド著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		高見恭成	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		菊池秀彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬理学	鈴木寛之	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和田明彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
			コレスポンド著書	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
		小林英幸	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病理学第一	柳田俊彦	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		横尾宏毅	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浅田祐士郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			共 著	0	0	0	6	3	1	4	1	15	8
			コレスポンド著書	0	0	0	1	1	0	6	0	8	8
	病理学第二	丸塚浩助	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
			コレスポンド著書	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2
		畠山金太	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			共 著	0	0	0	3	2	1	0	1	7	7
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		佐藤勇一郎	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	2	0	4	4
			共 著	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2
			コレスポンド著書	0	0	0	2	0	0	0	0	2	2
	病理学第二	片岡寛章	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
			共 著	1	0	0	4	1	1	0	0	7	7
			コレスポンド著書	0	0	0	1	1	0	0	2	4	4
		伊藤浩史	第 1 著 書	1	0	0	0	0	1	0	0	2	2
			共 著	0	0	0	3	1	0	0	2	6	6
			コレスポンド著書	1	0	0	0	0	1	0	0	2	2
		秋山 裕	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	1	1	0	0	3	3
			コレスポンド著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
基礎医学講座	微生物学	林 哲也	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		大西 真	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中山恵介	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小椋義俊	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	衛生学	山口忠敏	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	公衆衛生学	加藤貴彦	第 1 著 書	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	3	9	0	0	0	2	0	14
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
		今井博久	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
			共 著	0	0	2	3	0	0	0	1	0	6
			コズメ・ソング 著書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		黒田嘉紀	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
			共 著	1	0	2	6	0	0	0	1	0	10
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		中尾裕之	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	1	0	2	5	0	0	0	1	0	9
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫学	名和行文	第 1 著 書	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
			共 著	0	0	1	1	4	5	6	1	1	18
			コズメ・ソング 著書	0	1	0	1	0	1	7	1	1	11
		廣松賢治	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	4	1	0	0	0	1	6
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中村ふくみ	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	5	1	1	7
			共 著	0	0	0	1	4	3	0	0	0	8
			コズメ・ソング 著書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		稲垣匡子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法医学	湯川修弘	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	3	2	0	0	0	0	5
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		瀬尾泰久	第 1 著 書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		柿崎英二	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		松田洋和	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床医学講座	内科学第一	江藤胤尚	第 1 著 書	3	0	0	1	0	0	5	0	0	9
			共 著	1	0	4	11	4	3	4	0	0	27
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		藤元昭一	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4
			共 著	0	0	2	1	3	0	0	0	0	6
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		北村和雄	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	10	0	1	1	0	0	13
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		今村卓郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
			共 著	0	0	1	3	0	1	0	0	0	5
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		加藤丈司	第 1 著 書	1	0	1	1	0	0	4	0	0	7
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		松尾剛志	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		北 俊弘	第 1 著 書	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
			コズメ・ソング 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床医学講座	内科学第一	稲津東彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		伊達晴彦	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		石川直人	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		佐藤祐二	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内科学第二	坪内博仁	第 1 著 書	12	0	0	0	0	0	0	5	0	17
			共 著	2	0	2	5	6	0	2	0	0	17
			コスタ・ソテ・イグ 著書	12	0	1	1	0	0	6	0	0	20
		岡山昭彦	第 1 著 書	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
			共 著	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
		林 克裕	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	2	0	2	4	3	0	1	0	0	12
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		弘野修一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		井戸章雄	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
			共 著	5	0	1	4	3	0	4	0	0	17
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		村井幸一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		宇都浩文	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	2	0	0	3	1	0	2	0	0	8
			コスタ・ソテ・イグ 著書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		久富木庸子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		堀 剛	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	3	0	1	3	3	0	1	0	0	11
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		佐々木隆	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		外山孝典	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		加藤順也	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内科学第三	大井長和	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		片上秀喜	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	1	0	2	2	0	6
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中里雅光	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	2	1	0	17	1	0	6	1	0	28
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		杉本精一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		加藤茂樹	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		塩見一剛	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		水田雅也	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山口秀樹	第 1 著 書	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床医学講座	内科学第三	芦谷淳一	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
			共 著	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		床島真紀	第 1 著 書	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精神医学	石田 康	第 1 著 書	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
			ユスホソテイグ 著書	0	0	3	0	4	0	0	0	0	7
		植田勇人	第 1 著 書	0	0	0	2	4	0	1	0	0	7
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	2	5	0	1	0	0	8
		石塚雄太	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		橋口浩志	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		土井 拓	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		徳丸 潤	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		林 要人	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		武田龍一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		植田聡美	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		安部博史	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小児科学	布井博幸	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	2	3	1	2	0	0	0	8
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		園田 徹	第 1 著 書	17	0	0	0	0	2	1	0	0	20
			共 著	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		高木純一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		盛武 浩	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		愛甲浩志	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		河野慶一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		澤田浩武	第 1 著 書	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小泉博彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外科学第一	千々岩一男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
			共 著	0	0	0	9	3	2	3	0	0	17
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	4	0	1	5	0	0	10
		岩村威志	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		前田資雄	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		近藤千博	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
			ユスホソテイグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計	
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋		
臨床医学講座	外科学第一	甲斐真弘	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
			共 著	0	0	0	0	0	0	2	0	2		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		佛坂正幸	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	2	1	0	1	0	4		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		牧野一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	0	0	0	3	0	3		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		江藤忠明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	2	0	0	3	0	5		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		自見政一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
		大内田次郎	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
			共 著	0	0	0	2	0	0	3	0	5		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		前原直樹	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	4	0	0	0	0	4		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		外科学第二	鬼塚敏男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				共 著	0	0	6	4	7	2	1	0	20	
				コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	2	0	1	0	0	3	
			松崎泰憲	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
				共 著	0	0	1	0	1	0	1	0	3	
				コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	3	0	1	0	0	5	
	中村都英		第 1 著 書	0	0	0	2	0	1	0	0	3		
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	0	1	0	0	0	2		
	関屋 亮		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
	清水哲哉		第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	3		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
	矢野光洋		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	1	2	1	1	0	0	5		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	矢野義和		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	0	2	0	1	0	0	3		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	原 正樹		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	1	4	1	1	0	0	7		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	富田雅樹		第 1 著 書	0	0	0	3	0	2	0	0	5		
			共 著	0	0	1	1	0	0	0	0	2		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	整形外科	田島直也	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	
			共 著	0	0	4	9	0	0	4	0	17		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	7	0	7		
		帖佐悦男	第 1 著 書	0	0	1	4	0	0	2	0	7		
			共 著	0	0	4	3	0	0	3	0	10		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	4	0	0	2	0	7		
		久保紳一郎	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	2	0	4		
			共 著	0	0	0	1	0	0	2	0	3		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	2	0	0	2	0	4		
		園田典生	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
			共 著	0	0	2	1	0	0	1	0	4		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
		黒木浩史	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	1	0	2		
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	2		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	1	0	2		
		矢野浩明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	1		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		後藤啓輔	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	1	0	2		
			共 著	0	0	1	1	0	0	0	0	2		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	1	0	2		
		坂本武郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			共 著	0	0	2	0	0	0	1	0	3		
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
	整形外科	渡辺信二	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山本恵太郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		濱田浩朗	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	皮膚科学	瀬戸山 充	第 1 著 書	2	0	0	0	0	0	0	2	0	4
			共 著	0	0	2	3	6	1	4	0	0	16
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		緒方克己	第 1 著 書	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	2	1	1	0	1	0	0	5
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		黒川基樹	第 1 著 書	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	2	1	2	0	1	0	0	6
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		天野正宏	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
			共 著	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		立山 直	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小田裕次郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		津守伸一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		長嶺英宏	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中山文子	第 1 著 書	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		西田隆昭	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科学	長田幸夫	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	3	1	0	0	0	1	0	5
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		濱砂良一	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		野瀬清孝	第 1 著 書	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山下康洋	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		長野正史	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		井上勝己	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼科学	直井信久	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中馬秀樹	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		河野尚子	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳鼻咽喉科学	竹下哲二	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小宗静男	第 1 著 書	3	0	0	0	0	0	0	1	0	4
			共 著	0	0	4	5	0	0	0	1	0	10
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床医学講座	耳鼻咽喉科学	東野哲也	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		春田 厚	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		君付 隆	第 1 著 書	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
		河野浩万	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		外山勝浩	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		松田圭二	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		坪井康浩	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		竹中美香	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		牛迫泰明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	産婦人科学	池ノ上克	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			共 著	3	0	1	2	1	0	9	1	1	17
			コスタ・ソテ・イグ 著書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		鮫島 浩	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山口昌俊	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
		永井公洋	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		池田智明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		肥後貴史	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		三部正人	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		金子政時	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		川越靖之	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			共 著	0	0	2	1	0	0	1	0	4	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		古川誠志	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		米田由香里	第 1 著 書	0	0	0	0	1	0	1	0	2	2
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線医学	田村正三	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	6	3	0	2	0	13	13
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小玉隆男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
			共 著	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小野誠治	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		長町茂樹	第 1 著 書	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2
			共 著	0	0	1	4	4	0	0	0	9	9
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床医学講座	放射線医学	杉村 宏	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		宮崎貴浩	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		矢野貴徳	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		黒木正臣	第 1 著 書	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山口健一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		桑原一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		榮 建文	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻酔学	高崎真弓	第 1 著 書	11	0	0	0	0	0	3	0	0	14
			共 著	2	0	4	4	3	0	0	0	0	13
			コスタ・ソテ・イグ 著書	11	0	0	0	0	0	3	0	0	14
		笠羽敏治	第 1 著 書	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
		鈴木宣彰	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		谷口正彦	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		河野太郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		成尾浩明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		岩崎竜馬	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		三浦弘樹	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		丸田豊明	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脳神経外科学	脇坂信一郎	第 1 著 書	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	1	5	0	0	0	0	0	6
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		中野真一	第 1 著 書	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
			共 著	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		森山拓造	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		落合秀信	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		横上聖貴	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小濱祐博	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		貫 慶嗣	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鮫島哲朗	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コスタ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床医学講座	脳神経外科学	宮原大作	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		藤目憲一	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		米山 匠	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		伊勢田努力	第 1 著 書	1	0	2	1	0	0	0	0	0	4
			共 著	0	0	1	3	2	0	0	0	0	6
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科学	芝 良祐	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		迫田隅男	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鹿嶋光司	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		大田原典子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		瀬戸上康子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床検査医学	小谷富男	第 1 著 書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		野村 創	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	1	8	1	0	0	0	11
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	救急医学	寺井親則	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	4	0	0	5
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		岡本 健	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		松島俊介	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基礎看護学講座	基礎看護学	岩本テルヨ	第 1 著 書	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
			共 著	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		根本清次	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		長友みゆき	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		前田ひとみ	第 1 著 書	3	0	1	0	0	0	1	0	0	5
			共 著	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		大川百合子	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山田美幸	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床看護学講座	成人・老年看護学	土屋八千代	第 1 著 書	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		古家明子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		赤星成子	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		村田節子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コス ^o ンテ ^o ィク ^o 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
臨床看護学講座	母性看護学	大石時子	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		山崎鯉子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精神看護学	太田友子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		安藤一博	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小児看護学	村方多鶴子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		草場ヒフミ	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域看護学講座	地域看護学	佐藤京子	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		尾上佳代子	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鶴田来美	第 1 著 書	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		長谷川珠代	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		五十嵐久人	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属病院	検査部		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術部	宇野武司	第 1 著 書	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
		指宿昌一郎	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鬼塚 信	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		柏田政利	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線部	立山真吾	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		川村慎二	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸血部	田原義弘	第 1 著 書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	集中治療部	末廣和久	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		濱川俊朗	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		白阪哲朗	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		松岡博史	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			コズメ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

区 分	講座等名	氏名	区 分		著 書		原 著		症例報告		総 説		合 計
			和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	和	洋	
附属病院	周産母子センター	池ノ上克	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	2	2	0	0	1	0	0	5
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鮫島 浩	第 1 著 書	1	0	1	0	0	0	6	0	0	8
			共 著	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		池田智明	第 1 著 書	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
			共 著	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		金子政時	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
			共 著	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		米田由香里	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医療情報部	荒木賢二	第 1 著 書	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
			共 著	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		鈴木斎王	第 1 著 書	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病理部	丸塚浩助	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
			共 著	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
	リハビリテーション部	鳥取部光司	第 1 著 書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
			共 著	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	薬剤部	有森和彦	第 1 著 書	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
			共 著	2	0	1	3	0	0	4	0	0	10
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	看護部		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フロンティア科学実験 総合センター 生物資源分野	フロンティア科学実験総 合センター 生物資源分野	越本知大	第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フロンティア科学実験 総合センター RI分野清武分室	フロンティア科学実験総 合センター RI分野清武分室	篠原明男	第 1 著 書	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			共 著	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健管理センター	保健管理センター 清武分室	宮野秀市	第 1 著 書	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
保健管理センター	保健管理センター 清武分室		第 1 著 書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			共 著	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			ユスホ・ソテ・イグ 著書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0